

茨城県教育財団文化財調査報告第359集

宮 内 遺 跡

國道354号 岩井バイパス事業
地内埋蔵文化財調査報告書

平成24年3月

茨城県境工事事務所
財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第359集

み や う ち
宮 内 遺 跡

國道354号岩井バイパス事業
地内埋蔵文化財調査報告書

平成24年3月

茨城県境工事事務所
財団法人茨城県教育財団



調査区全景（上が北方向）



古墳時代前期土器集合

序

茨城県では、市町村や県の枠を超える広域的な交流と連携を進め
るため、また県土の均衡のある発展を支える基盤として、県土の骨
格を成すとともに、首都圏中央連絡道路へアクセスするための一般
国道や主要地方道などの、幹線道路の整備を進めています。

その一環として、茨城県境工事事務所は、坂東市岩井において、
国道354号岩井バイパス事業を計画しました。しかしながら、この
事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である宮内遺跡が所在すること
から、記録保存の措置を講ずる必要があるため、当財団が茨城県境
工事事務所から開発地内の埋蔵文化財発掘調査事業の委託を受け、
平成22年9月から平成23年3月までの7か月間にわたってこれを
実施しました。

本書は、その調査成果を収録したものです。学術的な研究資料と
してはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向
上の一助として活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託
者であります茨城県境工事事務所から多大な御協力を賜りましたこ
とに對し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、坂
東市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力
に対し深く感謝申し上げます。

平成24年3月

財團法人茨城県教育財團
理事長 鈴木欣一

例　　言

1 本書は、茨城県境工事事務所の委託により、財团法人茨城県教育財團が平成 22 年度に発掘調査を実施した、^{みやけ}茨城県坂東市岩井字宮内前 959-3 番地ほかに所在する宮内遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調　　査　　平成 22 年 9 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

整　　理　　平成 23 年 6 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

3 発掘調査は、調査課長池田晃一のもと、以下の者が担当した。

首席調査員兼班長　　皆川　修　平成 22 年 9 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

首席調査員　　小澤　重雄　平成 23 年 1 月 1 日～3 月 31 日

首席調査員　　小林　和彦　平成 22 年 9 月 1 日～12 月 31 日

主任調査員　　斎藤　貴史　平成 23 年 3 月 1 日～3 月 31 日

主任調査員　　櫻井　完介　平成 23 年 1 月 1 日～3 月 31 日

主任調査員　　大間　隆　平成 23 年 3 月 1 日～3 月 31 日

調　　査　　江原美奈子　平成 22 年 9 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

調　　査　　閑　絵美　平成 23 年 1 月 1 日～3 月 31 日

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長原信田正夫のもと、以下の者が担当した。

首席調査員　　小林　和彦　平成 23 年 6 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

調　　査　　宮崎　剛　平成 24 年 1 月 1 日～3 月 31 日

5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。

小林　和彦　　第 1 章～第 3 章 3 節 4 ・第 3 章 4 節

宮崎　剛　　第 3 章 3 節 5

6 本書の作成にあたり、第 47 号住居跡から出土した製鉄関連遺物の分類については、たたら研究会委員・製鉄遺跡研究会代表穴澤義功氏に御指導いただいた。当遺跡内から出土した鉄製品の保存処理等については、筑波大学准教授松井敏也氏に御協力、御指導いただいた。第 50 号住居跡から出土した獸骨の同定については、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館考古研究部教授西本豊弘氏に御指導いただいた。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を原点とし、X = + 7,240 m, Y = + 4,800 mの交点を基準点（A 1a1）とした。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C …、西から東へ 1, 2, 3 …とし、「A 1 区」、「B 2 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c … j、西から東へ 1, 2, 3, … 0 とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1a1 区」、「B 2b2 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 FP - 炉跡 PG - ピット群 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡 SE - 井戸跡 SI - 住居跡
SK - 土坑 SX - 不明遺構

遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 P - 土器 Q - 石器・石製品 TP - 拓本記録土器
土層 K - 扰乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 = 焼土・赤彩・施釉・ガラス質  = 炉・火床面・繊維土器断面
 = 瓷部材・粘土範囲・炭化材・炭・鉄滓の範囲・黒色処理  = 煤・油煙・柱痕
● = 土器 ○ = 土製品 □ = 石器・石製品 △ = 金属製品
- - - - = 硬化面 - - - - = 烧土・粘土・炭化物範囲

4 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版 標準土色帖」（小山正忠、竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

5 一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

- (1) 計測値の単位は m・cm, kg・g である。なお現存値は () で、推定値は [] を付して示した。
 - (2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率や写真図版番号、その他必要と思われる事項を記した。
 - (3) 遺構番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一である。
 - (4) 磁着度の欄は、磁着の弱い順に 1, 2, 3 … と記した。
 - (5) メタル度の欄は、メタル度の高い順に特 L (☆), L (●), M (◎), H (○), 鎏化 (△), なし, と記した。
- 6 堅穴住居跡の「主軸」は、炉・窓を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向とともに、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

目 次

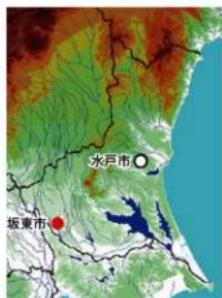
序	
例 言	
凡 例	
目 次	
概 要	1
第1章 調査経緯	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査経過	5
第2章 位置と環境	6
第1節 地理的環境	6
第2節 歴史的環境	6
第3章 調査の成果	11
第1節 調査の概要	11
第2節 基本層序	11
第3節 遺構と遺物	13
1 縄文時代の遺構と遺物	13
土坑	13
2 古墳時代の遺構と遺物	15
(1) 墓穴住居跡	15
(2) 土坑	115
3 奈良時代の遺構と遺物	117
(1) 墓穴住居跡	117
(2) 土坑	200
4 平安時代の遺構と遺物	206
墓穴住居跡	206
5 その他の遺構と遺物	219
(1) 掘立柱建物跡	219
(2) 溝跡	221
(3) 炉跡	226
(4) 井戸跡	227
(5) 土坑	230
(6) ピット群	238
(7) 不明遺構	257
(8) 遺構外出土遺物	257
第4節 まとめ	262
写真図版	PL 1 ~ PL48
抄 錄	
付 図	

みやうちいせきのがいよう 宮内遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

宮内遺跡は、坂東市のほぼ中央に位置し、市内を南北に流れる江川右岸の標高約10～15mの、台地から低地に向かう緩やかな斜面部に立地しています。

当遺跡の調査は、国道354号バイパスの建設に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が実施しました。調査期間は、平成22年9月から平成23年3月までの7か月間でした。



調査の内容

今回の調査によって、古墳時代（4～7世紀）、奈良時代（8世紀）、平安時代（9・10世紀）の集落跡が確認されました。特に、周辺の遺跡にはあまり多く見られない、奈良・平安時代の製鉄（鉄作り）工人たちの集落であることがわかりました。



調査区全景（東側から）

古墳時代（約1,650～1,400年前）の遺構は、^{たてあなじゅうきょあと}堅穴住居跡33軒、^{どこう}土坑2基が確認されました。4世紀の後葉に人々が住み始め、小さな集落が形成されました。そして、6世紀には大きな集落へと発展していったことがわかりました。特に5世紀末から6世紀初頭にかけては、一辺が9mを超えるような大形の住居が次々と建てられました。人々が使用している土器は土師器が中心で、特に4世紀後葉から6世紀前葉にかけては赤く塗られたものが多く、剣・鏡・玉を模して作られた石製模造品などとともに、マツ



大形の住居跡（第41号住居跡）



第11号住居跡の竈近くから出土した土師器



第41号住居跡から出土した土師器

リの時に使われたと考えられています。また、土師器とともに、わずかですが東海地方で生産された須恵器^{すえき}も出土しました。このことから、古墳時代から遠方と人々の交流や物品の流通があったことがわかりました。



古墳時代の住居跡などから出土した須恵器



古墳時代の住居跡などから出土した石製模造品

奈良時代（約1,300年前）の遺構は、堅穴住居跡27軒、土坑4基が確認されました。堅穴住居の数も多い時代ですが、古墳時代よりも規模が小さくなっています。当時は、中国から律令制が取り入れられ、法律によって地方まで治められるようになりました。土師器は主に甕に用いられ、それ以外は須恵器が用いられるようになります。県内でも須恵器が焼かれるようになり、木葉下（水戸市）、新治（土浦市）、堀之内（桜川市）などの窯が開かれました。宮内遺跡でも、新治や堀之内産の須恵器が出土しています。



奈良時代の住居跡から出土した土師器や須恵器



土師器の甕が補強材に使われていた竈（第15号住居跡）

平安時代（約1,200～900年前）の遺構は、堅穴住居跡4軒が確認されました。引き続き甕には土師器が用いられていました。古墳時代の終わり頃からみられ、口縁部のつまみ上げに特徴がある常総甕や、武藏甕と呼ばれ、普通の口縁を持ち、薄くて倒卵形をした体部が特徴のものが共に出土しています。また、竈を補強するための芯材として、製鉄炉の炉壁を使用している住居跡が見つかりました。このことから、製鉄に携わる工人たちが住んでいたことがわかります。



平安時代の住居跡から出土した土師器や須恵器



製鉄炉の炉壁が甕の芯材に使われていた竈（第8号住居跡）

奈良・平安時代の住居跡からは、約135kgの鉄滓が出土しました。第47号住居跡から出土した約93kgは、炉壁・炉底塊・炉内滓・炉内滓含鉄・鉄塊系遺物に分類でき、製鉄作業によってできる製鉄滓であることがわかりました。他の住居跡からは、少量ですが鍛冶関連遺物も出土しており、製鉄が中心ですが、鍛冶も行われていたと考えられます。



奈良・平安時代の住居跡から出土した製鉄関連遺物



製鉄作業の想像イラスト

調査の結果

今回の調査で次の様なことがわかりました。古墳時代前期後葉から、人々が台地上に集落を形成し始め、古墳時代後期には住居が周辺にも広がり、大きな集落が形成されていきました。奈良時代には、住居の規模は小さくなりましたが軒数は増え、炉本体は見つかりませんでしたが、製鉄や鍛冶に携わる工人たちが存在していました。平安時代には住居の数は減りますが、引き続き製鉄や鍛冶が行われていました。

今回の調査区は一部分であり、集落の全容は解明できませんでしたが、古墳時代から平安時代に至る当地域の歴史の一端を知ることができました。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成19年2月26日、茨城県境工事事務所長から、茨城県教育委員会教育長に対して、国道354号岩井バイパス事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会があった。これを受けた茨城県教育委員会は、平成19年10月24日に現地踏査を、平成22年2月16・17・19日に試掘調査を実施し宮内遺跡の所在を確認した。平成22年3月1日、茨城県教育委員会教育長は茨城県境工事事務所長あてに、事業地内に宮内遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成22年3月5日、茨城県境工事事務所長から、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条の規定に基づく土木工事の通知が提出された。茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、平成22年3月12日、茨城県境工事事務所長あてに、宮内遺跡について工事着手前に発掘調査をするよう通知した。

平成22年3月25日、茨城県境工事事務所長から、茨城県教育委員会教育長に対して、国道354号岩井バイパス事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書の提出があった。平成22年3月26日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県境工事事務所長あてに、宮内遺跡について発掘調査の範囲及び面積について回答し、あわせて調査機関として、財團法人茨城県教育財團を紹介した。

財團法人茨城県教育財團は、茨城県境工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成22年9月1日から平成23年3月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

宮内遺跡の調査は、平成22年9月1日から平成23年3月31日までの7か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

期間	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認							
遺構調査							
遺物洗浄 注写 整理							
補足調査 撤収							

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

宮内遺跡は、茨城県坂東市岩井字宮内前 959-3 番地ほかに所在している。

坂東市は、平成 17 年 3 月 22 日に旧岩井市と猿島町とが合併して誕生した。市域は南北に長く、東西約 12 km、南北に約 20 km、面積は 123.18 km²である。当市は猿島台地の南東部に位置し、洪積台地と利根川・飯沼川・東仁連川やその支流によって形成された沖積低地から成り立っている。猿島台地は北西から南東へ延びており、標高 15 ~ 20 m で、利根川をはじめ飯沼川・東仁連川支流の小河川により開析された谷津が樹枝状に入り込み、複雑な地形を呈している。

猿島台地の基部を構成する地層は、貝化石を含む成田層（見和層）である。この貝化石を含む地層には小形有孔虫の化石も入っており、これを調べることにより、古鬼怒湾時代の気候や植生などの古環境を復元することができる。さらに、成田層の上に黄褐色砂や黄褐色粗砂を含む竜ヶ崎砂礫層、その上に灰白色の粘土層である常締粘土層、そして、表土の下を厚く覆う赤褐色の関東ローム層が堆積している。

当遺跡は、坂東市の中央部に位置し、当市を南北に縱断するように流れる飯沼川支流である江川の蛇行により、突き出した形となった標高約 15 m の台地の尾根上から縁辺部にかけて立地しており、江川沿いの低地との比高は約 5 m である。調査前の現況は畑地である。

第2節 歴史的環境

宮内遺跡が所在する猿島台地南東部には、『茨城県遺跡地図』¹⁾によれば、数多くの遺跡が分布している。しかし、今までのところ、坂東市内における発掘調査例は少ない。昭和 50 年に旧岩井市教育委員会が県立岩井西高等学校建設に伴い、上出島古墳群（22）の発掘調査²⁾を行ったのが最初の例である。

平成 2 ~ 4 年にかけて、旧岩井市史編さん事業に伴い市史編さん室の自然考古部会によって、拾二ゴゼ遺跡（13）、坂東市東部の飯沼川に面した駒寄遺跡、高山古墳（8）などの調査³⁾が実施されている。これらの調査によって、原始、古代の様子が徐々に明らかになっていった。ここでは、当市及びその周辺の遺跡について、時代を追って概観することにする。

旧石器時代の遺跡としては、上記の拾二ゴゼ遺跡、平成 2・3 年に茨城県教育財團が調査した菅生沼右岸台地上の北前遺跡⁴⁾、平成 3・4 年にやはり当財團で調査した北前遺跡に隣接する高崎貝塚⁵⁾があげられる。各遺跡とも、調査区内から貝岩製のスクレイバー及び剥片が出土している。

縄文時代の遺跡は、坂東市内とその周辺に多く分布するようになる。飯沼川から菅生沼及び鬼怒川流域の台地上には、貝塚が数多く見られ、貝塚の形成と海進・海退による汀線の変動の研究には重要な地域である。早期の遺跡では、南原遺跡（23）、台島北遺跡（15）で条痕文系土器が確認されている。前期の遺跡は、高崎貝塚と北前遺跡などである。北前遺跡では、黒浜式期の住居跡 4 軒が地点貝塚とともに調査されている。高崎貝塚では、住居跡 10 軒が確認されている。中期から後期にかけての遺跡は、長谷中妻遺跡（14）・山中後遺跡（17）・宝光院遺跡（10）・坂東市東部の飯沼川に面した駒寄遺跡などがある。これらの遺跡からは、加曾利 E 式期から加曾利 B 式期にかけての土器片が採集されているが、現在は埋没した遺跡も多い。後期から晩期の遺跡であ

る拾二ゴゼ遺跡は、利根川の氾濫原に西面する台地端の緩い傾斜地上に位置しており、後期後半が中心の汽水系貝塚（ヤマトシジミ主体）であるが、晩期の安行Ⅲ式期の土器も出土している。

弥生時代については、菅生沼西岸の大崎遺跡⁶⁾で弥生土器が出土し、高崎貝塚では4軒の住居跡が確認されている。西に隣接する境町長井戸遺跡群⁷⁾では24軒の住居跡が調査され、集落跡が確認されている。しかし、坂東市を含めた周辺の市町村での調査例は少なく、今後の調査が期待される。

古墳時代の遺跡は数多く確認されている。縄文時代と複合する北前遺跡では、古墳時代前・中期の住居跡33軒が調査されている。当遺跡の北西側約2kmの同一台地上に位置する元屋敷遺跡（24）、寮ノ下遺跡（3）では、前期の五領式土器が採集されている。当遺跡と江川を挟んだ対岸の松葉遺跡（7）、当遺跡から東へ約3kmに位置する馬立中の台⁸⁾遺跡では中期の和泉式土器が採集されている。駒寄遺跡、菅生沼南東側台地上に位置する大並遺跡⁹⁾、さらに、約3km東に位置する西原遺跡¹⁰⁾では、合わせて18軒の中期の住居跡が調査されている。次に、上出島古墳群をあげることができる。3基の古墳のうち、第2号墳は全長56mの前方後円墳であり、その後円部墳頂と墳丘の裾部から壺形埴輪の配列が検出されている。さらに、後円部に設けられた粘土塚からは、滑石製勾玉・管玉・鉄劍・鉄鎌・鉄斧・鉄針が出土しており、出土遺物から築造年代は5世紀の前半頃に比定されている。当遺跡の東約1kmに所在する高山古墳は、坂東市を代表する円墳であるが、明治45年に土取りにより破壊されてしまった。その際出土した直刀・金環などは、東京国立博物館に収蔵されている。平成2年、筑波大学により再調査されたが遺存状態が悪く、墳形・規模を確認することができなかった。主体部は、雲母片岩（筑波石）を使用した横穴式石室である。その他、大明神塚古墳（21）、鶴戸古墳群（20）、仙人久保古墳群（19）、香取塚古墳群（18）、大日塚古墳（16）、中里古墳群（12）、剣崎古墳群（11）、榎山古墳（25）など、坂東市には数多くの古墳が存在していたが、現在は湮滅してしまったものが少なくない。

律令期になると、当遺跡は下総国猿島郡岩井郷に属した。奈良・平安時代の遺跡としては、当遺跡と同一台地上に、薬師原遺跡（2）、寮ノ下遺跡、西高野遺跡（4）が存在し、集落の広がりを捉えてみる必要がある。また、江川を挟んだ対岸に位置する西遺跡（6）でも土師器片が確認されている。これらの遺跡の大半は、古墳時代から継続しているものである。人物では、猿島郡出身の安部猿鶴臣墨繩があげられる。『統日本紀』によると、墨繩は蝦夷征伐に副將軍として参加しており、当遺跡周辺からも多くの人々が従軍したと考えられる。次に、平将門である。承平5年（935年）に始まった承平の乱では、坂東市が表舞台となっている。当遺跡内や近隣には、将門にまつわる史跡が多く残されている。将門は、戦乱のさなか承平7年（937年）に、この地に石井の営所を築いている。この地は水に恵まれるとともに、菅生沼の北に伸びた広河の江（現在の飯沼）が東にひかえているので、要害の地であった。また、将門は営所敷地内に菩提寺として延命寺を建立した。さらに、当遺跡内に存在する国王神社は、将門終焉の地として現在も地域の信仰を集めている。

将門の登場以前から、飯沼川・東仁連川支流の小河川と入り組んだ台地とが織りなす岩井地域は、馬牧に適していた。石井の営所とされる地の西側には、長洲馬牧（現在の坂東市長須付近に比定）があり、北側には大結馬牧（現在の常総市大間木付近に比定）と、2か所の官牧が存在していた。これらは、軍馬調達の地となつた可能性が考えられる。さらに、9世紀の製鉄遺構として知られる尾崎前山遺跡（現在の八千代町尾崎）は、大結馬牧に付属したもので、馬具が生産されていたと推測されている。石井の営所に程近い長洲馬牧比定地の坂東市長須では、当遺跡から西に約4kmの位置に所在する西原遺跡で、土師器とともに鉄滓の散布が確認されている。当遺跡の調査区内でも、奈良・平安時代の住居跡の覆土中から鉄滓や鎌・刀子等の鉄製品が、また、竈からは芯材として転用された炉壁の一部が出土している。近辺に製鉄炉があった証となる。これらのことから、軍馬の調達・鉄の生産という観点から、将門の勢力基盤の基礎が築かれていた可能性が考えられる。

鎌倉時代には、将門を討伐した秀郷流藤原一族によって開墾された荘園である下河辺荘に属し、下河辺氏によって治められた。その後、15世紀中頃には古河公方足利氏の支配下となる。城館跡¹⁰⁾としては、菅生沼の東側台地上に大塚城跡、菅生城跡がある。当遺跡から江川を挟んで15km北東には弓田城跡があり、群雄割拠の戦国の世を彷彿とさせる。

江戸時代に入ると、享保年間に、古代から中世にかけて広大な沼であった飯沼は、周囲24か村の住民の切なる要望を受けて、新田開発が積極的に行われていった。新田の維持や改良は明治以降も続けられ、多くの人々の尽力によって、現在の豊かな水田地帯に生まれ変わった。

*文中の（ ）内の番号は、第1図及び表1の当該番号と同じである。

註

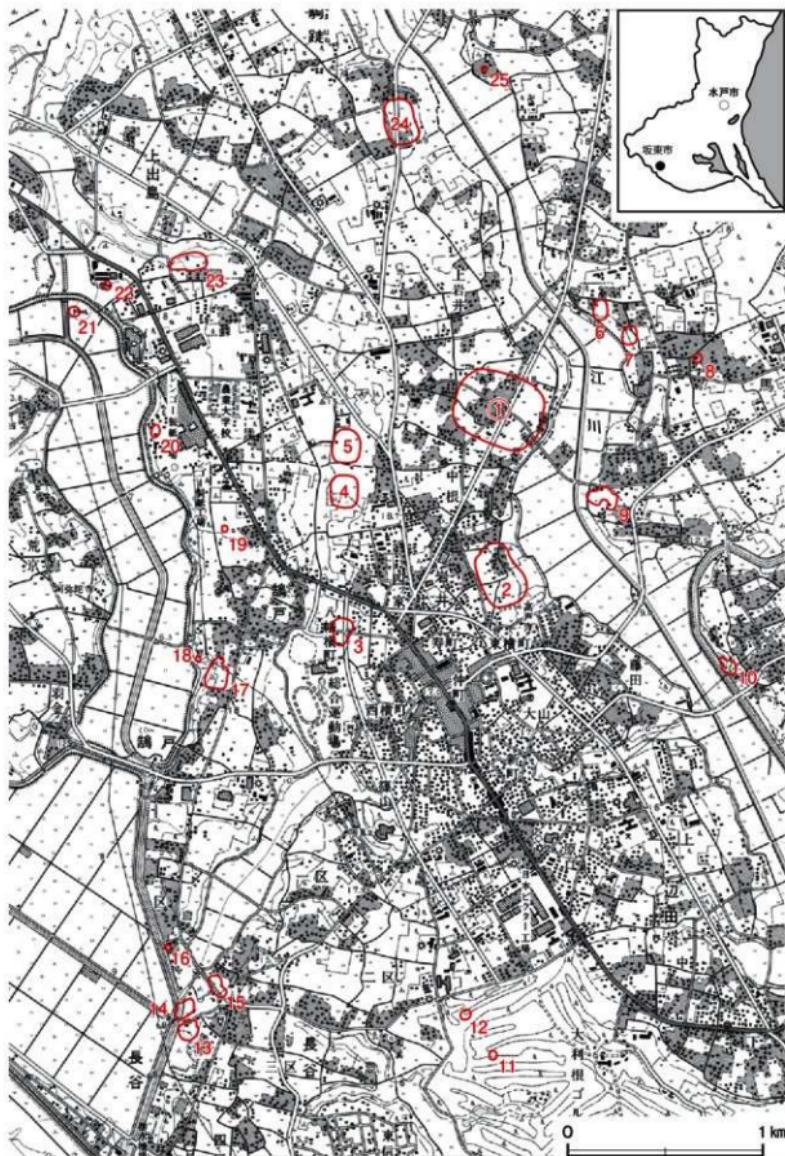
- 1) 茨城県教育庁文化課「茨城県遺跡地図(地名表編・地図編)」茨城県教育委員会 2001年3月
- 2) 岩井市教育委員会「上出島古墳群」 1975年3月
- 3) 岩井市史編さん委員会「岩井市の遺跡」「岩井市史遺跡調査報告書」第1集 1992年3月
- 4) 大森雅之「茨城県自然博物館(仮称)建設用地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 原口遺跡・北前遺跡」「茨城県教育財团文化財調査報告」第83集 1993年3月
- 5) 鶴見真夫「茨城県自然博物館(仮称)建設用地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 高崎貝塚」「茨城県教育財团文化財調査報告」第88集 1994年3月
- 6) 今井隆介「北下總地方史」 善書房 1974年12月
- 7) 鳥島直樹「前島直入「長井戸遺跡群 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県教育財团文化財調査報告」第337集 2011年3月
- 8) 水海道市教育委員会「水海道市埋蔵文化財包蔵地分布地図」 1992年3月
- 9) 小河邦男「水海道市古跡調査事業・内宇谷土地区整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2 奥山A遺跡・奥山B遺跡・西原遺跡」「茨城県教育財团文化財調査報告」第31集 1986年3月
- 10) 茨城県教育委員会「重要遺跡調査報告書Ⅱ(城館跡)」 1985年3月

参考文献

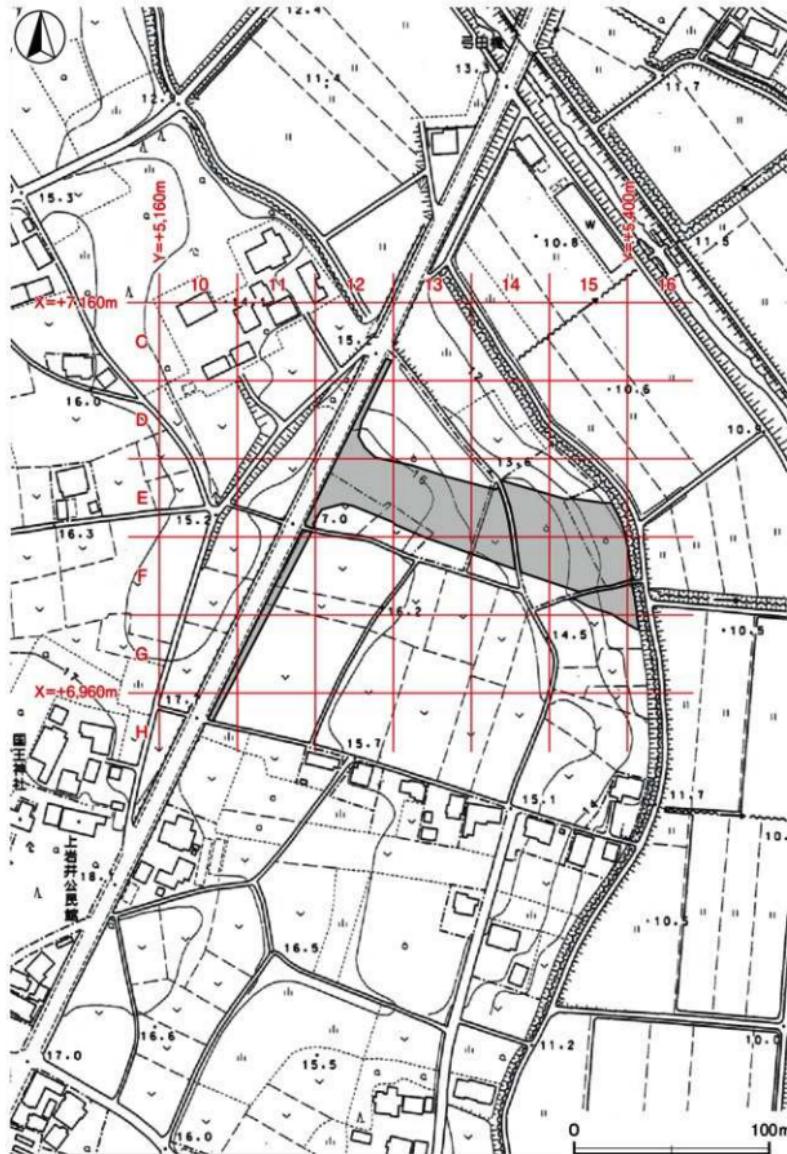
- ・岩井市史編さん委員会『岩井市史』(考古編) 岩井市 1999年3月
- ・岩井市史編さん委員会『岩井市史』(通史編) 岩井市 2001年3月
- ・八千代町史編さん委員会「八千代町史」(通史編) 八千代町 1990年12月
- ・深見兵吉「平野門」成美堂出版 1976年1月
- ・漸谷義彦「茨城の名門」茨城新聞社 1976年7月

表1 宮内遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代						
		旧石器	繩文	弥生	古墳	奈良平安	中世			旧石器	繩文	弥生	古墳	奈良平安	中世	近世
①	宮内遺跡	○		○	○			14	長谷中妻遺跡	○						
2	薬師原遺跡				○			15	台島北遺跡	○		○	○			
3	寮ノ下遺跡			○	○			16	大日塚古墳				○			
4	西高野遺跡	○		○	○			17	山中後遺跡	○						
5	西高野北遺跡			○				18	香取塚古墳群				○			
6	西遺跡				○			19	仙人久保古墳群				○			
7	松葉遺跡	○		○				20	鶴戸古墳群				○			
8	高山古墳				○			21	大明神塚古墳群				○			
9	遠西遺跡			○				22	上出島古墳群				○			
10	宝光院遺跡	○						23	南原遺跡	○						
11	剣崎古墳群			○				24	元屋敷遺跡				○			
12	中里古墳群			○				25	柳山古墳				○			
13	拾二ゴゼ遺跡	○	○		○											



第1図 宮内遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1 「宝珠花」「水海道」）



第2図 宮内遺跡調査区設定図（坂東市都市計画図 2,500 分の 1）

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

宮内遺跡は、飯沼川の支流である江川右岸の標高10～15mの台地縁辺部に立地している。調査面積は6,622m²で、調査前の現況は畠地である。

今回の調査によって、堅穴住居跡64軒（古墳時代33・奈良時代27・平安時代4）、掘立柱建物跡2棟（時期不明）、溝跡14条（時期不明）、炉跡2基（時期不明）、井戸跡3基（時期不明）、土坑103基（縄文時代2・古墳時代2・奈良時代4・時期不明95）、ピット群14か所（時期不明）、不明遺構1基（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に122箱出土している。主な出土遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（壺・椀・高台付壺・壺・器台・高壺・壺・甕・小形甕・瓶・手捏土器）、須恵器（壺・蓋・鉢・壺・長頸瓶・長頸壺・甕・瓶）、土製品（勾玉・土玉・紡錘車）、石器（砥石・紡錘車）、石製品（勾玉・管玉・臼玉・有孔円板）、鉄製品（鎌・鎌・手鎌・刀子・紡錘車）、銅製品（腰帶具）、製鉄・鍛冶関連遺物（炉壁・鉄滓・羽口）などである。

第2節 基本層序

当遺跡は、東西に長く台地縁辺部に位置しているため、比高が5mほどある。そこで、東側の低地に向かう（E 15f2区）にテストピット1を、西側の台地上（E 12g6区）にテストピット2を設定し、基本土層（第3図）の観察を行った。

土層は、色調・構成粒子・含有物・粘性などから、テストピット1が8層、テストピット2が7層に細分でき、テストピット1・2ともに第2層上面で遺構を確認した。観察結果は以下のとおりである。

テストピット1

第1層は、黒褐色を呈する耕作土層である。ロームブロックを少量含み、粘性・締まりとともに弱く、層厚は30～50cmである。

第2層は、明褐色を呈するソフトローム層である。炭化粒子を微量含み、粘性・締まりとともに普通で、層厚は10～20cmである。

第3層は、明褐色を呈するソフトローム層である。炭化粒子を微量含み、粘性は普通で、締まりが強く、層厚は15～20cmである。

第4層は、暗褐色を呈するハードローム層である。炭化粒子を微量含み、粘性は普通で、締まりが強く、層厚は10～20cmである。第Ⅱ黑色帯と考えられる。

第5層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は強く、締まりが普通で、層厚は10～20cmである。

第6層は、暗褐色を呈するハードローム層から常総粘土層への漸移層である。炭化粒子・白色粘土粒子を微量含み、粘性・締まりとともに強く、層厚は10～20cmである。

第7層は、にぶい褐色を呈する常総粘土層である。鉄分を中量含み、粘性・締まりとともに強く、層厚は5～10cmである。

第8層は、にぶい褐色を呈する常総粘土層である。粘性・締まりとともに強い。下部は未掘のため、層厚は不

明である。

テストピット2

第1層は、黒褐色を呈する耕作土層である。ロームブロックを少量含み、粘性・締まりとともに弱く、層厚は35～40cmである。

第2層は、明褐色を呈するソフトローム層である。炭化粒子を微量含み、粘性・締まりとともに普通で、層厚は20～40cmである。

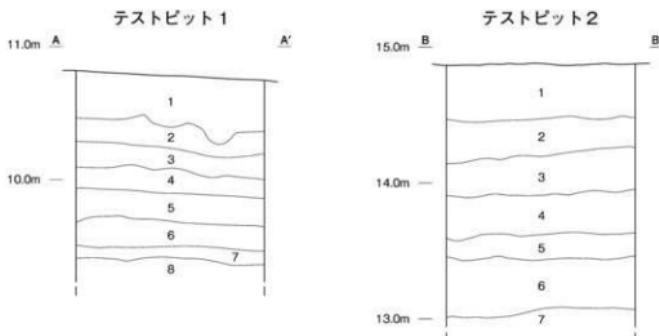
第3層は、明褐色を呈するソフトローム層である。炭化粒子を微量含み、粘性は普通で、締まりが強く、層厚は25～35cmである。

第4層は、暗褐色を呈するハードローム層である。炭化粒子を微量含み、粘性は普通で、締まりが強く、層厚は25～35cmである。第Ⅱ黒色帯と考えられる。

第5層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は強く、締まりが普通で、層厚は15～20cmである。

第6層は、暗褐色を呈するハードローム層から常総粘土層への漸移層である。炭化粒子・白色粘土粒子を微量含み、粘性・締まりとともに強く、層厚は35～45cmである。

第7層は、にぶい褐色を呈する常総粘土層である。粘性・締まりともに強い。下部は未掘のため、層厚は不明である。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 繩文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑2基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

土坑

第85号土坑（第4図）

位置 調査区東部のF 15b6区、標高12mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長径240m、短径100mの楕円形で、長径方向はN-3°-Wである。深さは88cmで、底面は平坦である。南・北の壁はほぼ直立し、東・西の壁は外傾して立ち上がっている。

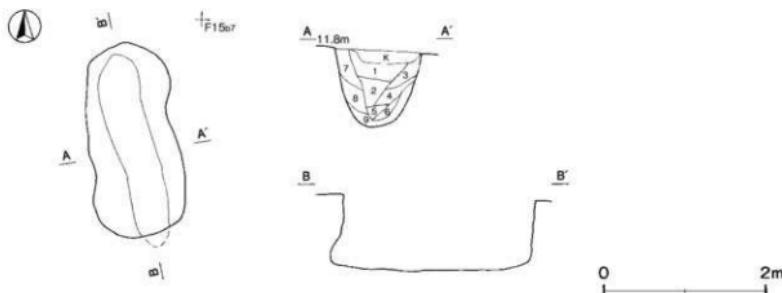
覆土 9層に分層できる。不規則な堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・赤色粒子微量	6 塗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	赤色粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量	8 いわ青褐色	ローム粒子中量
4 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・赤色粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子少量、赤色粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量		

遺物出土状況 混入したと見られる土師器片1点（甕類）が、覆土上層から出土している。

所見 時期は、縄文時代の土器を伴う第87号土坑が隣接しており、形状や覆土の状況が似ていることから、縄文時代と思われる。



第4図 第85号土坑実測図

第87号土坑（第5図）

位置 調査区東部のF 15d7区、標高12mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長軸192m、短軸138mの楕円形で、長軸方向はN-3°-Eである。深さは56cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

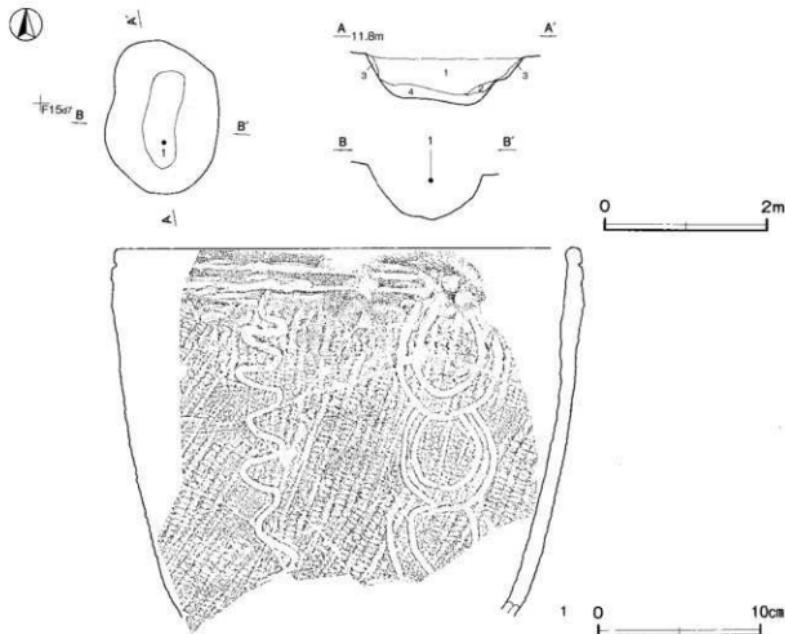
土層解説

- 1 細褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子中量

- 3 細褐色 ローム粒子微量
4 細褐色 ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量

遺物出土状況 繩文土器 1 点（深鉢）が出土している。そのほか、混入したとみられる土師器片 2 点（壺類 2 点）が出土している。1 は、中央やや南よりの覆土上層から正位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から縄文時代後期前葉に比定できる。



第5図 第87号土坑・出土遺物実測図

第87号土坑出土遺物観察表（第5図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴		出土位置	備考
					口部2条の平行沈線文	胴部外面LR 縄文施文後継手状埴形文施文		
1	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙			覆土上層	15% PL27

表2 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
85	F15b6	N-3°-W	楕円形	2.40×1.00	88	平坦	直立・外傾	人為	土師器	
87	F15d7	N-3°-E	楕円形	1.92×1.38	56	圓状	外傾	自然	縄文土器・土師器	

2 古墳時代の遺構と遺物

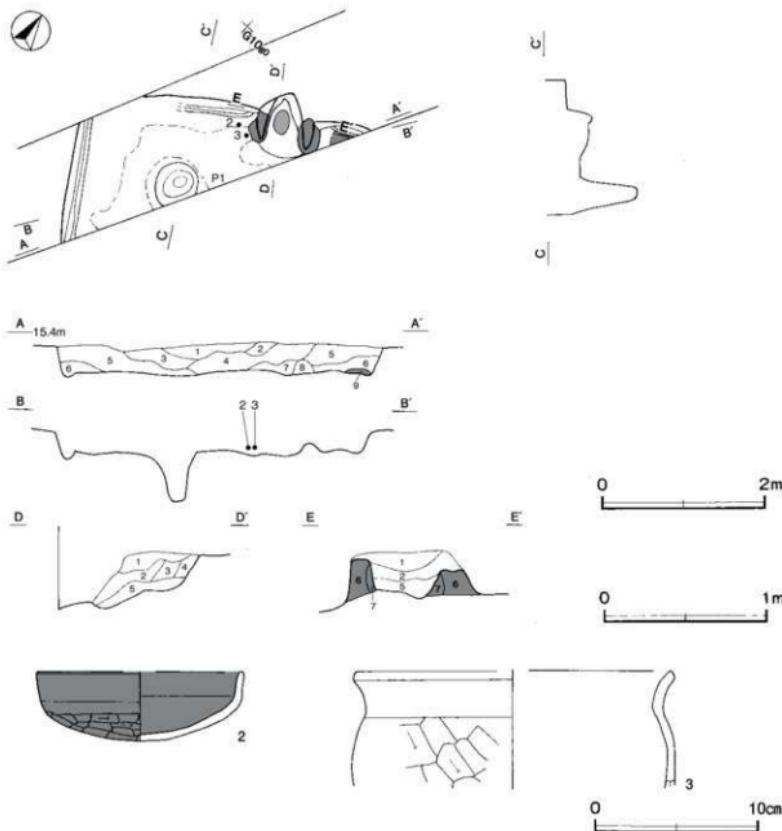
当時代の遺構は、竪穴住居跡 33 軒、土坑 2 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第2号住居跡（第6図）

位置 調査区南西部の G 10g0 区、標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南東部が調査区域外へ延びているため、北東・南西軸は 2.65 m で、北西・南東軸は 1.50 m しか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向は N - 30° - W と推定できる。壁高は 25 ~ 32 cm で、外傾して立ち上がっている。



第6図 第2号住居跡・出土遺物実測図

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北西壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで82cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第6～7層を積み上げて構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ30cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	褐 色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土 粒子微量	5	暗 褐 色	燒土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、 炭化物微量
2	褐 色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土 粒子少量	6	暗 褐 色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
3	にぬき褐色	燒土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、 炭化粒子微量	7	暗 褐 色	燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、砂質 粘土粒子微量
4	にぬき褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土 粒子少量			

ピット 深さ58cmで、規模と配置から主柱穴である。

覆土 9層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6	黒 色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	褐 色	ロームブロック少量	7	暗 褐 色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
3	暗 褐 色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	8	暗 褐 色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
4	暗 褐 色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量	9	にぶい褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック微量
5	褐 色	ロームブロック中量、燒土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片41点（坏8、鉢1、甕類31、小形甕1）が出土している。2・3は竈の西側の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。

第2号住居跡出土遺物観察表（第6図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 か	出土位置	備 考
2	土師器	坏	[126]	42	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	覆土下層	70%
3	土師器	小形甕	[192]	(7.3)	-	長石・石英	褐	普通	口縁部・内面横ナデ 体部上半斜位のヘラ削り	覆土下層	5%

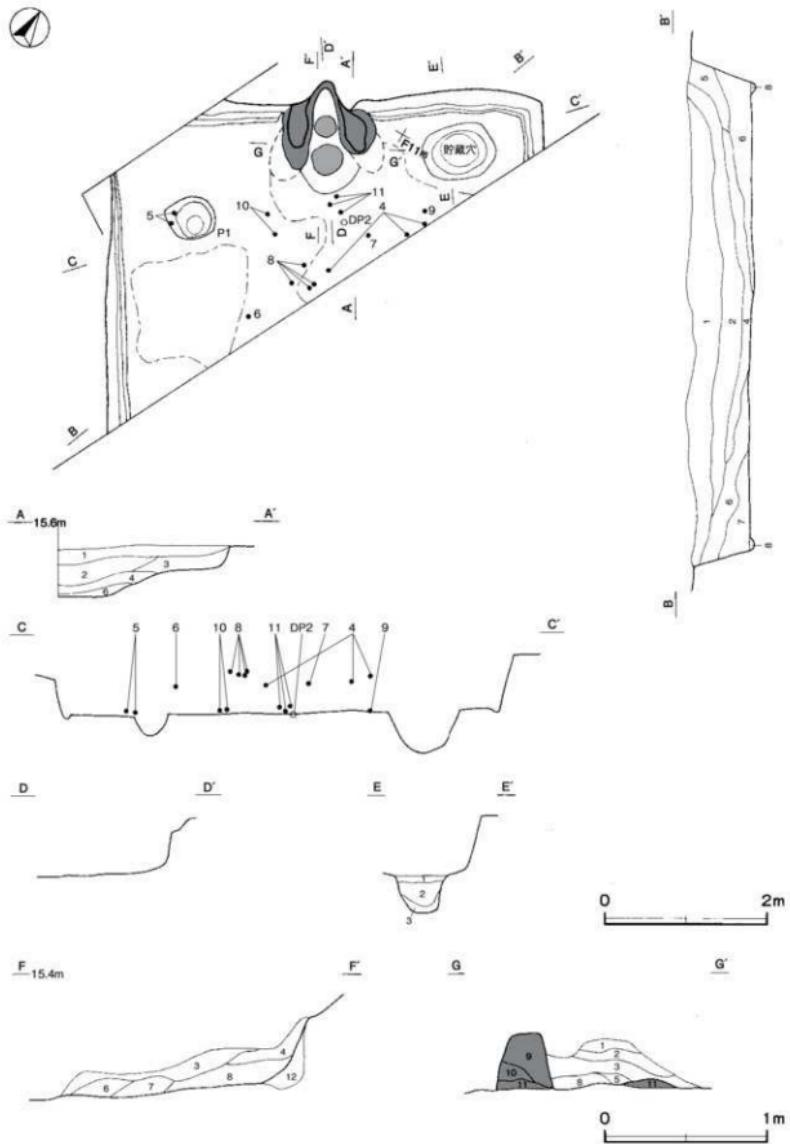
第3号住居跡（第7・8図）

位置 調査区南西部のF 115区、標高15mの平坦な台地上に位置している。

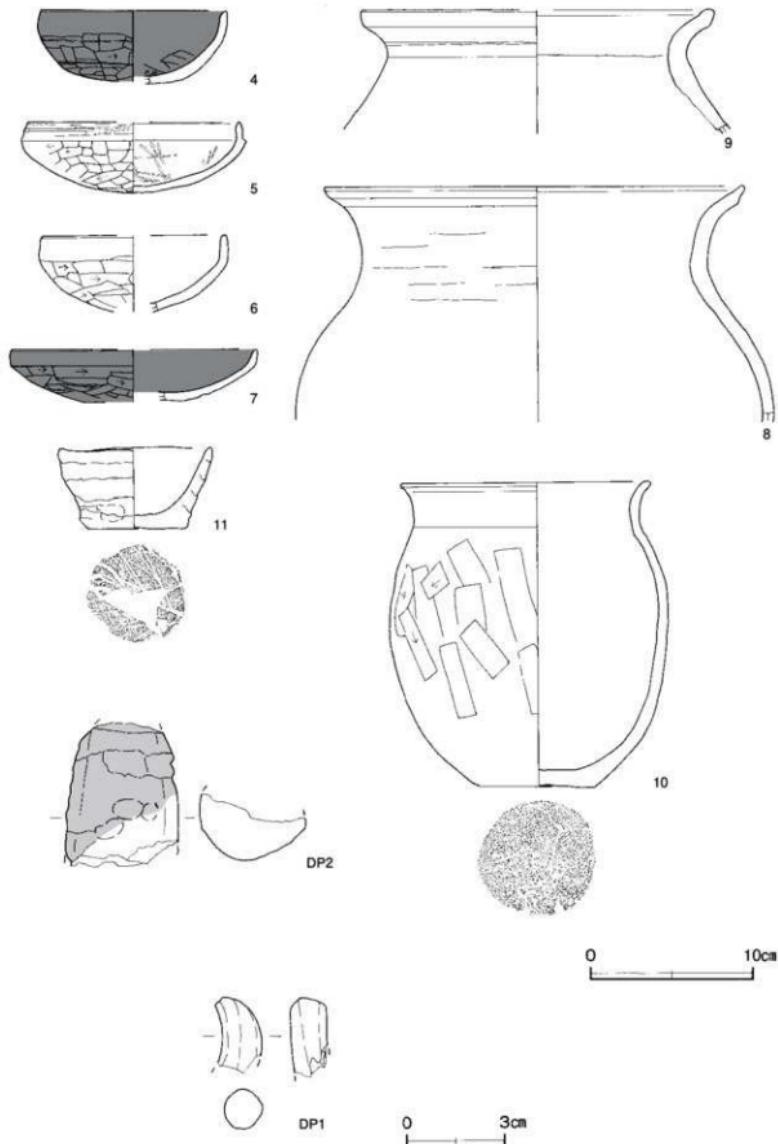
規模と形状 南東部が調査区域外へ延びていて、北東・南西軸は5.37mで、北西・南東軸は3.20mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向はN-32°-Wと推定できる。壁高は46～64cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、竈付近と南西壁下が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。構築時の袖部は壊れており、先端の基部の痕跡が認められる。残存する部分の規模は焚口部から煙道部まで140cmで、燃焼部幅は48cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第9～11層を積み上げて構築されている。火床部は床面とはほぼ同じ高さを使用しており、壁下の部分に燒土ブロック・ローム粒子を含んだ第12層を埋土して煙道部を構築している。火床面は2か所存在し、ともに火を受けて赤変硬化している。縦2口掛けの竈であった可能性が考えられる。煙道部は壁外へ25cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。



第7図 第3号住居跡実測図



第8図 第3号住居跡出土遺物実測図

竪土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7 にぶい褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8 にぶい褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	9 にぶい褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量
4 にぶい褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	10 にぶい褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5 灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 にぶい褐色	砂質粘土ブロック少量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 鮎褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	12 黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化粒子微量

ピット 深さ28cmで、規模と配置から主柱穴である。

貯蔵穴 竜の右側に位置している。長径93cm、短径67cmの楕円形である。深さは53cmで、底面は皿状である。壁は、外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量		

覆土 8層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子中量
2 極暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	7 褐色	ロームブロック中量
4 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土器部片351点(环93、高环1、壺類256、小形壺1)、須恵器片3点(环1、壺類2)、土製品(勾玉、支脚)、鉄製品1点(釘)、焼成粘土塊30点、鉄滓7点(72g)が、竜から中央部の覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか、混入したと見られる剥片1点も出土している。9は貯蔵穴付近の床面から出土している。10・11・DP 1・DP 2は竜の前、5はP 1付近の覆土下層からそれぞれ出土している。4・6~8は中央部の覆土上層からそれぞれ出土し、廃絶後しばらく経過してから投棄されたものと見られる。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第3号住居跡出土遺物観察表(第8図)

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
4	土器部	环	11.4	4.4	-	長石・石英	黒	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横徳のヘラ削り	覆土上層	75%
5	土器部	环	[13.0]	4.3	-	長石・石英・ 雲母	にぶい褐色	普通	口縁部外側横徳のヘラ削り 内面多方向のヘラ削り	覆土下層	30%
6	土器部	环	[11.1]	(4.7)	-	長石・石英・ 单色粒子	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部横徳のヘラ削り	覆土上層	40%
7	土器部	环	[15.0]	(3.2)	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部横徳のヘラ削り	覆土上層	30%
8	土器部	甕	25.4	(14.5)	-	長石・石英・ 雲母	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部横徳のヘラ削り	覆土上層	30%
9	土器部	甕	[21.4]	(7.6)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ	床面	5%
10	土器部	小形壺	15.2	18.8	7.1	長石・石英	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部横徳のヘラ削り	覆土下層	70% PL32
11	土器部	手捏土器	9.1	5.0	5.9	長石・石英・ 雲母	にぶい褐色	普通	外・内面横ナデ 外面下端横徳压痕	覆土下層	95% PL34

番号	器種	長さ	径	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 1	勾玉	(24)	1.4	1.1	(3.4)	長石・石英・ ナデ		覆土下層	PL42

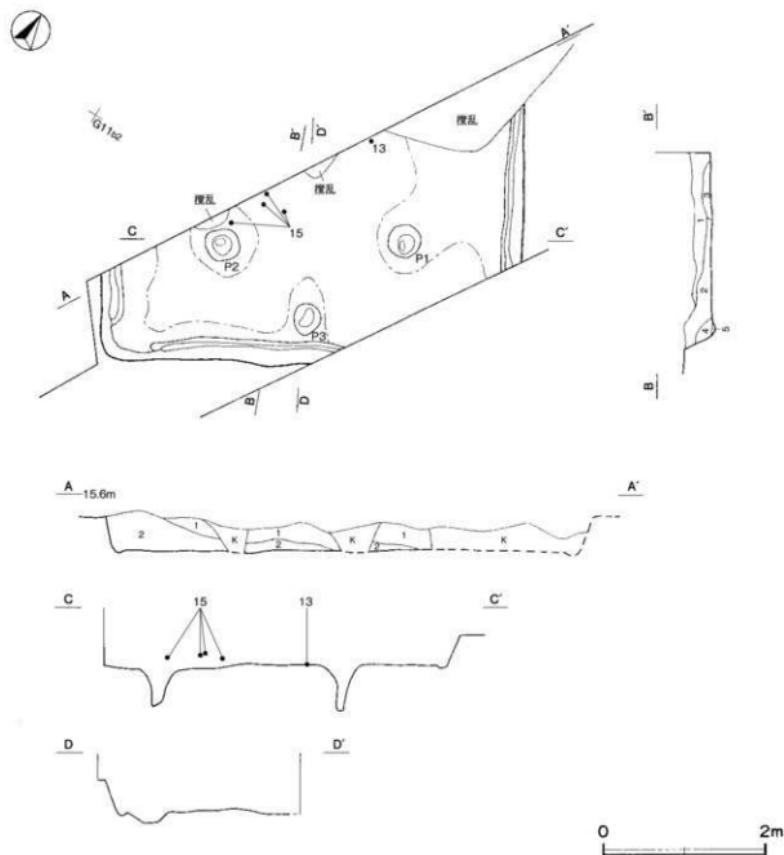
番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 2	支脚	(90)	(42)	(68)	(200)	長石・石英・ ナデ	胎頭压痕・被熱痕	覆土下層	

第6号住居跡（第9・10図）

位置 調査区南西部のG 11a2区、標高15 mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北西部半分が調査区域外へ延びているため、北東・南西軸は5.18 mで、北西・南東軸は2.36 mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向はN - 31° - Wと推定できる。壁高は32 ~ 40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には、南西コーナー部を除いて壁溝が巡っている。



第9図 第6号住居跡実測図

ピット 3か所。P 1・P 2は深さ58cm・43cmで、規模と配置から主柱穴である。P 3は深さ16cmで、南東壁側の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

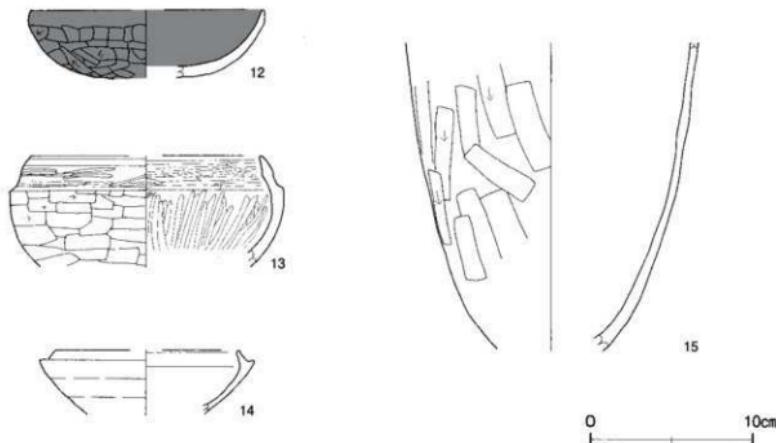
覆土 5層に分層できる。著しく擾乱を受けている。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
2 暗褐色 ロームブロック中量	5 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	

遺物出土状況 土師器片144点(坏38、甕類93、瓶13)、須恵器片1点(坏)が出土している。そのほか、混入したと見られる陶器片1点も出土している。13は中央部の床面から、15は覆土下層から、12・14は覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀初頭に比定できる。



第10図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	他成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
12	土師器	坏	[14.4]	42	-	長石・石英	にぶい黄澄	普通	口縁部・内面艶ナデ 体部外表面横腹のヘラ削り	覆土中層	25%
13	土師器	坏	[14.0]	(68)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横腹のヘラ削り 体部外表面横腹のヘラ削り 内面艶位のヘラ削り	床面	20%
14	須恵器	坏	[11.2]	(39)	-	長石・石英	灰黄	普通	ロクロナデ	覆土中層	20%
15	土師器	甕	-	(19.0)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	体部外表面横腹のヘラ削り	覆土下層	50%

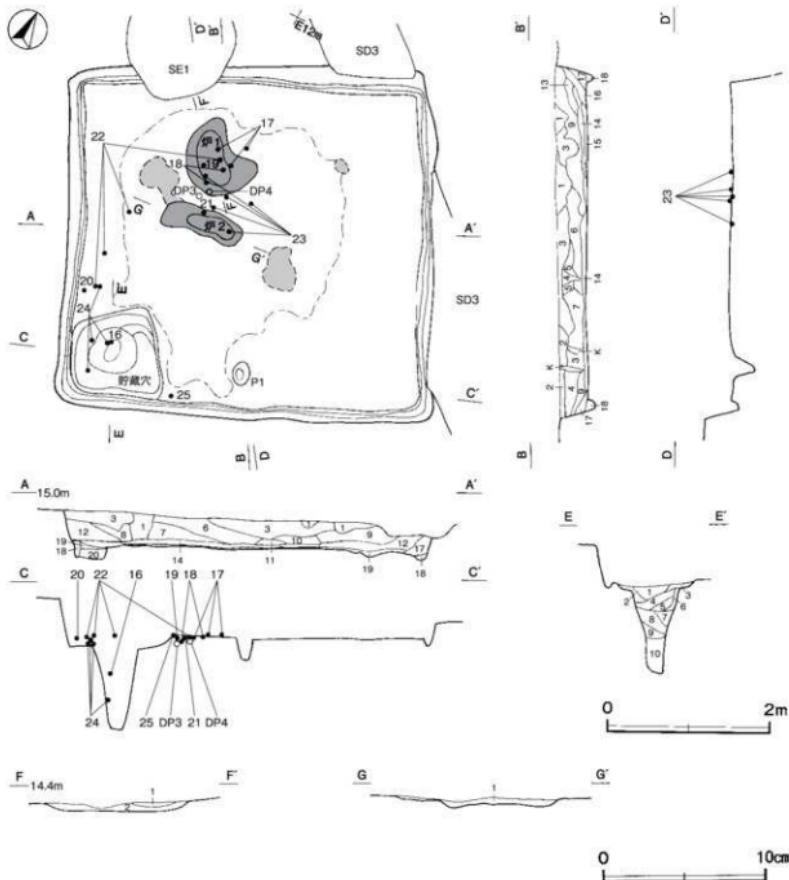
第10号住居跡（第11～14図）

位置 調査区西部のE 12f8 区、標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

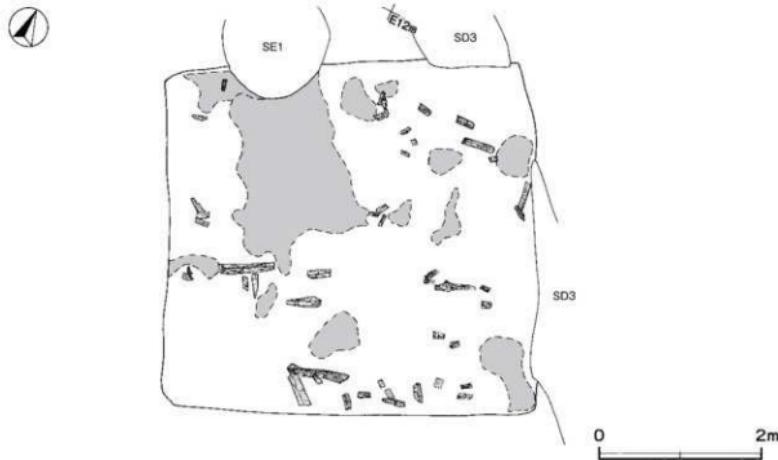
重複関係 第1号井戸、第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.58 m、短軸 4.32 m の方形で、主軸方向は N - 28° - W である。壁高は 16 ~ 28 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。



第11図 第10号住居跡実測図(1)



第12図 第10号住居跡実測図（2）

炉 2か所。炉1は中央部からやや北西寄りに位置している。長軸95cm、短軸55cmの楕円形で、床面を5cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は赤変硬化している。炉2は、中央部からやや西寄りに位置している。長径100cm、短径40cmの楕円形で、床面を4cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は赤変硬化している。2か所の炉の新旧は不明である。

炉土層解説

1 増赤褐色 燃土粒子中量、ローム粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子微量

ピット 深さ28cmで、南東壁側の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南西コーナー部壁下に位置している。上端は長軸110cm、短軸105cmの方形で、中端は長径60cm、短径58cmの円形を呈している。深さは100cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック微量
3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
4 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色 ロームブロック少量
6 暗褐色 ロームブロック中量

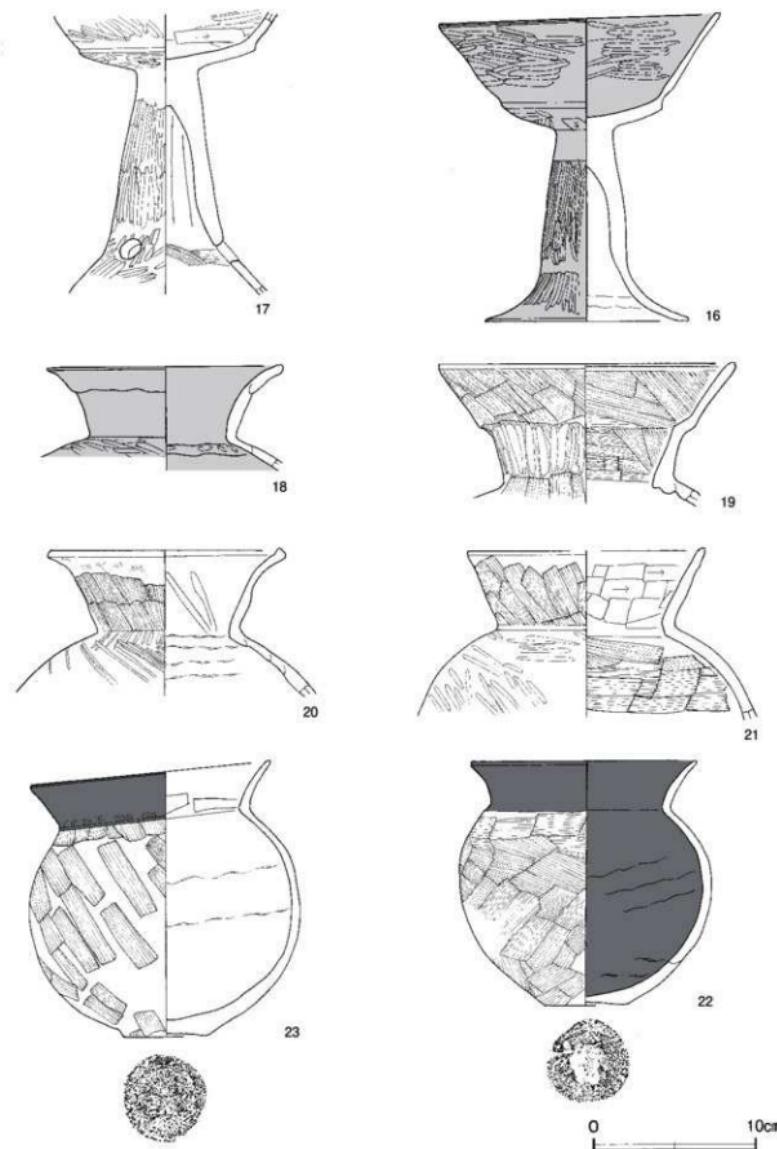
7 増褐色 ロームブロック微量、炭化粒子微量
8 増褐色 ローム粒子少量
9 暗褐色 ローム粒子微量
10 黒褐色 ローム粒子、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量

覆土 20層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

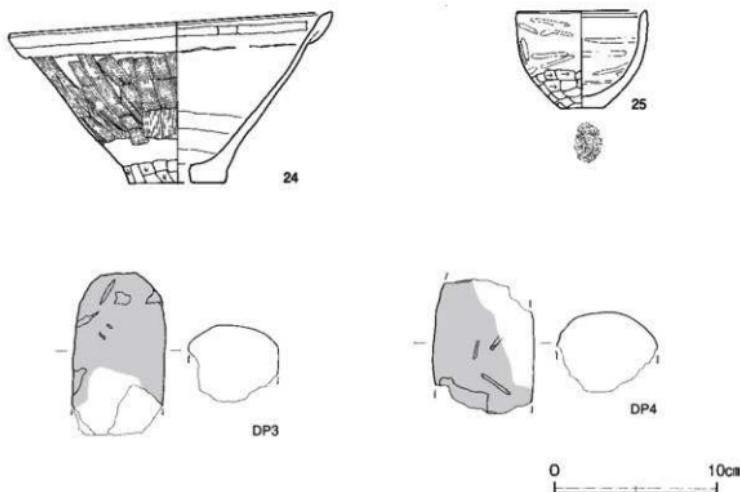
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化材微量
3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
4 黑褐色 ローム粒子少量
5 黑褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
6 黑褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
7 黑褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
8 黑褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
9 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
10 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

11 黒褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化材微量
12 増褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
13 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
14 増赤褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
15 増褐色 ロームブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
16 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
17 増褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
18 黑褐色 ローム粒子中量
19 黑褐色 ロームブロック微量
20 増褐色 ロームブロック少量



第13図 第10号住居跡出土遺物実測図（1）



第14図 第10号住居跡出土遺物実測図（2）

遺物出土状況 土師器片144点（壙2、高坏14、壺5、甕類118、小形甕2、瓶1、ミニチュア土器2）、土製品2点（炉器台）が出土している。また、貼床の構築土内から土師器片2点（甕類）が出土している。そのほか、混入した須恵器片1点（蓋）も出土している。18・19は炉の覆土中から逆位の状態で、17・21・23・25・DP3・DP4は炉の周辺に堆積した焼土の下の床面からそれぞれ出土している。いずれも住居廃絶時に遭棄されたものと見られる。20は西側の壁下の覆土下層から出土している。22は炉1の覆土中と貯蔵穴周辺の覆土下層から出土した破片が接合したものである。24は貯蔵穴周辺の床面と貯蔵穴の覆土中層から出土した破片が接合したものである。16は貯蔵穴の覆土中層から横位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から4世紀後葉に比定できる。床面で検出された炭化材や焼土塊から、焼失住居と考えられる。

第10号住居跡出土遺物観察表（第13・14図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
16	土師器	高坏	170	190	[124]	長石・石英	にい赤褐	普通	環部外・内面縫合のハラ跡、脚部外面縫合のハラ跡 内面横ナデ 縦芯外縫合のハラ跡 内面横積灰を残す横ナデ	貯蔵穴覆土中層	70% PL20
17	土師器	高坏	-	(17.4)	-	長石・石英	にい赤褐	普通	環部外・内面縫合のハラ跡、脚部外縫合のハラ跡 内面横積灰を残す横ナデ	床面	70% PL30
18	土師器	壺	140	(6.4)	-	長石・石英	棕	普通	口絞部外・内面横ナデ 刷毛外縫合のハケ目 後擦ナデ 内面上衣横積灰を残す横ナデ・指擦 底灰	炉覆土中	10%
19	土師器	壺	180	(8.7)	-	長石・石英・ 雲母	黄褐	普通	口絞部外縫合のハケ目後擦ナデ 刷毛外縫合のハケ目後擦ナデ 内面横積灰を残す横ナデ 内面横積灰を残す横ナデ	炉覆土中	10% PL31
20	土師器	壺	140	(9.1)	-	長石・石英	棕	普通	口絞部外縫合のハケ目後擦ナデ 刷毛外縫合のハケ目後擦ナデ 内面横積灰を残す横ナデ 内面横積灰を残す横ナデ	覆土下層	10% PL31
21	土師器	壺	[14.4] (10.7)	-	長石・石英・ 赤色粒子	棕	普通	口絞部外・内面横ナデ 刷毛外縫合のハケ目 後擦ナデ 内面横積灰のハケ削り 余部上端縫合・斜位 のハケ削り 内面横積灰のハケ目	床面	5%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか		出土位置	備考
									口縁部外・内面横ナデ	体部外面横位・斜位のハケ目		
22	土師器	小形甕	13.8	15.1	5.2	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	体部外面横位・斜位のハケ目	砂質土中・ 焼成土下層	外・内面横位 80% PL32
23	土師器	小形甕	14.6	17.0	5.2	長石・石英・ 雲母	にぶい赤	普通	口縁部外面斜位のハケ目	焼成土下層	外・内面横位 60% PL32	
24	土師器	瓶	19.7	10.6	5.8	長石・石英	赤褐	普通	口縁部内面横ナデ	体部外面斜位のハケ目	体部内面土端	
25	土師器	ビン	7.8	6.0	2.4	長石・石英	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	口縁部内面横位のハラナデ	床面・ 薪窯穴覆土中層	100% PL34
									口縁部外・内面横ナデ	体部外・内面横位のハラナデ	床面	50% PL34

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	色調	特徴		出土位置	備考
								工具痕	被熱痕		
DP 3	印器台	(10.1)	32	55	(260)	長石・石英	ヘラナデ	工具痕	被熱痕	床面	
DP 4	印器台	(8.3)	59	62	(220)	長石・石英	ヘラナデ	工具痕	被熱痕	床面	

第 11 号住居跡（第 15 ~ 19 図）

位置 調査区西部の E 12c8 区、標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 7.86 m、短軸 7.78 m の方形で、主軸方向は N - 27° - W である。壁高は 8 ~ 34 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、東壁付近を除いて踏み固められている。壁下には堀溝が巡っている。床面には炭化材が散在し、壁際の床面からは、焼土塊が検出された。

竈 北壁の中央部からやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 132 cm で、燃焼部幅は 48 cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 16 ~ 18 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 20 cm 挖り込んで、ロームブロックを含んだ第 19 ~ 21 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁内に収まり、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	燒土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10	にぶい赤褐色	燒土ブロック中量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量
2	灰褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量	11	にぶい赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	黒褐色	燒土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12	赤褐色	燒土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13	暗赤褐色	燒土ブロック中量、ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量
5	にぶい赤褐色	燒土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	14	暗赤褐色	燒土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
6	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量	15	褐色	ロームブロック・燒土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7	暗褐色	燒土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16	褐色	砂質粘土粒子多量
8	黒褐色	燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17	褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック微量
9	暗赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18	褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック微量
			19	暗赤褐色	ローム粒子・燒土粒子少量、砂質粘土粒子少量
			20	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
			21	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P 1 ~ P 4 は深さ 59 ~ 73 cm で、規模と配置から主柱穴である。P 5 は深さ 49 cm で、南壁側の中央やや東寄りで竈の正面に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部と出入り口ピットの間に位置している。長径 85 cm、短径 65 cm の楕円形で、深さは 58 cm である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

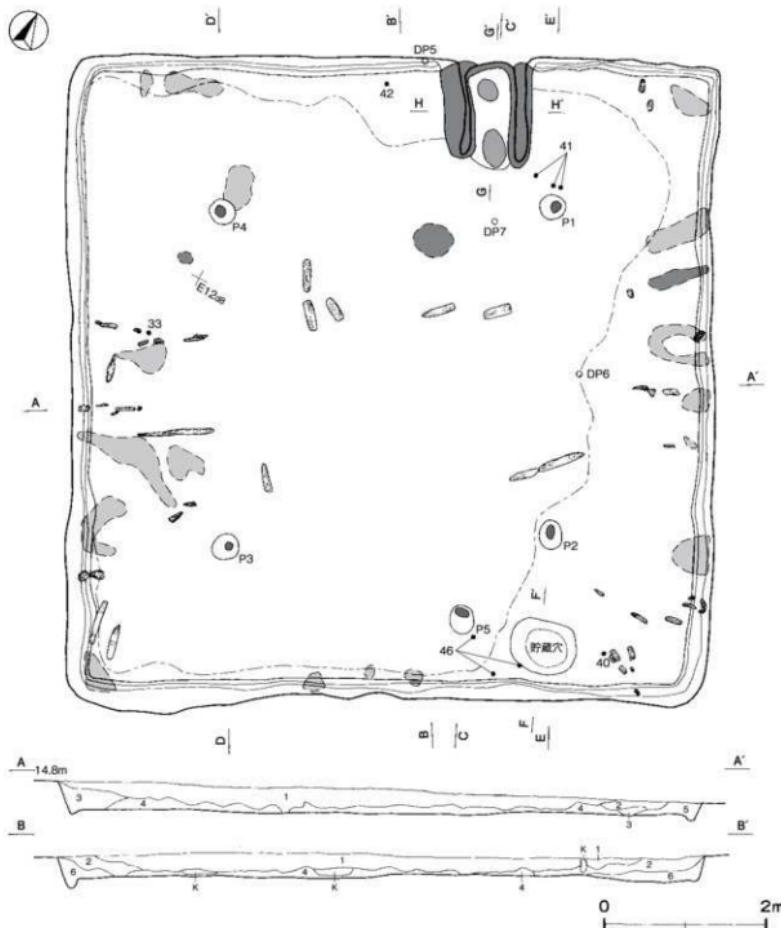
貯蔵穴土層解説

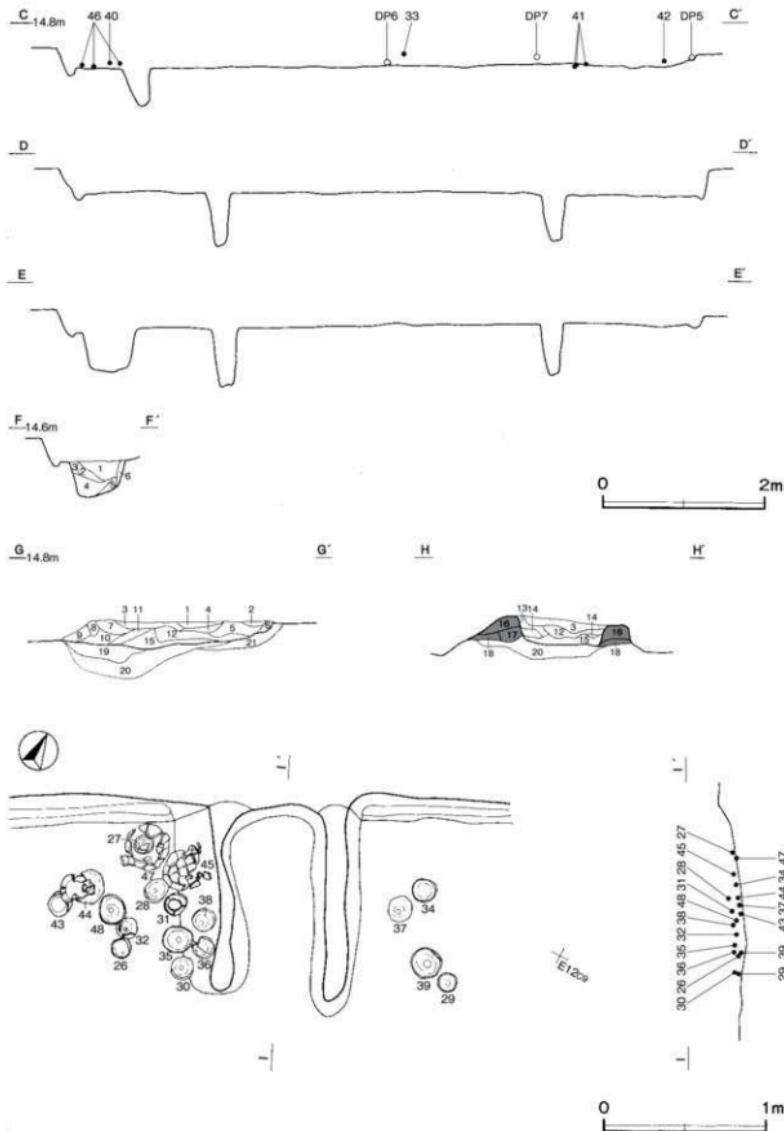
1	暗 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、炭化物微量	4	褐	色 ロームブロック・炭化粒子少量
2	暗 褐 色	ロームブロック中量	5	褐	色 ロームブロック少量
3	褐	色 ローム粒子中量	6	褐	色 ロームブロック中量

覆土 6層に分層できる。各層の含有物がブロック主体であることから、埋め戻されている。

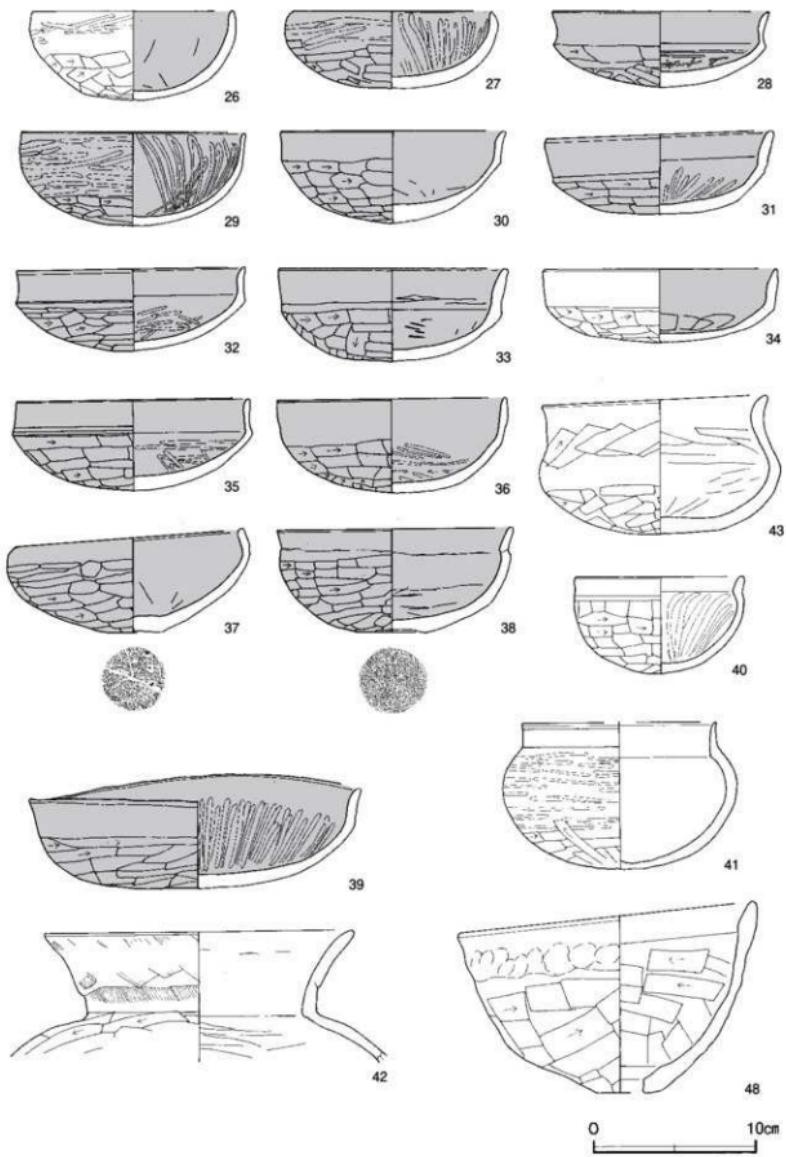
土層解説

1	黒 色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	4	暗 赤 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量
2	黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量	5	褐	色 ロームブロック・炭化材・焼土粒子少量
3	無 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	6	暗 褐 色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

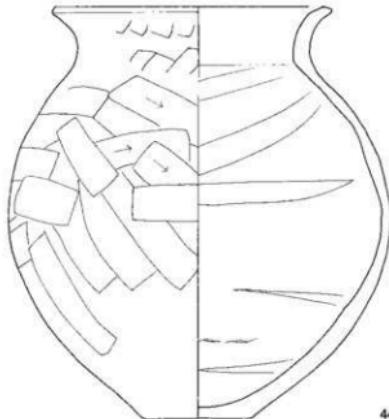




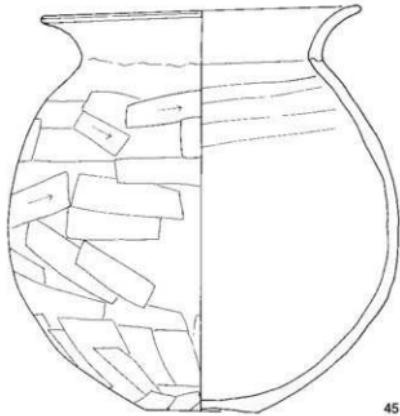
第16図 第11号住居跡実測図（2）



第17図 第11号住居跡出土遺物実測図(1)



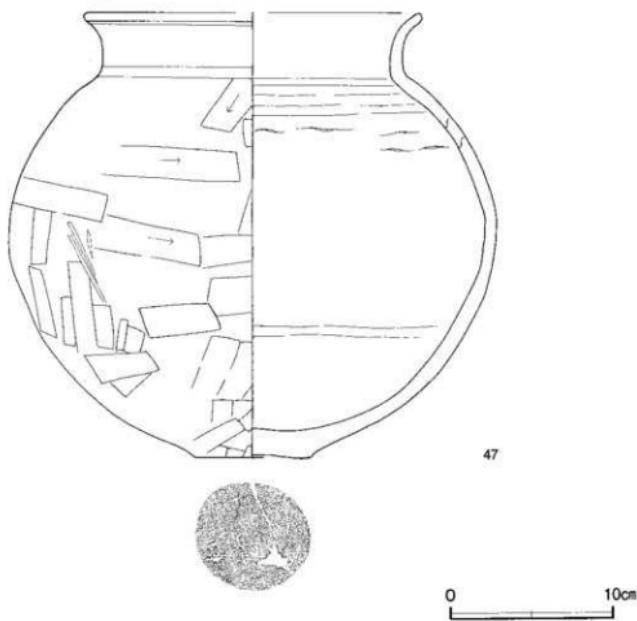
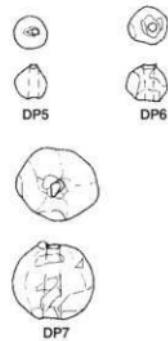
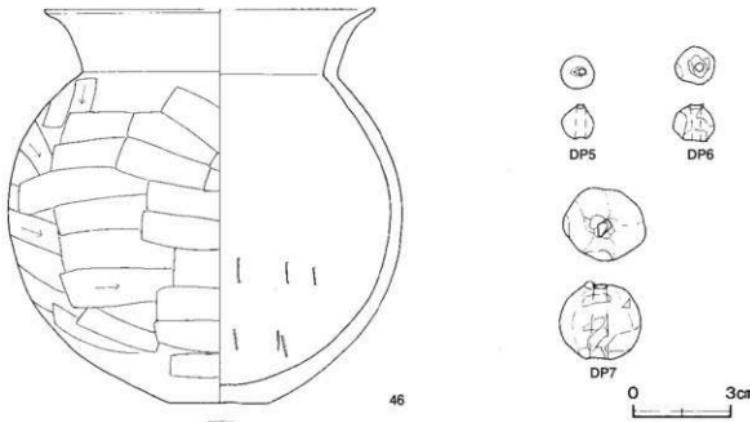
44



45

0 10cm

第18図 第11号住居跡出土遺物実測図(2)



第19図 第11号住居跡出土遺物実測図(3)

遺物出土状況 土師器片 571 点（坏 120、碗 7、壺 1、壺 1、高坏 4、壺類 436、瓶 2）、土製品 3 点（土玉）、焼成粘土塊 15 点、鉄滓 1 点（17g）が、壁際の覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか、混入した須恵器片 6 点（坏）、陶器片 2 点、剥片 3 点、軽石 1 点も出土している。26・28・30・32・35・36・38・40・42・44・47・48・DP 5 は竈の西側の覆土下層から床面にかけて、29・34・37・39・41 は竈の東側の床面からそれぞれ出土している。坏はほぼ正位、壺は正位または横位の状態で出土している。DP 7 は竈の前、33 は西壁下の覆土下層からそれぞれ出土している。40・46 は出入り口付近、DP 6 は東壁下の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀末から 6 世紀初頭に比定できる。床面で検出された炭化材や焼土塊から、焼失住居と考えられる。竈は、いわゆる初期竈と思われる。

第 11 号住居跡出土遺物観察表（第 17～19 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
26	土師器	坏	12.2	5.4	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部外側横ナデ体部底横位のへラ削り 内面横ナデ 工具痕	覆土下層	100% PL27
27	土師器	坏	12.2	4.7	-	長石・石英	にい赤褐色	普通	口縁部外側横ナデ 体部上半横位のへラ削り 内面横ナデ ブラシ痕	覆土下層	100% PL27
28	土師器	坏	13.2	4.7	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部外側横ナデ 体部上半横位のへラ削り 下半横位のへラ削り 内面横ナデ	覆土下層	100% PL27
29	土師器	坏	13.6	5.8	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部外側横ナデ 体部上半横位のへラ削り 下半横位のへラ削り 内面横ナデ	床面	100% PL27
30	土師器	坏	13.6	5.7	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部外側横ナデ 体部上半横位のへラ削り 内面横ナデ 工具痕	覆土下層	100% PL27
31	土師器	坏	13.8	5.3	-	長石・石英・赤鉄	明黄褐色	普通	口縁部外側横ナデ 体部上半横位のへラ削り 内面放射状のへラ削り	床面	100% PL27
32	土師器	坏	13.9	5.0	-	長石・石英・赤鉄粒子	明赤褐色	普通	口縁部外側横ナデ 体部横位のへラ削り 内面横ナデ 窒位のへラ削り	覆土下層	98%
33	土師器	坏	13.8	5.7	-	長石・石英	にい赤褐色	普通	口縁部外側横ナデ 体部上半横位のへラ削り 内面横ナデ	覆土下層	100% PL27
34	土師器	坏	14.2	4.5	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外側横ナデ 体部外側横位のへラ削り 内面横位のへラ削り	床面	100% PL27
35	土師器	坏	14.2	5.4	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外側横ナデ 体部外側横位のへラ削り 内面横位のへラ削り 下半横位のへラ削り	覆土下層	100% PL27
36	土師器	坏	14.0	5.8	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部外側横ナデ 体部外側横位のへラ削り	覆土下層	100% PL28
37	土師器	坏	13.9	6.3	37	長石・石英・赤色粒子	赤褐色	普通	口縁部外側横ナデ 体部外側横位のへラ削り 内面横ナデ 工具痕	床面	100% PL28
38	土師器	坏	14.3	6.5	42	長石・石英・赤色粒子	赤	普通	口縁部外側横ナデ 体部外側横位のへラ削り 内面横ナデ 滾轉横位のへラ削り	覆土下層	100% PL28
39	土師器	坏	20.0	7.0	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外側横ナデ 体部外側横位のへラ削り 内面横位のへラ削り 下半横位のへラ削り	床面	100% PL28
40	土師器	碗	10.2	6.0	-	長石・石英	にい赤褐色	普通	口縁部外側横ナデ 体部外側横位のへラ削り 内面横位のへラ削り	床面	70% PL29
41	土師器	碗	[118]	9.1	-	長石・石英	明黄褐色	普通	口縁部外側横ナデ 体部外側横位のへラ削り 内面横ナデ	床面	60% PL30
42	土師器	壺	18.7	(8.2)	-	長石・石英・赤色粒子	灰黃褐色	普通	口縁部外側横ナデ 体部外側横位のへラ削り 内面横ナデ	床面	20%
43	土師器	初窯壺	13.6	8.6	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外側横ナデ 体部外側横位のへラ削り 内面横位のへラ削り 体部外側底半多方斜のへラ削り 内面横位	覆土下層	100% PL32
44	土師器	壺	16.5	25.4	6.8	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部外側横ナデ 体部外側斜位のへラ削り 内面横ナデ	床面	80% PL33
45	土師器	壺	19.4	25.0	7.0	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外側横ナデ 体部外側斜位のへラ削り 内面横位のへラ削り 下半横位のへラ削り	覆土下層	70% PL33
46	土師器	壺	[282]	24.2	5.8	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外側横ナデ 体部外側斜位のへラ削り 内面横ナデ 工具痕	床面	70% PL33
47	土師器	壺	[204]	27.8	7.0	長石・石英	にい赤褐色	普通	口縁部外側横ナデ 体部外側斜位のへラ削り	覆土下層	60%
48	土師器	瓶	18.2	11.7	3.0	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外側横ナデ 体部外側斜位のへラ削り 内面横位	覆土下層	100% PL34

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 5	土玉	1.0	1.0	0.3	1.1	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL41
DP 6	土玉	1.3	1.1	0.2	1.6	長石・赤色粒子	ナデ 指擦痕 一方向からの穿孔	床面	PL41
DP 7	土玉	2.5	2.4	0.4～0.7	14.9	長石・石英	ナデ 指擦痕 一方向からの穿孔	覆土下層	PL41

第12号住居跡（第20～22図）

位置 調査区西部のE 12e5区、標高15mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.65m、短軸5.55mの方形で、主軸方向はN-21°-Wである。壁高は42～50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、四隅を除いて踏み固められている。貼床は、全体を均一に掘りくぼめ、第22～24層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。東壁及び西壁から主柱穴に向かって幅12～23cm、長さ85～130cm、深さ6～8cmでU字状の断面を呈する4条の間仕切り溝を確認した。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで133cmで、燃焼部幅は38cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第16～25層を積み上げて構築されている。なお、右袖部の補強材として、小形甃が使用されていた。火床部は床面を15cm掘りくぼめ、第26～34層を埋土して構築している。火床面は火を受け赤変硬化している。煙道部は壁外へ25cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第3層は天井部の崩落土である。

遺土層解説

1	暗赤褐色	燒土粒子中量、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	15	暗褐色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2	にぶい褐色	砂質粘土ブロック少量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	16	灰褐色	砂質粘土粒子多量
3	にぶい褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17	明褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量
4	無暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	18	明褐色	砂質粘土粒子多量、炭化粒子微量
5	無暗褐色	燒土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	19	灰褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量
6	無暗褐色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量	20	灰褐色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子微量
7	にぶい褐色	砂質粘土粒子多量、燒土ブロック少量	21	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
8	暗赤褐色	燒土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	22	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
9	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、燒土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	23	暗褐色	砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量
10	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	24	暗褐色	砂質粘土粒子中量
11	暗赤褐色	燒土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	25	褐色	砂質粘土ブロック少量
12	暗赤褐色	燒土粒子中量、灰少量、ローム粒子・炭化粒子微量	26	極暗赤褐色	燒土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量
13	無暗褐色	燒土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	27	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
14	暗赤褐色	燒土ブロック中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	28	褐色	砂質粘土粒子少量、砂質粘土粒子微量
			29	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・砂質粘土粒子少量
			30	褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量
			31	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・砂質粘土粒子微量
			32	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
			33	極暗赤褐色	ロームブロック中量、燒土粒子微量
			34	極暗赤褐色	ローム粒子中量

ピット 7か所。P1～P4は深さ43～74cmで、規模と配置から主柱穴である。P5・P6は深さ19cm・26cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。両者が同時に機能していたか否かについては不明である。P7は深さ5cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径84cm、短径65cmの梢円形で、深さは30cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	2	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
---	-----	----------------------------	---	-----	-----------------------

覆土 21層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第22～24層は、貼床の構築土である。

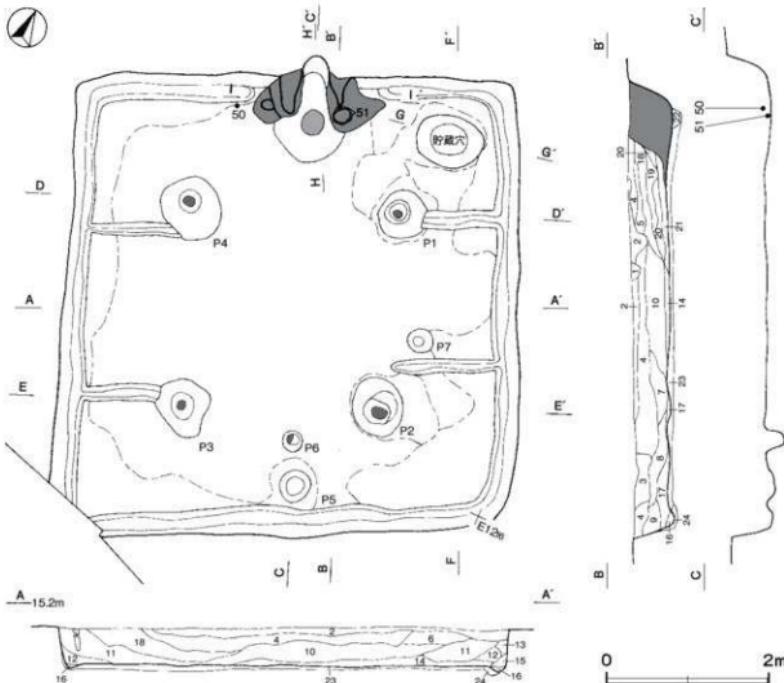
土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・砂質粘土粒子微量			
4	暗褐色	ローム粒子中量、炭化物・燒土粒子微量			

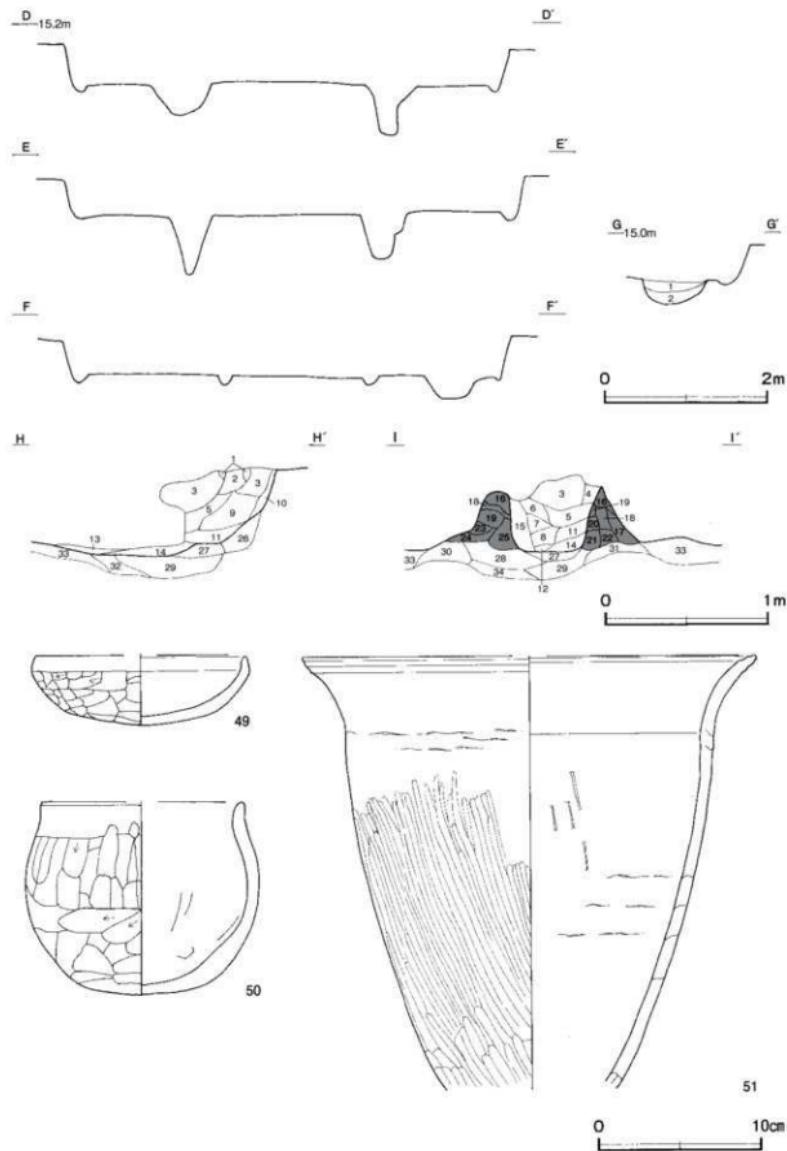
7	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16	黒褐色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
8	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
9	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	18	暗褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
10	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	19	にぶい褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
11	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	20	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
12	黒褐色	ロームブロック微量	21	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
13	極暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	22	暗褐色	焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量
14	暗褐色	ローム粒子少量	23	褐色	ロームブロック微量
15	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	24	褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 615 点（壺 113、碗 2、高环 17、壺類 478、小形壺 1、瓶 2）。須恵器片 7 点（壺 6、壺類 1）、土製品 2 点（勾玉、管玉）、焼成粘土塊 2 点、鐵滓 4 点（46 g）が、全面の覆土上層から床面にかけて出土している。また、貼床の構築土内から土師器片 8 点（壺 1、壺類 7）が出土している。そのほか、混入した繩文土器片 1 点（深鉢）、剥片 1 点、も出土している。50 は竈の左袖部西側の床面から、DP 9 は竈の覆土中からそれぞれ出土している。51 は竈の右袖部内に逆位の状態で補強材として使用されていた。DP 8 は竈の東側の覆土上層から、49 は竈の西側の覆土下層からそれぞれ出土している。

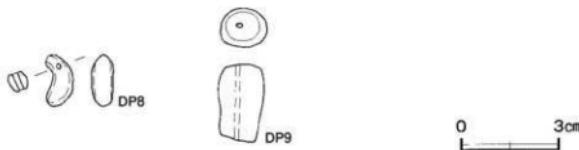
所見 時期は、出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



第20図 第12号住居跡実測図（1）



第21図 第12号住居跡実測図（2）



第22図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
49	土師器	环	[128]	42	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	覆土下層	70%
50	土師器	小形甌	[122]	11.8	-	長石・石英	棕	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上半横位のヘラ削り・下半横位のヘラ削り 内面ヘラナデ・工具痕	覆土施部内	80% PL22
51	土師器	甌	[278] (367)	-	長石・石英・云母	棕	普通	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り・内面横位を残すヘラナデ・工具痕	床面	30%

番号	種別	長さ	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 8	勾玉	16	0.8	0.2	1.0	長石・赤色粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL42

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 9	管玉	25	1.4	0.15	4.8	長石・赤色粘土	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL42

第16号住居跡（第23図）

位置 調査区南西部のE 12fl 区、標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北西部が調査区域外へ延びていて、南北軸は 3.60 m で、東西軸は 3.50 m しか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向は N - 15° - W と推定できる。壁高は 25 ~ 27 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁下を除いて踏み固められている。南壁下には、壁溝が巡っている。東壁下の床面上に、焼土塊を検出した。

ピット 2か所。P 1 は深さ 56 cm で、規模と配置から主柱穴である。P 2 は深さ 13 cm で、東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

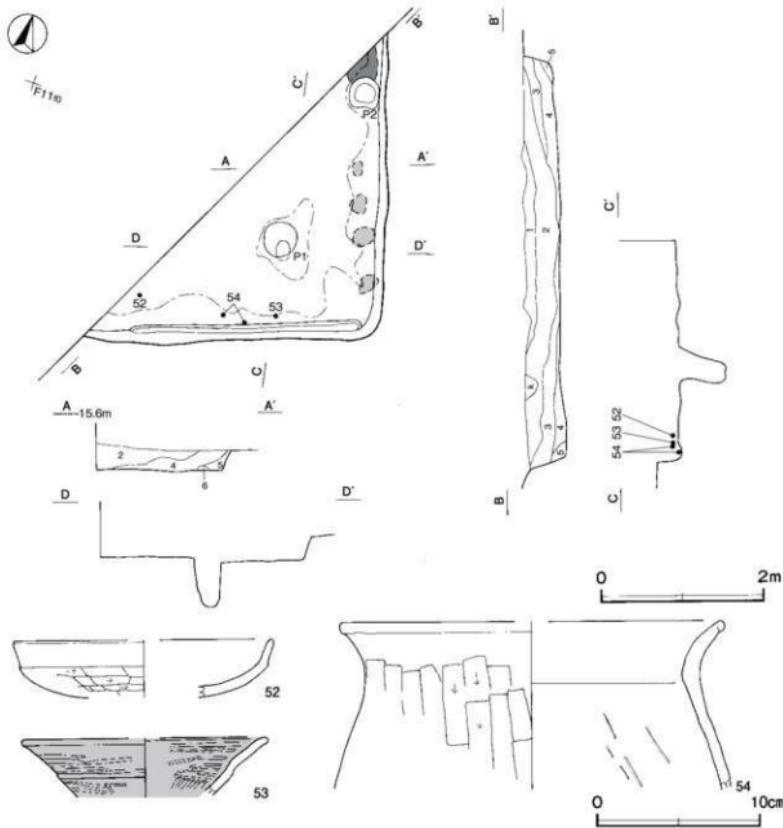
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1 無暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 2 無暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 6 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 59点（环2、高杯15、壺8、甌類34）、焼成粘土塊1点が出土している。出土遺物のはほとんどが細片である。52 ~ 54は南壁下の床面上からそれぞれ出土している。54は2点の小片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から6世紀前葉に比定できる。覆土下層で確認した焼土塊は、いずれも床面まで達していないことから、住居廃絶後の埋め土に混入したものと考えられる。



第23図 16号住居跡・出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表（第23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	他成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
52	土陶器	环	[15.8]	(3.5)	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	床面	10%
53	土陶器	高环	[15.0]	(3.1)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 环部外面横位のヘラ削り 内面下半横位のヘラ削り 下半放射状のヘラ削り	床面	5%
54	土陶器	甕	[23.4]	(10.4)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面工具痕	床面	5%

第18号住居跡（第24図）

位置 調査区西部のD 12h5区、標高15mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南西部が調査区域外へ延びているため、北東・南西軸は3.80 mで、北西・南東軸は3.56 mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向はN-26°-Wと推定できる。壁高は4~23 cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。東コーナー部から南壁下には壁溝が巡っている。

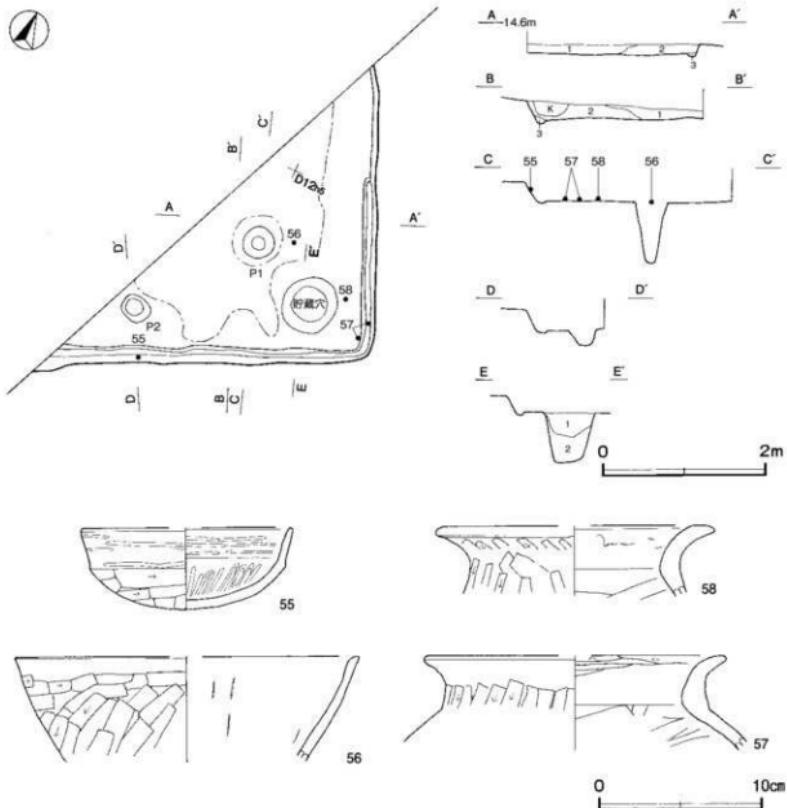
ピット 2か所。P1は深さ75cmで、規模と配置から主柱穴である。P2は深さ21cmで、東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径72cm、短径65cmの梢円形で、深さは66cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量、燒土粒子微量



第24図 第18号住居跡・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	3 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
2 褐 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	

遺物出土状況 土師器片 58点（坏11、甕類45、小形甕1、瓶1）、須恵器片1点（坏）、鐵滓1点（31g）が出土している。56はP1付近、57・58は南東コーナー部付近の床面からそれぞれ出土している。55は出入り口付近の壁際の覆土中層から逆位で出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉から6世紀前葉に比定できる。

第18号住居跡出土遺物観察表（第24図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
55	土師器	坏	[128]	50	-	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナメ後横位のヘラ削り、体部 外表面のヘラ削り、内面横位のヘラ削り	覆土中層	50%
56	土師器	瓶	[21.0]	(6.5)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナメ、体部外表面のヘラ削り、 内面横ナメ	床面	10%
57	土師器	甕	[18.2]	(5.8)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部外面横ナメ、口縁部内面横位のヘラ削り 体部外表面横位のヘラ削り、内面削位のヘラ ナメ	床面	5%
58	土師器	小形甕	[16.2]	(4.4)	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部外・体部外表面横位のヘラ削り後横位のヘ ラ削り、口縁部内面横ナメ、体部内面横位のヘ ラ削り	床面	5%

第19号住居跡（第25図）

位置 調査区西部のE 12c3区、標高15mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第20号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.60m、短軸3.82mの長方形で、主軸方向はN-33°-Wである。壁高は13~17cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。南西壁下に壁溝が巡っている。中央部からやや北寄りの床面から焼土塊を検出した。

炉 中央部からやや南東寄りに位置している。長径45cm、短径40cmの楕円形で、床面を8cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は赤変硬化している。

炉土層解説

1 褐 色 焼土粒子少量、ローム粒子微量	2 褐 色 ローム粒子多量、燒土粒子微量
----------------------	----------------------

ピット 深さ11cmである。南西壁際に位置し、炉の正面に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長径48cm、短径46cmの円形で、深さは37cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	2 褐 色 ローム粒子少量
-------------------------	---------------

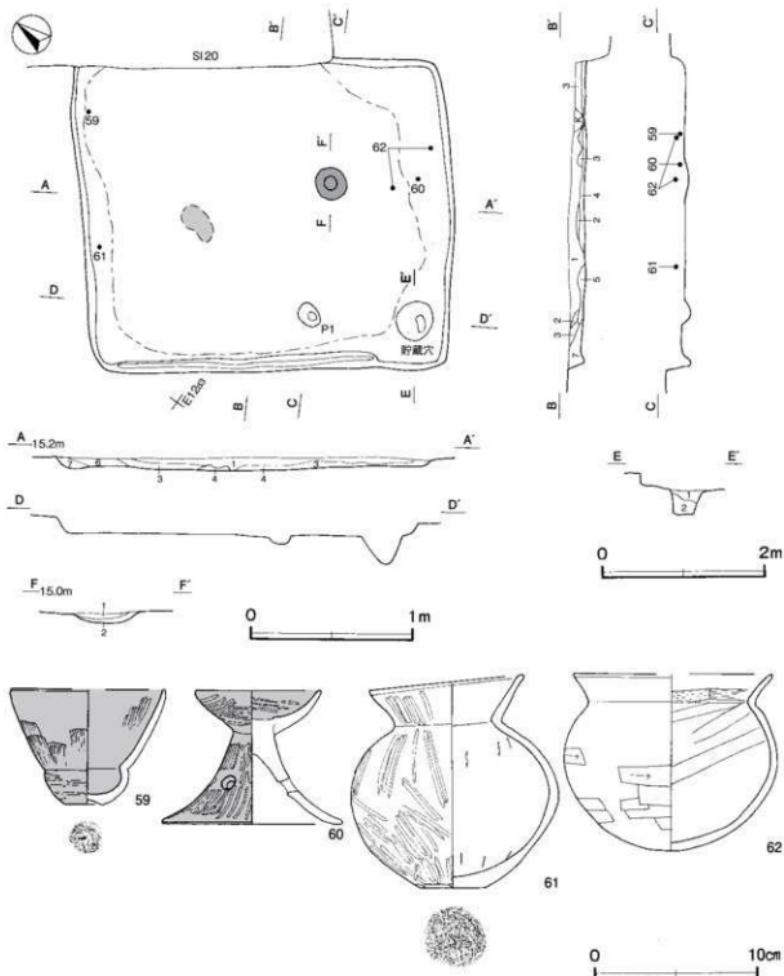
覆土 7層に分層できる。第2~7層は周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第1層は含有物がロームブロック主体であることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 褐 色 ローム粒子中量、鉢質粘土粒子微量
2 褐 褐 色 ローム粒子多量	6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	

遺物出土状況 土師器片 35 点（壺 4、器台 1、壺 1、甕類 28、小形甕 1）、鉄滓 2 点（53g）が出土している。そのほか、混入したとみられる須恵器片 2 点（壺、蓋）も出土している。62 は炉の東側床面上に散在していた 3 点の小片が接合したものである。59・61 は北西壁下、60 は北東壁下の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。床面で確認した焼土塊は、断ち割ってみたところ床面が赤変していないことから、炉ではなく、住居廃絶後の埋め土に混入したものと考えられる。



第 25 図 第 19 号住居跡・出土遺物実測図

第 19 号住居跡出土遺物観察表（第 25 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
39	土師器	壺	[94]	7.1	2.0	長石・石英	赤	普通	口縁部外・内面下部横縫ナダ・外面下部縫合のハケ目・内面下部縫合のハケ目	覆土下層	70% PL31
60	土師器	器台	7.6	8.2	11.0	長石・石英・赤色鉢子	赤	普通	外底部・内面横縫のハケ目	覆土下層	100% PL31
61	土師器	壺	9.3	13.1	4.0	長石・石英	に赤い裏面	普通	口縁部外・内面縫合のハケ目	覆土下層	80% PL31
62	土師器	小形壺	[122]	10.0	-	長石・石英	に赤い裏面	普通	口縁部外・内面ハケ目後縫ナダ・体部外面横縫のハケ目	床面	70%

第 20 号住居跡（第 26～28 図）

位置 調査区西部の E 12b4 区、標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 19・21 号住居跡を掘り込み、第 21 号土坑、第 3 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 7.40 m、短軸 7.35 m の方形で、主軸方向は N-35°-W である。壁高は 30～45 cm で、外傾して立ち上がっている。南東壁中央やや北東寄りに、貯蔵穴を伴って方形に張り出している。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。南西側の壁溝と P 4 をつなぐように、幅 18～22 cm、長さ 150 cm、深さ 10 cm で断面が逆台形の間仕切り溝を確認した。貯蔵穴の北側の床面上に高まりを確認した。また、南西側床面上に、数か所の焼土塊を検出した。

竈 北西壁の中央部からやや北寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 106 cm で、燃焼部幅は 50 cm である。袖部は、右側が第 3 号溝によって掘り込まれているが、砂質粘土を主体とした第 7 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 24 cm 堀り込んで、ローム粒子、焼土粒子を含んだ第 8～10 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁内に収まり、奥壁は直立している。

竈土層解説

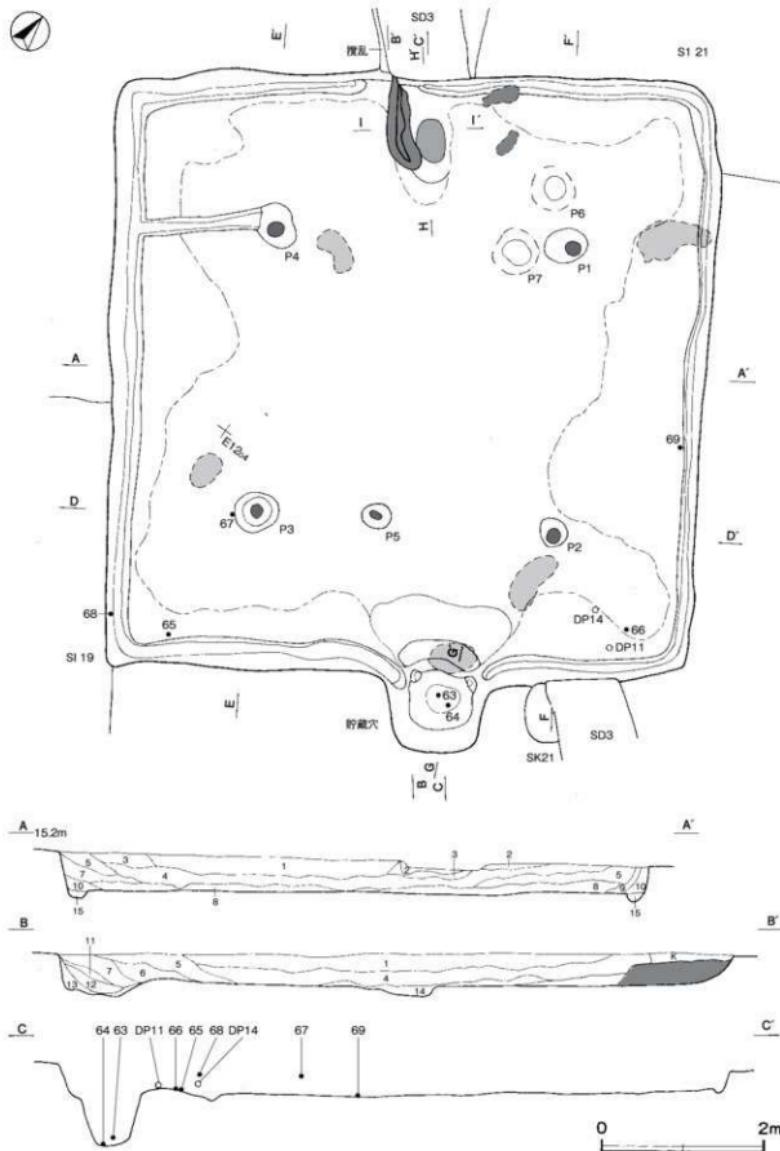
1	に赤い赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、ロームブロック	6	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
		炭化粒子微量	7	暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量
2	に赤い褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、ローム粒子			炭化粒子微量
		炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子中量
3	に赤い赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量	9	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量
4	に赤い赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
5	褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子、炭化粒子、砂質粘土粒子微量			

ピット 7か所。P 1～P 4 は深さ 58～95 cm で、規模と配置から柱穴である。P 5 は深さ 20 cm で、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7 は深さ 27 cm・23 cm で、P 1 付近の床下から確認したが、性格は不明である。

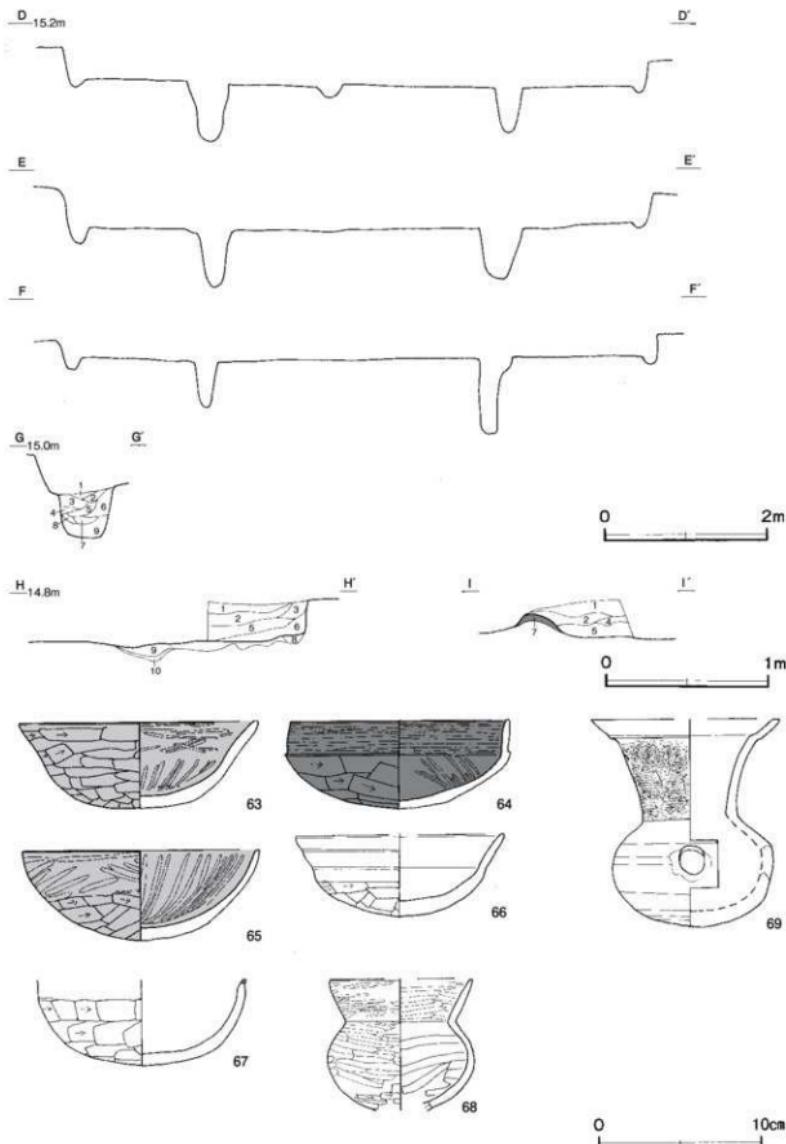
貯蔵穴 南西壁のやや東寄りに張り出して掘られ、竈の正面に位置している。長軸 140 cm、短軸 114 cm の長方形である。深さは 64 cm で、底面は平坦である。内側の壁は、外傾して立ち上がっている。外側の壁は、床面と同じ高さで段を持ち、外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

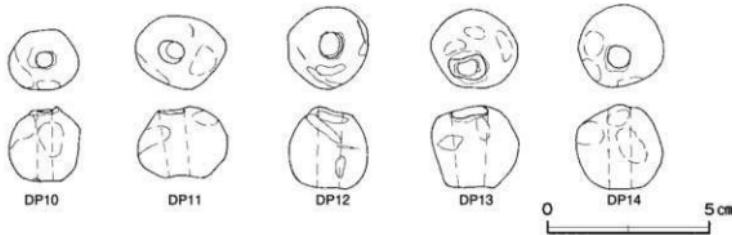
1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
3	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8	褐色	ローム粒子少量
4	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
5	暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量			



第26図 第20号住居跡実測図



第27図 第20号住居跡・出土遺物実測図



第28図 第20号住居跡出土遺物実測図

覆土 15層に分層できる。第1層はロームブロックが主体であることから、埋め戻されている。第2～15層は周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

1	無暗褐色	ロームブロック中量、燒土ブロック・炭化粒子微量	9	褐色	ローム粒子多量、燒土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
3	無暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	11	褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	12	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
5	褐色	ローム粒子微量、炭化物・燒土粒子微量	13	褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
6	褐色	ローム粒子微量、燒土粒子微量	14	褐色	砂質粘土ブロック多量、燒土ブロック少量、炭化粒子微量
7	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	15	に赤褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片866点（坏256、壙5、高坏1、甕類604）、須恵器片10点（坏5、甕1、甕類4）、土製品5点（土玉）、焼成粘土塊25点、鐵滓6点（43g）が、全面の覆土上層から床面にかけて出土している。また、貼床の構築土内から土師器片15点（坏7点、甕類8）が出土している。そのほか、流れ込んだ繩文土器片3点（深鉢）も出土している。69は、北東壁下の床面から横位の状態で出土している。63は貯蔵穴中央部の覆土下層、64は底面からそれぞれ出土している。65は南コーナー部付近、66・DP11・DP14は東コーナー一部付近の床面からそれぞれ出土している。DP13は、覆土下層から出土している。67はP3付近、68は南コーナー部壁際、DP12は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。DP10は東部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀末から6世紀初頭に比定できる。床面上で確認した焼土塊は、断ち割ってみたところ、床面が赤変していないことから、住居廃絶時に投棄されたものと考えられる。貯蔵穴北側の高まりは、仕切りと推定できる。甕は、いわゆる初期甕と思われる。

第20号住居跡出土遺物観察表（第27・28図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	燒成	手法の特徴	出土位置	備考
63	土師器	坏	145	53	-	長石・石英	明赤褐	普通	外縁横位のヘラ削り・口縁部内面横位のヘラ削り 体部斜面削りのヘラ削り	貯蔵穴蓋土下層	100% PL28
64	土師器	坏	132	54	-	長石・石英・雲母	に赤褐色	普通	口縁部内面横位のヘラ削り ヘラ削り 内面横位のヘラ削り	貯蔵穴底面	90% PL28
65	土師器	坏	145	55	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縫部外・内面横位のヘラ削り 体部斜面横位のヘラ削り 口縫部内面横位	床面	80% PL28
66	土師器	坏	[128]	51	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縫部内面横位 体部斜面横位のヘラ削り	床面	80% PL28
67	土師器	坏	-	(5.2)	-	長石	に赤褐色	普通	口縫部内面横位 体部斜面横位のヘラ削り	覆土中層	60%
68	土師器	壙	[86]	(8.1)	-	長石・石英	に赤褐色	普通	口縫部内面横位 内面横位のヘラ削り 体部斜面横位のヘラ削り	覆土中層	30%
69	須恵器	甕	[116]	123	-	長石・石英	黄灰	普通	底部上部 15cmの範囲は工具による波状文下手 ヘラ削り 体部斜面下半回転ヘラ削り・外側から の削り込み	床面	80% 自然軸PL28

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DPI0	土玉	19~22	23	05	9.4	長石・赤色粒子 青母	ナデ 指頭撲帆 一方から穿孔	覆土上層	PL41
DPI1	土玉	23~28	22	07~08	12.3	長石・石英・ 青母	ナデ 指頭撲帆 一方から穿孔	床面	PL41
DPI2	土玉	25	25	07~09	14.8	長石・石英・ 赤色粒子 青母	ナデ 工具痕 一方から穿孔	覆土中層	PL41
DPI3	土玉	27	25	06~13	14.1	長石・石英・ 青母	ナデ 指頭撲帆 一方から穿孔	覆土下層	PL41
DPI4	土玉	26	26	07	14.9	長石・石英・ 青母	ナデ 指頭圧帆 一方から穿孔	床面	PL41

第 21 号住居跡（第 29 ~ 31 図）

位置 調査区西部の D 12j4 区、標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 20 号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.55 m、短軸 5.40 m の方形で、主軸方向は N - 63° - E である。壁高は 12 ~ 22 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、南東コーナー部を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、壁下を帯状に掘り込み、ロームブロック主体の第 8 層を埋土して構築されている。炉の北側の床面上に焼土塊を確認した。

炉 中央部からやや東寄りに位置している。長径 55 cm、短径 48 cm の楕円形で、床面を 10 cm ほど掘りくぼめた後、中心に壺を据えた土器設炉である。炉床面は赤変硬化している。

炉土層解説

1	暗赤褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量	3	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	燒土ブロック・ローム粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所。P.1 ~ P.4 は深さ 69 ~ 76 cm で、規模と配置から主柱穴である。P.5 は深さ 19 cm で、南西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置している。長径 76 cm、短径 65 cm の楕円形で、深さは 60 cm である。底面は皿状で、外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	炭化物・ローム粒子少量	4	極暗褐色	ローム粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	5	極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子中量	6	暗褐色	ローム粒子中量、燒土粒子微量

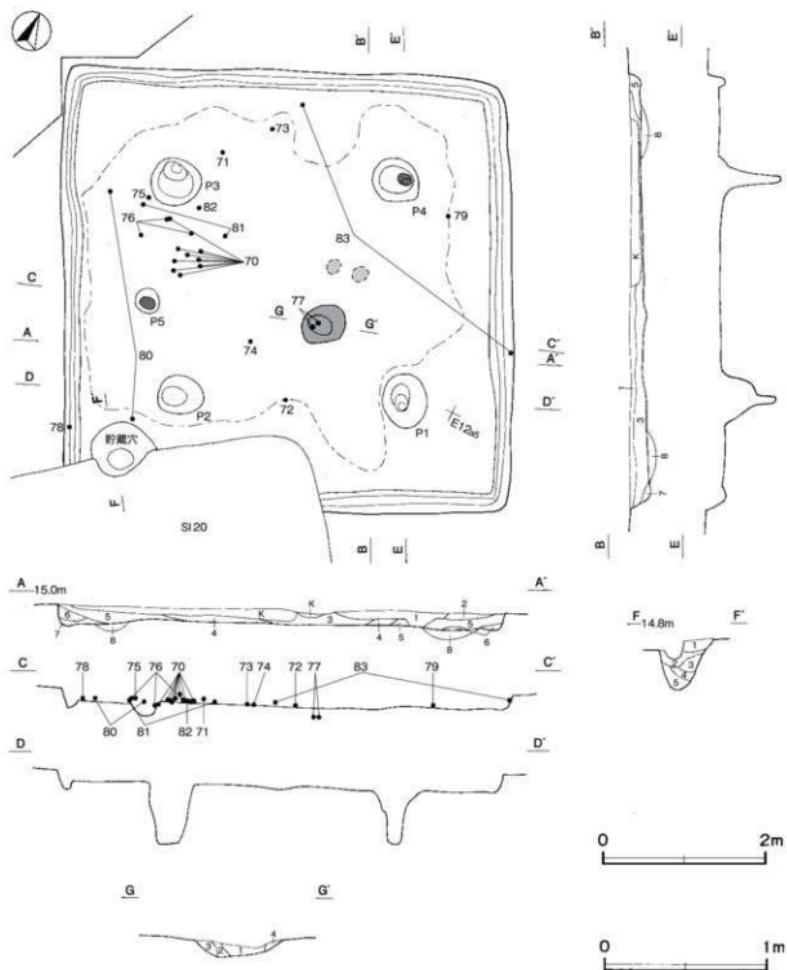
覆土 7 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第 8 層は貼床の構築土である。

土層解説

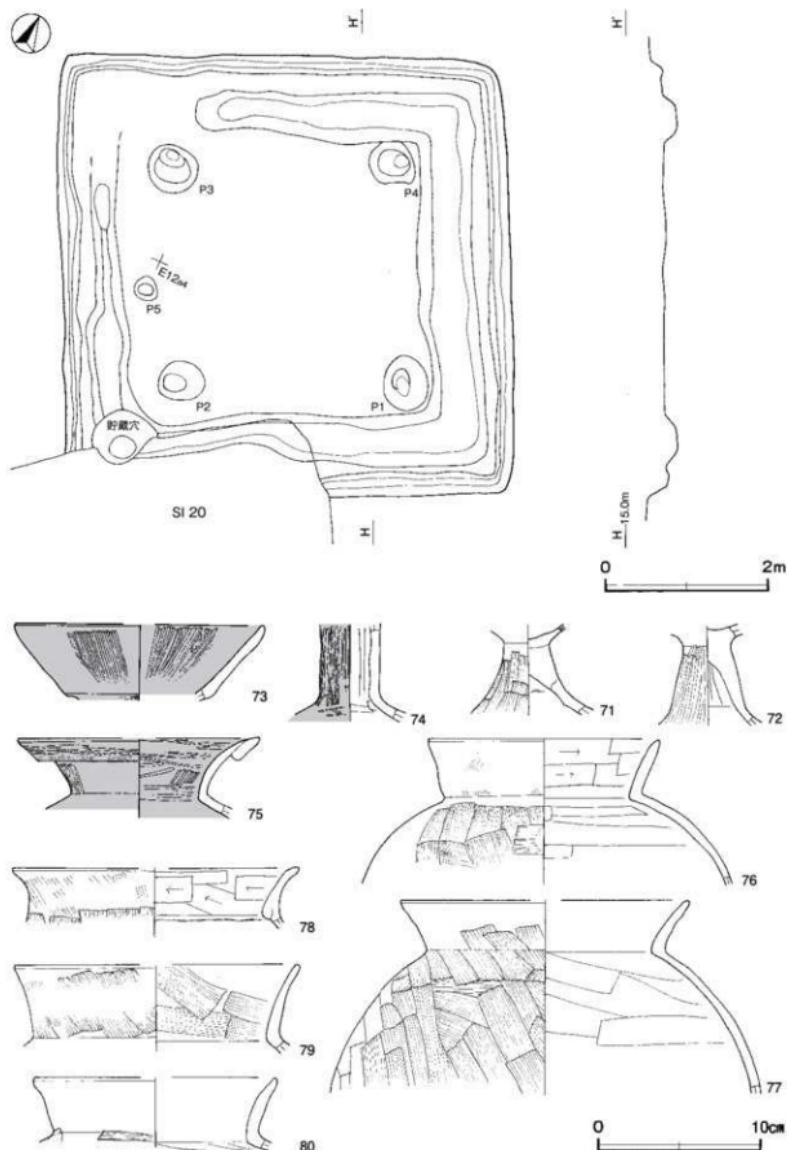
1	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	5	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、燒土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子中量、燒土粒子微量
3	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量	7	極暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
4	極暗褐色	炭化物・ローム粒子少量	8	暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 672 点（坏 33、堆 6、器台 2、高坏 5、壺 1、壺類 625）、焼成粘土塊 1 点、鉄滓 2 点 (23g) が、覆土中層から床面にかけて出土している。また、貼床の構築土内から土師器片 8 点（坏 1、壺類 7）が出土している。そのほか、混入した繩文土器片 1 点（深鉢）、須恵器片 13 点（坏 5、長頸壺 1、壺類 6、瓶 1）、剥片 1 点も出土している。73 は北部、74 は中央部、82 は西部、78・80 は西壁際の床面からそれぞれ出土している。77 は埋設炉の構築材として使用されていた。71・75・76・81・70 は西部、72 は南壁下、79 は東部覆土下層からそれぞれ出土している。75・76・81・70 は散在していた小片が接合したものである。83 は北部と東部の覆土中層から出土している 2 点が接合したものである。

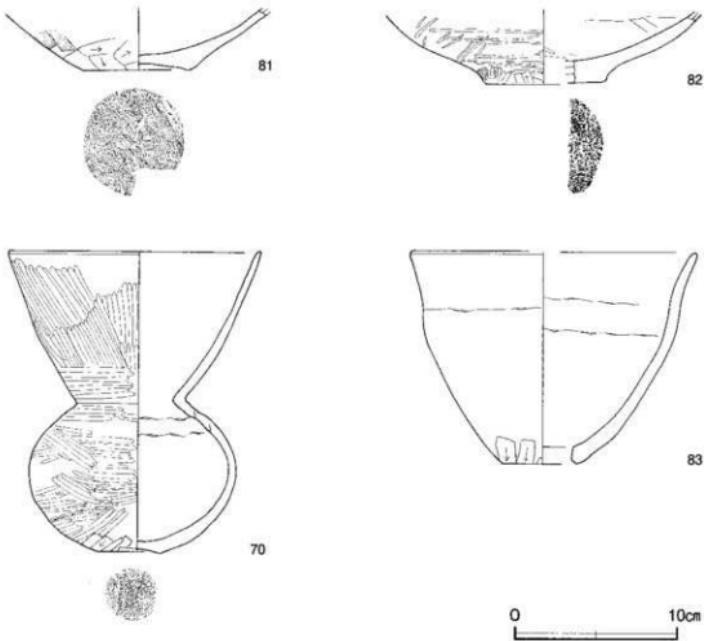
所見 時期は、出土土器から4世紀末に比定できる。床面上で確認した焼土塊は、断ち割ってみたところ床面が赤変していないことから、炉ではなく住居廃絶後の埋め土に混入したものと考えられる。



第29図 第21号住居跡実測図



第30図 第21号住居跡・出土遺物実測図



第31図 第21号住居跡出土遺物実測図

第21号住居跡出土遺物観察表（第30・31図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
70	土師器	壺	15.5	18.5	3.5	長石・石英	にぶい黄	普通	口縁部外面斜傾位のハラ焼き 脚部から体部横位のへら削り・下腹横位のへら削り 内面横ナデ	覆土下層	80% PL31
71	土師器	器台	-	(5.5)	-	長石・石英、黒母	にぶい黄	普通	脚部外面縦位のハケ目後縦位のハラ削り 内面横ナデ	覆土下層	30%
72	土師器	器台	-	-	-	長石・石英	にぶい黄	普通	脚部外・内面縦位のハラ削り 脚部内面横ナデ	覆土下層	30%
73	土師器	高坏	[15.2]	(4.7)	-	長石・石英	赤	普通	環部外・内面縦位のハラ削き	床面	20%
74	土師器	高坏	-	(6.0)	-	長石・石英	赤褐	普通	脚部外・内面縦位のハケ目後縦位のハラ削き 内面横位のハラ削り 上面横位のハラ削り	床面	5%
75	土師器	壺	[14.6]	(5.0)	-	長石・石英	赤	普通	口縁部外面斜傾位のハケ目後縦位のハラ削き 滲出小頭縫位のへら削き 内面横位・縱位のハラ削り	覆土下層	20%
76	土師器	壺	14.1	(9.0)	-	長石・石英	にぶい黄	普通	口縁部外面斜傾位のハケ目後縦位ナデ 口縁部内面横位のハラナデ 体部外面斜傾位のハケ目 内面横位のハラナデ	覆土下層	30%
77	土師器	壺	[17.6]	(12.0)	-	長石・石英	にぶい黄	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜傾位のハケ目 内面横位のハラ削り	床内	20%
78	土師器	壺	[17.6]	(3.7)	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外・内面斜傾位のハケ目後縦位ナデ 体部外・内面斜傾位のハラ削り	床面	10%
79	土師器	壺	[17.4]	(5.4)	-	長石・石英、赤色鉢子	にぶい黄	普通	口縁部外面斜傾位のハケ目後縦位ナデ 内面斜傾位のハケ目	覆土下層	10%
80	土師器	壺	[14.8]	(4.4)	-	長石・石英	にぶい黄	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部上端ハケ目 内面ハラ削り	床面	10%
81	土師器	壺	-	(3.3)	6.8	長石・石英	にぶい黄	普通	体部外面斜位のハラ削位 下端ハラ削り	覆土下層	20%
82	土師器	壺	-	(4.5)	(7.0)	長石・石英	棕	普通	体部外下端縫位のハラ削き・縫位のハラ削り 内面横ナデ・具象	床面	10%
83	土師器	瓶	[17.2]	13.1	4.8	長石・石英	にぶい黄	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横ナデ・下端ハラ削り 内面縫位のハラナデ	覆土中層	60%

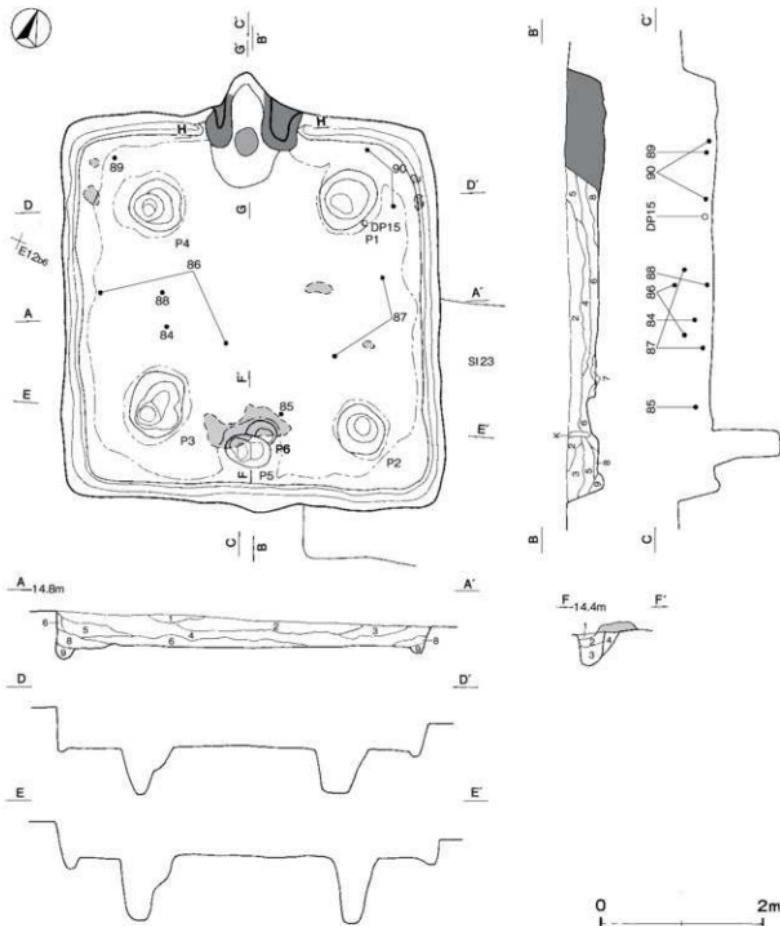
第 22 号住居跡（第 32・33 図）

位置 調査区西部の E 12a6 区、標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

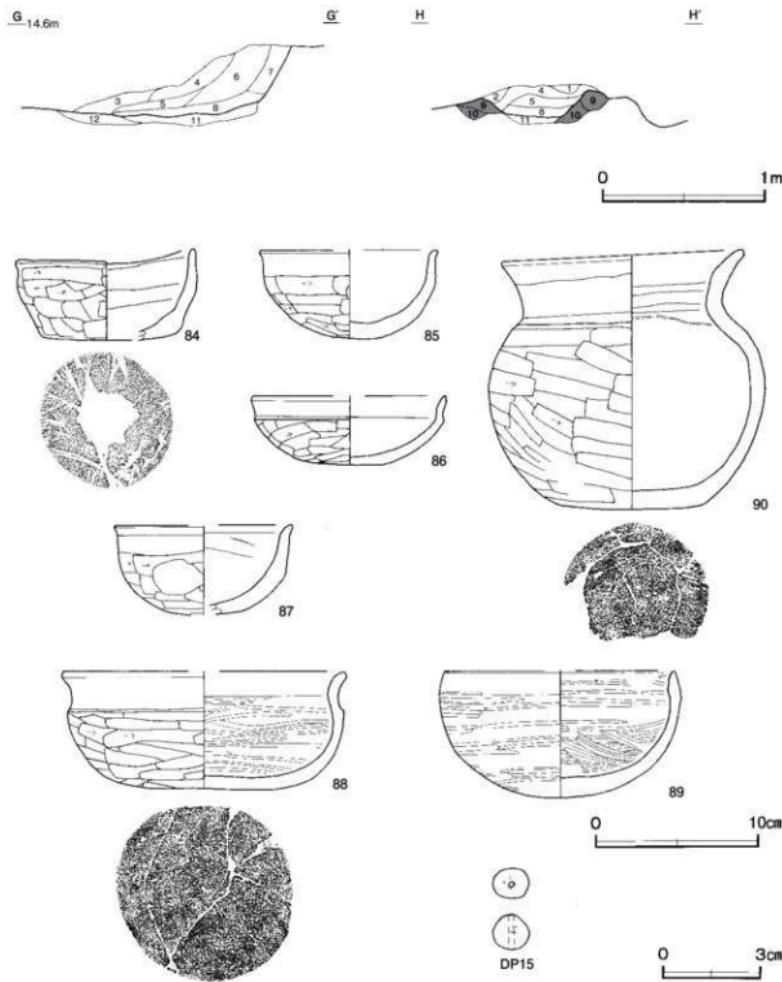
重複関係 第 23 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 4.77 m、短軸 4.62 m の隅丸方形で、主軸方向は N - 21° - W である。壁高は 5 ~ 39 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、ほぼ全面が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。北西コーナー部と南壁際の P 5 付近の床面上で焼土塊を確認した。



第 32 図 第 22 号住居跡実測図



第33図 第22号住居跡・出土遺物実測図

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで145cmで、燃焼部幅は35cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし、砂質粘土を主体とした第9・10層を積み上げて構築されている。火床部は床面を10cm掘りぐらばめ、第11・12層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ50cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

電土層解説

1	にぶい黄褐色	砂質粘土ブロック中量、焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	7	黒褐色	燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	8	暗褐色	焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
3	暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9	灰褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量
4	褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子中量
5	にぶい赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11	暗赤褐色	燒土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6	暗赤褐色	焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	12	にぶい赤褐色	燒土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ 57～82cmで、規模と配置から主柱穴である。P 5・P 6は深さ 27cm・38cmで、南西壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6はP 5に掘り込まれていることから、P 6からP 5へ付け替えられている。

ピット5・6層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	3	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
2	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック中量

覆土 9層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	極暗褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	極暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 403 点（坏 77, 槌 9, 高坏 5, 壶類 311, 小形壺 1）、須恵器片 5 点（坏）、土製品 1 点（土玉）、焼成粘土塊 8 点、鉄滓 1 点（1 g）、種子 1 点（桃）が、全面の覆土中層から床面にかけて出土している。88 は西部、90・DP15 は P 1 付近の床面からそれぞれ出土している。84 は西部、85 は P 5 付近、89 は P 4 付近の覆土下層からそれぞれ出土している。86 は中央部と西部の覆土中層から、87 は西部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 6 世紀中葉に比定できる。床面上で確認した焼土塊は、床面が火を受けて赤変していないことから、住居廃絶後の埋め土に混入したものと考えられる。

第 22 号住居跡出土遺物観察表（第 33 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土地点	備考
84	土師器	坏	108	56	8.0	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部分・内面横模様のヘラ削り・体部外表面横模様のヘラ削り・内面横模様	覆土下層	80% PL28
85	土師器	坏	[108]	55	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	ローム部・内面横模様	覆土下層	70%
86	土師器	坏	[118]	4.2	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	ローム部・内面横模様のヘラ削り	覆土中層	35%
87	土師器	陶	[108]	(54)	-	長石・石英・ 黒母	にぶい青褐色	普通	ローム部・内面横模様・体部外表面横模様のヘラ削り・内面工具痕	覆土中層	45%
88	土師器	陶	[172]	7.3	-	長石・石英・ 黒母	にぶい褐色	普通	ローム部・内面横模様・体部外表面横模様のヘラ削り・内面工具痕	床面	50% PL29
89	土師器	陶	[140]	7.8	-	長石・石英	にぶい青褐色	普通	ローム部・内面横模様・体部外表面横模様のヘラ削り・後縫合のヘラ削り・内面横模様のヘラ削り	覆土下層	40%
90	土師器	小形壺	147	160	8.8	長石・石英	にぶい褐色	普通	ローム部・内面横模様・体部外表面横模様のヘラ削り・内面横模様のヘラ削り	床面	70% PL33

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土地点	備考
DP15	土玉	11	11	0.2	1.1	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL41

第 23 号住居跡（第 34 図）

位置 調査区西部の E 12b7 区、標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 22 号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.62 m、短軸 3.31 m の長方形で、主軸方向は N - 17° - W である。壁高は 5 ~ 12 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、踏み固められた痕跡は確認できなかった。壁下には櫛溝が巡っている。

ピット 深さ 32 cm で、性格は不明である。

覆土 3 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

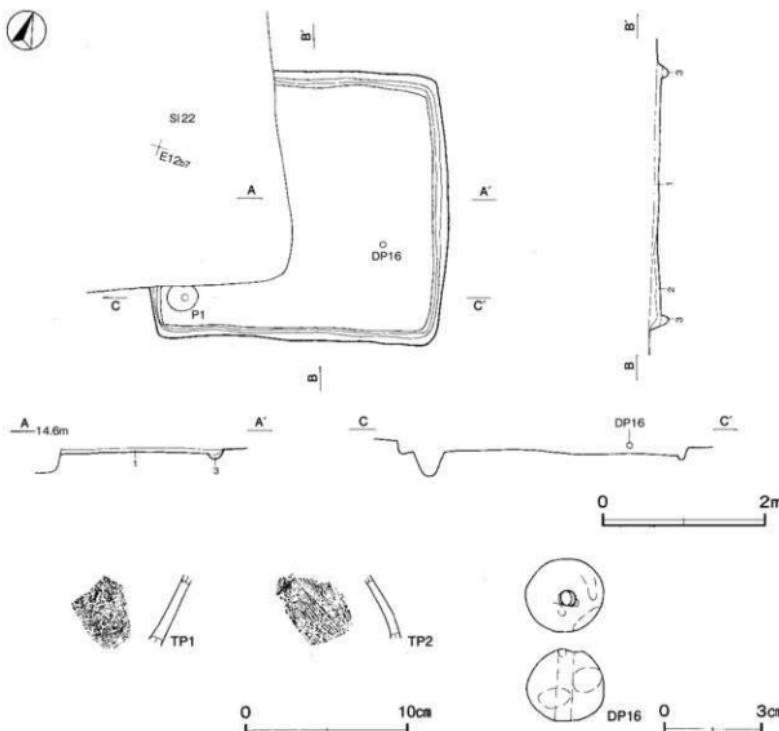
土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量
2	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量

3 塗色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 41 点（高杯 22、壺類 19）、土製品 1 点（土玉）が出土している。遺物の大半は細片である。TP 1・TP 2 は中央部、DP16 は東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から 4 世紀代とみられる。



第 34 図 第 23 号住居跡・出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表（第34図）

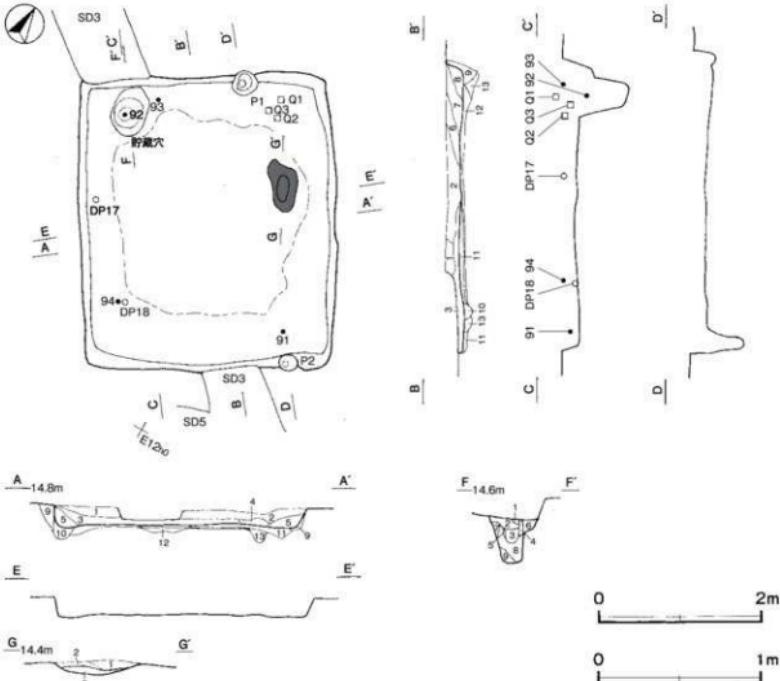
第24号住居跡（第35・36図）

位置 調査区西部のE 12g9区、標高15mの平坦な台地上に位置している。

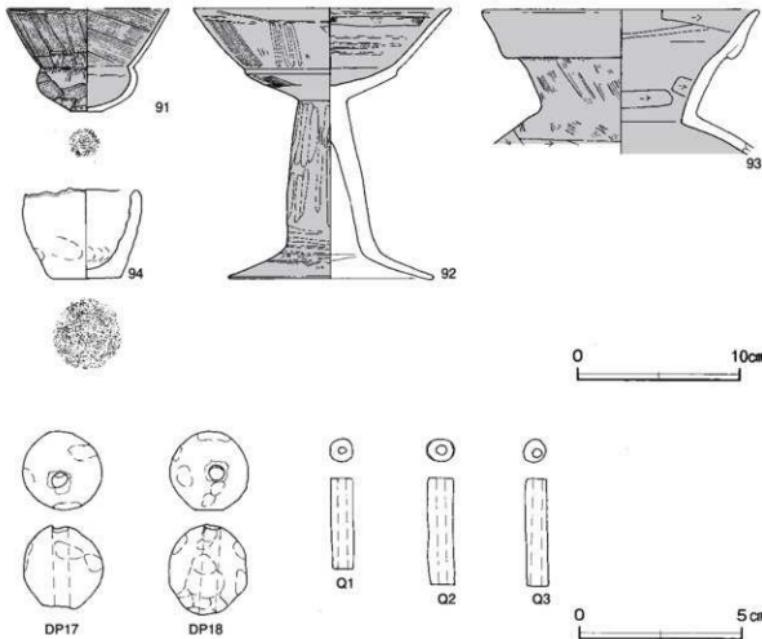
重複関係 第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.60m、短軸3.16mの長方形で、主軸方向はN-32°Wである。壁高は20~29cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、壁下を帯状に掘り込み、ローム粒子主体の第9~13層を埋土して構築されている。



第35図 第24号住居跡実測図



第36図 第24号住居跡出土遺物実測図

炉 中央部から北東寄りに位置している。長径65cm、短径30cmの不整椭円形で、床面を9cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は赤変している。

炉土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|----------------|
| 1 暗赤褐色 | 燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 3 黒 色 | ローム粒子中量、燒土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 燒土粒子中量、ローム粒子微量 | | |

ピット 2か所。P1・P2は深さ45cm・31cmで、P1は北東壁に、P2は南東壁に近接して対になって配置されており、当住居跡にともなう柱穴と考えられる。

貯蔵穴 南西コーナー部よりやや北東側に位置している。長径53cm、短径42cmの椭円形で、深さは60cmである。底面は皿状で、北側壁は段を有し、南側壁は外傾して立ち上がりっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|---------|----------------|
| 1 暗褐 色 | ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 2 灰 褐 色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 7 暗 褐 色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 褐 色 | ローム粒子中量、燒土粒子微量 |
| 4 褐 色 | ローム粒子中量 | 9 褐 色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 5 暗 褐 色 | ローム粒子少量 | | |

覆土 8層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第9～13層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2 灰暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	9 褐色	ローム粒子中量
3 暗褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	10 にふい青褐色	ロームブロック少量
4 黑褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	11 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量	12 褐色	ローム粒子中量、燒土粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	13 褐色	ローム粒子多量
7 暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片 52 点（坏 3、壙 4、高坏 2、甕類 42、手捏土器 1）、土製品 2 点（土玉）、石製品 3 点（菅玉）、鐵製品 1 点（不明）が出土している。また、貼床の構築土内から土師器 2 点（甕類）が出土している。そのほか、覆土に混入した須恵器片 2 点（坏、蓋）も出土している。DP18 は南西部の床面から出土している。92 は貯蔵穴の覆土中層から横位の状態で出土している。91 は南東部の覆土中層から出土している。Q1～Q3 は北東部の覆土上層から中層にかけて出土しており、住居廃絶時に投棄された可能性がある。93 は北西部、94 は南西部、DP17 は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。

第 24 号住居跡出土遺物観察表（第 36 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
91	土師器	壙	[100]	63	18	長石・石英	明黄褐	普通	口縁部外側・内面横ナデ 口縁部外側斜位のハケ目・ 内面横ナデ	覆土中層	50% PL31
92	土師器	高坏	15.7	16.6	[124]	長石・石英・赤色粒子	赤	普通	環認外ハケ目後へラブキ 環認外側斜位のハケ目後 内面横ナデのハラチナ	若戻穴覆土中層	90% PL20
93	土師器	甕	16.8	(8.9)	-	長石・石英	にふい青褐色	普通	口縁部外側・内面横ナデ 体部外側斜位のハケ目後横 位のハラチナ	覆土上層	30%
94	土師器	手捏土器	6.8	54	43	長石・石英	にふい橙	普通	体部外側・内面下端彎頭压痕	覆土上層	100% PL34

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP17	土玉	25	25	0.5	15.1	長石・石英	ナデ 表頭擦痕 一方から穿孔	覆土上層	PL41
DP18	土玉	25	27	0.5	16.0	長石・石英	ナデ 表頭擦痕 一方から穿孔	床面	PL41

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	菅玉	28	0.7	0.2 ~ 0.3	29	緑色凝灰岩	全面研磨調整 断面円形 一方から穿孔	覆土上層	PL45
Q2	菅玉	33	0.7 ~ 0.8	0.3	33	緑色凝灰岩	全面研磨調整 断面円形 一方から穿孔	覆土中層	PL45
Q3	菅玉	33	0.7	0.3	31	緑色凝灰岩	全面研磨調整 断面円形 一方から穿孔	覆土中層	PL45

第 25 号住居跡（第 37・38 図）

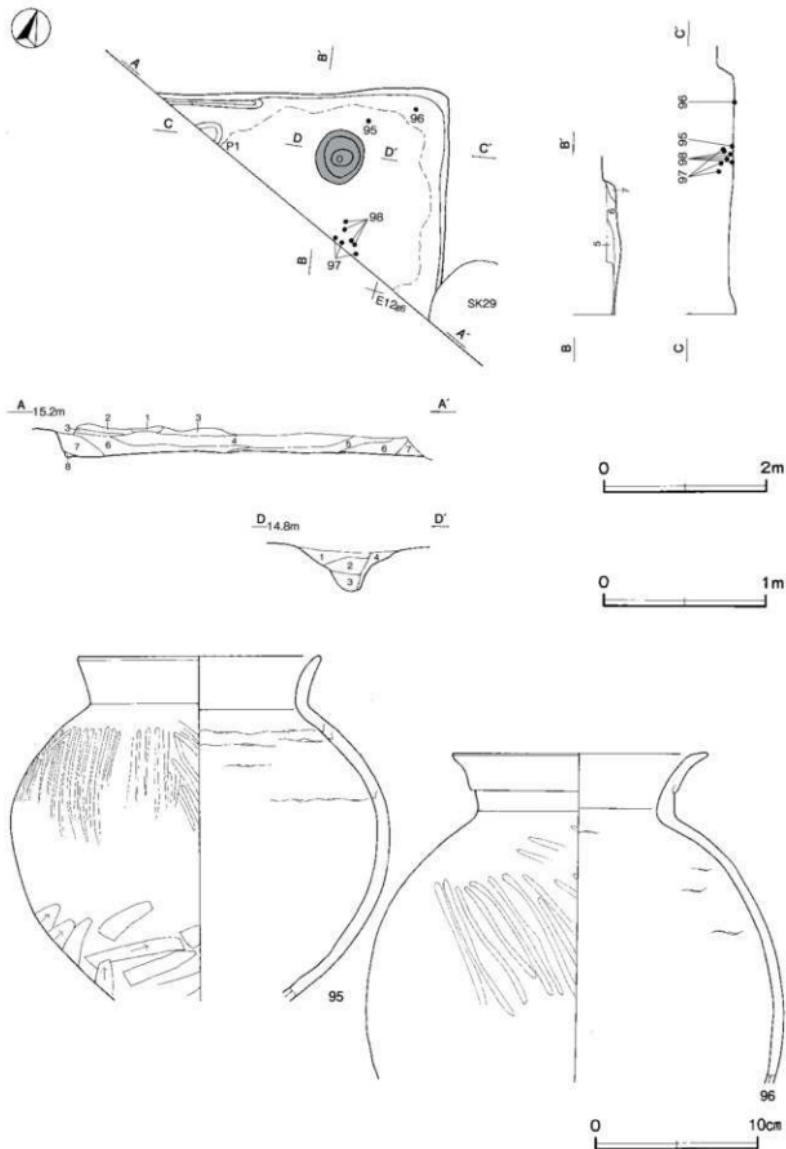
位置 調査区西部の E 1215 区、標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 29 号土坑に掘り込まれている。

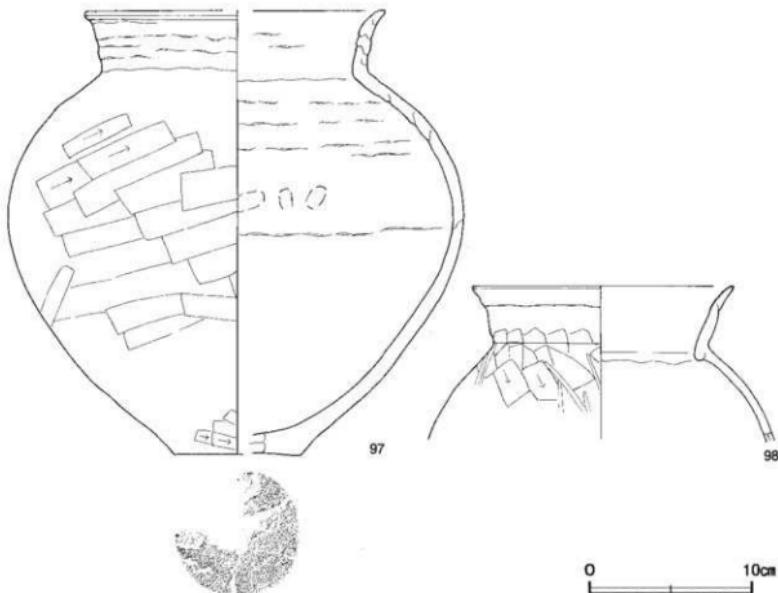
規模と形状 南西部分が調査区域外へ延びているため、東西軸は 3.60 m で、南北軸は 2.83 m しか確認できなかつた。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向は N - 18° - W と推定できる。壁高は 12 ~ 15cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、ほぼ全面が踏み固められている。北壁下の一部に壁溝が巡っている。

炉 北壁下の東寄りに位置している。長径 74cm、短径 60cm の楕円形で、床面を 10cm ほど掘りくぼめ、さらに中央をピット状に掘り込んだ地床炉である。炉床面は赤変している。



第37図 第25号住居跡・出土遺物実測図



第38図 第25号住居跡出土実測図

炉土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------------|
| 1 緩 暗 色 灰化材・ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 緩 赤褐色 烧土ブロック中量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 2 緩 赤褐色 烧土粒子中量、ローム粒子・灰化粒子微量 | |
| 3 緩 暗褐色 ローム粒子・灰化粒子微量 | |

ピット 深さ10cmで、性格は不明である。

覆土 8層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1 緩暗褐色 ローム粒子微量 | 5 緩 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、灰化粒子微量 |
| 2 緩暗褐色 ローム粒子・灰化粒子微量 | 6 緩暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、灰化粒子微量 |
| 3 緩暗褐色 ローム粒子少量 | 7 緩褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・灰化粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・灰化粒子微量 | 8 黒褐色 ロームブロック・灰化粒子少量、焼土粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片40点(环2, 直1, 壺類37), 鉄滓1点(3g)が出土している。95・96は北東部の床面からともに逆位の状態で出土している。98は南部の覆土下層から出土している。97は南部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀前葉に比定できる。

第25号住居跡出土遺物観察表(第37・38図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
95	土師器	壺	148	(208)	-	長石・石英	にふい頭型	普通	口縁部外・内面襖ナデ 体部外面上手縦窓のヘタ擦き・下半横窓のヘタ削り	床面	80% PL34

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
96	土師器	甕	15.4	(20.4)	-	長石・石英	にぼい橙	普通	口縁部外・内面輪状痕を残す横ナデ・体部外表面斜傾のヘラ磨き	床面	50%
97	土師器	甕	[18.3]	27.3	[7.6]	長石・石英	橙	普通	口縁部内・外面輪状痕を残す横ナデ・指標圧痕 体部斜傾位のヘラ削り・下端側位のヘラ削り 内面輪状痕を残す横ナデ・指標圧痕	覆土上層	40%
98	土師器	甕	15.9	(9.7)	-	長石・石英・ 雲母	明黄褐	普通	(口縁部外・内面輪状ナデ) 体部外表面斜傾のヘラ削 り後斜傾位のヘラ削り	覆土下層	20%

第 26 号住居跡 (第 39 図)

位置 調査区西部の E 12a9 区、標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 北東部が調査区域外へ延びているため、北西・南東軸は 2.45 m で、北東・南西軸は 1.55 m しか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向は N - 33° - W と推定できる。壁高は 48 - 60 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。床面上に焼土塊を確認した。

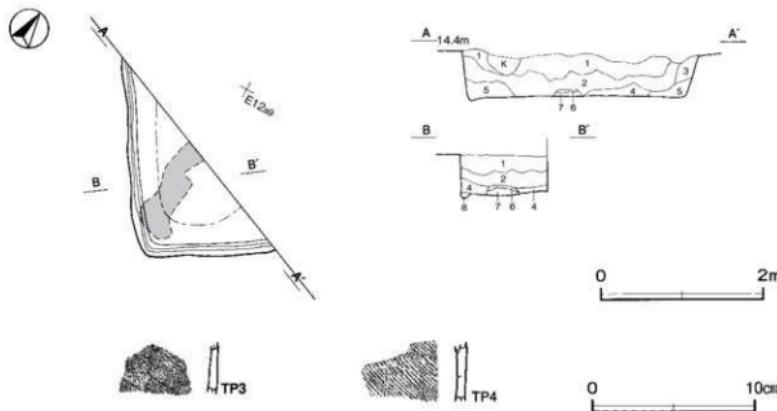
覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6	暗赤褐色	焼土粒子中量
3	黒褐色	ロームブロック少量	7	極暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
4	極暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 3 点 (堆 1, 壺類 2) が出土している。TP 3・TP 4 は覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 4 世紀代とみられる。覆土下層で確認した焼土塊は、断ち割ってみたところ床面との間に極暗褐色の第 7 層があり、床面も赤変していないことから、住居廃絶後の埋め土に混入したものと考えられる。



第 39 図 第 26 号住居跡・出土遺物実測図

第 26 号住居跡出土遺物観察表（第 39 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP 3	土器器	甕	長石・石英	明赤褐色	ハケ目	覆土下層	
TP 4	土器器	甕	長石・石英	にぼい褐色	ハケ目	覆土下層	

第 27 号住居跡（第 40・41 図）

位置 調査区西部の E 12c6 区、標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 3 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.97 m、短軸 4.93 m の隅丸方形で、主軸方向は N - 20° - W である。壁高は 25 ~ 48 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北東壁を除いて壁下には壁溝が巡っている。南壁中央部が、幅 80 cm、奥行き 30 cm の長方形状に張り出している。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 122 cm で、燃焼部幅は 30 cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 15 ~ 23 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 30 cm 挖りくぼめ、ローム粒子、焼土粒子を含んだ第 24 ~ 27 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 40 cm 挖り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

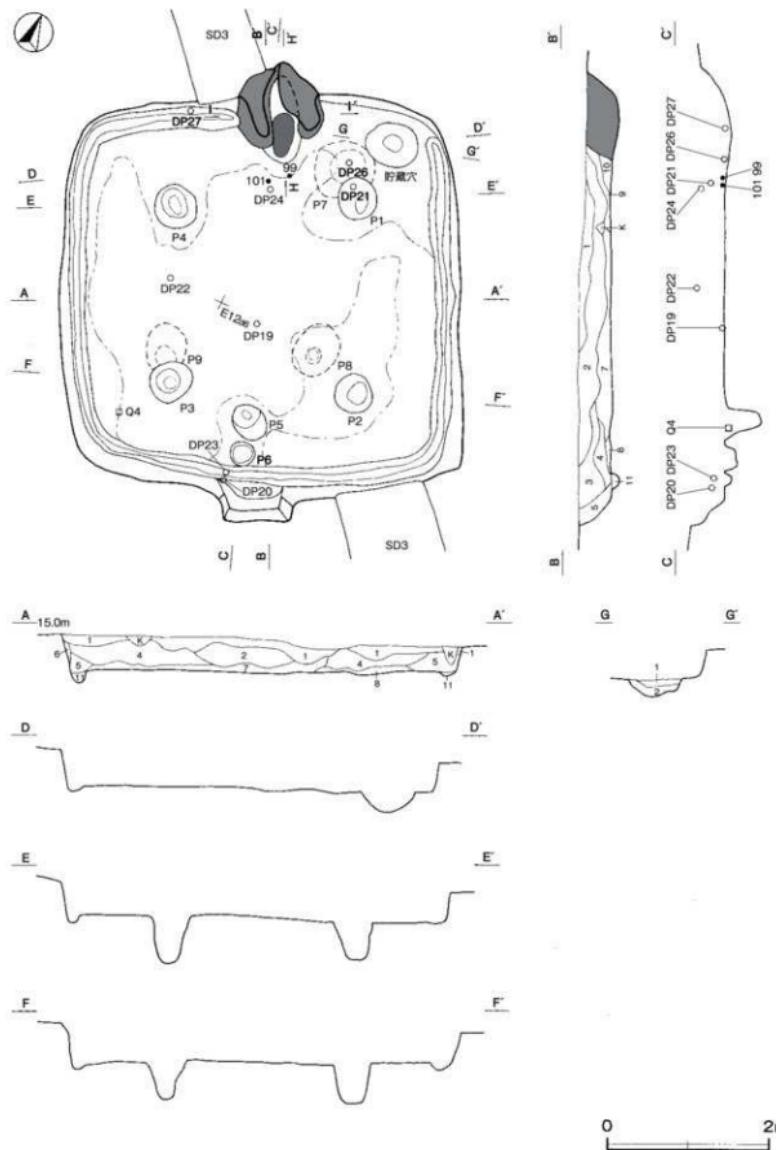
1	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	砂質粘土粒子中量・ロームブロック少量・炭化物・焼土粒子微量	12	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量・焼土粒子微量
3	赤灰褐色	ローム粒子中量・砂質粘土ブロック少量・炭化物・焼土粒子微量	13	褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
4	褐色	ローム粒子中量・砂質粘土ブロック少量・焼土ブロック・炭化粒子微量	14	灰褐色	砂質粘土粒子中量・ロームブロック少量・焼土粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量	15	褐色	砂質粘土粒子中量・焼土ブロック微量
6	にぼい褐色	ローム粒子・焼土粒子少量・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
7	にぬき褐色	ローム粒子中量・焼土ブロック少量・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17	暗褐色	ローム粒子中量・砂質粘土粒子少量
8	にぬき褐色	焼土粒子中量・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18	褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量
9	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	19	明褐色	砂質粘土粒子少量
10	暗赤褐色	焼土粒子中量・ロームブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量	20	暗褐色	砂質粘土粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量
			21	暗褐色	砂質粘土粒子中量・炭化粒子・炭化粒子微量
			22	暗褐色	砂質粘土粒子少量・焼土粒子微量
			23	褐色	ローム粒子中量
			24	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量
			25	暗褐色	ロームブロック少量
			26	褐色	ローム粒子少量・砂質粘土粒子微量
			27	褐色	ローム粒子少量

ピット P 1 ~ P 4 は深さ 49 ~ 59 cm で、規模と配置から主柱穴である。P 5 ~ P 6 は深さ 46 cm · 17 cm で、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 7 ~ P 9 は掘方調査によって確認したもので、深さ 25 ~ 69 cm である。配置から P 7 から P 1 へ、P 8 から P 2 へ、P 9 から P 3 へ柱の立て替えが行われた可能性が考えられる。

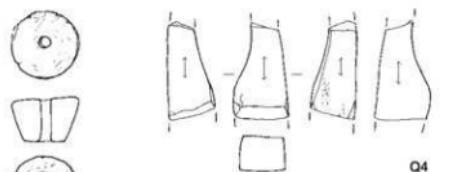
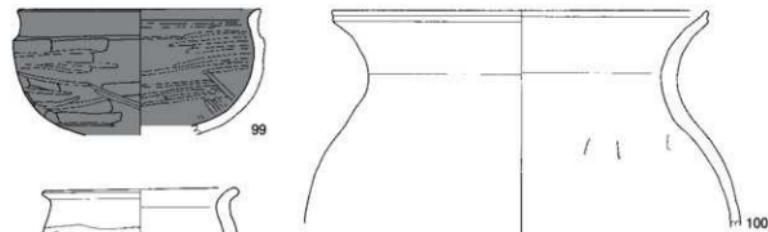
貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径 66 cm、短径 54 cm の楕円形で、深さは 27 cm である。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

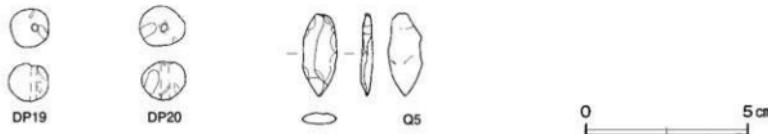
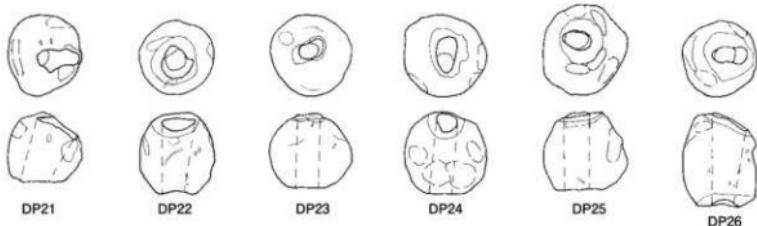
1	暗褐色	ロームブロック中量・炭化粒子微量	2	暗褐色	ロームブロック少量・焼土粒子微量
---	-----	------------------	---	-----	------------------



第40図 第27号住居跡実測図



0 10cm



0 5cm

第41図 第27号住居跡・出土遺物実測図

覆土 11 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、炭化物微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子少量	11 暗褐色	ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック少量		

遺物出土状況 土師器片 593 点（坏 86、碗 1、高坏 53、壺 7、甕類 445、小形甕 1）、須恵器片 6 点（坏 5、甕類 1）、土製品 10 点（土玉 8、支脚 1、紡錘車 1）、石器 1 点（砥石）、石製品 1 点（劍形模造品）、鐵製品 1 点（釘）、鐵滓 9 点（198g）が、全面の覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか、混入した陶器片 1 点（碗）も出土している。99・101 は甕の前、DP19 は中央部の床面からそれぞれ出土している。DP26 は甕の東側、DP27 は甕の西側、Q 4 は南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。DP21・DP25 は東部、DP20・DP23 は出入り口付近、100・Q 5 は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。DP24 は甕の前、DP22 は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。

第 27 号住居跡出土遺物観察表（第 41 図）

番号	器種	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
99 土陶器	碗		14.8	(7.8)	-	長石・石英	黒褐色	普通	口縁部分・内面擦ナデ 体部外面擦位のヘラ削り後擦位のヘラ削き 内面擦位のヘラ削き	床面	80% PL30
100 土陶器	甕		23.0	(13.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部分・内面擦ナデ 内面ヘラナダ・工具痕	覆土中層	10%
101 土陶器	小形甕		11.7	14.5	6.2	長石・石英	にぶい青褐	普通	口縁部分・内面擦ナデ 体部外面ヘラナダ 下端擦位のヘラ削り 内面ヘラナダ	床面	60% PL32

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP19 土玉	1.2	1.2	0.2	1.5	長石	ナデ 一部欠損 一方方向からの穿孔	床面	PL41	
DP20 土玉	1.4	1.2	0.2~0.3	1.8	長石	ナデ 一方方向からの穿孔	覆土中層	PL41	
DP21 土玉	2.3	2.2	0.5~0.8 0.9~1.4	9.4	長石・石英	ナデ 指頭擦痕 一方方向から二度穿孔	覆土中層	PL41	
DP22 土玉	2.3	2.5	0.7	1.0	9.6	長石	ナデ 端部ヘラ削り 一方方向からの穿孔	覆土上層	PL41
DP23 土玉	2.5	2.3	0.7	13.1	長石・石英	ナデ 一方方向からの穿孔	覆土中層	PL41	
DP24 土玉	2.5	2.5	0.6~0.7	13.7	長石・石英	ナデ 端部ヘラ削り 指頭圧痕 一方方向からの穿孔	覆土上層	PL41	
DP25 土玉	2.6	2.4	0.8~1.0	16.0	長石・石英	ナデ 端部ヘラ削り 指頭圧痕 一方方向からの穿孔	覆土中層	PL41	
DP26 土玉	2.3	2.9	0.7~1.1	13.9	長石・石英	ナデ 端部ヘラ削り 指頭擦痕 一方方向からの穿孔	覆土下層	PL41	
DP27 紡錘車	(4.1)	4.2	0.7	(49.0)	長石・石英	外面ナデ・擦痕 一方方向からの穿孔	覆土下層	PL42	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 4 砥石	(6.1)	3.4	2.9	(69.2)		結晶岩	前面長方形 砥面 4 面 横面端部に条継状の研痕	覆土下層	PL44
Q 5 石製品	3.4	1.4	0.5	2.2		滑石	側面品 両面研磨	覆土中層	PL45

第 29 号住居跡（第 42・43 図）

位置 調査区中央部の E 14gl 区、標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 54 号土坑に掘り込まれている。

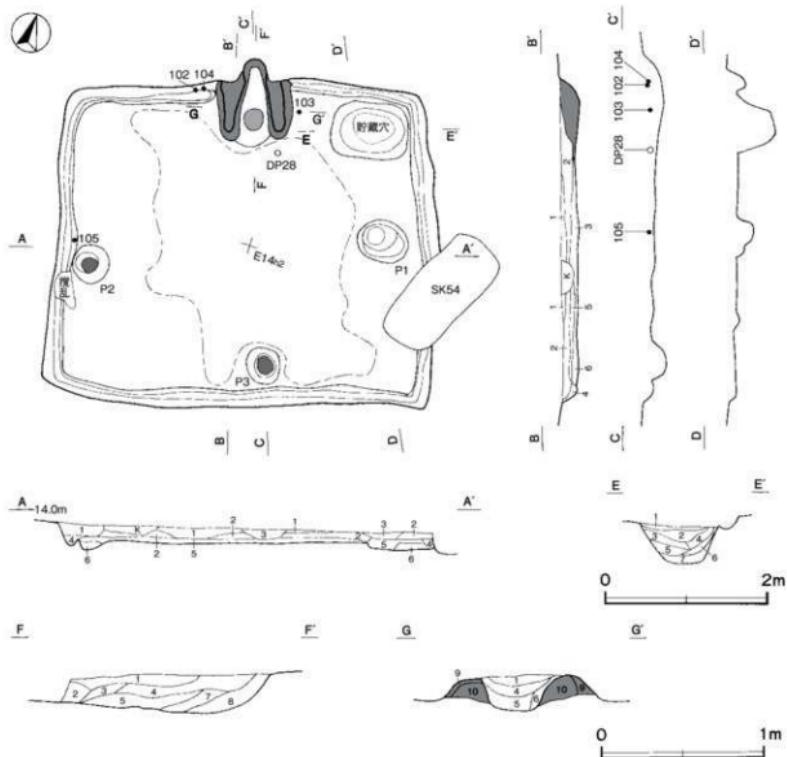
規模と形状 長軸 4.73 m、短軸 4.06 m の長方形で、主軸方向は N - 19° - W である。壁高は 9 ~ 17 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

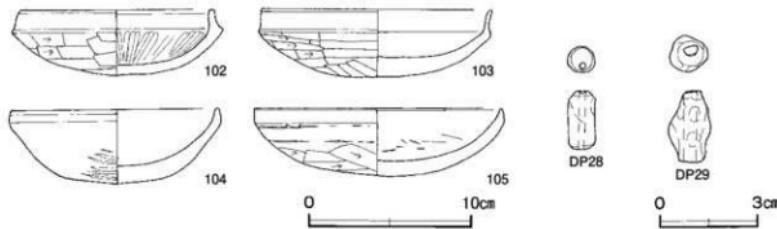
竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 119cm である。燃焼部幅は 35cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 9・10 層を積み上げて構築されている。火床部は、床面より 5cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ 25cm 剥ぎ込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	6	暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	にぶい赤褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7	暗褐色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
3	褐色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	10	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子微量



第 42 図 第 29 号住居跡実測図



第43図 第29号住居跡出土遺物実測図

ピット 3か所。P1・P2は深さ20cm・23cmで、規模と配置から主柱穴である。P3は深さ19cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸96cm、短軸65cmの隅丸長方形である。深さは45cmで、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量、燒土粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子中量、燒土粒子微量	6	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子少量、燒土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量			

覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	5	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片49点（环28、甕類20、ミニチュア土器1）、須恵器片6点（环4、高台付环1、甕類1）、土製品2点（土玉、管玉）、石器1点（砥石）、焼成粘土塊1点、鉄滓6点（332g）が出土している。103は竈の東側、102・104は竈の西側、DP28は竈の前、DP29は東部、105は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第29号住居跡出土遺物観察表（第43図）

番号	種別	器種	口径	脚高	底様	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
102	土師器	环	11.7	4.1	-	長石・石英・ 雲母	に赤い渦巻	普通 り 内面輪郭のへラ削き	口縁部外・内面横ナデ 体部外縁横位のへラ削 り 内面横ナデ	覆土下層	90% PL28
103	土師器	环	14.2	4.2	-	長石・石英	に赤い渦巻	普通 り 内面ナデ	口縁部外・内面横ナデ 体部外縁横位のへラ削 り 内面ナデ	覆土下層	90% PL28
104	土師器	环	12.7	4.6	-	長石・石英・ 雲母	に赤い渦巻	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外縁刃物痕 内面 ナデ	覆土下層	90%
105	土師器	环	15.2	4.1	-	長石・石英・ 雲母	に赤い渦巻	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外縁上半輪積痕を 残す横ナデ 下へラ削り 内面工具痕	覆土下層	90%

番号	器種	長さ	径	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP28	管玉	19	0.9	0.2	1.7	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL42
DP29	管玉	22	1.2	0.3	2.9	長石	ナデ 指面圧痕 一方からの穿孔	覆土下層	PL42

第32号住居跡（第44～46図）

位置 調査区中央部のE 14i3区、標高14mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第31・35号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸8.39m、短軸8.32mの方形で、主軸方向はN-32°-Wである。壁高は4～22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。北東と南西の壁溝から柱穴に向かって、幅15～25cm、長さ100～155cm、深さ5～9cmで断面形が逆台形状の間仕切り溝5条を確認した。南及び西壁際の床面上に多くの焼土塊、竈の北東側の壁際から炭化材を検出した。また、竈の焚口付近の床面では、砂質粘土の広がりを確認した。

竈 北西壁の中央部からやや北寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで214cmで、煙道部幅は52cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第7層を積み上げて構築されている。火床部は床面を18cm掘り込んで、ローム粒子を含んだ第8～12層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ30cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗	褐	色	焼土粒子少量、ローム粒子微量	7	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量
2	暗	赤	褐色	焼土ブロック・砂質粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	8	褐	色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	
3	暗	赤	褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	9	褐	色	ローム粒子・焼土粒子少量	
4	暗	褐	色	ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量	10	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	
5	暗	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11	褐	色	ローム粒子中量	
6	暗	赤	褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12	褐	色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子微量	

炉 中央部からやや東寄りに位置している。長径80cm、短径55cmの楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は赤変している。

炉土層解説

1	暗	赤	褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	2	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
---	---	---	----	------------------------------	---	---	---	------------------------------

ピット 9か所。P1～P4は深さ34～78cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ29cmで、南東壁際の中央部からやや東寄りで竈の正面に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P9は深さ27cm～37cmで、それぞれ主柱穴と主柱穴の中間に位置していることから、補助柱穴と考えられる。

貯蔵穴 東コーナー部に位置している。長軸110cm、短軸100cmの隅丸方形で、深さは55cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の西側の床面に、幅100cm、長さ120cm、高さ15cmで、逆L字状を呈する高まりを確認した。

貯蔵穴土層解説

1	黒	褐	色	ロームブロック少量	6	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子中量、炭化粒子微量
2	無	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	7	暗	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	無	暗	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	暗	褐	色	ローム粒子少量
4	無	暗	褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	9	暗	褐	色	ローム粒子・焼土粒子中量、炭化粒子微量
5	無	暗	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量					

覆土 14層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

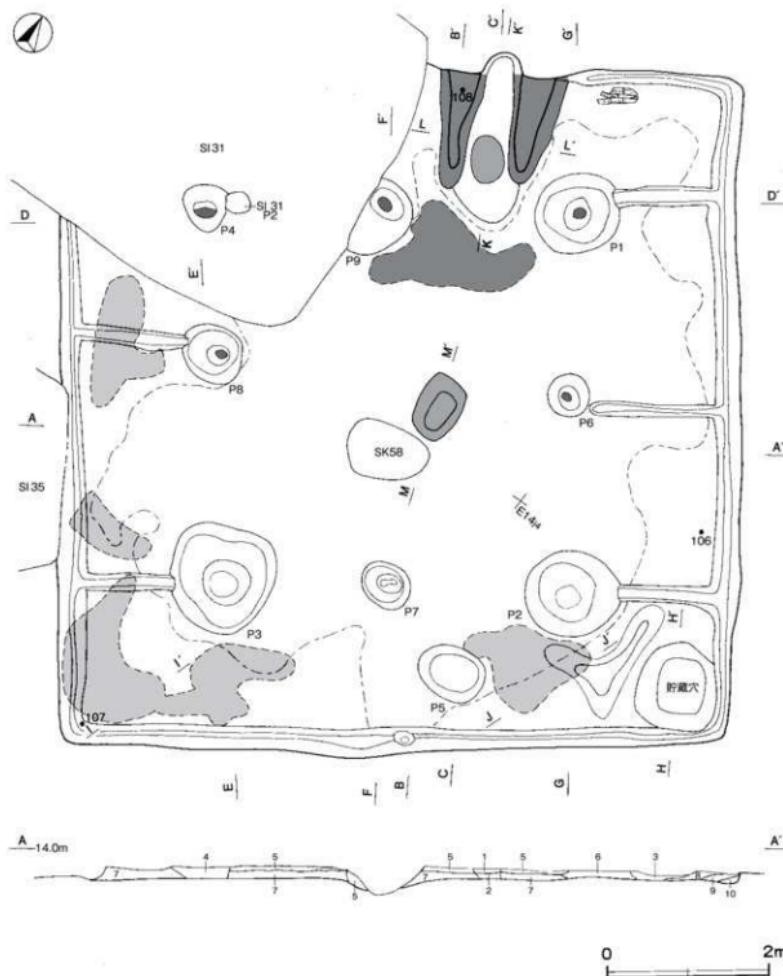
土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子少量	5	暗	褐	色	ローム粒子少量
2	黒	褐	色	ローム粒子中量	6	暗	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗	褐	色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	7	褐	色	ローム粒子少量	
4	暗	褐	色	ローム粒子少量、砂質粘土ブロック微量	8	褐	色	ローム粒子中量	

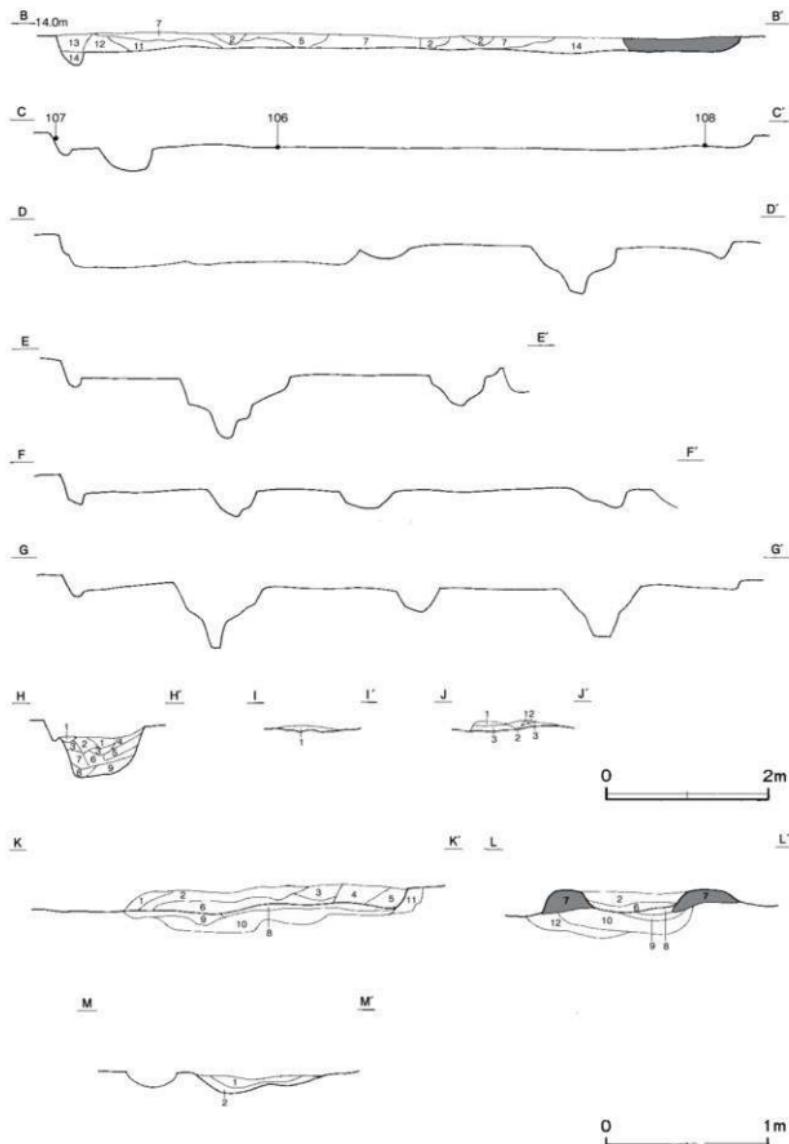
- | | | | | | |
|----|-----|---------------------|----|------|------------------------------|
| 9 | 暗褐色 | ローム粒子中量 | 13 | 極暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 10 | 暗褐色 | ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量 | 14 | 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・脱化粒子微量 |
| 11 | 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 | | | |
| 12 | 暗褐色 | ローム粒子中量、燒土粒子、炭化粒子微量 | | | |

燒土塊土層解說

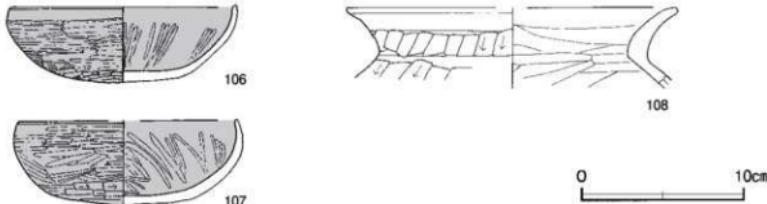
- 1 暗赤褐色 ローム粒子中量、ローム粒子、炭化粒子微量
2 黒褐色 燐土粒子少量、ローム粒子、炭化粒子微量



第44図 第32号住居跡実測図(1)



第45図 第32号住居跡実測図（2）



第46図 第32号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片326点(环82、甕類244)、須恵器片6点(环5、蓋1)、鉄滓1点(12g)が、全面の覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか、混入した繩文土器片1点(深鉢)も出土している。106は東壁下の床面から出土している。108は甕の左袖部の上面から出土している。107は南コーナー部壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀末から6世紀初頭に比定できる。床面で炭化材や焼土塊が検出されたことから、焼失住居と考えられる。また、炉と甕が併設されていることから、甕の導入期の住居跡とみることができる。

第32号住居跡出土遺物観察表（第46図）

番号	種別	器種	口径	脚高	底径	胎	色調	後成	手法の特徴	出土位置	備考
106	土師器	环	138	46	-	長石・石英	赤	普通	口縁部・内面横ナデ 体部外面横位のハラ磨き 下端横位のヘラ削り 内面刮削状のヘラ削き	床面	100% PL28
107	土師器	环	[144]	52	-	長石・石英	に赤い素面	普通	口縁部・内面横ナデ 体部外面横位のハラ磨き 下端横位のヘラ削り 内面刮削位のヘラ削き	覆土下層	80%
108	土師器	甕	[202]	(49)	-	長石・石英 赤玉、赤色粒子	に赤い素面	普通	口縁部・内面横ナデ 亂部・内面ヘラナデ	甕左袖上面	5%

第34号住居跡（第47・48図）

位置 調査区中央部のE 14f3区、標高14mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第6号ピット群P14に掘り込まれている。

規模と形状 東部の大半が調査区域外へ延びているため、北西・南東軸は5.85mで、北東・南西軸は1.95mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向はN-25°-Wと推定できる。壁高は20~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

ピット 2か所。P.1・P.2は深さ79cm・81cmで、規模と配置から主柱穴である。

覆土 12層に分層できる。第1~7層は周開からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第8~12層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

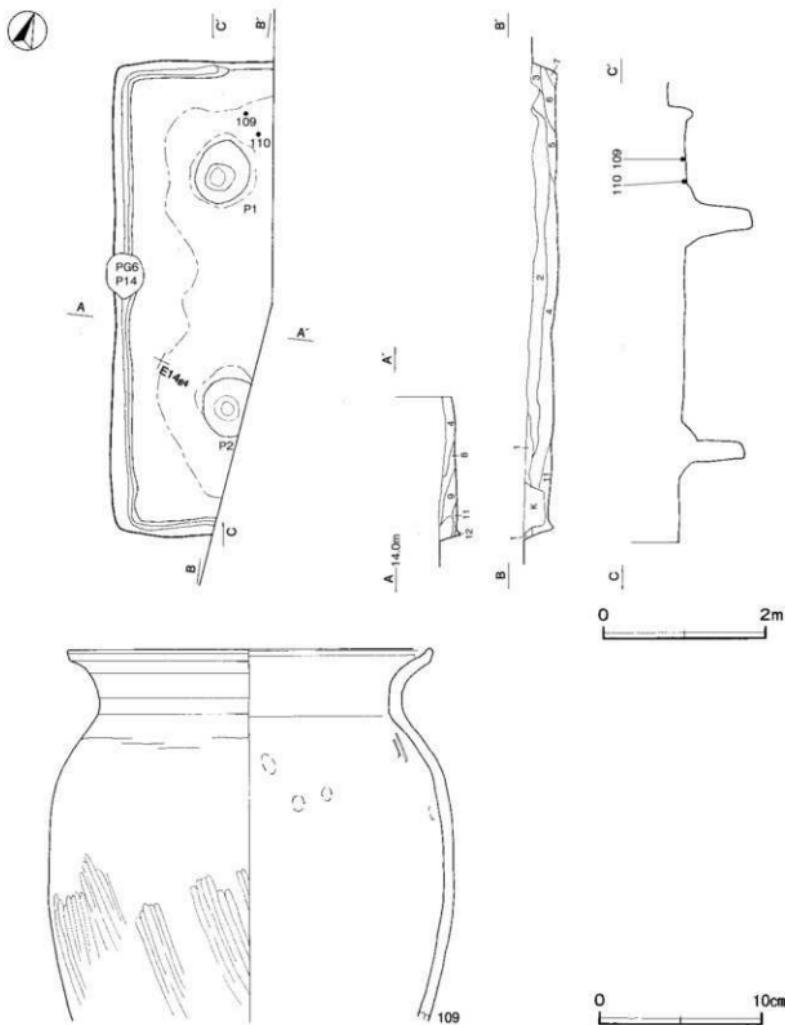
土層解説

1 黒褐色	ロームブロック微量	7 暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子中量・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量・燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9 暗褐色	ロームブロック少量・炭化物・燒土粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子少量・燒土粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量・炭化粒子微量
5 黑褐色	ローム粒子少量・燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11 黑褐色	ロームブロック中量・燒土粒子微量
6 暗褐色	砂質粘土粒子少量・ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子微量

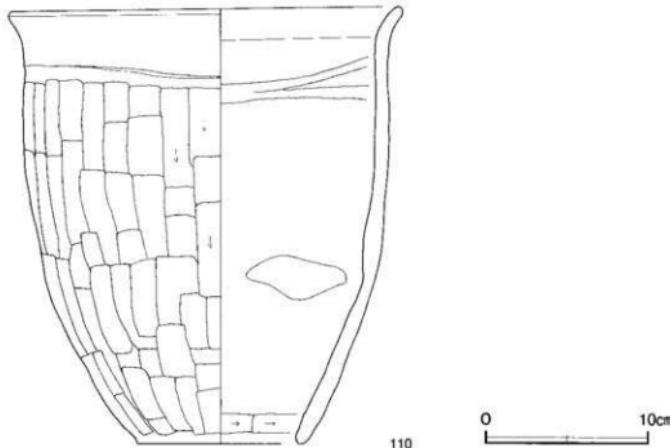
遺物出土状況 土師器片 69 点（壺 32、甌類 36、瓶 1）、土製品 1 点（不明）、瓦片 1 点が出土している。

109・110 は、北部の床面から横位の状態でそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀代とみられる。



第 47 図 第 34 号住居跡・出土遺物実測図



第48図 第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表（第47・48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
109	土器	甕	22.4	(23.0)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外表面籠目状のヘラ削 き 内面工具痕 指印压痕	床面	20%
110	土器	瓶	23.6	27.0	10.2	長石・石英・ 磁鐵	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外表面籠目状のヘラ削 り 内面ヘラナゲ 下端椎段のヘラ削り	床面	80% PL25

第35号住居跡（第49図）

位置 調査区中央部のE 14j2区、標高14mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第32号住居跡を掘り込み、第33号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南部の大半を第33号住居に掘り込まれているため、東西軸は4.48mで、南北軸は2.26mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁高は22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北壁から西壁にかけての壁下には壁溝が巡っている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cmで、燃焼部幅は55cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第5～14層を積み上げて構築されている。火床部は床面を25cm掘り込んで、ローム粒子を含んだ第15～18層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ15cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

電土層解説

- | | | | | | | |
|---------|------------|--------|----------|--------|------------|----------|
| 1 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量 | 燒土粒子少量 | ローム粒子 | 5 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量 | ローム粒子微量 |
| 2 浅黄褐色 | 砂質粘土ブロック中量 | 燒土粒子少量 | ロームブロック | 6 灰褐色 | 砂質粘土ブロック多量 | 燒土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 燒土粒子多量 | ローム粒子 | 炭化粒子 | 7 灰褐色 | 砂質粘土ブロック中量 | |
| 4 黒褐色 | ローム粒子 | 燒土粒子 | 砂質粘土粒子微量 | 8 明褐色 | 砂質粘土ブロック多量 | |
| | | | | 9 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量 | ローム粒子微量 |
| | | | | 10 灰褐色 | 砂質粘土粒子多量 | 燒土ブロック中量 |
| | | | | 11 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量 | |

12	暗	褐	色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子微量	16	褐	色	ロームブロック少量
13	褐	色	色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量	17	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
14	褐	色	色	ローム粒子中量	18	褐	色	ローム粒子多量
15	褐	色	色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子微量				

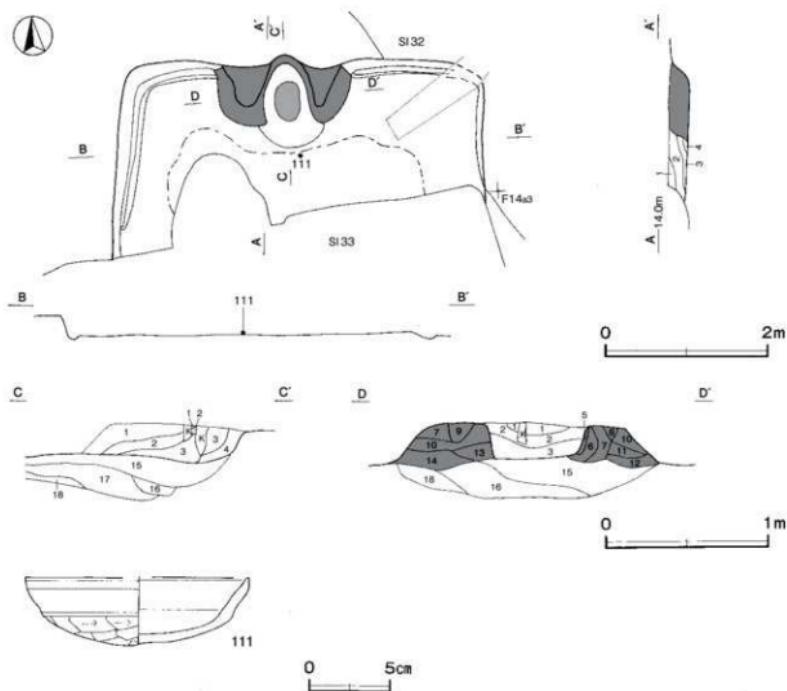
覆土 4層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

1	無	褐	色	ローム粒子・焼土粒子微量	3	極	暗	褐	色	ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4	黒	褐	色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量	

遺物出土状況 土師器片 59点 (环 16, 高环 1, 壶類 42), 須恵器片 2点 (环), 焼成粘土塊 12点, 鉄滓 2点 (9g) が出土している。111は竈の焼き口付近の床面から横位の状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀後葉に比定できる。



第49図 第35号住居跡・出土遺物実測図

第35号住居跡出土遺物観察表（第49図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
111	土師器	环	[136]	4.2	-	長石・石英	にい青褐	普通	口縁部・内面墨ナダ 体部外面横底のヘラ削り	床面	50%

第38号住居跡（第50・51図）

位置 調査区中央部のF14b4区、標高14mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第67号土坑、第8号ピット群P4に掘り込まれている。

規模と形状 南東コーナー部を除いて、北東部の大半が調査区域外にあり、北西・南東軸7.18mで、北東・南西軸は3.80mしか確認できなかった。平面形は方形で、主軸方向はN-31°-Wと推定できる。壁高は26~44cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。北西壁の壁溝から南東方向に、幅15cm・20cm、長さ105cm・130cm、深さ10cm・15cmで、断面形が浅いU字状の間仕切り溝2条を確認した。また、南西壁際の床面上に多量の焼土塊、炭化材を検出した。

竈 北西壁のほぼ中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで153cmで、燃焼部幅は49cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第10・11層を積み上げて構築されている。火床部は床面を18cm掘り込んで、ローム、砂質粘土を含んだ第12~15層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ30cm掘り込まれ、奥壁は直立している。

竈土層解説

1	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9	黒褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11	灰褐色	砂質粘土ブロック中量、燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4	にじむ褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	12	灰褐色	砂質粘土粒子多量、ロームブロック・燒土ブロック微量
5	黒褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	13	暗赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
6	灰白色	燒土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	14	暗褐色	砂質粘土ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7	灰白色	燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15	暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
8	暗赤褐色	燒土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量			

ピット 2か所。P1・P2は深さ63cm・66cmで、規模と配置から主柱穴である。

覆土 15層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

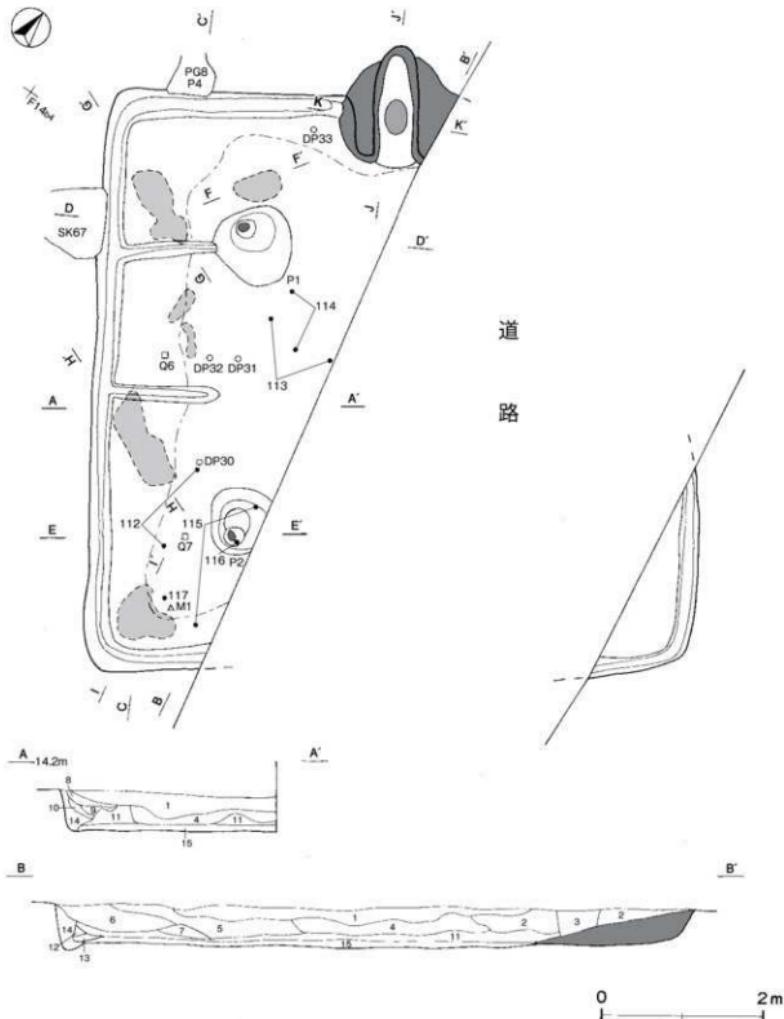
1	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子微量	9	暗褐色	燒土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	11	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	12	黒褐色	ロームブロック少量
5	暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	ローム粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子少量・焼土ブロック・炭化粒子微量	14	黒褐色	ロームブロック微量
7	暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック微量	15	褐色	ローム粒子多量、燒土粒子・炭化粒子微量
8	暗褐色	燒土ブロック少量、炭化物・燒土粒子微量			

焼土塊土層解説

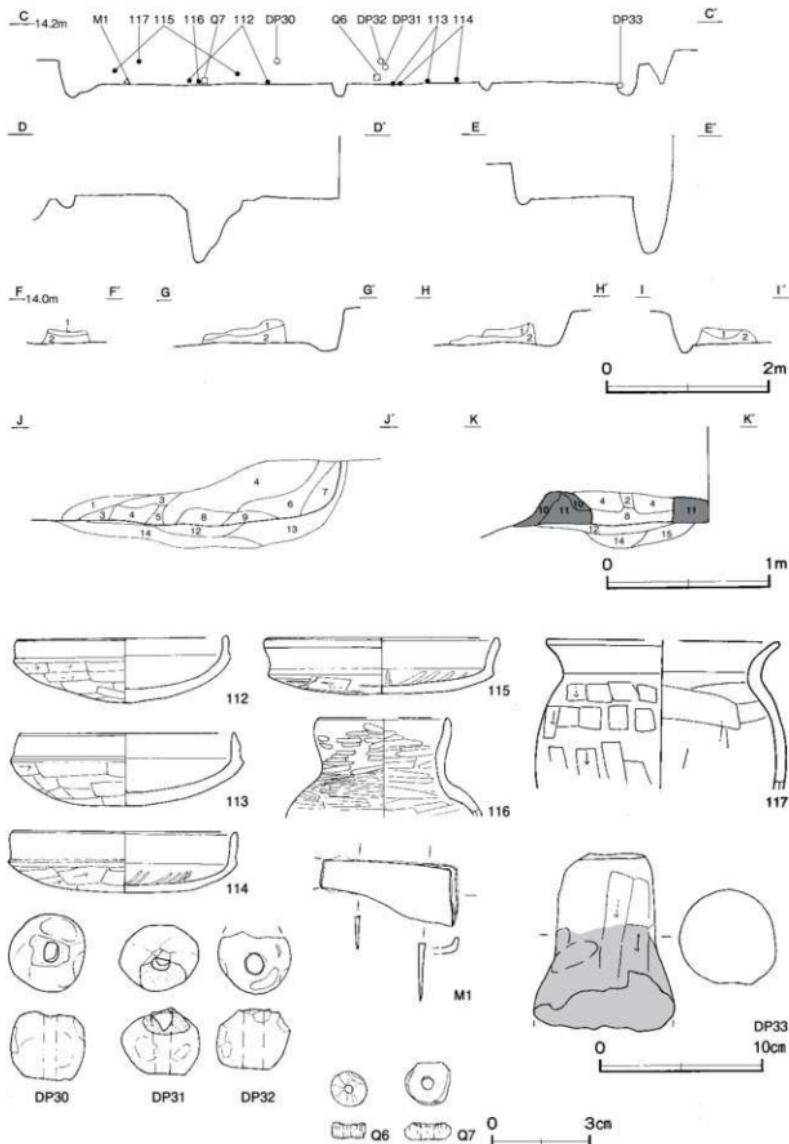
1	暗赤褐色	ローム粒子多量、炭化物・ローム粒子微量	2	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
---	------	---------------------	---	-----	---------------------

遺物出土状況 土師器片1362点（壺229、甕類1129、小形甕1、瓶2、壺1）、須恵器片3点（壺）、土製品4点（土玉3、支脚1）、石製品2点（白玉）、鐵製品1点（鎌）、焼成粘土塊9点、鐵滓32点（206g）、種子1点（桃）が、東部の覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか、混入した繩文土器片1点（深鉢）、洞片2点も出土している。DP33は甕の南西側、113-114は中央部、112-116-M1は南部の床面からそれぞれ出土している。Q6は中央部、Q7は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。DP31は中央部、115は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。DP30・DP32は中央部、117は南部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。床面で炭化材や焼土塊が検出されたことから、焼失住居とみられる。



第50図 第38号住居跡実測図



第51図 第38号住居跡・出土遺物実測図

第38号住居跡出土遺物観察表（第51図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
112	土鍋器	环	12.8	4.1	-	長石・石英・ 安息	にぶい黄褐色	普通 引 内面工具痕	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	床面	95% PL29
113	土鍋器	环	13.2	4.5	-	長石・石英・ 安息	明黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	床面	90% PL29
114	土鍋器	环	13.8	3.3	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 引 内面放射状のヘラ削り	床面	90%
115	土鍋器	环	14.4	3.5	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 引 内面放射状のヘラ削り	覆土中層	60%
116	土鍋器	直	(8.0)	(6.1)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 引 内面放射状のヘラ削り	床面	10%
117	土鍋器	小形甕	(14.4)	(9.3)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 引 内面横位のヘラ削り 工具痕	覆土上層	20%

番号	器種	種	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP20	土玉	24	21	0.5	11.0	長石・石英	ナデ・端部ヘラ削り 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土上層	PL41
DP31	土玉	24	20	0.4~ 0.6	7.6	長石・石英	ナデ 一部欠損 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土中層	PL41
DP32	土玉	23	19	0.6	(6.2)	長石・石英	ナデ 一部欠損 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土上層	PL41

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP33	支脚	(11.0)	5.5	(8.7)	(555)	長石・石英・ 赤色粒子	ナデ 外面横位のヘラ削り 指頭圧痕 被熱痕	床面	PL42

番号	器種	種	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q6	臼玉	1.0	0.6	0.3	104	滑石	一部欠損 四角状 両面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL45
Q7	臼玉	1.2~ 1.5	0.5	0.4	100	滑石	一部欠損 四角状 両面研磨 一方向からの穿孔	覆土下層	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	鍵	(8.5)	4.5	0.5	(40.8)	鉄	片面三角形 端部折り返し 両部先端欠損	床面	PL46

第39号住居跡（第52・53図）

位置 調査区東部のE 14f7区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第64・65・69号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東に向かって傾斜しており、北東壁付近は覆土がほとんどなく、壁は明確でなかったため、北西・南東軸は軸8.93mで、短軸は7.38mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形と推定でき、主軸方向はN-55°-Wである。壁高は10~43cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。窓から西コーナー部を回り、南西壁下まで壁溝が巡っている。南西の壁溝から柱穴に向かって、幅13~20cm、長さ125~170cm、深さ3~5cmで、断面形が浅いU字状の間仕切り溝3条を確認した。

竈 北西壁の中央部からやや北東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで200cmで、燃焼部幅は72cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第12~15層を積み上げて構築されている。火床部は床面を10cm掘り込んで、焼土ブロック、炭化粒子を含んだ第16~18層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁内に収まり、奥壁は直立している。

竈土層解説

1	褐 色	燒土ブロック・ローム粒子少量、炭化物・砂質粘土粒子微量	5	暗 褐色	ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量
2	褐 色	ロームブロック・燒土ブロック・砂質粘土粒子少 量、炭化物微量	6	灰 褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、燒土粒 子・炭化粒子微量
3	黑 褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土 粒子微量	7	褐 色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、燒土粒子・ 炭化粒子微量
4	にぶい赤褐色	ロームブロック・燒土ブロック少量、炭化粒子・ 砂質粘土粒子微量	8	暗 褐色	ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土 粒子微量

9	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
10	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	15	ぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
11	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
12	暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	17	暗赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
13	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	18	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

炉 中央部に位置している。長径 60cm、短径 50cm の楕円形で、床面を 3cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子多量

ピット 9か所。P 1～P 6は深さ 15～77cmで、規模と配置から主柱穴である。P 7は深さ 69cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 8は深さ 4cm、P 9は床下から確認したもので深さ 40cmで、ともに性格は不明である。

貯蔵穴 南コーナー部に位置している。長軸 108cm、短軸 78cm の長方形で、深さは 64cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の南西側の床面に、砂質粘土を積み上げた幅 120cm、長さ 180cm、高さ 10cmの不定形の高まりを確認した。

貯蔵穴土層解説

1	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	3	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量
			4	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	灰褐色	ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量			

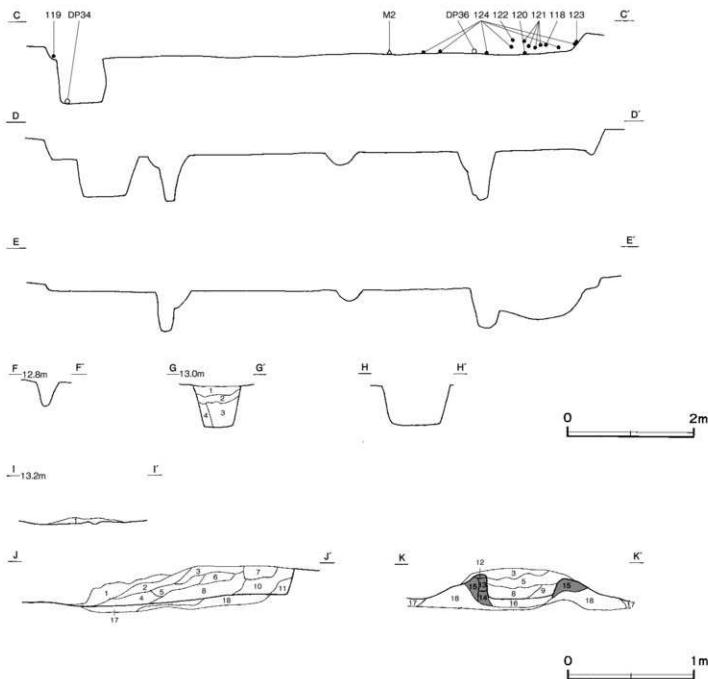
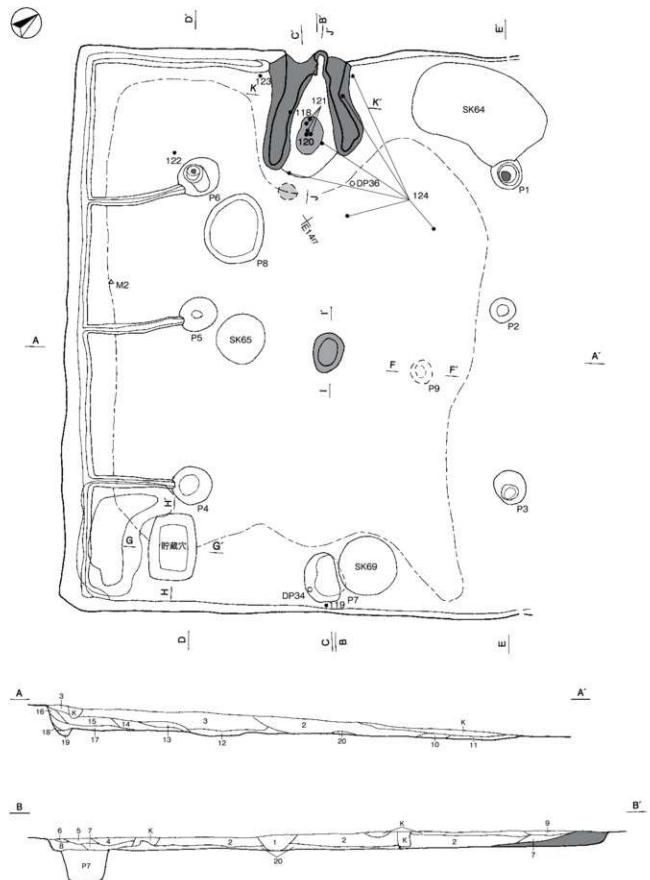
覆土 20 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

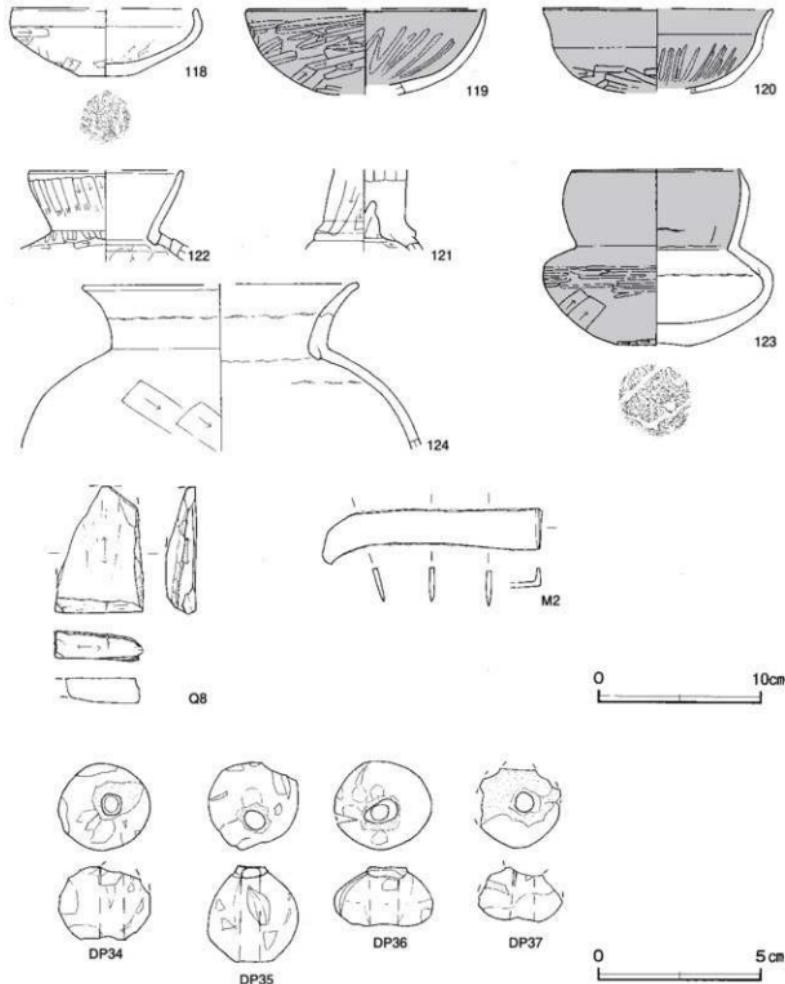
1	黒褐色	ロームブロック少量	11	褐色	ローム粒子多量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	12	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック微量	13	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子少量、砂質粘土ブロック微量
5	黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子少量
6	暗褐色	ロームブロック微量	16	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
7	黒褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量	17	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子微量	18	暗褐色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量
9	暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	19	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
10	暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	20	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 660 点(壺 116、壙 1、短頭壺 1、甕類 533)、須恵器片 49 点(壺 30、蓋 3、甕 4、壺 1、甕 11)、土製品 4 点(土玉)、石器 1 点(砥石)、石製品 1 点(不明)、鉄製品 1 点(鎌)、焼成粘土塊 19 点、鉄滓 25 点(235g)が、全面の覆土中層から床面にかけて出土している。また、貼床の構築土内から土師器片 3 点(甕類)が出土している。そのほか、混入した繩文土器片 4 点(深鉢)、土師質土器 1 点(焰壺)も出土している。DP36 は竈の前から出土し、124 は竈の前と竈の北側の床面に散在していた破片が接合したものである。M 2 は西部の床面、DP34 は P 7 の底面からそれぞれ出土している。118・121 は竈の覆土中層、120 は竈の火床面、DP 37 は竈の掘方の埋土中からそれぞれ出土している。123 は竈の南側の覆土下層から正位の状態で出土している。119 は出入り口付近、122 は P 6 付近の覆土下層からそれぞれ出土している。DP35・Q 8 は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀末から 6 世紀初頭に比定できる。炉と竈が併設されていることから、竈の導入期の住居跡とみることができる。



第52図 第39号住居跡実測図



第53図 第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表（第53図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
118	土器器	环	[114]	42	30	長石・石英 菱斑・赤色粒子	にふい赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ハラ削り 内面工具痕	亂覆土中層	50%
119	土器器	环	[145] (53)	-	長石・石英	赤	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上半横皮のへラ削り 下半横皮のハラ削り 内面放射状のへラ削り	亂覆土下層	30%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴は	出土位置	備考
120	土師器	环	[142]	(5.2)	-	長石・石英	赤	普通	口縁部・内面構ナデ 体部表面下半横筋のへラ削り 内面斜状のへラ削り	窓穴床面	40%
121	土師器	高环	-	(5.0)	-	長石・石英	に赤	普通	脚部外表面斜位のへラ削り 脚部内面構位のへラナデ 窓部内面斜位のへラナデ	窓穴土中層	10%
122	土師器	壺	[94]	(5.6)	-	長石・石英	に赤	普通	口縁部表面構位のへラ削り 口縁部内面構ナデ 体部外表面位のへラ削り 内面削頭	覆土下層	50%
123	土師器	瓶	10.3	10.9	4.8	長石・石英・雲母	赤	普通	口縁部表面構位のへラ削り 体部表面下半横筋のへラ削り	覆土下層	100% PL32
124	土師器	甕	[168]	(10.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外表面構ナデ 体部外表面斜位のへラ削り	床面	20%

番号	器種	形	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP34	土玉	28	(2.3)	0.8	(14.4)	長石	ナデ 滑顎直 一方から穿孔	P 7 底面	PL41
DP35	土玉	28	3.0	0.6	18.5	石英・雲母	ナデ 滑面緩斜のへラ削り 一方向からの穿孔	覆土中	PL41
DP36	土玉	31	1.8	0.8 ~ 1.0	13.2	長石・石英	ナデ 滑顎直 一方から穿孔	床面	PL41
DP37	土玉	(26)	(1.6)	0.6 ~ 0.8	(7.5)	長石	ナデ一部欠損 一方から穿孔	覆土方理土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 8	砥石	(78)	4.6	(1.8)	(91.0)	凝灰岩	断面長方形 砥面3面	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 2	鍬	135	3.3	0.3	457	鉄	刃部断面三角形 鍬部折り返し	床面	PL46

第 41 号住居跡 (第 54 ~ 57 図)

位置 調査区東部のE 14i0区、標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第 42・43 号住居、第 9 号ピット群 P 6 に掘り込まれている。

規模と形状 一辺が 9.62 m の方形で、主軸方向は N - 30° - W である。壁高は 16 ~ 60cm で、外傾して立ち上がりっている。

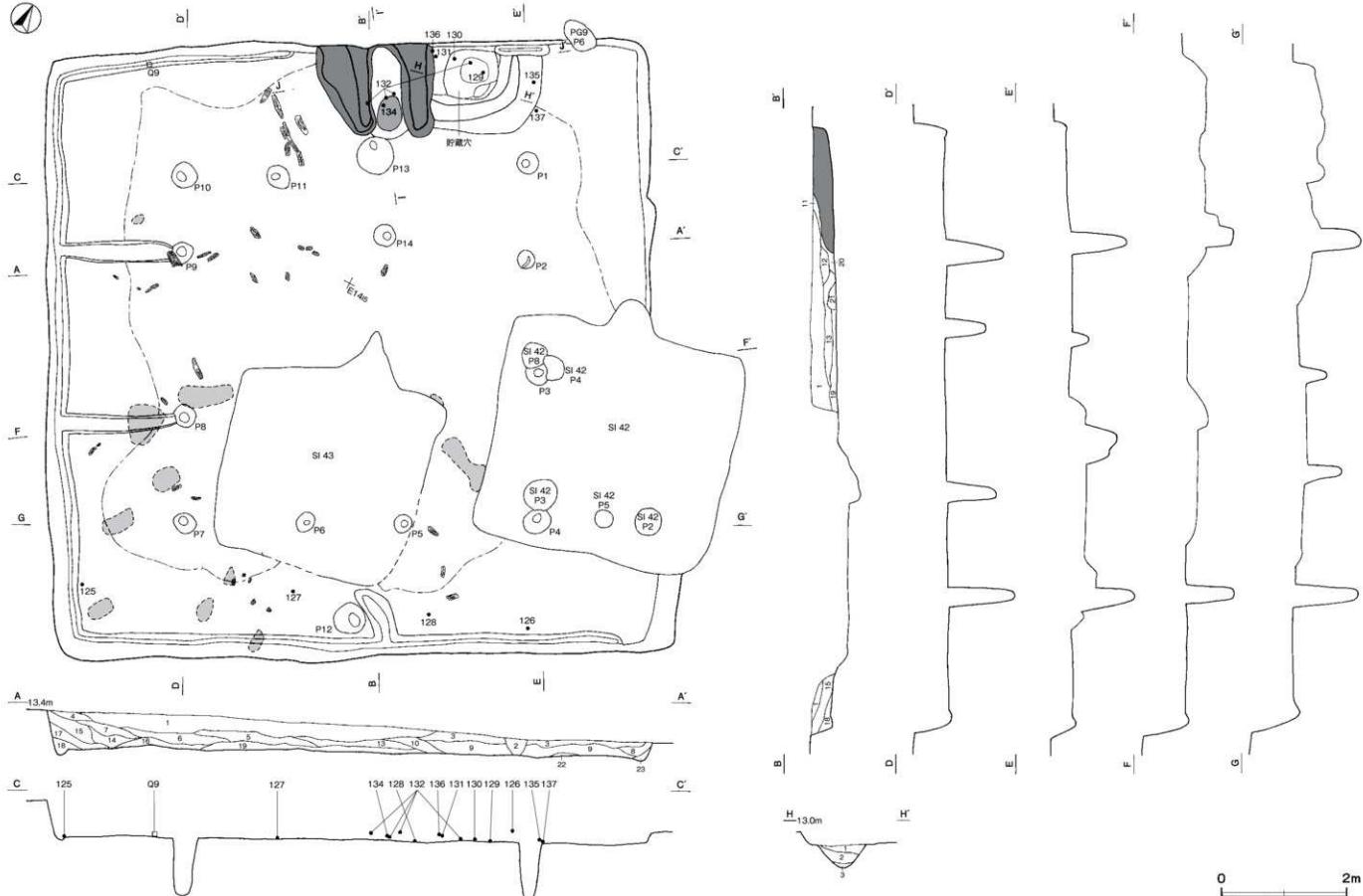
床 平坦で、壁際を除いて踏み固められている。北西・南東壁を除く壁下には壁溝が巡っている。北西壁の壁溝から P 8・P 9との間に、幅 22cm・34cm、長さ 155cm・160cm、深さ 10cm・15cm で、断面形が逆台形状の間仕切り溝 2 条を確認した。また、床面から焼土塊、炭化材を検出した。

竈 北西壁の中央部からやや北東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 153cm で、煙道部幅は 48cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 15 ~ 23 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 8 cm 剖り込んで、ローム粒子を含んだ第 24, 25 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。

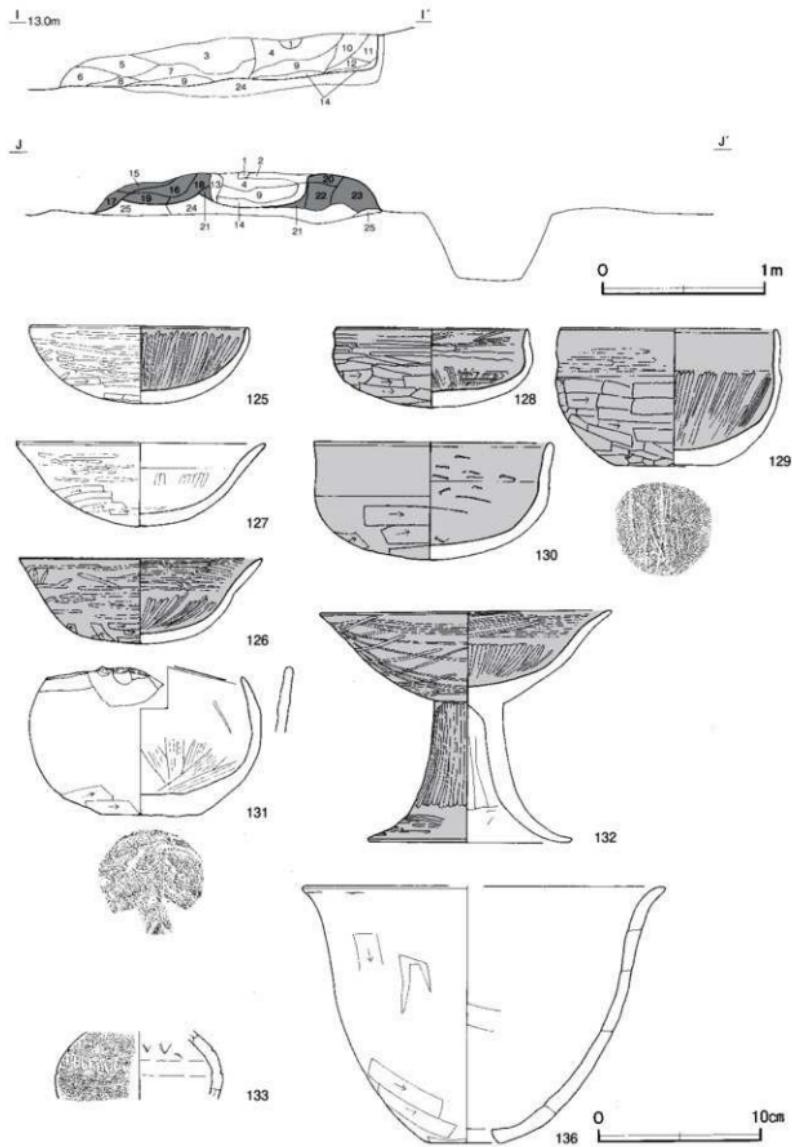
煙道部は壁内に収まり、奥壁は直立している。

竈土層解説

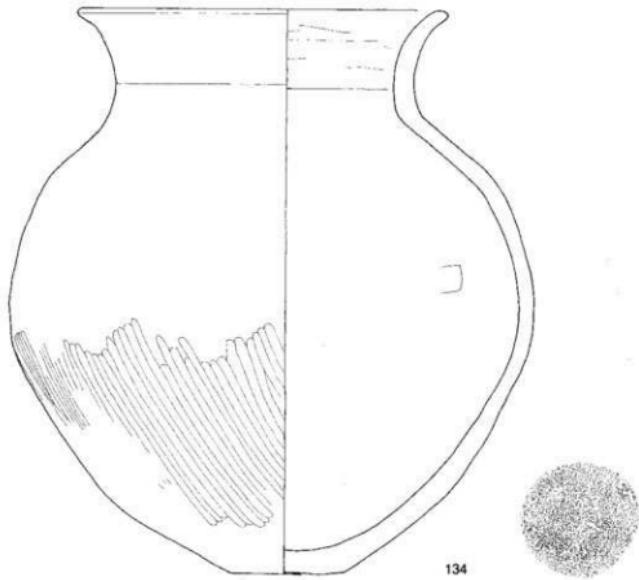
1	黒	褐	色	燒土粒子・炭化粒子微量	13	赤	褐	色	燒土粒子多量、炭化粒子微量
2	暗	褐	色	ロームブロック中量、燒土ブロック・炭化粒子微量	14	暗	赤	褐	燒土粒子・砂質粘土粒子微量
3	暗	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	15	暗	赤	褐	燒土粒子・炭化粒子少量
4	褐	色	ローム粒子中量、燒土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16	褐	褐	色	砂質粘土粒子中量、炭化物微量	
5	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17	褐	褐	色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	
6	褐	色	燒土粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量	18	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子少量	
7	暗	褐	色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	19	褐	灰	色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量
8	暗	褐	色	燒土粒子・炭化粒子微量	20	褐	灰	色	燒土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量
9	暗	赤	褐	燒土粒子少量	21	褐	褐	色	ローム粒子少量、燒土粒子微量
10	暗	赤	褐	燒土粒子少量、炭化粒子微量	22	褐	灰	色	ローム粒子・燒土粒子・砂質粘土粒子少量
11	暗	赤	褐	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	23	褐	褐	色	ローム粒子中量
12	暗	赤	褐	燒土粒子中量	24	暗	褐	色	ローム粒子少量
					25	褐	褐	色	ローム粒子多量



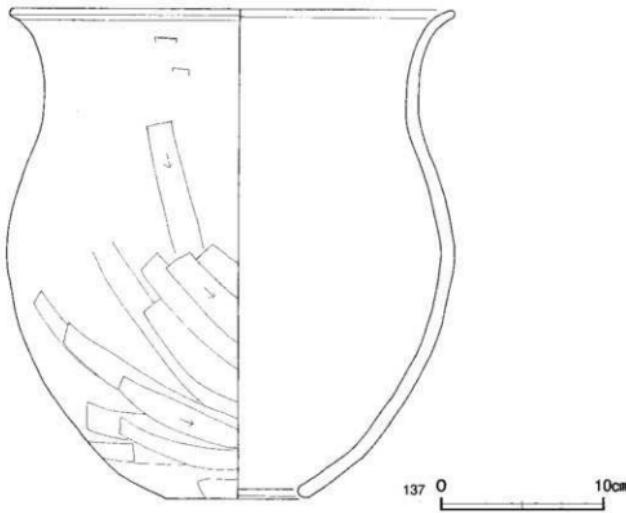
第54図 第41号住居跡実測図



第55図 第41号住居跡・出土遺物実測図



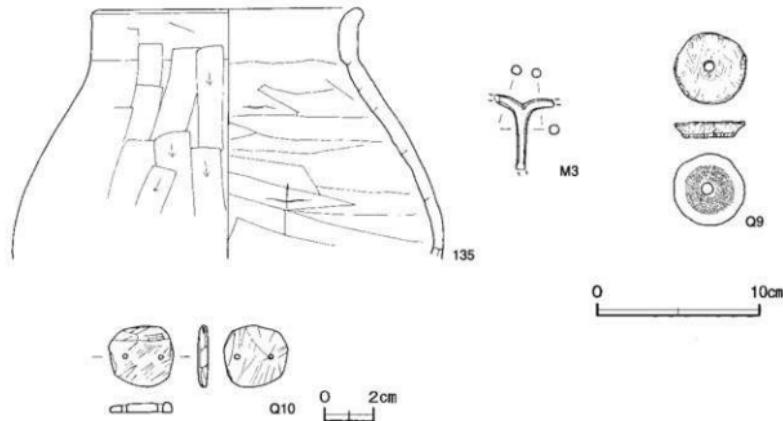
134



137 0

10cm

第56図 第41号住居跡出土遺物実測図（1）



第57図 第41号住居跡出土遺物実測図（2）

ピット 14か所。P 1～P 11は深さ36～107cmで、規模と配置から主柱穴である。P 12は深さ62cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 13・P 14は深さ70cm・46cmで、補助柱穴とみられる。

貯蔵穴 窓の右側に隣接している。長軸87cm、短軸70cmの長方形で、深さは38cmである。底面は皿状にくぼんでおり、壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴の東側の床面に、幅150cm、長さ80cm、高さ15cmで逆L字状を呈する高まりを確認した。

貯蔵穴土層解説

1 喻 暗 色 ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量	3 喻 暗 色 ロームブロック微量
2 喻 暗 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	
覆土 23層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。	
土層解説	
1 喻 暗 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	13 黒 暗 色 ロームブロック少量、砂質粘土ブロック・炭化粒子微量
2 喻 暗 色 ロームブロック・炭化粒子微量	14 黒 暗 色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
3 喻 暗 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	15 喻 暗 色 ローム粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4 黒 暗 色 ロームブロック・炭化粒子微量	16 喻 暗 色 ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量
5 喻 暗 色 ローム粒子少量	17 喻 暗 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
6 黒 暗 色 ローム粒子中量、燒土ブロック・炭化物微量	18 喻 暗 色 炭化粒子少量、ロームブロック・燒土粒子・砂質粘土粒子微量
7 喻 暗 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量	
8 黒 暗 色 ロームブロック少量	
9 暗 色 ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量	19 喻 暗 色 砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
10 暗 色 ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	20 喻 暗 色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
11 喻 暗 色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	21 喻 暗 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
12 黒 暗 色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	22 喻 暗 色 ローム粒子・砂質粘土粒子微量
	23 喻 暗 色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土器器片757点（壺279、碗26、片口椀1、高壺25、壺1、甕類423、瓶2）、須恵器片51点（壺38、高台付壺2、蓋2、甕3、甕類6）、石器1点（鍛錘車）、石製品1点（双孔円板）、鉄製品1点（不明）、鉄滓29点(512g)が、全面の覆土上層から床面にかけて出土している。そのほか、混入した繩文土器片101点（深鉢）、陶器片1点（碗）、磁器片3点（碗）、ナイフ形石器1点、瓦片1点も出土している。129・130は貯蔵穴の覆土上層から、127は出入り口付近、125は南コーナー部の床面からそれぞれ出土している。132・134は窓

の覆土中層からそれぞれ出土している。131・135～137は竈の東側、126・128は出入り口付近、M3は東部、133は南部。Q9は西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。Q10は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀末から6世紀初頭に比定できる。床面で炭化材や焼土塊が検出されたことから、焼失住居と考えられる。竈は、いわゆる初期竈と思われる。11本の主柱穴を有する。今回の調査範囲で本跡最大の住居跡である。

第41号住居跡出土遺物観察表（第55～57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
125	土師器	环	13.4	4.8	—	長石・石英	黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削き	床面	100% PL29
126	土師器	环	14.8	5.3	—	長石・石英	赤	普通	体部外面上半横位のヘラ削り・下部ヘラ削り 内面上半横位のヘラ削き 下半放状のヘラ削き	覆土下層	100% PL29
127	土師器	环	15.0	5.2	—	長石・石英	赤	普通	口縁部外・内面横ナデのヘラ削き 体部外面横位のヘラ削り 内面放状のヘラ削き	床面	100% PL29
128	土師器	环	[118]	4.9	—	長石・石英	赤褐	普通	口縁部外・内面横位のヘラ削き 体部外面横位のヘラ削り 内面放状のヘラ削き	覆土下層	70%
129	土師器	梅	13.3	8.6	5.9	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部外・内面横位のヘラ削き 口縁部内面ヘラナ ド削き	若戸六覆土上層	95% PL29
130	土師器	梅	14.5	7.3	—	長石・石英・雲母	棕	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面工具痕	若戸六覆土上層	100% PL29
131	土師器	片口梅	12.0	9.3	6.2	長石・石英・黒色粒子	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 片口部指揮さえにより成形 体部下端横位のヘラ削り 底部内面放射状のヘラ削き	覆土下層	85% PL30
132	土師器	高坪	17.8	14.4	12.2	長石・石英	赤	普通	環部外・口縁部内面横位のヘラ削き 内面放射状のヘラ削き 体部外面横位のヘラ削き・内面工具痕	鐵覆土中層	95% PL30
133	頃窯器	罐	—	(4.2)	—	長石・石英	灰	普通	外表面底部深窪文・刺突文 内面ロクロナヂ・工具痕	覆土下層	5%
134	土師器	甕	22.0	34.9	7.0	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面下端斜位のヘラ削り 内面ヘナナデ	鐵覆土中層	80% PL33
135	土師器	甕	15.9	(15.6)	—	長石・石英	にぶい青	普通	体部外面横位のヘラ削り 口縁部内面横ナデ 内面ヘナナデ	覆土下層	40%
136	土師器	甕	[22.0]	15.9	4.4	長石・石英・黒色粒子	にぶい青	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘナナデ	覆土下層	80%
137	土師器	甕	27.2	30.2	8.7	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラ削り 内面ヘナナデ・工具痕	覆土下層	60% PL35

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q9	鋤耕車	4.4	1.0	0.7	30.1	蛇紋岩	両面研磨 底面放状の観察 一方向からの穿孔	覆土下層	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q10	瓦孔円板	25	26	0.4	4.6	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	覆土中層	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	不明	(4.6)	(3.6)	0.6	(10.5)	鉄	全面円形 両端部欠損	覆土下層	PL46

第46号住居跡（第58・59図）

位置 調査区東部のE 15j3区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第45号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.54m、短軸4.40mの方形で、主軸方向はN-37°-Wである。壁高は48～70cmで、外傾して立ち上がりっている。

床 平坦な貼床で、壁下を除いて踏み固められている。壁下には縫溝が巡っている。貼床は、中央部と北西及び南東のコーナー部を土坑状に掘りくぼめ、ローム粒子を含んだ第33・34層を埋土して構築されている。床面の広範囲に炭化材を確認した。また、P3付近の床面からは、焼土も確認した。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで102cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部

は砂質粘土を主体とした第23層を積み上げて構築されている。火床部は、床面を5cm掘りくぼめ、ローム粒子を含む第24・25層を埋土して構築している。竈の覆土は埋め戻されており、内部を壊したためか火床面は遺存していない。煙道部は壁外へ40cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	13	暗 褐 色	ローム粒子、焼土粒子少量
2	暗 褐 色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	14	灰 褐 色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子微量
		炭化粒子微量	15	にじい赤褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量
3	にじい赤褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	16	にじい赤褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子微量
4	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量	17	暗 褐 色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量
5	暗 褐 色	炭化土・ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量	18	暗 褐 色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
6	暗 赤褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	19	暗 褐 色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
7	暗 褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	20	褐 色	ローム粒子中量
8	暗 褐 色	炭化土・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量	21	暗 褐 色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
9	にじい赤褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量	22	褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
10	にじい赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	23	暗 褐 色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
11	にじい赤褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	24	暗 褐 色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
12	暗 褐 色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量	25	褐 色	ローム粒子多量、炭化粒子微量

ピット 7か所。P 1～P 4は深さ40～62cmで、規模と配置から主柱穴である。P 5は深さ33cmで、南東壁の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ18cm、P 7は床下から確認されたもので深さ14cmで、ともに性格は不明である。

貯蔵穴 北東側のコーナー部に位置している。長径75cm、短径67cmの不整椭円形で、深さは43cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗 褐 色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量	3	にじい赤褐色	焼土粒子多量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
2	暗 赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量	4	褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量

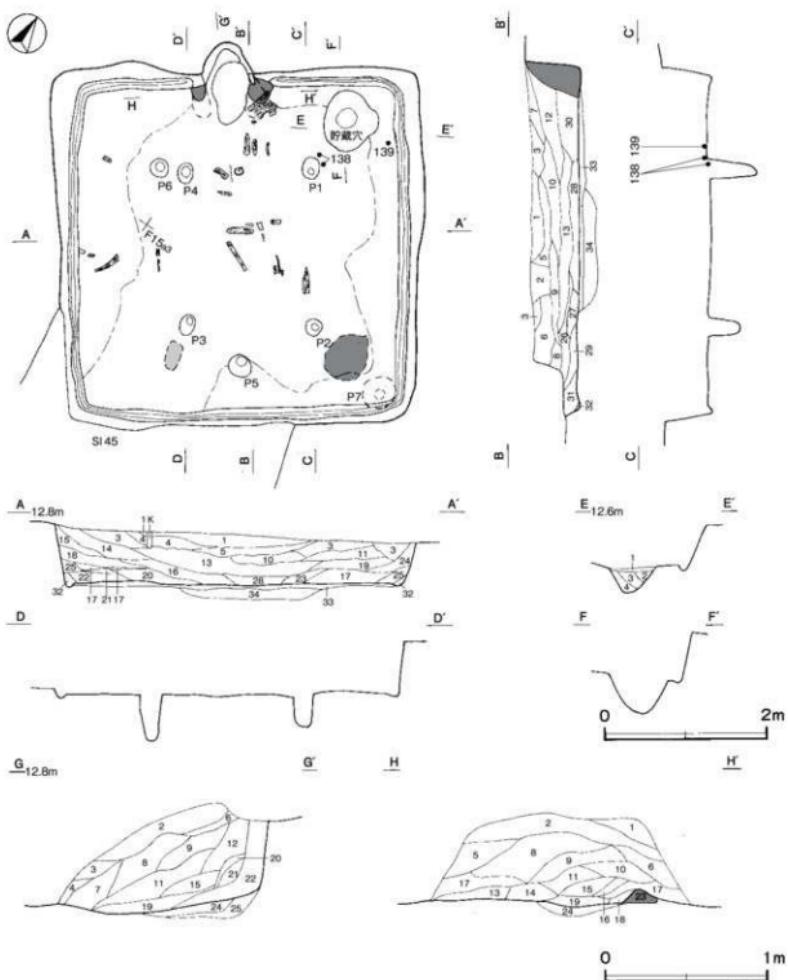
覆土 32層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第33・34層は貼床の構築土である。

土層解説

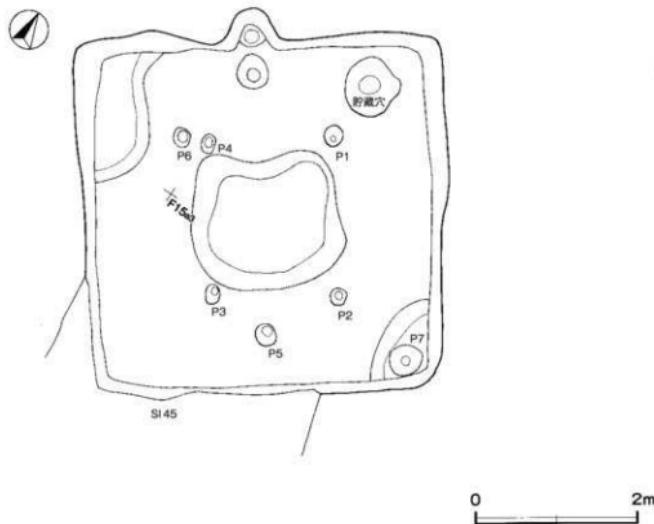
1	暗 褐 色	ローム粒子少量	19	褐 色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量
2	褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	20	暗 褐 色	炭化粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
3	暗 褐 色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量	21	暗 褐 色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
4	褐 色	ローム粒子少量	22	暗 褐 色	ロームブロック微量
5	暗 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	23	褐 色	炭化粒子中量、ローム粒子少量
6	暗 褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	24	暗 褐 色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
7	褐 色	ローム粒子少量、赤色粒子微量	25	にじい褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
8	黑 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子・赤色粒子微量	26	暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量
9	黑 褐 色	ローム粒子少量	27	暗 褐 色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量
10	褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子・赤色粒子微量	28	褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量
11	褐 色	ロームブロック少量	29	暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・赤色粒子微量
12	褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	30	暗 褐 色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
13	暗 褐 色	ロームブロック・炭化粒子微量	31	暗 褐 色	ローム粒子中量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
14	暗 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子・赤色粒子微量	32	褐 色	ローム粒子少量、赤色粒子微量
15	暗 褐 色	ローム粒子・赤色粒子少量	33	褐 色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
16	暗 褐 色	赤色粒子少量、ローム粒子微量	34	暗 褐 色	ローム粒子多量
17	褐 色	ローム粒子中量、炭化粒子微量			
18	黑 褐 色	ローム粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 土師器片114点(坏19、台付楕1、甕類93、瓶1)、須恵器片6点(环)、焼成粘土塊1点が出土している。そのほか、混入した繩文土器6点(深鉢)も出土している。138はP 1付近、139は貯藏穴付近の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。床面で炭化材や焼土が確認されたことから、焼失住居と考えられる。



第58図 第46号住居跡実測図



第 59 図 第 46 号住居跡・出土遺物実測図

第 46 号住居跡出土遺物観察表（第 59 図）

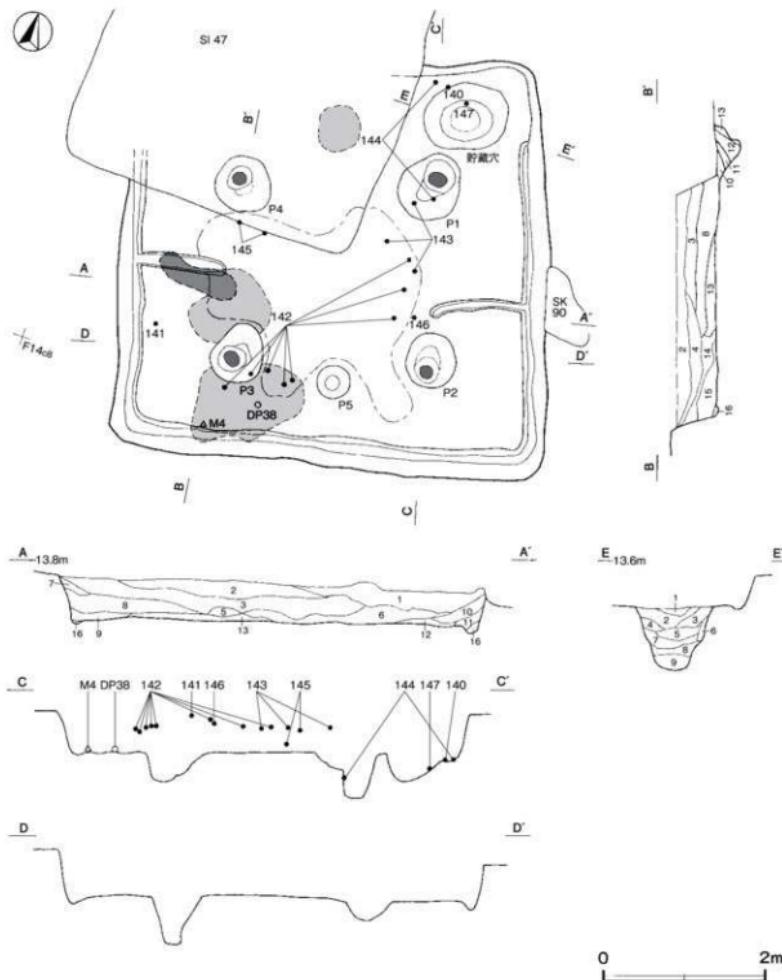
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
138	土師器	环	138	45	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のハラ削り	床面	90%
139	土師器	台付碗	140	114	92	長石・石英・雲母	黒褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のハラ削り	床面	80% PL30

第 48 号住居跡（第 60 ~ 62 図）

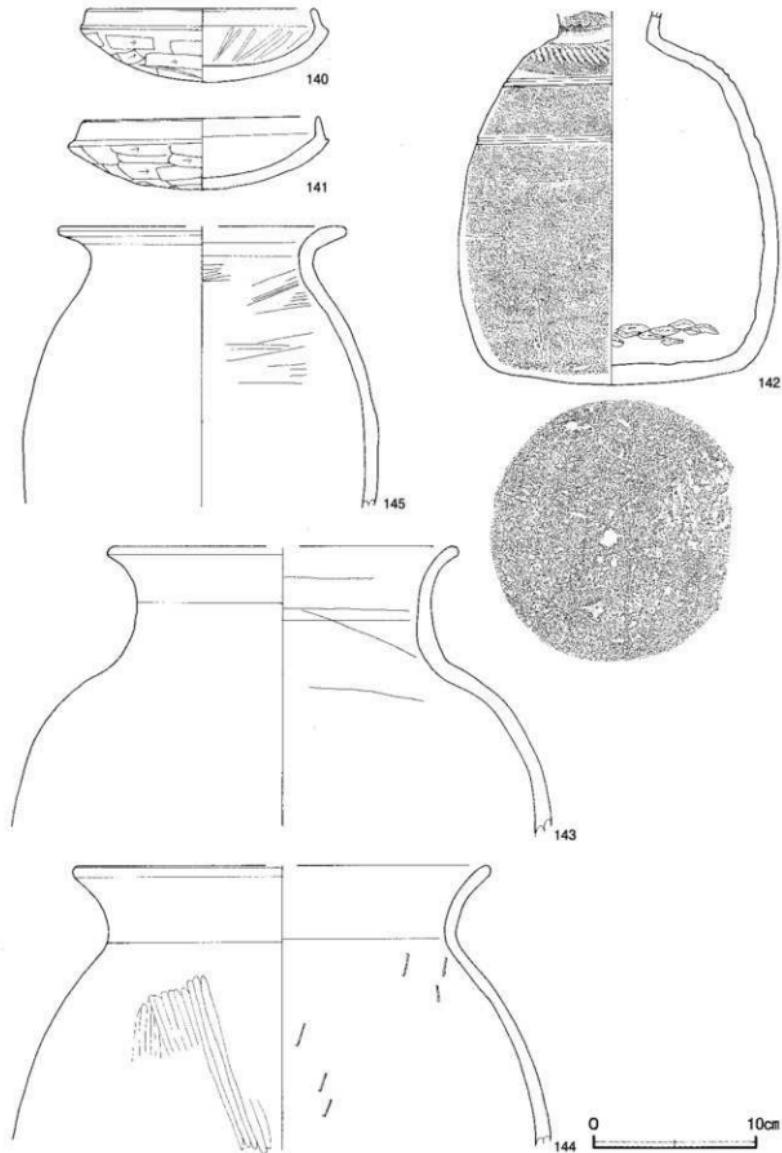
位置 調査区東部の F 14b8 区、標高 14 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第47号住居、第90号土坑に掘り込まれている。

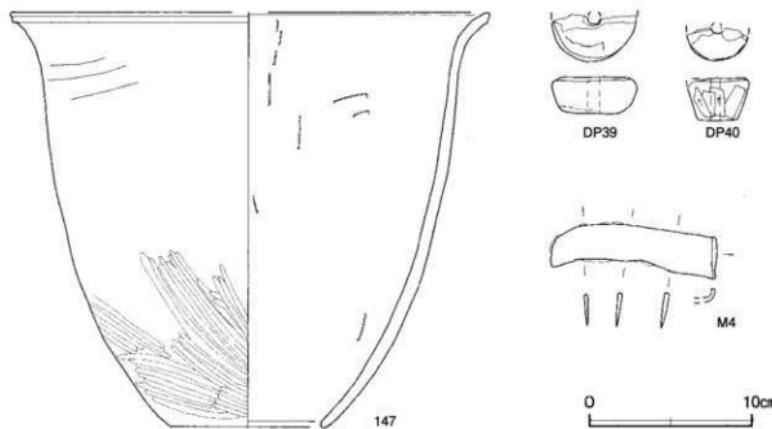
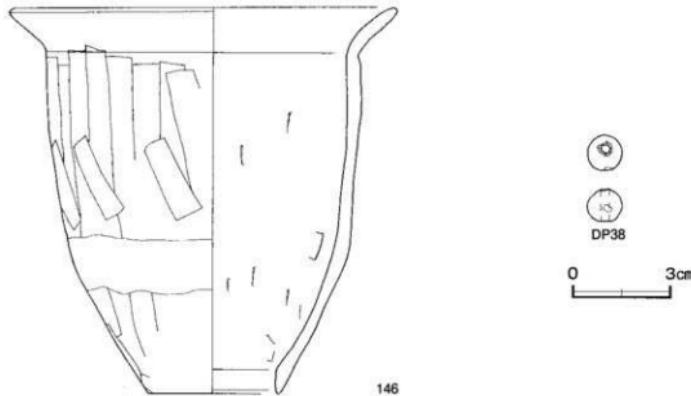
規模と形状 長軸5.35m、短軸5.15mの方形で、主軸方向はN-17°Wである。壁高は52~57cmで、外傾して立ち上がりっている。



第60図 第48号住居跡実測図



第61図 第48号住居跡出土遺物実測図(1)



第62図 第48号住居跡出土遺物実測図(2)

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北東コーナー部を除く壁下には壁溝が巡っている。東壁と西壁の壁溝から中央に向かって、幅10cm・20cm、長さ110cm・115cm、深さ20cm・23cmで、断面形が逆台形状の間仕切り溝2条を確認した。北西部は第47号住居に掘り込まれているが、北壁下中央部分にあたる位置に長径56cm、短径50cmの楕円形に赤変硬化した部分を確認した。竈火床面の残存と考えられる。また、南西コーナー部付近で焼土・炭化材を検出した。

ピット 5か所。P1～P4は深さ36～62cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ31cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径107cm、短径82cmの楕円形で、深さは79cmである。底面は平坦で、

壁は中位に段を有し外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒 子微量	5	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
2	暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量・焼土ブロック微量	7	暗褐色	ロームブロック微量
4	暗褐色	焼土粒子少量・ローム粒子・炭化粒子微量	8	黒褐色	ロームブロック微量
			9	黒褐色	ロームブロック微量

覆土 16 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック微量・炭化物・焼土粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子微量・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量・焼土粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量	12	褐色	ローム粒子中量・炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量・焼土ブロック微量	13	暗褐色	ロームブロック微量
6	暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子少量	14	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
7	褐色	ロームブロック微量	15	黒褐色	ローム粒子微量
8	褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	16	暗褐色	ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片 1096 点（坏 96、高坏 32、甕類 919、瓶 49）、須恵器片 39 点（坏 32、長頸瓶 5、甕類 2）、土製品 3 点（玉土 1、筋錘車 2）、鐵製品 1 点（鎌）、焼成粘土塊 19、鐵滓 7 点（170g）が、全面の覆土上層から床面にかけて出土している。そのほか、混入した繩文土器片 2 点（深鉢）、剥片 1 点も出土している。147 は貯蔵穴の覆土中層から出土している。DP38 は南部、M 4 は南西部の床面からそれぞれ出土している。140 は貯蔵穴の北側の覆土下層から出土し、144 は貯蔵穴の北側の覆土下層と P 1 の覆土中層から出土した破片が接合したものである。142 は、覆土の第 3 層中に投棄された状態で出土した破片を接合したものである。145・146 は中央部、DP39・40 は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。142・143 は中央部、141 は東部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。床面で検出した焼土・炭化材は、床面が赤変していないことから、住居廃絶後の埋め土に混入したものと考えられる。

第 48 号住居跡出土遺物観察表（第 61・62 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
140	土師器	坏	140	45	-	長石・石英	ぶい青帯	普通	口縁部分・内面横チリ 体部外縁へラ削り 内面放送技術による被伏	覆土下層	90% PL29
141	土師器	坏	143	45	-	長石・石英	浅黄帯	普通	口縁部分・内面横チリ 体部外縁横位のヘラ削り	覆土上層	90% PL29
142	須恵器	長頸瓶	-	(23.1)	[16.1]	長石・石英	灰青	普通	底部下端横面斜状工具による被伏状 内面横チリ 放送技術 2 箇の逆文字 15 本の細密斜工具による放送状	覆土上層	80% PL31
143	土師器	甕	[21.2]	(17.9)	-	長石・石英・雲母・細纖維	ぶい青帯	普通	口縁部分・内面横チリ 内面ハナナデ	覆土上層	20%
144	土師器	甕	[25.4]	(17.2)	-	長石・石英	ぶい青	普通	口縁部分・内面横チリ 体部外縁位のヘラ削り 内面ハナナデ 内面工具痕	覆土下層	20%
145	土師器	甕	[17.6]	(17.4)	-	長石・石英・珪母	ぶい青帯	普通	口縁部分・内面横チリ 内面ハナナデ	P 1 覆土中層	10%
146	土師器	瓶	23.5	23.9	81	長石・石英・赤色粒子	ぶい青	普通	口縁部分・内面横チリ 体部外縁位のヘラ削り 内面ハナナデ 工具痕	覆土中層	70% PL35
147	土師器	甕	[29.4]	(25.6)	(9.6)	長石・石英	ぶい青	普通	口縁部分・内面横チリ 体部下半位のヘラ削り 内面工具痕	貯蔵穴覆土中層	10%

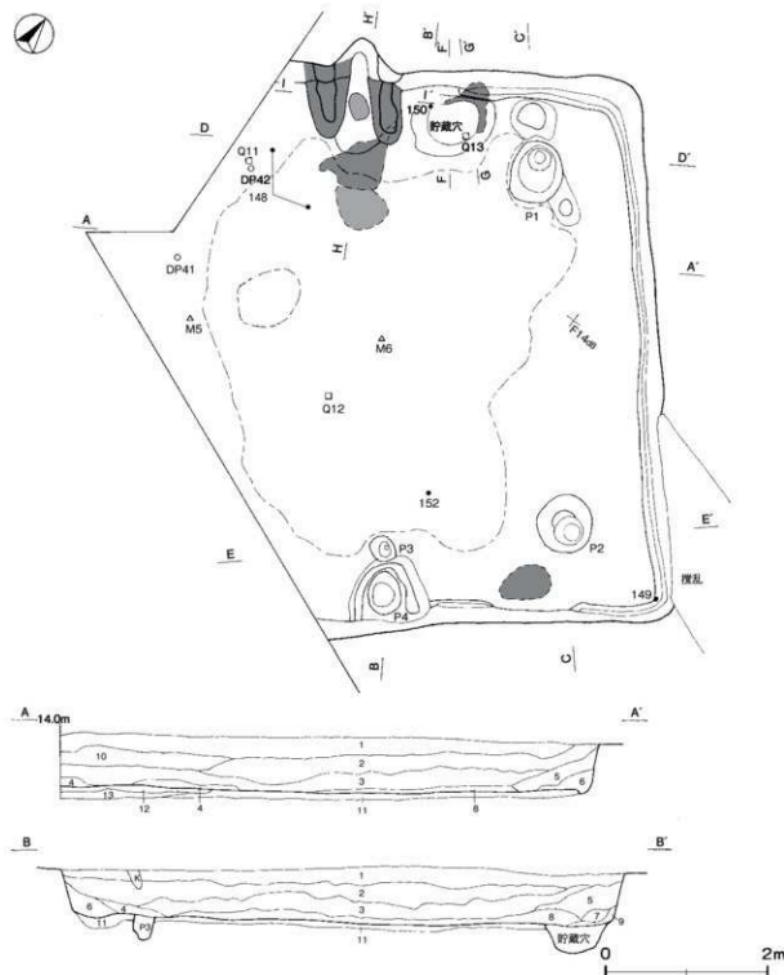
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP38	玉土	11	1.0	0.2~0.3	1.0	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	床面	PL41
DP39	筋錘車	(5.2)	2.2	0.7	(31.2)	長石	ナデ 欠損 一方向からの穿孔	覆土中層	
DP40	筋錘車	(3.8)	2.6	0.5	(17.5)	長石	ナデ 欠損 割面ヘラナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 4	鎌	102	36	0.3	26.5	鉄	月部断面三角形 鏊部折り返し	床面	PL46

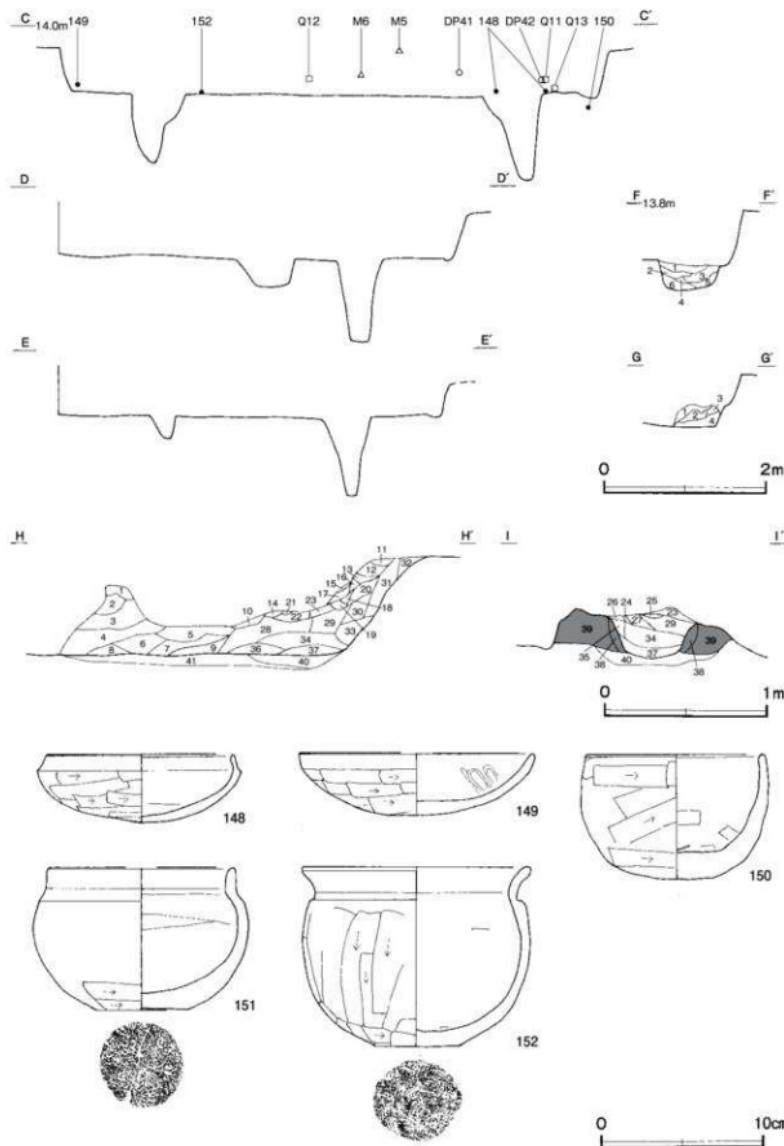
第50号住居跡（第63～65図）

位置 調査区東部のF 14d7区、標高14mの平坦な台地上に位置している。

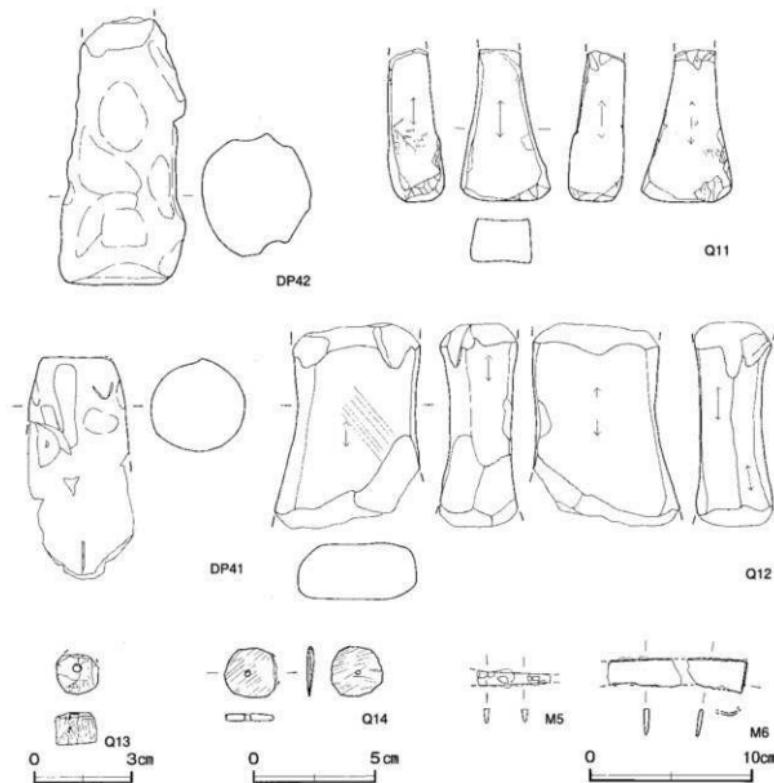
規模と形状 北東部及び南西部が調査区域外に延びているため、北西・南東軸は680mで、北東・南西軸は6.76mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向はN-40°-Wと推定できる。壁高は36～60cmで、外傾して立ち上がっている。



第63図 第50号住居跡実測図



第64図 第50号住居跡・出土遺物実測図



第65図 第50号住居跡出土遺物実測図

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。南西壁の一部を除く壁下には、壁溝が巡っている。貼床は、四隅を土坑状に掘りくぼめ、第11～13層を埋土して構築されている。竪の前と出入り口付近の床面で焼土塊や粘土塊を検出した。出入り口周辺に馬蹄形の高まりを確認した。また、中央やや北寄りの床面上に、長径60cm、短径50cm、高さ18cmの不整梢円形の高まりを検出した。

竪 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで144cmで、燃焼部幅は35cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第38・39層を積み上げて構築されている。火床部は床面を10cm掘り込んで、ローム粒子、焼土粒子を含んだ第40・41層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ45cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竪土層解説

1 灰褐色	燒土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	5 灰褐色	砂質粘土粒子少量、燒土粒子微量
2 灰褐色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子微量	6 褐色	燒土ブロック・砂質粘土粒子少量、灰化粒子微量
3 黑褐色	燒土ブロック・砂質粘土粒子微量	7 黑褐色	燒土粒子少量、灰化粒子微量
4 黑褐色	燒土粒子少量・砂質粘土粒子微量	8 黑褐色	燒土粒子微量

9	褐	色	砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	25	褐	灰	色	砂質粘土粒子中量	
10	褐	色	砂質粘土粒子微量	26	褐	灰	色	燒土粒子・砂質粘土粒子少量	
11	にい	青褐色	ローム粒子・燒土粒子少量	27	褐	灰	色	燒土ブロック・砂質粘土粒子少量	
12	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量	28	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	
13	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量	29	暗	赤	褐色	燒土粒子少量
14	暗	褐	色	燒土粒子・砂質粘土粒子少量	30	暗	赤	褐色	燒土ブロック・炭化粒子少量
15	褐	灰	色	砂質粘土ブロック少量	31	暗	褐	色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
16	褐	灰	色	燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	32	褐	褐	色	ローム粒子中量
17	暗	褐	色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	33	暗	褐	色	燒土粒子・炭化粒子微量
18	褐	灰	色	砂質粘土粒子微量	34	暗	褐	色	燒土粒子・砂質粘土粒子微量
19	褐	灰	色	砂質粘土粒子少量、燒土ブロック微量	35	にい	赤褐色	燒土粒子・砂質粘土粒子中量	
20	暗	褐	色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量	36	暗	赤	褐色	炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量
21	暗	褐	色	砂質粘土粒子・炭化粒子少量、燒土ブロック微量	37	暗	赤	褐色	燒土粒子微量
22	暗	褐	色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	38	灰	褐	色	ローム粒子中量
23	黒	褐	色	燒土粒子・砂質粘土粒子微量	39	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子微量
24	暗	赤	褐色	燒土粒子少量、炭化粒子微量	40	暗	褐	色	ローム粒子中量、燒土粒子微量
				41	暗	褐	色	燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子少量	

ピット 4か所。P 1・P 2は深さ102cm・97cmで、規模と配置から主柱穴である。P 3・P 4は深さ29cm・18cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 窓の右側に位置している。長径105cm、短径72cmの楕円形で、深さは39cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層削説

1	暗	褐	色	砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	4	灰	褐	色	砂質粘土粒子微量
2	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量	5	褐	色	ロームブロック・燒土粒子少量	
3	暗	褐	色	ロームブロック微量	6	褐	色	ローム粒子少量	

覆土 10層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第11～13層は、貼床の構築土である。

土層解説

1	無	暗	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	10	暗	褐	色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量	11	暗	褐	色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
3	暗	褐	色	ローム粒子微量、炭化粒子微量	12	褐	色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	
4	褐	色	色	ロームブロック、炭化粒子微量	13	褐	色	ロームブロック少量、砂質粘土ブロック・炭化粒子微量	
5	褐	色	色	ローム粒子少量					
6	暗	褐	色	ローム粒子中量、燒土ブロック・炭化粒子微量					
7	褐	色	色	ローム粒子中量、炭化粒子微量					
8	褐	色	色	ロームブロック少量					
9	暗	褐	色	ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量					

粘土塊2

1	暗	褐	色	ローム粒子微量	3	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	黒	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量	4	灰	褐	色	砂質粘土ブロック中量

遺物出土状況 土師器片3680点（环571、楕4、高坏36、甕類3068、小形甕1）、須恵器片415点（环298、高台付坏9、蓋13、高盤1、甕類94）、土製品2点（支脚）、石器2点（砥石）、石製品2点（白玉、双孔円板）、礫28点、鐵製品3点（刀子、鎌、不明）、燒成粘土塊15点、鐵滓43点（802g）、骨7点（牛の歯）、種子1点（桃）が、中央部から西部の覆土中層から床面にかけて出土している。また、貼床の構築土内から土師器18点（环4、甕類14）が出土している。そのほか、混入した繩文土器片47点（深鉢）、剝片2点も出土している。148は窓の南側、152は出入り口付近の床面からそれぞれ出土している。150は貯蔵穴の覆土中層、151は覆土中、Q 13は覆土上層、からそれぞれ出土している。DP42・Q 11は窓の南側、149は東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。Q 12・M 6は中央部、DP41は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。Q 14は東部の覆土中、M 5は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。また、牛の歯については、すべて臼齒破片であり、使途は不明である。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。床面の中央やや北西寄りで確認された不整梢円形の高まりの性格については不明である。

第50号住居跡出土遺物観察表（第64・65図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
148	土器器	环	115	43	-	長石・石英	にぶい澄	普通 口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削 り 内面横ナデ・工具痕	床面	90%	
149	土器器	环	[144]	38	-	長石・石英	糊灰	普通 口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削 り 内面ヘラ削き	覆土下層	60%	
150	土器器	碗	109	7.7	-	長石・石英	にぶい澄	普通 口縁部外・内面横位のヘラナデ	右竪穴覆土上層	100% PL30	
151	土器器	碗	[112]	8.8	5.5	長石・石英	糊灰・粒	普通 口縁部外・内面横位のヘラナデ 体部外面下端横位のヘ ラ削り 内面横ナデ	右竪穴覆土中	60% PL20	
152	土器器	小形甌	140	11.1	5.2	長石・石英	にぶい澄	普通 口縁部外・内面横位のヘラ削 り 下端横位のヘラ削り 内面横ナデ・工具痕	床面	80% PL32	

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP41	支脚	(137)	4.8	(6.5)	(296)	長石・石英	ナデ 外面削頭圧痕 下部欠損	覆土中層	PL42
DP42	支脚	(165)	6.2	7.7	(905)	長石・石英	外側ヘラナデ 指頭圧痕 一部欠損	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 11	砥石	(94)	5.5	3.4	(182)	凝灰岩	断面長方形 砥面4面	覆土下層	PL44
Q 12	砥石	(126)	9.0	4.8	(670)	凝灰岩	断面隅丸長方形 砥面5面	覆土中層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 13	臼玉	1.3	1.0	0.2	(29)	滑石	全面研磨 四角状 一部欠損 一方向からの穿孔	右竪穴覆土上層	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 14	双孔円板	21	21	0.3	(18)	滑石	全面研磨 一部欠損 一方向からの穿孔	覆土中	
M 5	刀子	(47)	(12)	(0.3)	(46)	鉄	刃部・茎部欠損 刃部断面三角形・茎部断面凸台形	覆土上層	
M 6	鎌	(85)	31	0.3	(90)	鉄	端部折り返し 中間・先端欠損 刃部断面三角形	覆土中層	

第54号住居跡（第66～68図）

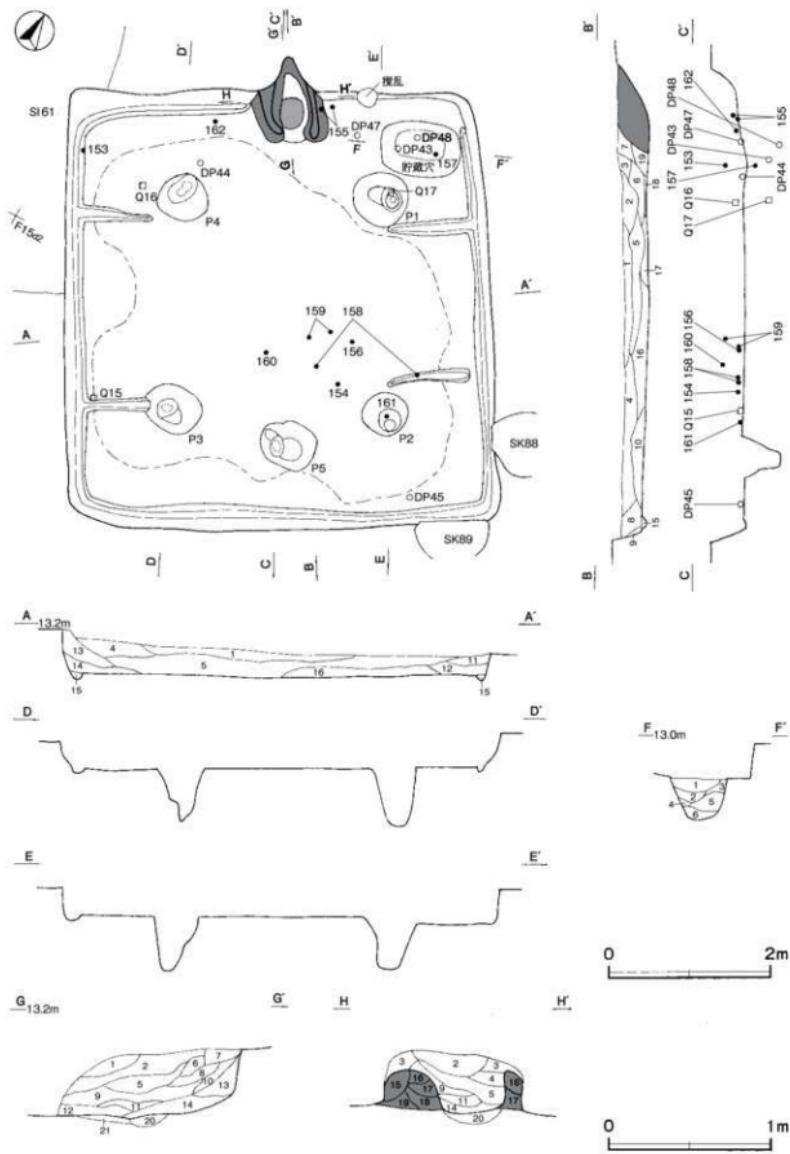
位置 調査区東部のF 15c2区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第61号住居跡を掘り込み、第88・89号土坑に掘り込まれている。

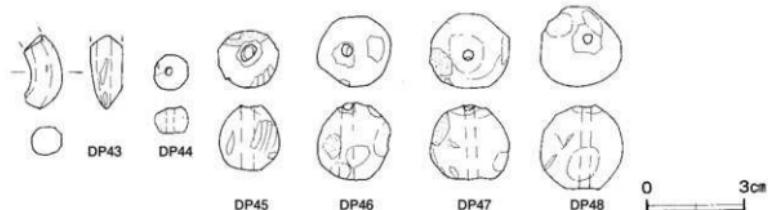
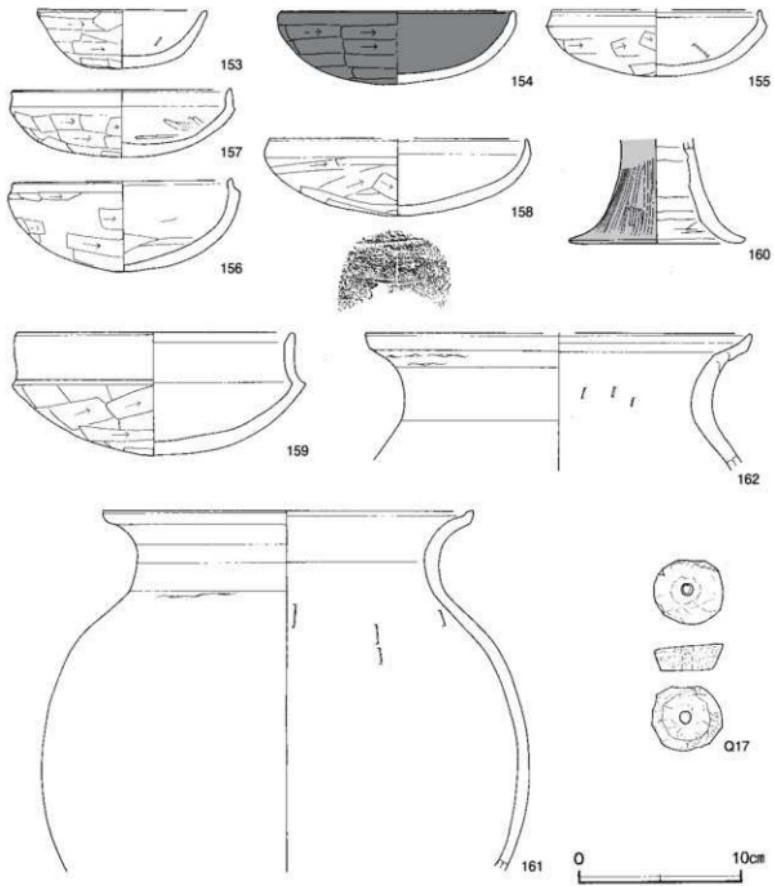
規模と形状 長軸5.50m、短軸5.30mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は25～50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、隙間を除いて踏み固められている。北東壁下を除いて壁溝が巡っている。東・西の壁溝から中央に向かって、幅8～18cm、長さ70～105cm、深さ11～14cmで、断面形が逆台形状の間仕切り溝4条を確認した。

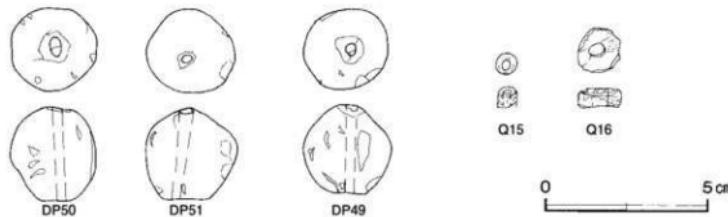
竈 北西壁の中央部からやや北東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで105cmで、燃焼部幅は35cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第15～19層を積み上げて構築されている。火床部は床面を15cm掘り込んで、ローム粒子、砂質粘土粒子を含んだ第20・21層を埋土して構築されている。火床面は火を受けた赤変化している。煙道部は壁外へ42cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。



第66図 第54号住居跡実測図



第67図 第54号住居跡出土遺物実測図(1)



第68図 第54号住居跡出土遺物実測図(2)

電土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	9 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
2 暗褐色	砂質粘土粒子中量。焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	焼土粒子少量
3 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11 暗褐色	灰少量・焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量。ローム粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗赤褐色	砂質粘土粒子中量。焼土ブロック少量・ローム粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子少量
6 灰褐色	砂質粘土粒子微量。炭化粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7 灰褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量	15 暗灰褐色	砂質粘土粒子中量・焼土粒子微量
8 暗褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	16 暗褐色	砂質粘土粒子中量・焼土ブロック少量
9 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
10 暗褐色	炭化粒子微量	18 灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
11 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	19 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
12 暗褐色	焼土粒子少量・ロームブロック・砂質粘土粒子微量	20 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
13 暗褐色	砂質粘土粒子少量・焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	21 暗褐色	ローム粒子少量・砂質粘土粒子微量

ピット 5か所。P.1～P.4は深さ62～75cmで、規模と配置から主柱穴である。P.5は深さ45cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長軸98cm、短軸73cmの長方形で、深さは52cmである。底面は皿状にくぼんでおり、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	4 極褐色	ローム粒子中量
2 暗褐色	焼土粒子少量・ロームブロック・砂質粘土粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック少量
3 極褐色	砂質粘土粒子少量・焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ロームブロック少量・焼土粒子微量

覆土 19層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子微量
2 暗褐色	炭化粒子・焼土粒子少量・炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量・炭化粒子微量	14 極暗褐色	ロームブロック微量
5 極暗褐色	ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量	15 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量・焼土粒子微量
6 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量	16 極暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量
7 暗褐色	砂質粘土粒子少量・焼土ブロック・炭化粒子微量	17 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8 極暗褐色	ローム粒子微量・焼土粒子・炭化粒子微量	18 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
9 暗褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量	19 暗褐色	ローム粒子中量・砂質粘土粒子少量・焼土ブロック・炭化粒子微量
10 暗褐色	ローム粒子中量		

遺物出土状況 土師器片718点(环207、甕類509、瓶2)、須恵器片18点(环12、蓋1、甕類5)、土製品9点(勾玉1、土玉8)、石製品3点(白玉2、紡錘車1)、石2点(軽石、礫)、焼成粘土塊8点、鉄滓3点(13g)が、全面の覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか、混入した繩文土器片20点(深鉢)、剥片2点も出土している。162・DP44は竪の南西側、155・DP47は竪の北東側、Q16はP.4付近の床面からそれぞ

れ出土している。DP46・DP49～DP51は竪の覆土中からそれぞれ出土している。161はP2の覆土上層、Q17はP1の覆土中層、157は貯蔵穴の覆土中層、DP43は貯蔵穴の覆土下層、DP48は貯蔵穴の底面からそれぞれ出土している。156・158・159は中央部、Q15は西部、DP45は東コーナー部付近の覆土下層からそれぞれ出土している。160は中央部、153は西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。

第54号住居跡出土遺物観察表（第67・68図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
153	土師器	环	10.5	3.6	—	長石・石英	黒褐色	普通 体部外表面横位のヘラナデ 内面横ナデ・工具痕	覆土中層	80%
154	土師器	环	14.4	4.5	—	長石・石英・ 雲母	黒褐色	普通 体部外表面横位のヘラ削り	覆土下層	90%
155	土師器	环	[12.9]	4.0	—	長石・石英	明黄褐色	普通 ハラ削り 内面横ナデ・工具痕	床面	70%
156	土師器	环	13.4	5.6	—	長石・石英	にぶい橙	普通 ハラ削り 内面横ナデ・工具痕	覆土下層	90%
157	土師器	环	13.3	4.2	—	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通 ハラ削り 内面横ナデ	貯蔵穴覆土中層	70%
158	土師器	环	[15.8]	4.8	—	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通 ハラ削り 内面横ナデ 体部外表面ヘラ削り 内 面横ナデ 底部斜面十字の分界痕	覆土下層	60%
159	土師器	环	17.1	7.6	—	長石・石英	にぶい黄褐色	普通 ハラ削り 内面横ナデ 体部外表面横位のヘラ削 り 内面横ナデ	覆土下層	60% PL29
160	土師器	高环	—	(6.5)	10.4	長石・石英	にぶい赤褐色	普通 縦部外表面横位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	覆土中層	20%
161	土師器	甕	22.8	(22.0)	—	長石・石英・ 雲母	にぶい黄褐色	普通 ハラ削り 内面横ナデ 内面横ナデ・工具痕	P2 覆土上層	30%
162	土師器	甕	[23.6]	(8.5)	—	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通 ハラ削り 内面横ナデ 内面工具痕	床面	10%

番号	器種	長さ	厚さ	孔径	重量	胎 土	特 徴	出土位置	備 考
DP43	勾玉	(2.3)	1.0	—	(2.4)	長石・石英	ナデ一部欠損 空孔痕	貯蔵穴覆土下層	PL42

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎 土	特 徴	出土位置	備 考
DP44	土玉	11	0.8	0.2～ 0.3	1.1	長石・石英	ナデ 一方から穿孔	床面	PL41
DP45	土玉	19	2.0	0.3～ 0.4	(6.5)	長石	舞韻ヘラ削き 一方から穿孔	覆土下層	PL41
DP46	土玉	23	2.4	0.3～ 0.5	(10.6)	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 一方から穿孔	覆土中	PL41
DP47	土玉	25	2.4	0.3	(12.7)	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 一方から穿孔	床面	PL41
DP48	土玉	25	2.6	0.3～ 0.4	15.1	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 一方から穿孔	貯蔵穴底面	PL41
DP49	土玉	27	2.7	0.2～ 0.3	16.2	長石・石英	ナデ 一方から穿孔	覆土中	PL41
DP50	土玉	27	2.9	0.2～ 0.4	18.5	長石・石英	ナデ 一方から穿孔	覆土中	PL41
DP51	土玉	28	2.9	0.3	19.3	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 一方から穿孔	覆土中	PL41

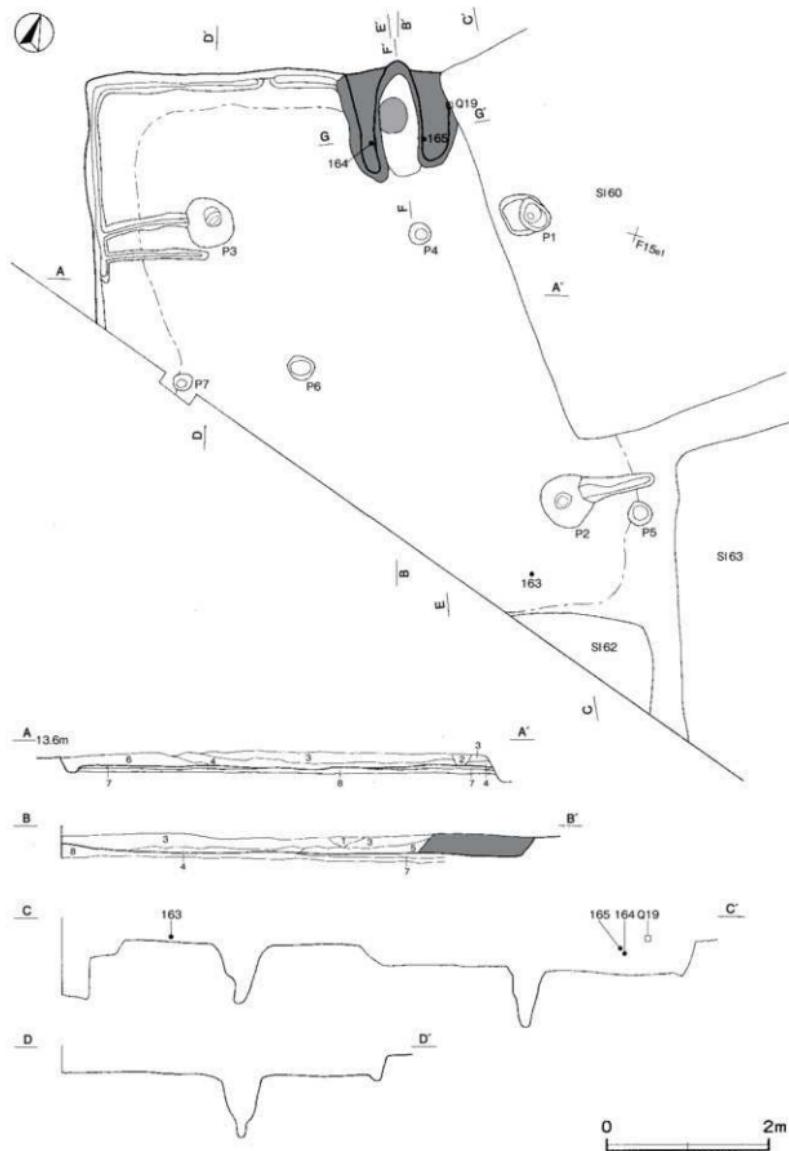
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q15	臼玉	0.7	0.6	0.2	0.4	滑石	全面研磨 円筒状 一方から穿孔	覆土下層	PL45
Q16	臼玉	1.4	0.6	0.4	1.3	滑石	全面研磨 円筒状 一方から穿孔	床面	PL45
Q17	結跡車	4.3	2.7	0.7	47.7	滑石	全面研磨 表面下端ヘラ削き 一方から穿孔	P1 覆土中層	PL45

第55号住居跡（第69・70図）

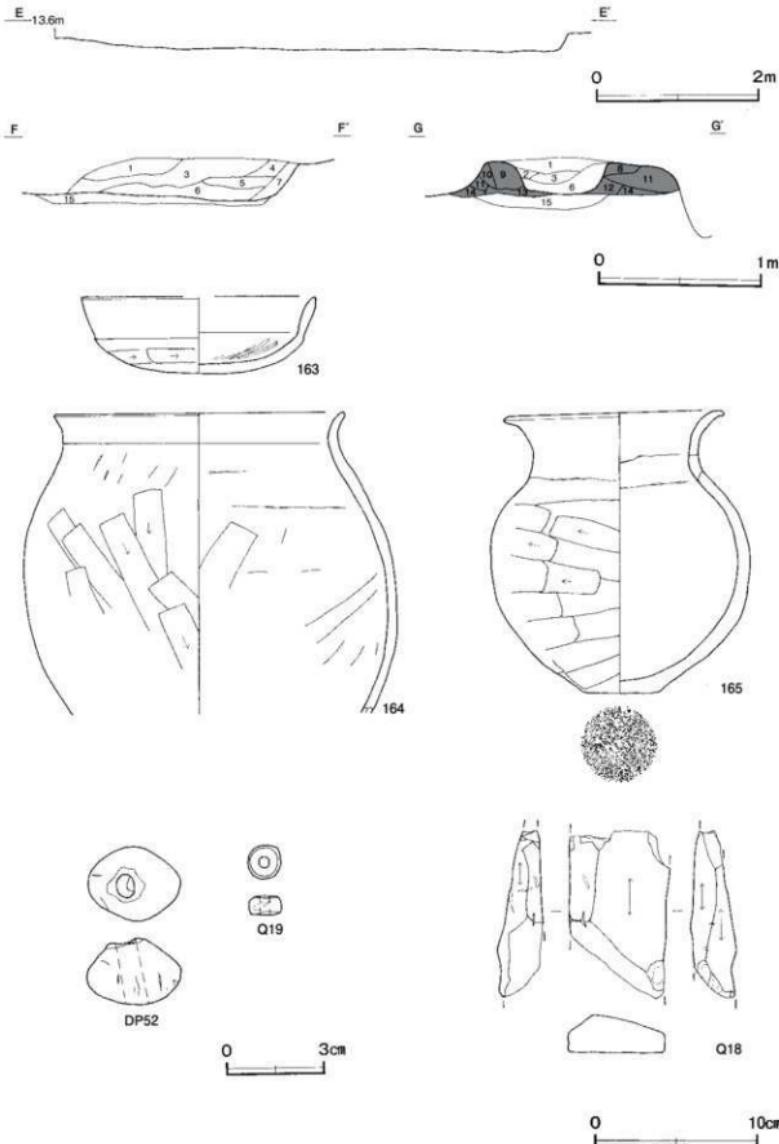
位置 調査区東部のF14e0区、標高14mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第60・62・63号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東部が第60・63号住居に掘り込まれ、南西部が第62号住居に掘り込まれ、さらに調査区域外に延びているため、南北軸は5.36mで、東西軸は5.00mしか確認できなかった。平面形は方形または長方形で、主軸方向はN-18°-Wと推定できる。壁高は16～23cmで、外傾して立ち上がっている。



第69図 第55号住居跡実測図



第70図 第55号住居跡・出土遺物実測図

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。西側の壁溝から P 3に向かって、幅 12 ~ 17cm、長さ 115 ~ 135cm、深さ 5 ~ 7cm で断面形が皿状の間仕切り溝 2 条と、P 2 の北東に、幅 17 ~ 34cm、長さ 95cm、深さ 8cm で断面形が皿状の間仕切り溝 1 条を確認した。貼床は、全面を均一に掘り込み、ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子を含む第 7 ~ 8 層を埋土して構築されている。

竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 144cm である。煙道部幅は 47cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 8 ~ 14 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 5cm 堀り込んで、ローム粒子、砂質粘土粒子を含んだ第 15 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 12cm 堀り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

遺土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	6 灰褐色	砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
2 紺褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	7 灰褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3 紺褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8 紺褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子微量
4 紺赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	9 紺褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量
5 紺赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	10 紺褐色	砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
		11 紺褐色	砂質粘土ブロック中量、炭化粒子微量
		12 紺褐色	砂質粘土ブロック少量、焼土粒子微量
		13 灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量
		14 紺褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量
		15 紺褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量

ピット 7か所。P 1 ~ P 3 は深さ 70 ~ 74cm で、規模と配置から主柱穴である。P 4 ~ P 7 は深さ 6 ~ 20cm で、性格は不明である。

覆土 6 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第 7 ~ 8 層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子中量	6 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量	7 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量		
5 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量		

遺物出土状況 土師器片 206 点（坏 37、碗 13、高杯 1、壺 4、甕類 149、小形甕 1、ミニチュア土器 1）、土製品 1 点（土玉）、石器 1 点（砥石）、石製品 1 点（白玉）が出土している。また、貼床の構築土内から土師器片 22 点（坏 5、甕類 17）が出土している。そのほか、混入した陶器片 3 点（碗 2、急須 1）、磁器片 1 点（碗）も出土している。165 は竈の右袖部、164 は竈の左袖部の補強材として、ともに火床部の構築土上に逆位の状態で据えられていた。Q 19 は竈の右袖部上から出土している。163 は南部の覆土下層から出土している。DP52・Q18 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 6 世紀中葉に比定できる。

第 55 号住居跡出土遺物観察表（第 70 回）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
163	土師器	坏	[14.4]	4.7	-	長石・石英、 珪理	にぶい黄褐	普通	口縁部・内面横ナギ、 内部外面横位のヘラ削り	覆土下層	40%	
164	土師器	甕	17.6	(18.6)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・内面横ナギ、 内部外面横位のヘラ削り 内面ヘラナ・工具痕	竈次火床部 構築土上	40%	PL34
165	土師器	小形甕	13.0	17.6	4.5	長石・石英、 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・内面垂ナギ、 体部外面横位のヘラ削り	竈次火床部 構築土上	90%	PL23

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DPS2	土玉	23 ~ 29	21	06 ~ 07	11.1	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL41
Q 18	砾石	(10.4)	6.3	(28)	(177)	凝灰岩	砥面2面	覆土中	
Q 19	白玉	1.0	0.6	0.3	0.9	滑石	全面研磨 四角状 一方向からの穿孔	覆石塀部上	PL45

第60号住居跡（第71・72図）

位置 調査区東部のF 15d1区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第61号住居跡を掘り込み、第56号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.36m、短軸5.06mの方形で、主軸方向はN-38°-Wである。壁高は22~30cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、墻際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。北壁の壁溝とP 2の間に、幅13~15cm、長さ95cm、深さ7cmで、断面形が皿状の間仕切り溝1条を確認した。

竈 北西壁の南西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで123cmで、燃焼部幅は29cmである。補部は砂質粘土を主体とした第28・29層を積み上げて構築されている。火床部は床面を8cm掘り込んで、ローム粒子、焼土粒子を含んだ第30・31層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変化している。煙道部は壁外へ35cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	ローム粒子微量	17	にふく褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
2	褐色	ローム粒子微量	18	にふく褐色	ローム粒子少量
3	灰褐色	砂質粘土粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	19	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量	20	暗褐色	焼土ブロック微量
5	灰褐色	砂質粘土粒子中量	21	暗赤褐色	焼土粒子少量
6	暗褐色	ロームブロック微量、焼土粒子・炭化粒子微量	22	暗褐色	焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量
7	褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量	23	暗褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量
8	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	24	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
9	灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量	25	褐色	焼土粒子微量
10	灰褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量	26	にふく褐色	焼土粒子少量
11	赤褐色	焼土粒子中量	27	暗赤褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
12	暗赤褐色	焼土粒子少量	28	にふく褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量
13	灰褐色	砂質粘土粒子少量	29	黒褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
14	灰褐色	ロームブロック微量、炭化物・焼土粒子微量	30	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量
15	暗赤褐色	焼土粒子微量	31	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
16	暗褐色	ローム粒子微量			

ピット 7か所。P 1~P 4は深さ32~47cmで、規模と配置から主柱穴である。P 5・P 6は深さ15cm・28cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 7は深さ41cmで、性格は不明である。

覆土 14層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

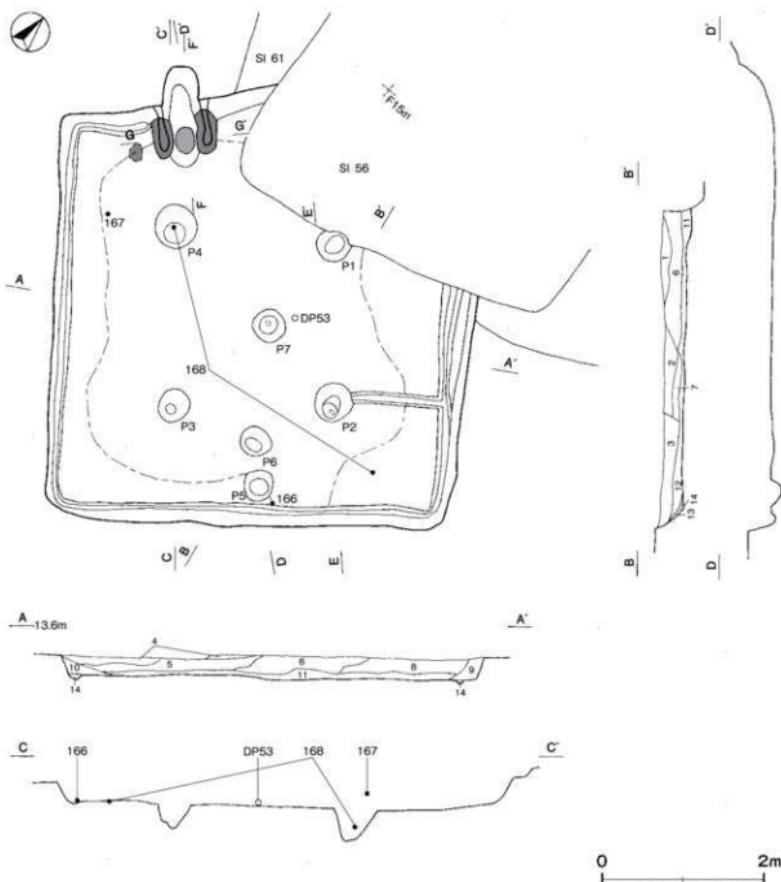
1	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	6	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子中量	8	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック微量	9	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	ロームブロック微量

11 暗褐色 ローム粒子中量、焼土ブロック・炭化粒子微量
12 黒褐色 ローム粒子微量

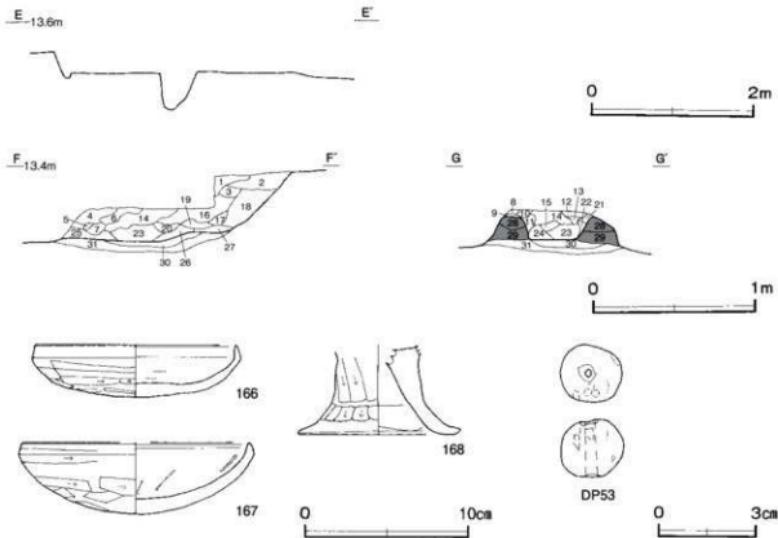
13 暗褐色 ローム粒子微量
14 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 203 点（壺 31, 梶 1, 高杯 1, 壺類 169, 瓶 1）、須恵器 5 点（壺）、土製品 1 点（土玉）、石器 1 点（砥石）、焼成粘土塊 1 点、鐵滓 2 点（616g）が出土している。そのほか、混入した縄文土器片 5 点（深鉢）も出土している。168 は東コーナー部の床面と P 4 覆土中層から出土した破片が接合したものである。DP53 は中央部、166 は出入り口付近の覆土下層からそれぞれ出土している。167 は P 4 付近の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。



第 71 図 第 60 号住居跡実測図



第72図 第60号住居跡・出土遺物実測図

第60号住居跡出土遺物観察表（第72図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
166	土師器	环	12.4	33	-	長石・石英	にぼい黄度	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	覆土下層	60%
167	土師器	环	[142]	44	-	長石・石英・云母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り	覆土中層	40%
168	土師器	高环	-	(56)	9.7	長石・石英	褐灰・黒	普通	胎部外面横位のヘラ削り 内面横位のヘラ削り	P 4 覆土中層	50%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP53	土玉	19	18	0.2~0.3	6.2	長石	ナデ 指頭擦痕 一方から穴孔	覆土下層	PL41

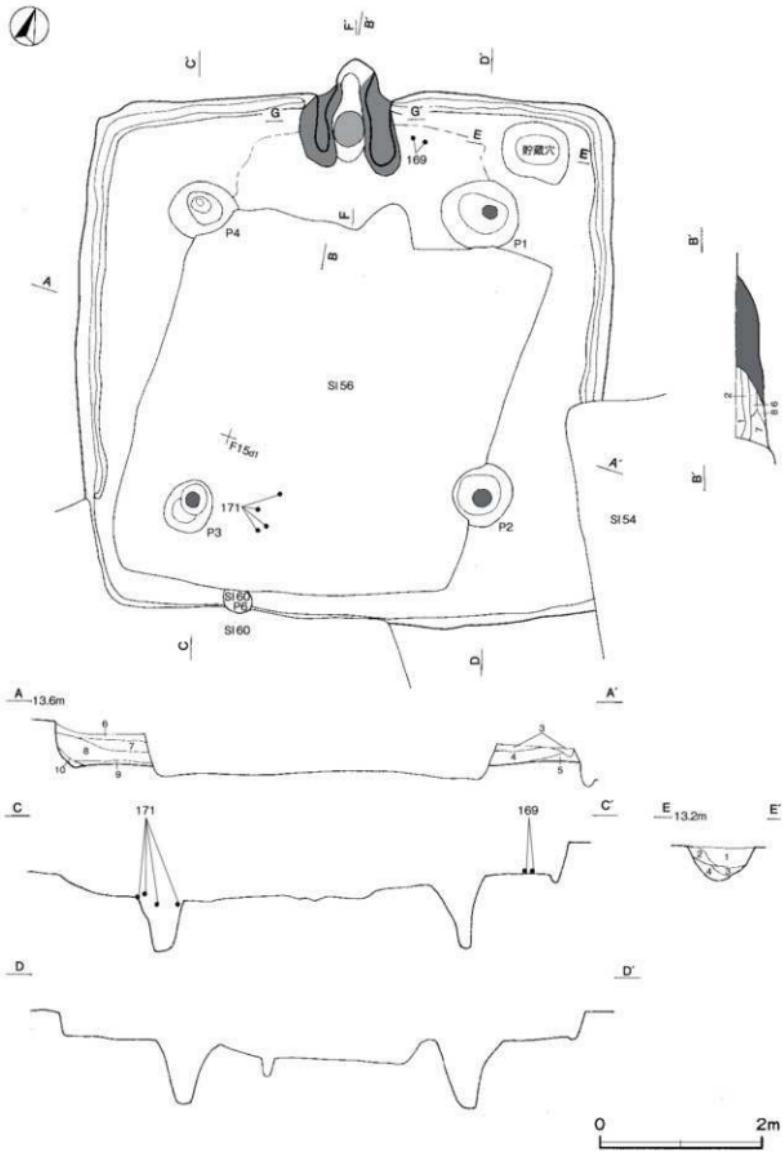
第61号住居跡（第73・74図）

位置 調査区東部のF 15c1区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

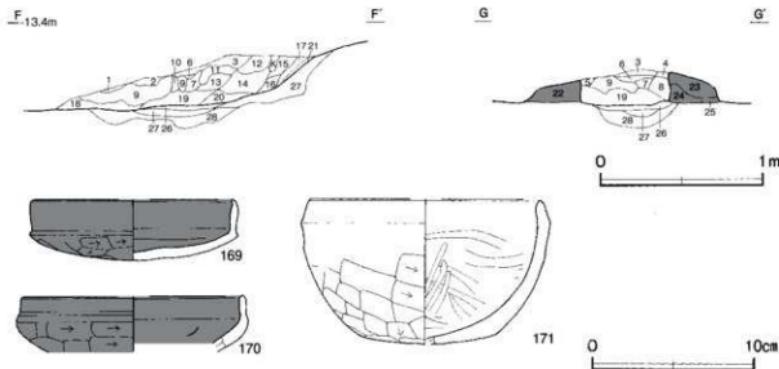
重複関係 第54・56・60号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.56m、短軸6.52mの方形で、主軸方向はN-20°-Wである。壁高は24~32cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部を第56号住居跡に掘り込まれているため、竈の前面のわずかに遺存している部分のみが踏み固められていることを確認した。北壁下と東壁・西壁下の一部には壁溝が巡っている。



第73図 第61号住居跡実測図



第74図 第61号住居跡・出土遺物実測図

竈 北壁のほぼ中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで130cmで、燃焼部幅は42cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第22～25層を積み上げて構築されている。火床部は床面を12cm掘り込んで、焼土粒子を含んだ第26～28層を埋めて構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は煙外へ42cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	灰	褐色	砂質粘土粒子少量	16	黒	褐色	燒土粒子・炭化粒子微量
2	暗	褐色	砂質粘土粒子少量、燒土粒子微量	17	暗	褐色	ローム粒子・燒土粒子微量
3	暗	褐色	燒土粒子微量	18	黒	褐色	燒土粒子微量
4	黒	褐色	ローム粒子・燒土粒子・砂質粘土粒子微量	19	暗	赤褐色	ローム粒子・燒土粒子・砂質粘土粒子微量
5	灰	褐色	砂質粘土ブロック少量	20	黒	褐色	燒土粒子少量
6	黒	褐色	ローム粒子・燒土粒子微量	21	暗	赤褐色	燒土粒子少量・炭化粒子少量
7	黒	褐色	燒土粒子少量、ローム粒子微量	22	灰	褐色	砂質粘土粒子中量
8	灰	褐色	燒土粒子少量、砂質粘土粒子微量	23	にふい	褐色	砂質粘土ブロック中量、燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
9	灰	褐色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子微量	24	暗	褐色	燒土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
10	暗	褐色	燒土粒子少量、砂質粘土ブロック微量	25	暗	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
11	暗	褐色	砂質粘土粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	26	暗	赤褐色	燒土粒子少量、炭化粒子微量
12	暗	褐色	砂質粘土粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	27	にふい	赤褐色	燒土粒子中量
13	灰	黄色	砂質粘土粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	28	にふい	赤褐色	ローム粒子・燒土粒子微量
14	暗	褐色	炭化粒子少量、燒土ブロック・砂質粘土粒子微量				
15	黒	褐色	炭化粒子少量、燒土粒子微量				

ピット 4か所。P 1～P 4は深さ69～94cmで、規模と配置から主柱穴である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径85cm、短径75cmの不整楕円形で、深さは43cmである。底面は皿状にくぼんでおり、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗	褐色	ローム粒子少量、燒土粒子微量	3	褐	褐色	ローム粒子微量
2	暗	褐色	ローム粒子微量	4	褐	褐色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量

覆土 10層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗	褐色	ロームブロック・燒土粒子微量	6	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗	褐色	ローム粒子少量、燒土粒子微量	7	褐	褐色	砂質粘土粒子少量・燒土粒子微量
3	黒	褐色	ローム粒子少量、燒土ブロック微量	8	暗	褐色	砂質粘土粒子少量・燒土粒子微量
4	暗	褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	9	褐	褐色	ローム粒子中量
5	暗	褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	10	暗	褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 161 点（坏 37, 椽 1, 壺類 122, 甌 1）, 須恵器片 7 点（坏 3, 壺類 4）, 鉄滓 2 点（262g）が出土している。そのほか、混入した繩文土器片 5 点（深鉢）も出土している。169 は竈の東側の床面から出土した破片が接合したものである。171 は P 3 付近の床面からまとまって出土した破片が接合したものである。170 は覆土中と貯蔵穴の覆土中から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。

第 61 号住居跡出土遺物観察表（第 74 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
169	土師器	坏	[124]	37	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい茶褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外表面ハラ削り	床面	60%
170	土師器	坏	[126]	(34)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外表面横泣のハラ削り	覆土中, 貯蔵穴覆土中	10%
171	土師器	椀	[140]	89	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外表面斜泣のハラ削り 内面横泣	床面	50%

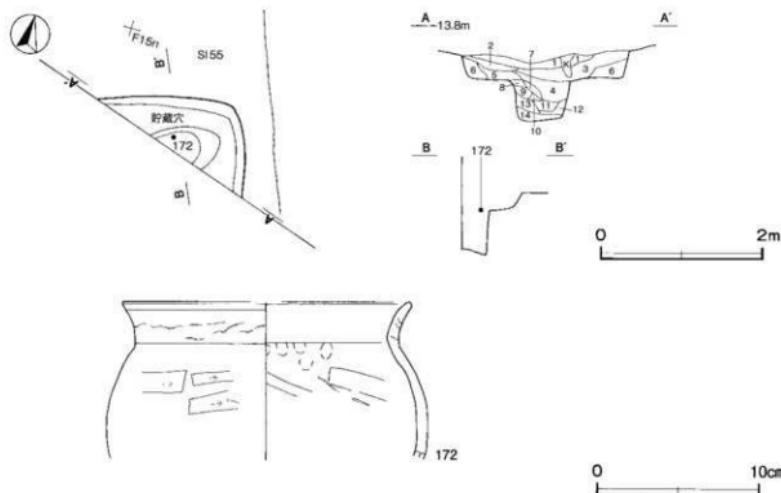
第 62 号住居跡（第 75 図）

位置 調査区東部の F 15fl 区、標高 14 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第 55 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 大半が調査区域外へ延びており、東西軸は 1.55 m で、南北軸は 1.10 m しか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向は N - 17° - W と推定できる。壁高は 18 ~ 32cm で、外傾して立ち上がりっている。

床 確認できた面はほぼ平坦で、踏み固められた痕跡は確認できなかった。



第 75 図 第 62 号住居跡・出土遺物実測図

貯蔵穴 北東コーナー部に位置し、南西部が調査区域外へ伸びている。平面形は、梢円形と推定でき、深さは50cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 14層に分層できる。第1～6層が覆土で、第7～14層は貯蔵穴の覆土である。いずれも不規則な堆積状況を示しており、埋め戻されている。

住居・貯蔵穴土層解説

1 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・少量、砂質粘土粒子微量	9 暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	焼土ブロック少量、砂質粘土ブロック微量	10 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
5 暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・砂質粘土粒子微量	12 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	13 黒褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7 黑褐色	焼土ブロック少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量	14 黑褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量

遺物出土状況 土師器片17点（环2、壺2、甕類13）、須恵器片2点（环）、輕石2点が出土している。そのほか、混入した陶器片2点（碗）も出土している。172は貯蔵穴の覆土中層から出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から6世紀後葉以降と見られる。

第62号住居跡出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
172	土師器	甕	[126]	(9.7)	-	長石・石英	褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ、体部外面横位のヘラ削り、内面横位のヘラナデ	近畿六甕土器層	5%

第63号住居跡（第76図）

位置 調査区東部のF15e2区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第55号住居跡に掘り込み、第57号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.80m、短軸4.62mの方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁高は2～18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、四隅を土坑状に掘り込み、ローム粒子、炭化粒子、砂質粘土粒子を含む第10・11層を埋土して構築されている。

竈 北西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで126cmで、煙道部幅は23cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第14～16層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ20cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	焼土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	11 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	12 暗褐色	焼土粒子中量、ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量	13 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4 にい褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	14 にい褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	15 にい褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	16 にい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
7 暗褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子微量		
8 灰白色	焼土粒子・ローム粒子微量		
9 暗褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量		
10 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量		

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ37～52cmで、規模と配置から主柱穴である。P 5は深さ24cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

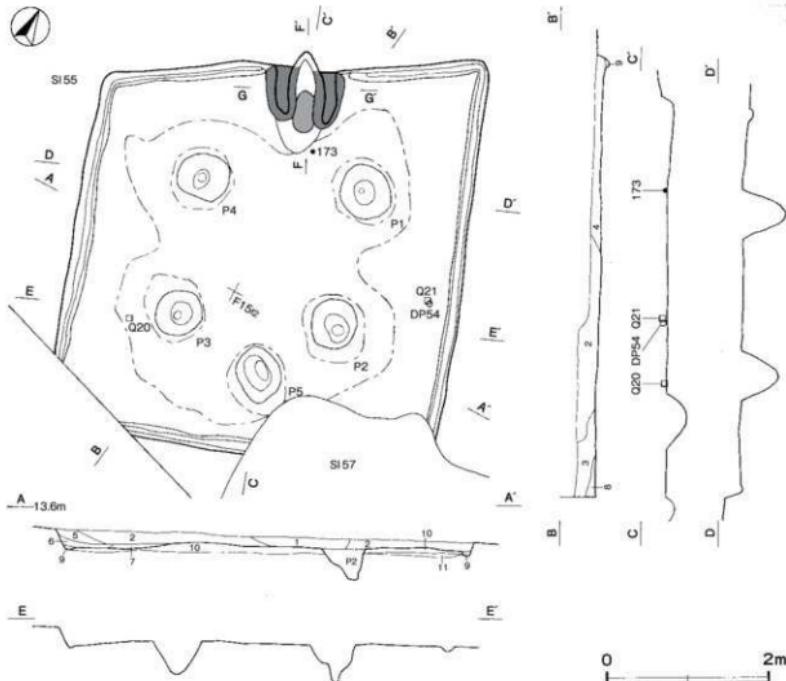
覆土 9層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第10・11層は貼床の構築土である。

土層解説

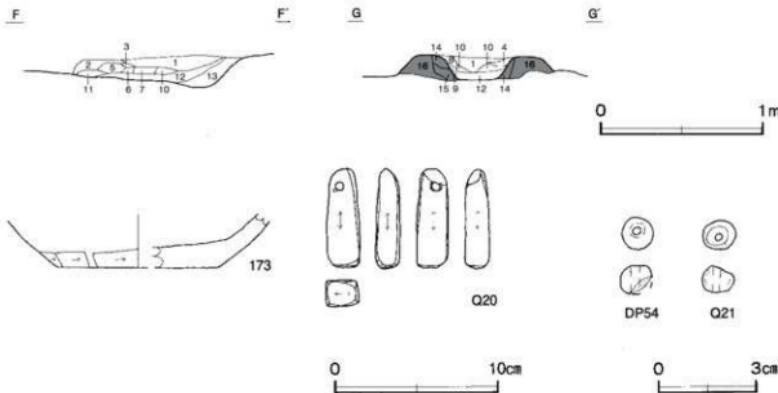
1 黒褐色 ローム粒子微量	6 黒褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3 暗褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	8 暗褐色 ローム粒子・砂質粘土粒子微量
4 暗褐色 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	9 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色 ローム粒子微量	10 暗褐色 ローム粒子中量
	11 暗褐色 ローム粒子多量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片64点(环17, 壺類47), 須恵器片9点(环5, 盖3, 壺類1), 土製品1点(土玉), 石器1点(砥石), 石製品2点(白玉), 軽石1点, 鉄滓6点(50g)が出土している。そのほか, 混入した縄文土器片2点(深鉢), ナイフ形石器1点, 刃片2点も出土している。173は竈の前, DP54・Q 21は東壁下, Q 20はP 3付近の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、重複関係や出土土器から6世紀後葉以降と見られる。



第76図 第63号住居跡実測図



第77図 第63号住居跡出土遺物実測図

第63号住居跡出土遺物観察表（第77図）

番号	種別	器種	口径	器高	底様	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
173	土器	甕	-	(3.3)	[16.0]	長石・石英・ 透母	灰褐色	普通	体部下面下端へ向かう削り	床面	5%
<hr/>											
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
DP54	土玉	1.0	0.8	0.2	(0.9)	長石・石英	ナゲ	一部欠損	一方向からの穿孔	居住構築土内	
<hr/>											
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
Q20	砾石	6.1	2.0	1.5	30.3	凝灰岩	白	普通	平面長方形 一部欠損 破面5面 一方向からの穿孔	床面	PL44
<hr/>											
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
Q21	臼玉	1.0	0.8	0.2	1.0	滑石	白	普通	全面研磨 四角状 一方向からの穿孔	床面	PL45

表3 古墳時代住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規 模		壁 高 (cm)	床面	焼構	内 部 施 設			覆土	主な出土遺物	時 期	備 考 重複関係(古→新)	
				長軸×短軸(m)	幅(m)				通気孔	玄関口	ドア					
2	G10g0	〔方形、 長方形〕	N - 30° - W	(2.65) × (1.50)	25 - 32	平坦	一部	I	-	-	竪I	-	人為	土器器	6世紀中期	
3	F11b	〔方形、 長方形〕	N - 32° - W	(3.57) × (3.20)	46 - 61	平坦	一部	I	-	-	竪I	1	人為	土器器、土製品	6世紀後半	
6	G11a2	〔方形、 長方形〕	N - 31° - W	5.18 × (2.36)	32 - 40	平坦	一部	2	I	-	-	人為	土器器	7世紀初期		
10	E128	方形	N - 28° - W	4.58 × 4.32	16 - 28	平坦	〔はげ 全周〕	1	-	手2	1	人為	土器器、土製品	4世紀後半	本跡→SE1. SD3	
11	E128	方形	N - 27° - W	7.86 × 7.28	8 - 34	平坦	全周	4	I	-	竪I	1	人為	土器器、土製品	5世紀後半 6世紀初期	
12	E12e5	方形	N - 21° - W	5.65 × 5.55	42 - 50	平坦	〔はげ 全周〕	4	2	I	竪I	1	人為	土器器、土製品	6世紀後半	
16	E12H1	〔方形、 長方形〕	N - 15° - W	(3.60) × (3.50)	25 - 27	平坦	一部	I	I	-	-	人為	土器器	6世紀中期		
18	D12h5	〔方形、 長方形〕	N - 26° - W	(3.80) × (3.56)	4 - 23	平坦	一部	I	I	-	-	自然	土器器	5世紀後半- 6世紀初期		
19	E12e3	長方形	N - 33° - W	4.60 × 3.82	13 - 17	平坦	一部	-	I	-	手I	1	人為、 自然	土器器	4世紀後半	本跡→SD20
20	E12b4	方形	N - 35° - W	7.40 × 7.35	30 - 45	平坦	全周	4	I	2	竪I	1	人為、 自然	土器器、 土製品	5世紀後半- 6世紀初期	SK19-21 → 本跡+ SK21. SD3

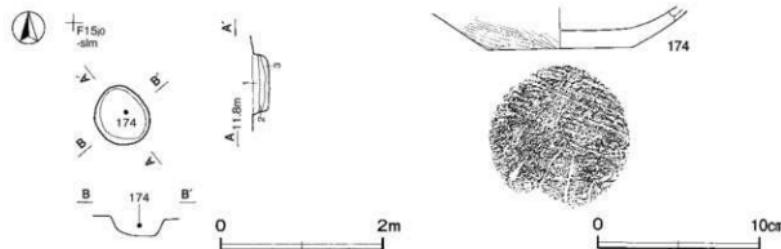
番号	位置	平面形状	主軸方向	規 模		壁 高 (cm)	床面	壁溝	内 部 施 設				覆 土	主な出土遺物	時 期	備 考
				長径 × 短径 (m)	cm)				主穴	北入口	ピッタ	炉・壺	若窓穴			
21	D124	方形	N - 63° - E	5.55 × 5.40	12 - 22	平坦	ほぼ全周	4	1	-	炉1	1	人為	土器器	4世紀後葉	本跡 → SK20
22	E126	隅丸方形	N - 21° - W	4.77 × 4.62	5 - 39	平坦	全周	4	2	-	爐1	-	人為	土器器、須恵器、土製品	6世紀中葉	SK23 → 本跡
23	E126	長方形	N - 17° - W	3.65 × 3.31	5 - 12	平坦	ほぼ全周	-	-	1	-	-	自然	土器器、土製品	4世紀代	本跡 → SK22
24	E129	長方形	N - 32° - W	3.60 × 3.16	20 - 29	平坦	-	-	2	炉1	1	人為	土器器、土製品	4世紀後葉	本跡 → SD3	
25	E125	[方形, 長方形]	N - 18° - W	3.60 × (2.85)	12 - 15	平坦	一部	-	-	1	炉1	-	自然	土器器	5世紀前葉	本跡 → SK29
26	E129	[方形, 長方形]	N - 33° - W	(2.65) × (1.50)	48 - 60	平坦	一部	-	-	-	-	-	人為	土器器	4世紀代	
27	E126	隅丸方形	N - 20° - W	4.97 × 4.93	25 - 48	平坦	ほぼ全周	4	2	3	爐1	1	人為	土器器、土製品 石製品	6世紀後葉	本跡 → SK3
28	E14g1	長方形	N - 19° - W	4.73 × 4.06	9 - 17	平坦	全周	2	1	-	爐1	1	人為	土器器、土製品	6世紀後葉	本跡 → SK54
32	E143	方形	N - 32° - W	8.39 × 8.32	4 - 22	平坦	ほぼ全周	4	1	4	炉1	1	人為	土器器	5世紀末 - 6世紀初頭	本跡 → SD1-35
34	E143	[方形, 長方形]	N - 25° - W	5.85 × (1.95)	20 - 30	平坦	ほぼ全周	2	-	-	-	-	自然	土器器、土製品	7世紀代	本跡 → PG69P14
35	E142	[方形, 長方形]	N - 3° - E	4.48 × (2.26)	22	平坦	一部	-	-	爐1	-	-	自然	土器器、鐵製器	7世紀後葉	SD2 → 本跡 → SK33
38	F14b4	[方形]	N - 31° - W	7.18 × (3.80)	26 - 44	平坦	全周	2	-	爐1	-	人為	土器器、土製品 石製品	6世紀後葉	本跡 → SK67, PG894	
39	E147	[方形, 長方形]	N - 55° - W	8.93 × (7.28)	10 - 43	平坦	一部	6	1	2	炉1	1	人為	土器器、土製品 石製品	5世紀末 - 6世紀初頭	本跡 → SK64-65-69
41	E140	方形	N - 30° - W	9.62 × 9.62	16 - 60	平坦	一部	11	1	2	爐1	1	人為	土器器、須恵器、 鐵製品	5世紀後葉	本跡 → SD2-43, PG976
46	E153	方形	N - 37° - W	4.54 × 4.49	48 - 70	平坦	全周	4	1	2	爐1	1	人為	土器器	6世紀後葉	本跡 → SK45
48	F14b8	方形	N - 17° - W	5.35 × 5.15	52 - 57	平坦	全周	4	1	-	-	1	人為	土器器、須恵器、 土製品	6世紀後葉	本跡 → SH7, SK90
50	F14d7	[方形, 長方形]	N - 40° - W	6.80 × (6.76)	36 - 60	平坦	-	2	2	-	爐1	1	自然	土器器、土製品 石製品	7世紀後葉	
54	F15c2	方形	N - 30° - W	5.50 × 5.30	25 - 50	平坦	ほぼ全周	4	1	-	爐1	1	人為	土器器、土製品 石製品	6世紀後葉	SE1 → SK8-5K8-9
55	F14e0	[方形, 長方形]	N - 18° - W	5.36 × (5.00)	16 - 23	平坦	一部	3	-	4	爐1	1	人為	土器器、土製品 石製品	6世紀後葉	本跡 → SK62-63
60	F15d1	[方形]	N - 38° - W	5.36 × 5.06	22 - 30	平坦	全周	4	2	1	爐1	-	人為	土器器、土製品	7世紀前葉	SE1 → 本跡 → SE6
61	F15c1	方形	N - 20° - W	6.56 × 6.52	24 - 32	平坦	一部	4	-	-	爐1	1	人為	土器器	6世紀後葉	本跡 → SK4-56-6
62	F15d1	[方形, 長方形]	N - 17° - W	(1.55) × (1.00)	18 - 32	平坦	-	-	-	-	-	1	人為	土器器	6世紀後葉	SK55 → 本跡
63	F15e2	方形	N - 23° - W	4.80 × 4.62	2 - 18	平坦	全周	4	1	-	爐1	-	人為	土器器、土製品 石製品	6世紀後葉	SK55 → 本跡 → SE7

(2) 土坑

第 19 号土坑 (第 78 図)

位置 調査区南東部のF15j0区。標高11mの台地上から低地に向かう斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.74m、短径0.68mの円形である。深さは22cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。



第 78 図 第 19 号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------|
| 1 黒 開 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒 色 ローム粒子微量 |
| 2 黒 色 焼土粒子・砂質粘土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片4点（碗1、甕類3）が出土している。174は中央部からやや北寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀代と見られる。

第19号土坑出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	基盤	口径	基高	底径	胎 土	色 調	燒成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
174	土師器	甕	-	(25)	88	貝母・石美・ 基母	にぶい褐色	普通	体部外面斜位のヘラ削き 底部木製模・ヘラ削き	覆土中層	10%

第75号土坑（第79図）

位置 調査区東部のE 14j6区、標高14mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.56m、短径1.38mの楕円形で、長径方向はN-33°-Wである。深さは25cmで、底面は平坦である。底面の北西部に長径35cm、短径25cmの楕円形で、深さ67cmのピット状の掘り込みを確認した。壁は外傾して立ち上がってている。

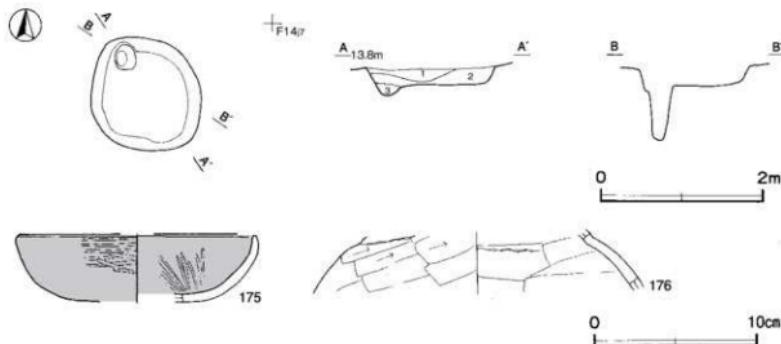
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 黒 開 色 ロームブロック少量 | 3 黒 開 色 ロームブロック微量 |
| 2 黒 開 色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 土師器片19点（碗1、甕1、甕類17）、須恵器片1点（瓶）、鉄滓3点（29g）が出土している。175・176は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から5世紀末から6世紀初頭とみられる。



第79図 第75号土坑・出土遺物実測図

第75号土坑出土遺物観察表（第79図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
175	土師器	环	[14.4]	(4.2)	—	長石・石英	赤褐色	普通	体部外表面位のヘラ磨き 内面継位のヘラ磨き	覆土中	10%
176	土師器	壺	—	(3.9)	—	長石・石英・云母	橙	普通	体部外表面位のヘラ削り 内面ヘラナード	覆土中	10%

表4 古墳時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	横面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
19	F15b9	—	円形	0.74 × 0.68	22	亂状	外傾	人骨	土師器	
75	E14b6	N-33°-W	椭円形	1.56 × 1.38	25	平坦	外傾	人骨	土師器、須恵器、鉢	重複関係(古→新)

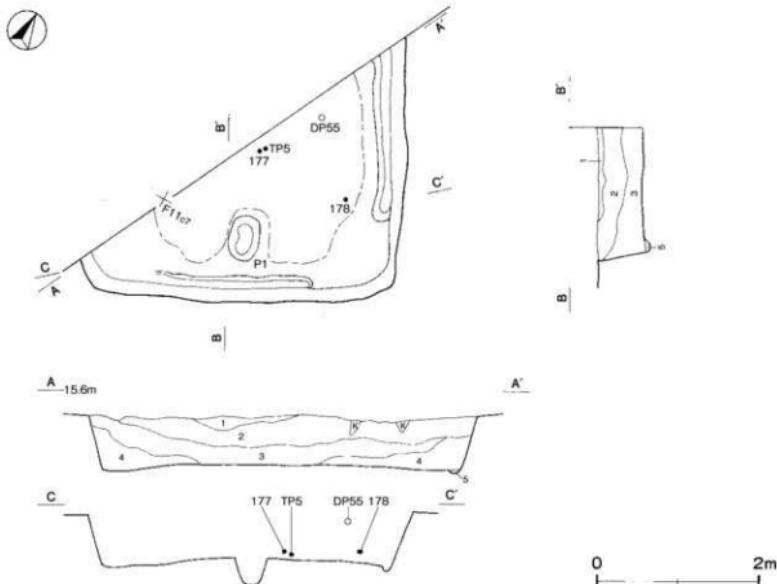
3 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡27軒、土坑4基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

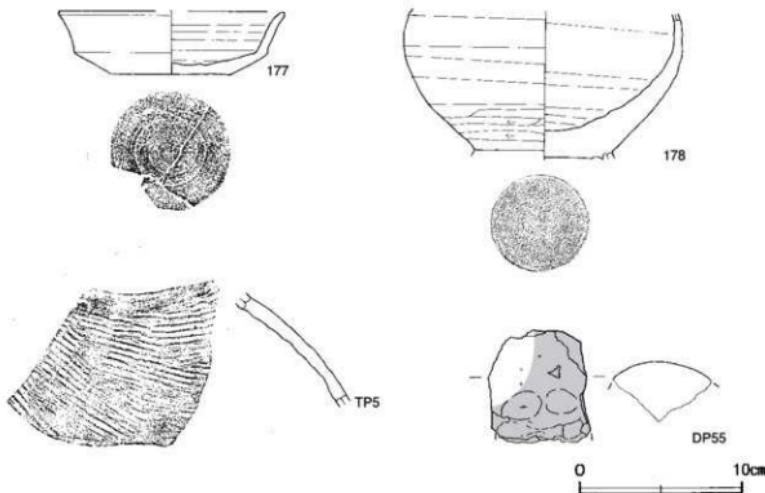
(1) 竪穴住居跡

第4号住居跡（第80・81図）

位置 調査区南西部のF 11b7区、標高16mの平坦な台地上に位置している。



第80図 第4号住居跡実測図



第81図 第4号住居跡出土遺物実測図

規模と形状 西部が調査区域外へ延びているため、北東・南西軸は3.84mで、北西・南東軸は3.04mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向はN-23°Wと推定できる。壁高は58~65cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。北東と南東の壁下には壁溝が巡っている。

ピット 深さ36cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 5層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	4 黑褐色 ローム粒子中量、燒土ブロック・炭化物微量
2 細褐色 ローム粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量	5 細褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
3 細褐色 ローム粒子少量、炭化物・燒土粒子微量	

遺物出土状況 土師器片422点(环36, 高台付环3, 壺類383), 須恵器片147点(环128, 壺1, 壺類18), 土製品1点(支脚), 鉄製品2点(不明2), 焼成粘土塊1点, 鉄滓33点(1577g)が、全面の覆土中層から床面にかけて出土している。177・TP5は中央部, 178は東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。DP55は中央部の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。

第4号住居跡出土遺物観察表(第81図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
177	須恵器	环	[138]	39	7.4	長石・石英	灰白	普通	体部下端ナデ 底部回転ヘラ削り	覆土下層	50%
178	須恵器	大口壺	-	(9.2)	-	長石・石英、雲母	青灰	普通	体部下端回転ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土下層	40% PL38

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP5	須恵器	壺	長石・石英	青灰	体部外面横筋の平行叩き 内面ナデ 当て具痕	覆土下層	

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP55	支脚	(7.1)	(4.3)	(6.1)	(140)	長石・石英・赤色粒子	ナデ一部欠損 腹頭圧痕 被熱痕	覆土上層	

第4号住居跡出土鉄滓計測表

	特大 (長径 10cm以上)	大 (長径 4cm以上 10cm未満)	中 (長径 1cm以上 4cm未満)	小 (長径 1cm未満)	合計
点数	-	5	9	19	33
重量 (g)	-	1.250	225	102	1.577

第5号住居跡 (第82・83図)

位置 調査区南西部のE 11j8区。標高16mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東部及び西部が調査区域外へ延びているため、南北軸は3.58mで、東西軸は3.15mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形と推定でき、主軸方向はN-10°-Eである。壁高は55-65cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、竈付近が踏み固められている。竈の東側と南西コーナー部の壁下で壁溝を確認した。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで140cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第11層を積み上げて構築されている。火床部は床面より5cmほどくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ20cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7 暗褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量・炭化物微量	8 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子少量・炭化物微量
3 灰褐色 ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量・炭化粒子微量	9 黒褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4 暗褐色 砂質粘土粒子中量・ロームブロック・焼土粒子少量・炭化粒子微量	10 暗褐色 ロームブロック中量・砂質粘土粒子微量
5 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量・炭化粒子微量	11 暗黄褐色 砂質粘土ブロック中量・ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	

ピット 2か所。P 1は深さ23cmで、規模と配置から主柱穴である。P 2は深さ19cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

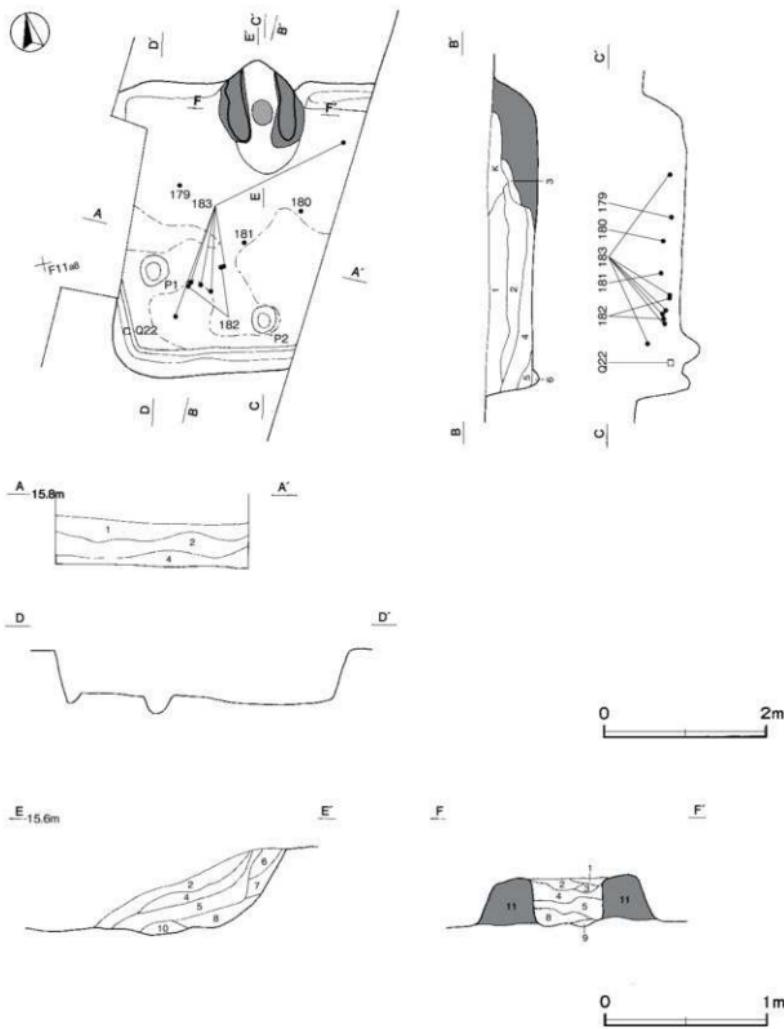
覆土 6層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

覆土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量・焼土粒子微量	4 暗褐色 ローム粒子中量・炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	5 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
3 灰褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色 ロームブロック少量・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片444点(壺47, 壺4, 麦類389, 瓶3, ミニチュア土器1), 領憲器片113点(壺90, 盖5, 瓶6, 麦類12), 土製品1点(支脚), 石器1点(紡錘車), 鉄製品1点(鐵), 鉄滓14点(358g)が、全面の覆土中層から床面にかけて出土している。179は西部, Q 22は南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。180・181は中央部, 182は南東部の覆土中層からそれぞれ出土している。183は北部と南西部の覆土中層から出土した6点の小片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



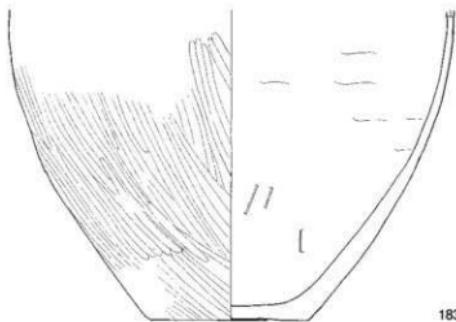
第82図 第5号住居跡実測図



181



182



183



Q22



第83図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
179	頸甌器	环	13.2	4.0	7.5	長石・石英・ 基母	浅黄	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層	80% PL36
180	頸甌器	环	13.4	4.1	7.8	長石・石英	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土中層	90% PL36
181	頸甌器	环	14.3	4.1	8.0	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土中層	80% PL36
182	土師器	甌	[21.6]	[21.2]	-	長石・石英・ 滑母	灰ぶい場	普通	口縁部外・内面裏ナデ 体部外面擦痕ヘラ削き	覆土中層	20%
183	土師器	甌	-	(19.3)	9.6	長石・石英・ 滑母	灰ぶい場	普通	体部外面斜傾位のヘラ削き 内面工具痕	覆土中層	30%

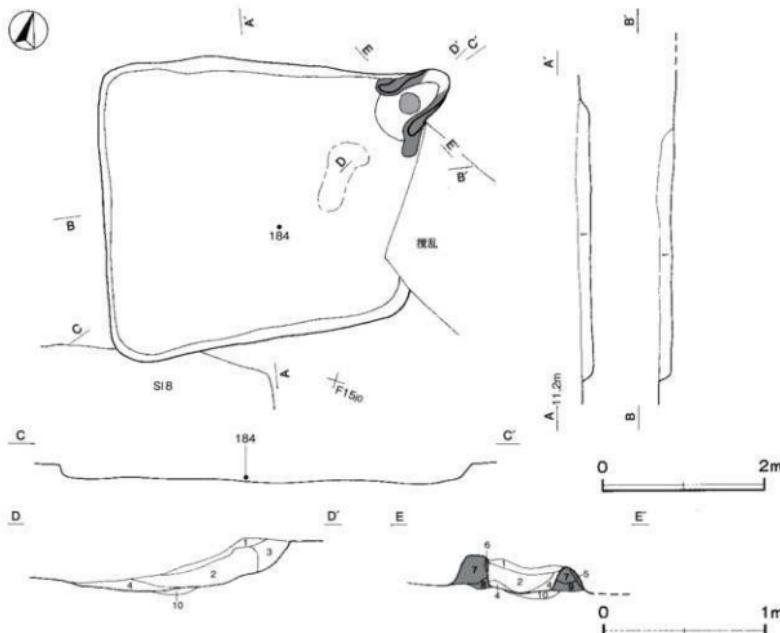
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 22	粘土鉢	4.5	2.3	0.8	77.8	純紋岩	全面研磨 幾何圖案状の線刻文 一方向からの穿孔	覆土下層	PL45

第7号住居跡（第84・85図）

位置 調査区南東部のF 15i9 区、標高 11 m の低地に向かう斜面部に位置している。

重複関係 第8号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.72 m、短軸 3.49 m の方形で、長軸方向は N - 32° - E である。壁高は 18 ~ 23 cm で、外傾して立ち上がっている。



第84図 第7号住居跡実測図

床 平坦で、窓の前面が踏み固められている。

窓 北東コーナー部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 104cmで、燃焼部幅は 35cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第5～9層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 5cm掘り込んで、焼土ブロックを含んだ第10層を埋土して構築している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 20cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

窓土層解説

1 黑 褐 色 焼土ブロック・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	6 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗 赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	7 にぶい褐色 焼土ブロック・砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量
3 極暗褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8 極暗赤褐色 砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
4 黑 褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量	9 黑 褐 色 砂質粘土粒子・黑色粒子中量、焼土粒子微量
5 極暗褐色 焼土粒子・砂質粘土粒子・黑色粒子中量、焼土粒子微量	10 黑 褐 色 焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量

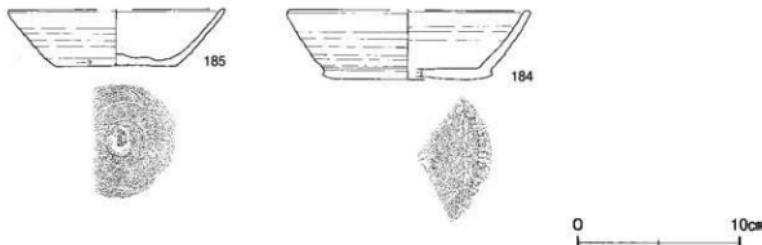
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黑 褐 色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況 土師器片 89 点（壺 24、高壺 1、甕 61、瓶 3）、須恵器片 14 点（壺 12、蓋 1、甕 1）、鉄滓 8 点（196g）が出土している。そのほか、流れ込んだ繩文土器片 4 点（深鉢）も出土している。184 は中央部の覆土下層から出土している。185 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。



第 85 図 第 7 号住居跡出土遺物実測図

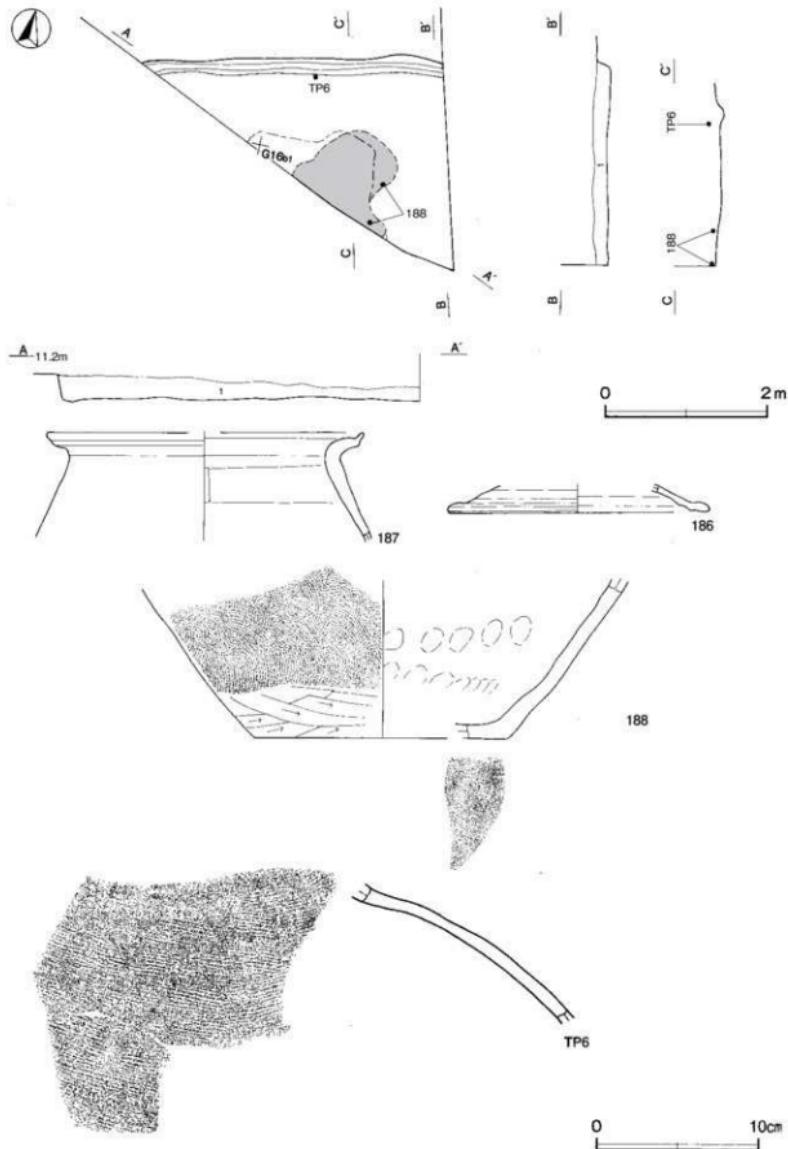
第 7 号住居跡出土遺物観察表（第 85 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
184	須恵器	壺	[148]	43	[104]	長石・石英	黄灰	普通	底部多方向のヘラ削り	覆土下層	25%
185	須恵器	壺	[134]	35	74	長石・石英	黄灰	普通	体部下端・底部削軋・ヘラ削り	覆土中	25%

第 9 号住居跡（第 86 図）

位置 調査区南東部の G 15a0 区、標高 11 m の低地に向かう斜面部に位置している。

確認状況 調査区域の端部で確認したため、北壁の一部しか確認できなかった。



第86図 第9号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 大半が調査区域外へ延びているため、東西軸は3.70 m、南北軸は2.50 mしか確認できなかった。壁高は15~28cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、北壁の南側が踏み固められている。北壁下に壁溝を確認した。床面上に、焼土の広がりを検出した。

覆土 単一層である。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土器片216点(坏43、壺類170、瓶3)、須恵器片65点(坏23、蓋3、壺類39)、鉄滓186点(6076g)が出土している。そのほか、流れ込んだ繩文土器片7点(深鉢)も出土している。188は南東部の覆土下層から出土している。TP 6は北部の覆土中層から出土している。187・186は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。硬化面上で検出した焼土は、床面が火を受けて赤変していないことから、住居廃絶の際に投棄されたものとみられる。

第9号住居跡出土遺物観察表（第86図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
186	須恵器	蓋	[15.8]	(16)	—	長石・石英・雲母	灰	普通	天井部ロクロナデ		覆土中	10%
187	土器	甕	[19.4]	(6.7)	—	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ・工具痕		覆土中	10%
188	須恵器	甕	—	(9.7)	[15.6]	長石・石英・雲母・細塵	黄灰	普通	体部斜向凹状の叩き 下端回転ヘラ削り 内面 当て具無		覆土下層	10% PL28

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
TP 6	須恵器	甕	長石・石英・雲母	黄灰	体部斜向の平行叩き		覆土中層	10%

第9号住居跡出土鉄滓計測表

	大 (長径30cm以上)	中 (長径4cm以上10cm未満)	小 (長径1cm以上4cm未満)	(長径1cm未満)	合計
点数	—	31	75	80	186
重量(g)	—	4.630	1.161	2.85	6.076

第13号住居跡（第87図）

位置 調査区西部のE 11i9区、標高15mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 西部及び南部の大半が調査区域外へ延びているため、南北軸は3.78 mで、東西軸は2.23 mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向はN-24°-Wと推定できる。壁高は45~58cmで、外傾して立ち上がりっている。

床 平坦な貼床で、西部に踏み固められた部分がわずかに確認できた。貼床は、全体を均一に掘りくぼめ、ローム粒子主体の第11~14層を埋土して構築されている。壁下には、壁溝を確認した。また、南部に焼土・炭化材、粘土塊を検出した。

ピット 深さ61cmで、規模と配置から主柱穴である。

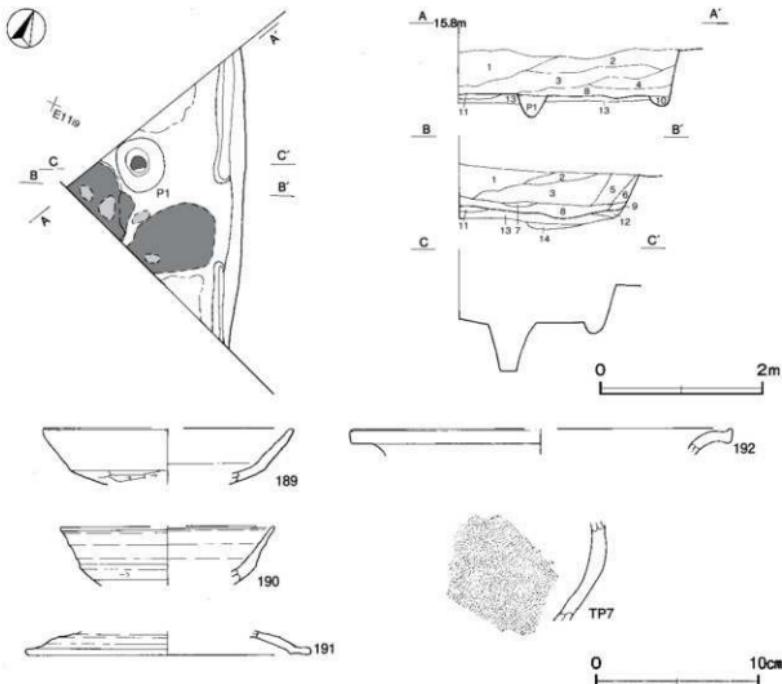
覆土 10層に分層できる。各層の含有物がロームブロック主体であることから、埋め戻されている。第11~14層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗 褐 色 ロームブロック少量
2 褐 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	9 暗 褐 色 ロームブロック微量
3 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗 褐 色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	11 暗 褐 色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量
5 暗 褐 色 ローム粒子少量、焼土粒子微量	12 暗 褐 色 ローム粒子・炭化物微量
6 暗 褐 色 ローム粒子少量	13 暗 褐 色 ローム粒子多量
7 暗 褐 色 炭化物中量、ローム粒子・焼土粒子少量	14 暗 褐 色 ローム粒子・砂質粘土粒子中量

遺物出土状況 土師器片 125 点(坏 22, 麽類 103), 須恵器片 12 点(坏 7, 盖 2, 壺類 3) が出土している。また、貼床の構築土内から土師器 4 点(坏 3, 麽類 1) が出土している。そのほか、混入した剥片 1 点も出土している。191・192 は P 1 の覆土上層からそれぞれ出土している。189・190・TP 7 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。検出された焼土・炭化材については、床面が赤変硬化していないことから、住居廃絶後の埋め土に混入したものと考えられる。粘土塊については性格は不明である。



第 87 図 第 13 号住居跡・出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表（第87図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
189	土師器	环	[15.2]	(3.4)	-	長石・石英	褐	普通	口縁部外・内面垂ナデ 体部下端横底のヘラ削り	覆土中	5%
190	頭窓器	环	[13.2]	(3.7)	-	長石・石英・雲母	暗灰青	普通	口縁部外・内面垂ナデ 体部下端回転ヘラ削り後、ナデ	覆土中	5%
191	頭窓器	蓋	[17.2]	(1.5)	-	長石・石英	灰青	普通	ロクロナデ	P1 覆土上層	5%
192	土師器	甕	[23.4]	(1.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面垂ナデ	P1 覆土上層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 7	頭窓器	甕	長石・石英・雲母	灰青	体部外面同心円状の叩き 内面ナデ 当て具痕	覆土中	

第14号住居跡（第88・89図）

位置 調査区西部のE 11g0区、標高15mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第15号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北西部及び南東部が調査区域外へ延びているが、南北軸は5.35mで、東西軸は4.27mの長方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は20~33cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。壁下には縫溝が巡っている。貼床は、コーナー部を土坑状に掘り込み、ローム粒子、焼土粒子を含んだ第6~11層を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで132cmで、燃焼部幅は57cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第12・13層を積み上げて構築されている。竈の火床部の作り替えが行われており、新的の竈は掘方の埋土である第6層の上面を火床部としており、火床面は赤変硬化している。旧の竈は床面を20cm掘りくぼめ、第9~11層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ40cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	灰	褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	8	暗	赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子、炭化粒子、砂質粘土粒子微量
2	灰	黄褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量	9	に	い黄褐色	焼土ブロック、ローム粒子、砂質粘土粒子少量、炭化物微量
3	灰	黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック、ローム粒子、炭化粒子微量	10	に	い赤褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子、砂質粘土粒子微量
4	暗	褐色	ロームブロック、焼土ブロック、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	11	暗	赤褐色	焼土ブロック中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子、炭化粒子微量
5	暗	褐色	ローム粒子、焼土粒子、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	12	褐	褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子、焼土粒子少量、炭化粒子微量
6	赤	褐色	焼土粒子多量、ロームブロック、炭化粒子、砂質粘土粒子微量	13	灰	黄褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子、焼土粒子微量
7	に	い橙色	ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子、砂質粘土粒子微量				

ピット P 1~P 4は深さ48~74cmで、規模と配置から主柱穴である。P 5は深さ45cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6~P 9は深さ50~69cmである。土層図及び規模と配置状況から、P 6からP 1へ、P 7からP 2へ、P 8からP 3へ、P 9からP 4への柱の立て替えが行われた可能性が考えられる。

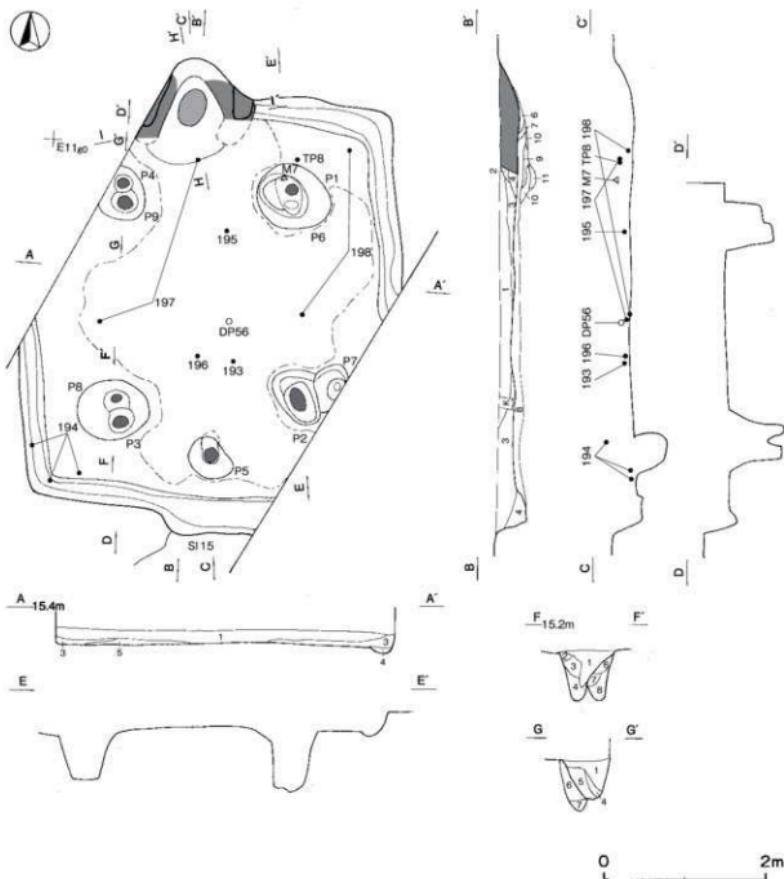
P 3・P 4・P 8・P 9土層解説

1	暗	褐色	ローム粒子中量	5	褐	色	ローム粒子、焼土粒子微量
2	暗	褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	6	暗	褐	色 焼土粒子少量、ローム粒子微量
3	褐	色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	7	褐	色	ローム粒子、炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量
4	暗	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	8	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子、砂質粘土粒子微量

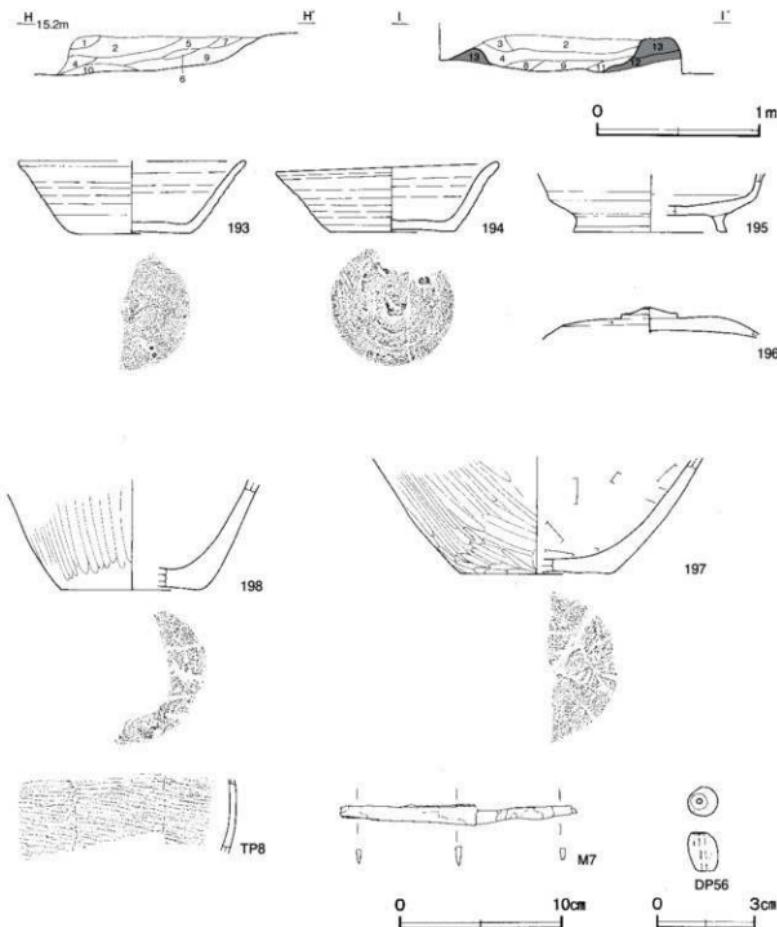
覆土 5層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第6～11層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 にぶい褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 8 褐色 | ローム粒子多量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 9 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 10 褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、ローム粒子・灰少量、炭化粒子微量 | | |



第88図 第14号住居跡実測図



第89図 第14号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 258点(环26, 壺類229, 瓶3), 須恵器片4点(环), 土製品1点(土玉), 鉄製品1点(刀子), 焼成粘土塊2点, 鉄滓18点(142g)が出土している。また、貼床の構築土内から土師器片11点(壺類), 須恵器片1点(环)が出土している。そのほか、流れ込んだ剥片1点も出土している。197は壺の焚き口と西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。193・195・196・DP56は中央部, 194は南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。TP8・M7は北東部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。本跡は、竈の火床部の作り替え及び柱の立て替が行われた可能性がある。

第14号住居跡出土遺物観察表（第89図）

番号	種別	器種	口径	縦高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
193	瓶	环	[138]	4.5	7.4	長石・石英	灰白	普通	底部削輪へラ切り直し残す一方のヘラ削り	覆土下層	50%
194	環形器	环	13.6	4.3	7.6	長石・石英	灰	普通	底部下端削輪へラ削り 底部削輪へラ切り直し残す一方のヘラ削り	覆土下層	50%
195	瓶	高台付	-	[35]	[9.4]	長石・石英・ 雲母	黄灰	普通	底部削輪へラ削り後、高台貼り付け	覆土下層	20%
196	瓶	蓋	-	[1.4]	-	長石・石英・ 雲母	にぶい黄	普通	天井部削輪へラ削り後、つまみ貼り付け	覆土下層	20%
197	土器	甕	-	7.2	[9.4]	長石・石英・ 雲母	にぶい青	普通	天井部削輪へラ削り後、内面工具痕 底部本 窓痕	覆土下層	10%
198	土器	甕	-	[6.7]	[8.8]	長石・石英・ 雲母・細隕	にぶい青	普通	底部下端削輪へラ削り 窓痕 底部本窓痕	覆土下層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP8	瓶	甕	長石・石英・雲母	灰	底部外面横段の平行叩き 内面ナデ 当て具痕	覆土中層	

番号	器種	様	厚さ	孔様	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP56	土玉	0.9	1.2	0.1	1.0	長石・石英	ナデ・端部へラ削り 一方からの穿孔	覆土下層	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M7	刀子	(146)	13	0.2~ 0.3	(14.1)	鉄	刃部・茎部欠損 刃部断面三角形・茎部断面円形	覆土中層	PL45

第15号住居跡（第90~92図）

位置 調査区西部のE 11h0区、標高15mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第14号住居に掘り込まれている。

規模と形状 南東部が調査区域外へ延びているため、北東・南西軸は3.00mで、北西・南東軸は2.40mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形で、主軸方向はN-25°-Wと推定できる。壁高は30~36cmで、外傾して立ち上がっている。

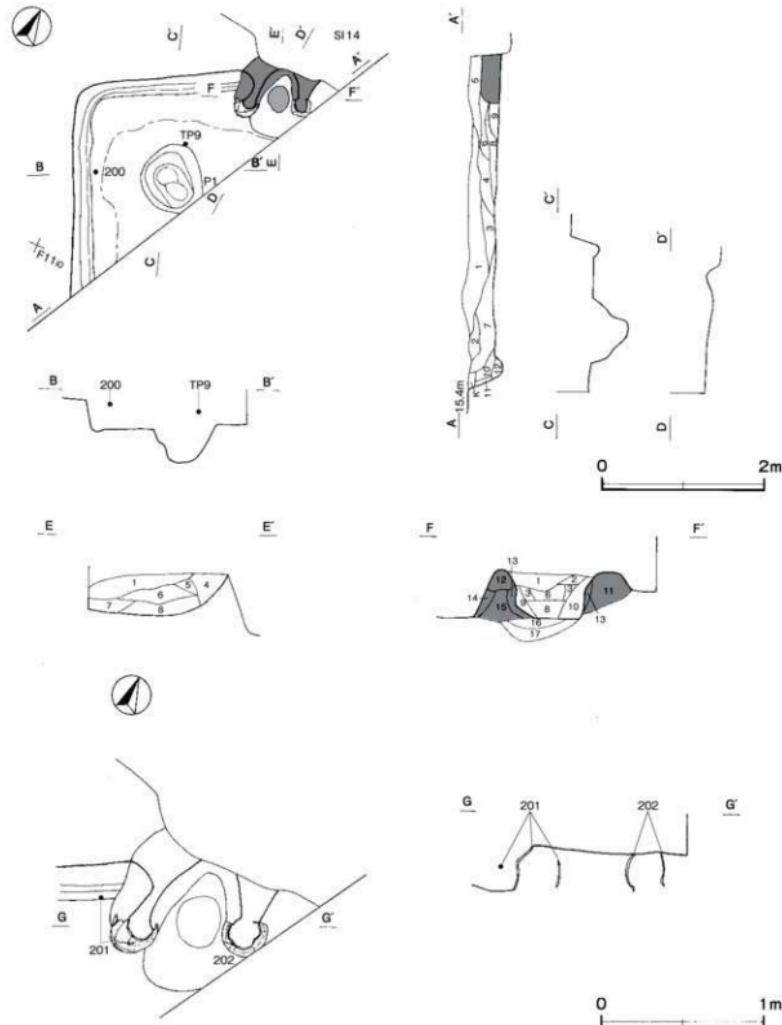
床 平坦で、北西コーナー部が踏み固められている。壁下には壁溝を確認した。

竈 北西壁に付設されている。北部が第14号住居に掘り込まれているため、遺存している規模は焚口部から煙道部まで85cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は左右ともに先端部に土師器甕を逆位の状態で据えて補強材とし、砂質粘土を主体とした第11~15層を積み上げて構築されている。火床部は床面を35cm掘りくぼめ、ローム粒子、焼土粒子を含んだ第16~17層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変化している。煙道部は壁外へ15cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

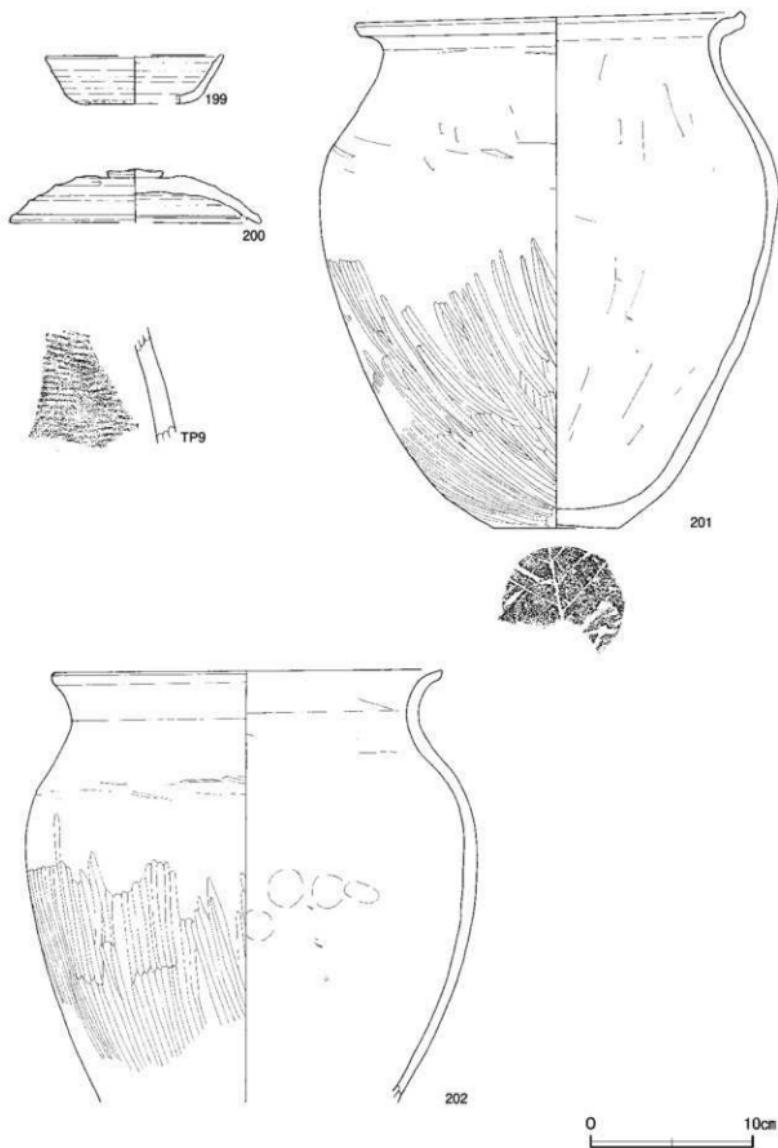
竈土層解説

1	暗褐色	燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土 粒子微量	7	褐褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子 微量
2	暗赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	8	暗赤褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化 粒子微量
3	にぶい橙色	燒土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化 粒子微量	9	暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子 微量	10	暗赤褐色	焼土粒子多量、砂質粘土粒子少量、炭化材・ローム 粒子微量
5	にぶい橙色	燒土粒子・砂質粘土粒子中量	11	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量
6	暗赤褐色	燒土粒子・砂質粘土粒子少量、ロームブロック・ 炭化粒子微量	12	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子・砂質 粘土粒子微量

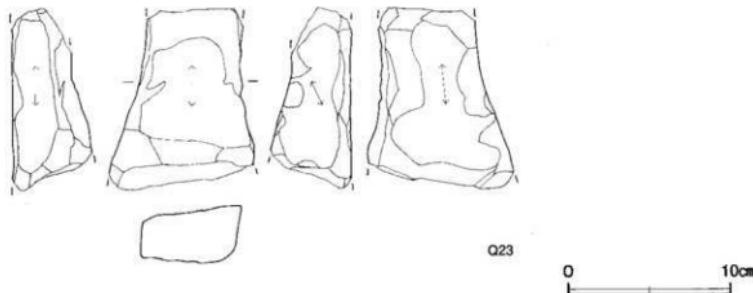
- 13 淡赤褐色 燃土粒子中量、炭化粒子微量
 14 暗褐色 ローム粒子・燃土粒子、炭化粒子微量
 15 暗赤褐色 燃土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子、炭化粒子微量
 炭化粒子微量



第90図 第15号住居跡実測図



第91図 第15号住居跡出土遺物実測図(1)



第92図 第15号住居跡出土遺物実測図(2)

ピット 深さ55cmで、規模と配置から主柱穴である。硬化した底面が2か所確認できたので、柱の立て替えが行われた可能性がある。

覆土 12層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	8	暗赤褐色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子少量
5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11	褐色	ローム粒子多量
6	暗褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片104点(环9、壺類95)、須恵器片12点(环7、蓋3、壺類2)、石器1点(砥石)、焼成粘土塊2点、鉄滓2点(75g)が出土している。201は壺の左袖部、202は右袖部の芯材として床面上に逆位で据えられた状態でそれぞれ出土した。TP 9は北西部の覆土中層から出土している。200は西部の覆土上層から出土している。199・Q 23は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。

第15号住居跡出土遺物観察表(第91・92図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
199	須恵器	环	[108]	30	[78]	長石・石英	褐灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部多方向のヘラ削り	覆土中	20%
200	須恵器	蓋	[157]	33	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部削除ヘラ削り後、つまみ貼り付け、内面 (工具痕なし) 内面削除なし	覆土上層	20% PL28
201	土師器	甕	235	31.9	76	長石・石英・ 雲母	にぶい程	普通	工具痕 下半底盤のヘラ削り 内面横ナナデ、工具 痕	左袖部冰温	80%
202	土師器	甕	238	(267)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい程	普通	口縁部外・内面横ナナデ 体部外面縦位のヘラ削 り 工具痕 内面ヘラナナデ 出頭柱頭	右袖部冰温	70% PL29

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP 9	須恵器	甕	長石・石英	灰	体部外表面横位の平行叩き 内面ケダ	覆土中層	

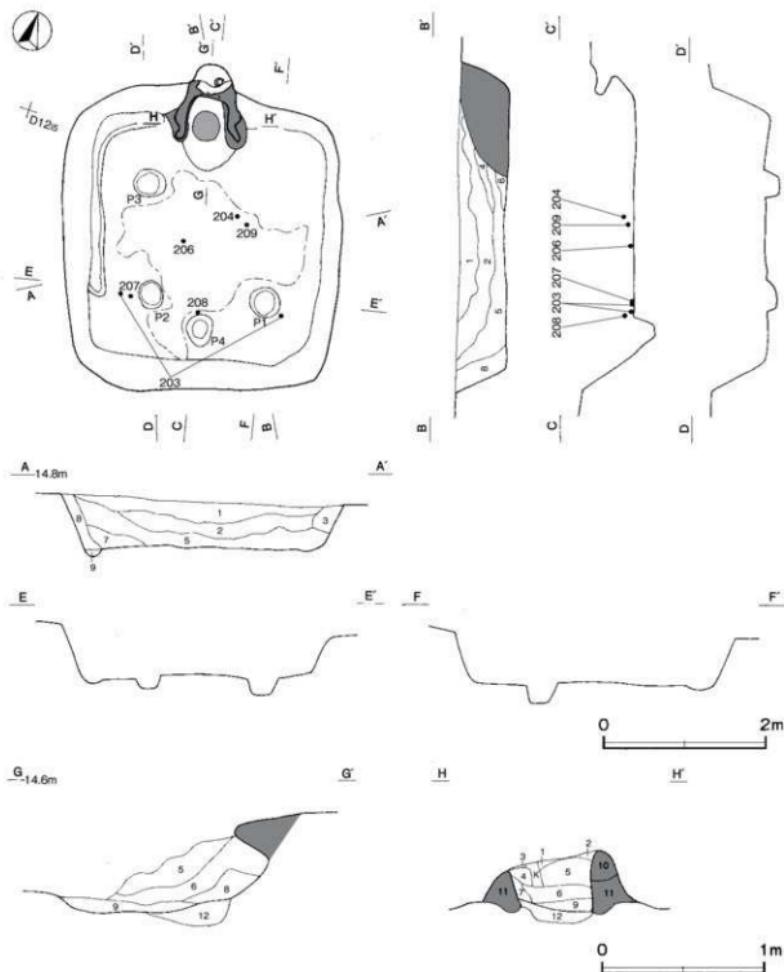
番号	種別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 23	砥石	(112)	(90)	(50)	(570)	凝灰岩	断面逆台形 一部欠損 断面4面	覆土中	

第 17 号住居跡（第 93・94 図）

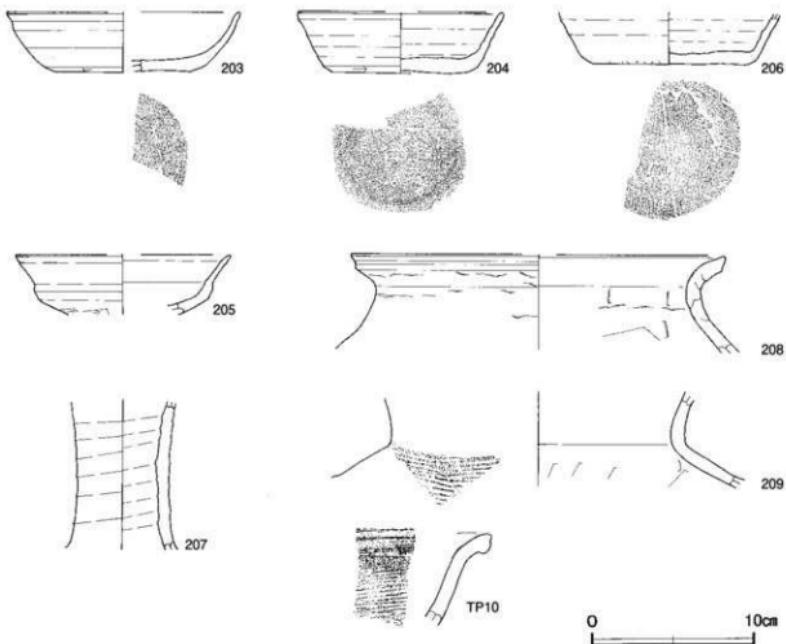
位置 調査区西部の D 1215 区、標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸 3.76 m、短軸 3.44 m の隅丸方形で、主軸方向は N - 18° - W である。壁高は 48 ~ 65 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。竈の西側から西壁にかけて、壁下には壁溝を確認した。



第 93 図 第 17 号住居跡実測図



第94図 第17号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで115cmで、燃焼部幅は46cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第10・11層を積み上げて構築されている。火床部は床面を10cm掘りくぼめ、第12層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ25cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。第1～5層は天井部の崩落土である。天井部が一部残存している。

遺土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------------|---------|----------------------------|
| 1 灰 黄褐色 | 砂質粘土粒子多量、燒土粒子、炭化粒子微量 | 8 黒 黄褐色 | 炭化物少量、ローム粒子、燒土粒子、砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐褐色 | ローム粒子少量、燒土粒子、炭化粒子、砂質粘土粒子微量 | 9 暗赤褐色 | ロームブロック、燒土粒子、炭化粒子、砂質粘土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、燒土粒子微量 | 10 暗褐色 | ローム粒子、燒土粒子、炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量 |
| 4 黑褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子、砂質粘土粒子微量 | 11 赤褐色 | 燒土ブロック、砂質粘土粒子中量 |
| 5 黑褐色 | 砂質粘土粒子中量、ロームブロック、燒土ブロック少量、炭化粒子微量 | 12 灰黄褐色 | 燒土粒子、砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量 |
| 6 にぶい赤褐色 | 燒土ブロック、ローム粒子少量、炭化物、砂質粘土粒子微量 | | |
| 7 暗褐色 | ローム粒子、砂質粘土粒子少量、燒土粒子、炭化粒子微量 | | |

ピット 4か所。P 1～P 3は深さ12～24cmで、規模と配置から主柱穴である。P 4は深さ27cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

1 黒 暗 褐 色	ローム粒子少量	焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量・炭化粒子微量
2 黒 褐 色	焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量		7 暗 褐 色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
3 暗 褐 色	炭化物・ローム粒子微量		8 褐 色	ローム粒子中量
4 暗 褐 色	ローム粒子少量・焼土粒子・砂質粘土粒子微量		9 暗 褐 色	ローム粒子少量
5 黒 褐 色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量・炭化物・焼土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片 273点(环41, 高环17, 壺類215), 須恵器片 45点(环34, 長頸瓶1, 壺類10), 焼成粘土塊3点, 鉄滓15点(133g)が出土している。そのほか、流れ込んだ繩文土器片1点(深鉢)も出土している。206は中央部, 207は南西部の床面からそれぞれ出土している。203は南西部と南東部の床面から出土した破片が接合したものである。204・209は中央部, 208は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。205・TP10は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。

第17号住居跡出土遺物観察表(第94図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
203	須恵器	环	[144]	38	[84]	長石・石英	橙	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	床面	30%
204	須恵器	环	[124]	38	84	長石・石英	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層	50%
205	須恵器	环	[132]	(37)	-	長石・石英・ 褐色鉱物	灰黄	普通	体部下端ヘラ削り	覆土中	20%
206	須恵器	环	-	(33)	92	長石・石英・ 黑母	灰黄	普通	多方角へラ削り	床面	40%
207	須恵器	長振瓶	-	(93)	-	長石・石英	灰白・ 灰オリーブ	普通	頭部外・内面ロクロナデ	床面	10% 自然釉
208	土師器	壺	[230]	(60)	-	長石・石英	にい・黒	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面工具痕	覆土下層	5%
209	須恵器	壺	-	(59)	-	長石・石英・ 黑母	黄灰	普通	体部外側横位の平行叩き 内面ヘラナデ	覆土下層	5%

番号	種 别	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP10	須恵器	壺	長石・石英	灰	口縁部外・内面ロクロナデ 体部外側横位の平行叩き 内面ナデ	覆土中	

第28号住居跡(第95・96図)

位置 調査区南西中央部のE 13g0区、標高14mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸3.73m、短軸3.28mの隅丸長方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は11~15cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北西壁の中央部からやや北東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで141cmで、燃焼部幅は41cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第13・14層を積み上げて構築されている。火床部は床面を6cm掘り込んで、ローム粒子、焼土ブロックを含んだ第15層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ40cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒 暗 褐 色	ローム粒子微量	4 暗 褐 色	砂質粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	5 にい・褐色	砂質粘土粒子中量・焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗 褐 色	砂質粘土粒子少量・焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量		

6	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量。ローム粒子、炭化粒子微量	10	暗赤褐色	焼土粒子中量。ローム粒子、炭化粒子、砂質粘土粒子少量
7	暗赤褐色	焼土粒子中量。ローム粒子、焼土粒子、砂質粘土粒子微量	11	極暗赤褐色	焼土粒子少量。ローム粒子、炭化粒子微量
8	暗褐色	焼土粒子少量。ローム粒子、炭化粒子、砂質粘土粒子微量	12	極暗赤褐色	焼土粒子、砂質粘土粒子少量。ローム粒子、炭化粒子微量
9	暗赤褐色	焼土粒子中量。ローム粒子、炭化粒子、砂質粘土粒子微量	13	暗褐色	ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子、砂質粘土粒子微量
			14	明灰褐色	砂質粘土粒子多量、焼土ブロック少量
			15	極暗褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック、炭化粒子微量

ピット 深さ32cmで、南東壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 9層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

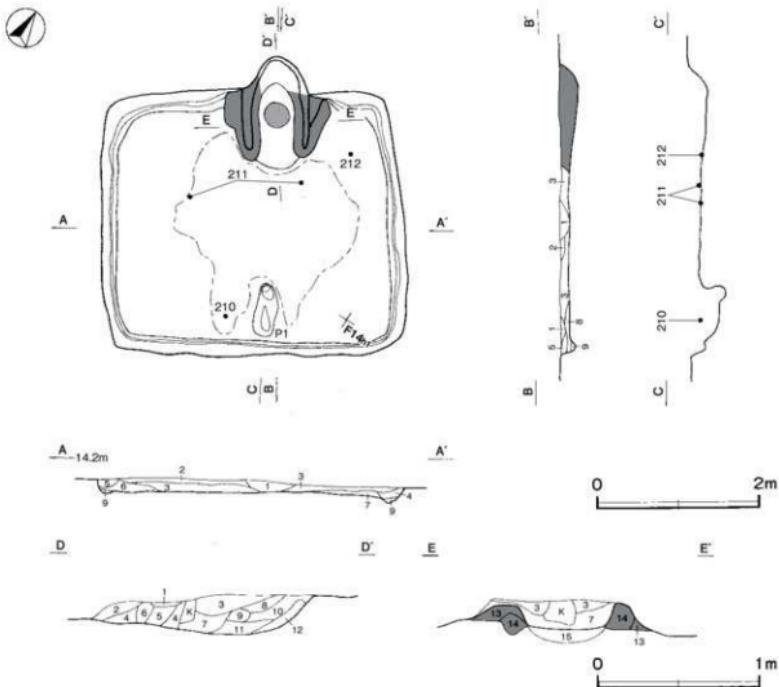
土層解説

1	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	6	暗褐色	ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子、炭化粒子微量	7	褐色	ローム粒子
3	極暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子、炭化粒子微量	8	極暗褐色	ローム粒子、焼土粒子、炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子、炭化粒子微量
5	褐色	ローム粒子、焼土粒子微量			

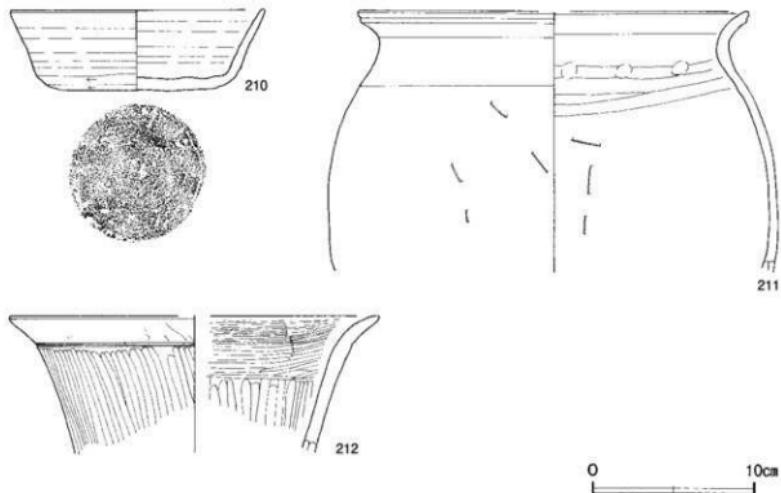
遺物出土状況 土師器片99点(环30, 壺類68, 壺1), 須恵器片13点(环11, 盤1, 壺類1), 焼成粘土塊4点,

鉄滓7点(76g)が出土している。211は竈の前、212は北部、210は南部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第95図 第28号住居跡実測図



第 96 図 第 28 号住居跡出土遺物実測図

第 28 号住居跡出土遺物観察表（第 96 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	施土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
210	風呂器	杯	15.5	5.0	9.4	瓦石・石英	灰	普通	体部下端・底部斜軸ヘラ削り	床面	70% PL36
211	土器器	甌	[240]	(16.2)	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラナデ・工具痕 内面ナデ・指遍压痕 工具痕	床面	20%
212	土器器	甌	[226]	(8.5)	-	長石・石英	褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上端横位の沈窪・窓孔のヘラ削り 内面上位横位のヘラ削り・中位窓孔のヘラ削り	床面	10%

第 30 号住居跡（第 97・98 図）

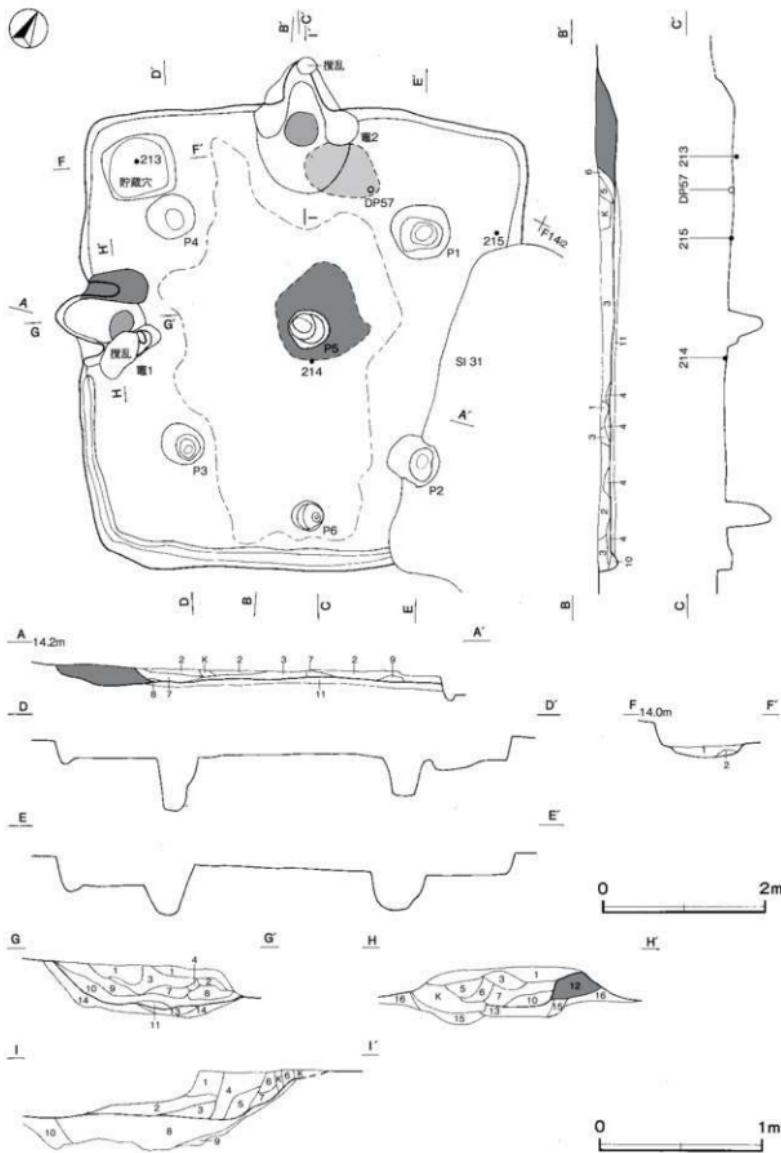
位置 調査区中央部の E 14i1 区。標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 31 号住居に掘り込まれている。

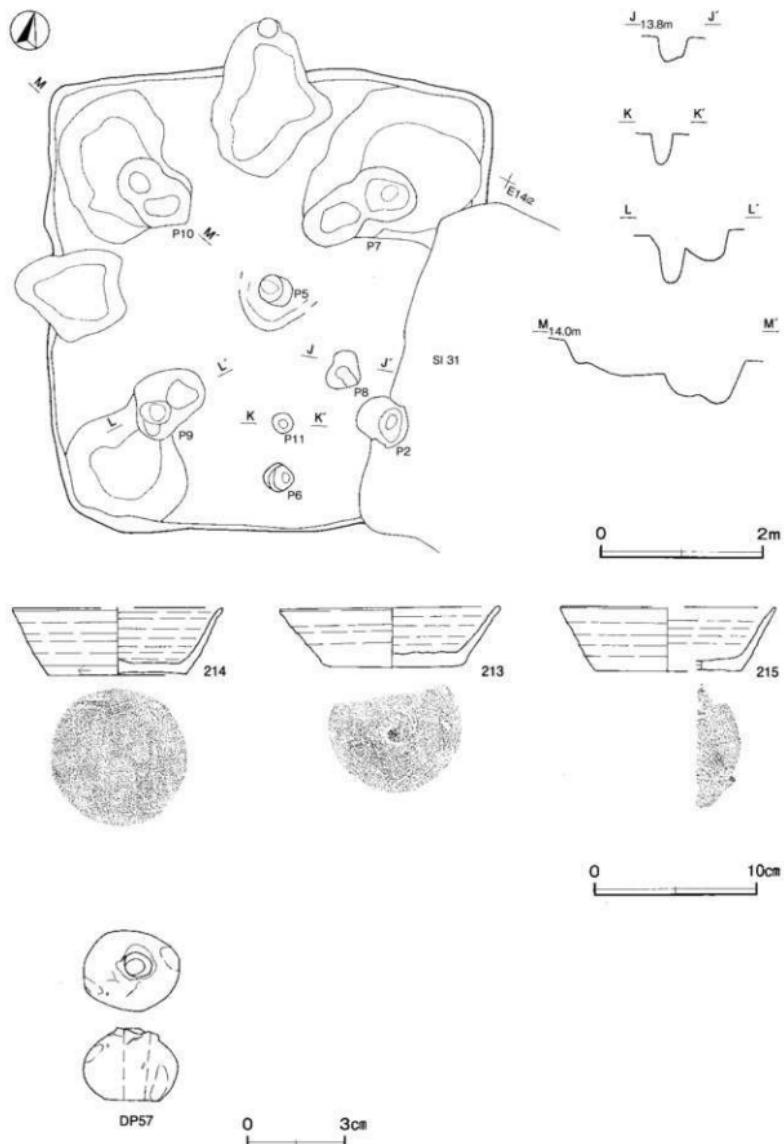
規模と形状 長軸 5.65 m、短軸 5.49 m の方形で、主軸方向は N - 27° - W である。壁高は 15 ~ 30 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。南西コーナー部から南壁にかけて壁下には排水溝を確認した。貼床は、中央部を浅くコーナー部を土坑状に掘り込み、ローム粒子を多く含んだ第 11 層を埋土して構築されている。竈 2 の前に、壊れた竈の袖や火床部と見られる砂質粘土の広がりと焼土を確認した。

竈 2か所。竈 1 は、西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 112 cm で、燃焼部幅は 40 cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 12 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10 cm 剥りくぼめ、第 13 ~ 16 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変化している。煙道部は壁外へ 30 cm 剥り込まれ、外傾して立ち上がっている。竈 2 は、北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 156 cm で、燃焼部幅は 50 cm である。火床部は床面を 18 cm 剥りくぼめ、第 8 ~ 10 層を埋土して構築されて



第97図 第30号住居跡実測図



第98図 第30号住居跡・出土遺物実測図

いる。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ60cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。竈2の袖部が遺存していないことから、竈2から竈1へ作り替えられたと思われる。

竈1土層解説

1	暗褐色	炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10	暗赤褐色	燒土粒子少量、炭化粒子微量
2	灰黃褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	11	暗赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子微量
3	暗赤褐色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子少量、炭化粒子微量	12	暗褐色	砂質粘土粒子中量、燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	13	暗赤褐色	燒土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量
5	暗褐色	燒土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子微量
6	にい褐色	燒土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	15	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
7	暗赤褐色	燒土ブロック中量、炭化粒子微量	16	褐色	燒土粒子中量、燒土粒子・炭化粒子微量・砂質粘土粒子微量
8	灰褐色	砂質粘土粒子多量、			
9	暗褐色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量			

竈2土層解説

1	暗褐色	燒土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量	7	暗褐色	燒土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	8	暗赤褐色	燒土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	燒土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子少量
4	暗褐色	燒土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子中量、燒土ブロック・炭化粒子微量
5	暗褐色	燒土ブロック少量、炭化粒子微量			
6	暗赤褐色	燒土ブロック少量			

ピット 11か所。P 1～P 5は深さ38～68cmで、規模と配置から主柱穴である。P 6は深さ58cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 7～P 11は掘方調査によって確認したものである。P 7～P 10は深さ33～54cmで、規模と配置から主柱穴である。P 11は深さ40cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設にともなうピットと考えられる。このことから、P 7からP 1へ、P 8からP 2へ、P 9からP 3へ、P 10からP 4へ、P 11からP 6への柱の立て替えが行われた可能性がある。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置している。長軸90cm、短軸85cmの隅丸方形で、深さは17cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、燒土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	2	黒褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
---	-----	------------------------------	---	-----	---------------------

覆土 10層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第11層は貼床の構築土である。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	7	暗赤褐色	燒土粒子中量、炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
2	無暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	8	にい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・燒土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子微量	9	褐色	ローム粒子中量
4	暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	燒土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	11	褐色	ローム粒子多量、燒土粒子・炭化粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片224点(坏48、壺類176)、須恵器片56点(坏41、高台付坏1、蓋4、壺類10)、土製品1点(土玉)、焼成粘土塊17点、鉄滓112点(1330g)が出土している。また、貼床の構築土内から土師器片24点(坏4、壺類20)、須恵器片8点(坏6、壺類2)が出土している。そのほか、流れ込んだ繩文土器片1点(深鉢)、磁器1点(碗)も出土している。DP57は竈の前、214は中央部、215は北東部の床面からそれぞれ出土している。213は貯蔵穴の覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。本跡は、竈の作り替え及び柱の立て替えが行われた可能性がある。

第30号住居跡出土遺物観察表（第98図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
213	須恵器	环	13.3	3.8	8.4	長石・石英	灰黄	普通	底部二方向のヘラ削り	貯蔵穴覆土上層	80% PL36
214	須恵器	环	[128]	4.2	8.5	長石・石英・ 雲母	灰黄	普通	底部下端・底部斜軸ヘラ削り	床面	40%
215	須恵器	环	[132]	4.0	[9.0]	長石・石英・ 雲母	灰白	普通	底部一方向のヘラ削り	床面	20%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴		出土位置	備考
DPS7	土工	25~30	2.3	0.6~0.8	16.2	長石・石英	ナメ 指頭圧痕 一方向からの穿孔		床面	PL41

第30号住居跡出土鉄滓計測表

点数	特大 (長径10cm以上)	大 (長径4cm以上)10cm未満)	中 (長径1cm以上)4cm未満)	小 (長径1cm未満)	合計
点数	-	2	51	59	112
重量(g)	-	420	733	177	1330

第33号住居跡（第99～101図）

位置 調査区中央部のF 14a2区、標高14mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第35号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.85m、短軸5.24mの長方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は28～34cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は2面確認でき、一次面は、北西コーナー部から西壁下にかけて構溝に、それ以外のコーナー部は土坑状に掘り込み、ローム粒子を含んだ第24～28層を埋土して構築されている。二次面は、一次面の上に主にローム粒子、炭化粒子を含む第14～23層を埋土して構築されている。壁下には壁溝が巡っている。また、竈の前面に焼土の広がりを確認した。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで146cmで、燃焼部幅は60cmである。袖部は砂質粘土ブロック、焼土ブロックを含んだ第14層を基部とし、砂質粘土を主体とした第9～13層を積み上げて構築されている。火床部は床面より5cmほどくぼんでおり、煙道部は壁外へ70cm掘り込まれ、奥壁で段を有し、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	燒土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子、炭化粒子微量	9	にぶい黃褐色	燒土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子、炭化粒子微量
2	暗褐色	燒土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子、炭化粒子微量	10	にぶい黃褐色	砂質粘土粒子多量、燒土ブロック・ローム粒子、炭化粒子微量
3	暗赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子、炭化粒子、砂質粘土粒子微量	11	灰黃褐色	砂質粘土粒子多量、炭化物・ローム粒子、燒土粒子微量
4	暗赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	12	暗赤褐色	砂質粘土粒子少量、燒土ブロック・ローム粒子微量
5	暗褐色	燒土ブロック・ローム粒子、炭化粒子微量	13	にぶい黃褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子、燒土粒子、炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子、炭化粒子、砂質粘土粒子微量	14	棗暗褐色	砂質粘土ブロック少量、燒土ブロック・ローム粒子、炭化粒子微量
7	にぶい黃褐色	砂質粘土粒子多量、ロームブロック・燒土ブロック・炭化物微量			
8	にぶい黃褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・燒土粒子、炭化粒子少量			

柵状施設 竈の東側及び西側に付設されている。東側の柵は、確認面からの掘り込み15cm、幅100cm、奥行き50cm、床面からの高さ15cm、平面形は逆台形状で、柵面は南に向かって傾斜している。西側の柵は、確認面からの掘り込み17cm、幅120cm、奥行き30cm、床面からの高さ15cm、平面形は逆台形状で、柵面は南に向か

って緩やかに傾斜している。いずれも床面上に砂質粘土主体の第1～11層を積み上げて構築されている。北壁も全体に奥行き5～25cmで、確認面の高さまでローム混じりの砂質粘土を貼り付けて構築されていることから、本跡が第35号住居跡を掘り込んでいるため、軟弱な北壁を補強した可能性が考えられる。また、東側の棚状施設の下から壁溝が確認されたことから、壁溝を埋め戻して棚状施設が構築されたとみられる。

棚状施設・北壁1・2土層解説

1	暗	褐	色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量	7	暗	褐	色	炭化物少量、ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2	灰	褐	色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8	灰	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3	暗	褐	色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	9	灰	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土粒子微量
4	暗	褐	色	ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10	灰	褐	色	焼土ブロック・砂質粘土粒子中量
5	暗	褐	色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	11	灰	褐	色	焼土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量
6	暗	褐	色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化物・砂質粘土粒子微量					

ピット 9か所。P1～P4は深さ53～71cmで、規模と配置から主柱穴である。P5は深さ35cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6～P9は掘方調査によって確認したもので、深さ33～54cmで、規模と配置から主柱穴である。このことから、P6からP1へ、P7からP2へ、P8からP3へ、P9からP4への柱の立て替えが行われたと考えられる。

覆土 13層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第14～28層は貼床の構築土である。

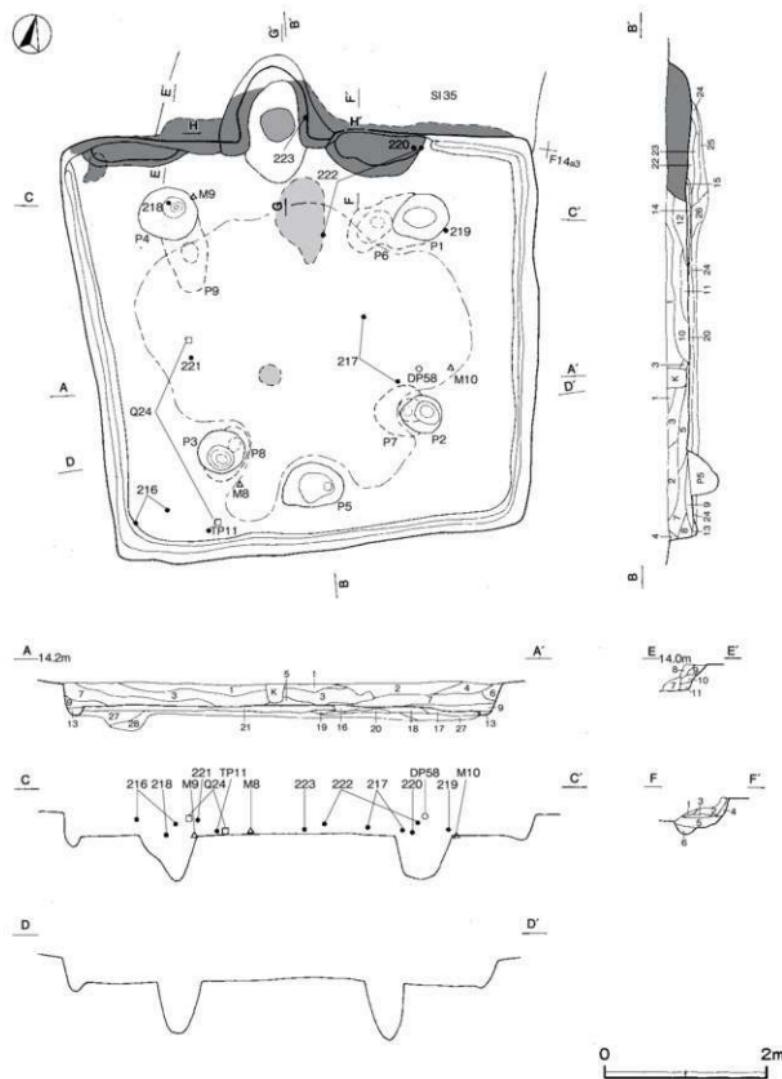
土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子少量、焼土ブロック微量	15	灰	褐	色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子微量
2	暗	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	16	暗	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗	褐	色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	17	暗	褐	色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗	褐	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	18	暗	褐	色	ローム粒子中量
5	暗	褐	色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土ブロック微量	19	黒	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量
6	褐	色	色	ロームブロック中量	20	褐	色	ローム粒子中量	
7	暗	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	21	褐	色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	
8	暗	褐	色	ロームブロック微量	22	ぶい	褐色	色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
9	暗	褐	色	焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量					
10	暗	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	23	暗	褐	色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
11	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	24	暗	褐	色	焼土粒子少量、ローム粒子微量
12	暗	褐	色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	25	暗	褐	色	砂質粘土粒子少量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
13	暗	褐	色	焼土粒子・炭化粒子少量	26	暗	褐	色	ローム粒子中量、炭化粒子少量
14	暗	褐	色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	27	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子中量、焼土粒子微量
					28	暗	褐	色	ローム粒子中量、焼土粒子少量

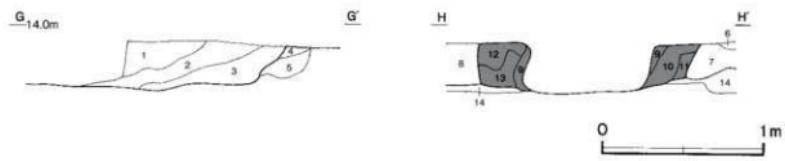
遺物出土状況 土師器片1151点(环93、壺類1057、瓶1)、須恵器片337点(环273、高台付坏2、蓋9、盤4、鉢3、甕46)、土製品2点(支脚、不明)、石器2点(砥石)、鉄製品3点(刀子2、鎌1)、焼成粘土塊15点、鉄滓211点(2446g)が、全面の覆土上層から床面にかけて出土している。また、貼床の構築土内から土師器片153点(环18、壺類135)、須恵器片25点(环16、蓋1、甕類8)が出土している。そのほか、混入した繩文土器片1点(深鉢)、石器1点(剥片)、石製品5点(臼白玉1、劍形模造品4)も出土している。220は棚状施設の構築土中から出土している。223は甕の覆土下層から出土している。218はP4の覆土上層から正位の状態で出土している。Q24は西部の床面と南西部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。M9は甕の南西側、M10は東部、M8は南西部の床面からそれぞれ出土している。217は中央部、219は北東部、TP11は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。222は甕の東側、DP58は中央部、221は西部、216は南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、貼床が2面確認されたこと及び柱の立て替えが行われたとみられることから、住居の建て替えが行われた可能性が考えられる。二次面の時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。二次面の貼床

の構築土内から出土している土器は、みな細片で図示できるものはないが、須恵器の壺の形状等から大きな時期差はないものと思われる。



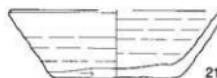
第99図 第33号住居跡実測図



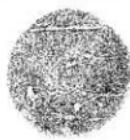
216



217



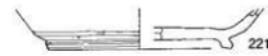
218



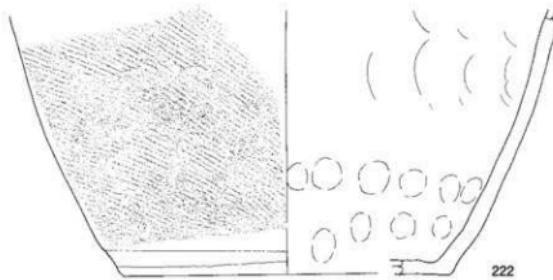
219



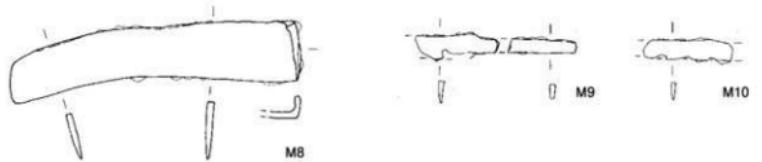
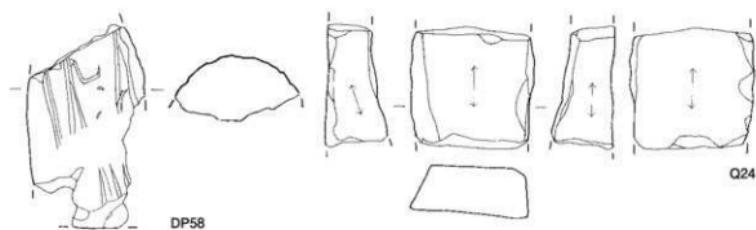
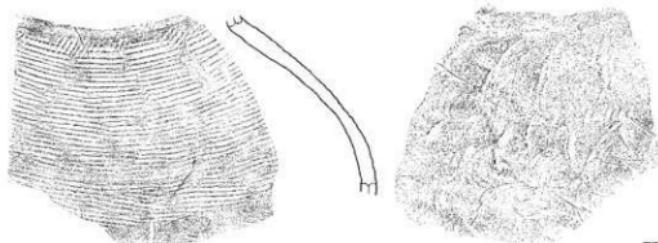
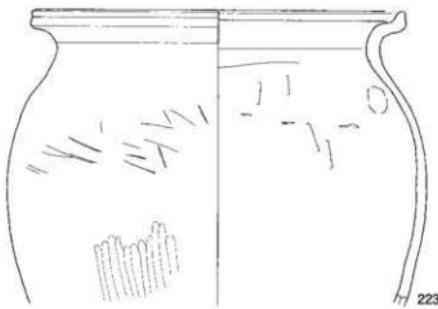
220



221



第100図 第33号住居跡・出土遺物実測図



0 10cm

第 101 図 第 33 号住居跡出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表（第100・101図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
216	須恵器	环	12.6	4.2	7.6	長石・石英・ 長石	灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部一方のヘラ削り	覆土中層	85% PL36
217	須恵器	环	[12.6]	3.8	7.4	長石・石英・ 長石	灰	普通	体部下端回転へラ削り 底部回転へラ削り 施す。一方のヘラ削り	覆土下層	65% PL36
218	須恵器	环	[13.0]	4.2	7.7	長石・石英・ 雲母	灰白	普通	体部下端回転へラ削り 底部回転へラ削り 施す。ナデ	P 4 覆土上層	55%
219	須恵器	环	[13.2]	4.0	6.6	長石・石英・ 長石	灰黄	普通	体部下端回転へラ削り 底部一方のヘラ削り	覆土下層	50%
220	須恵器	环	[12.8]	4.1	[7.4]	長石・石英	灰	普通	体部下端回転へラ削り 施す。一方のヘラ削り	複数箇所 覆土中	30%
221	須恵器	高台付	-	(2.6)	[11.2]	長石・石英	灰	普通	体部下端回転へラ削り 高台付	覆土中層	10%
222	須恵器	鉢	-	(16.3)	[20.0]	長石・石英・ 雲母	にぶい黄	普通	体部斜面の平行叩き 下端回転へラ削り 内面 当て具痕	覆土中層	10% PL38
223	土器	甕	22.4	(18.2)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい黄	普通	口縁部外・内面横子テ 体部外面上半ヘラ削り 下端回転へラ削り 内面工具痕・指擦痕	複数箇所 覆土下層	15%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP11	須恵器	甕	長石・石英・雲母	明黄褐	体部横位の平行叩き 内面當て具痕	覆土下層	PL40

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DPS8	支脚	(12.5)	-	(7.3)	(27.0)	長石・石英	ヘラナデ 欠損	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 24	砥石	(7.6)	7.7	3.8	(322)	砂岩	断面台形 砥面4面	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 8	鍬	18.0	3.3	0.4	1094	鉄	刃部断面三角形 端部折り返し	床面	PL46
M 9	刀子	[10.1]	(1.7)	0.4	(11.9)	鉄	切先欠損 刃部断面三角形 基部断面波立形	床面	
M 10	刀子	(5.6)	(1.4)	0.3	(8.3)	鉄	切先・基部欠損 刃部断面三角形	床面	

第33号住居跡出土鉄鑄錠測定表

	特大	大	中	小	合計
	(長径10cm以上)	(長径4cm以上10cm未満)	(長径1cm以上4cm未満)	(長径1cm未満)	
点数	-	12	42	137	211
重量(g)	-	1440	535	471	2446

第36号住居跡（第102・103図）

位置 調査区中央部のF 13a0区、標高14mの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 長軸23.1m、短軸2.27mの隅丸方形で、主軸方向はN-62°-Eである。壁高は16~18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 北東壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで70cmで、燃焼部幅は28cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第7~12層を積み上げて構築されている。火床部は床面を8cm掘り込んで、焼土ブロック、炭化粒子を含んだ第13層を埋土して構築されている。火床面はわずかに赤変している。煙道部は壁外へ20cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

遺土層解説

- | | | | |
|---------|----------------------------|---------|------------------------------|
| 1 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 極暗赤褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 極暗褐色 | 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 |
| 3 極暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | | |

6	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子粒子少量、焼土粒子微量	10	にふい赤褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量
7	灰黄褐色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	11	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック微量
8	灰黄褐色	砂質粘土粒子多量	12	にふい黄褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
9	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子微量	13	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量

ピット 6か所。P 1～P 6は深さ 11～35cmで、屋外柱穴の可能性が考えられる。

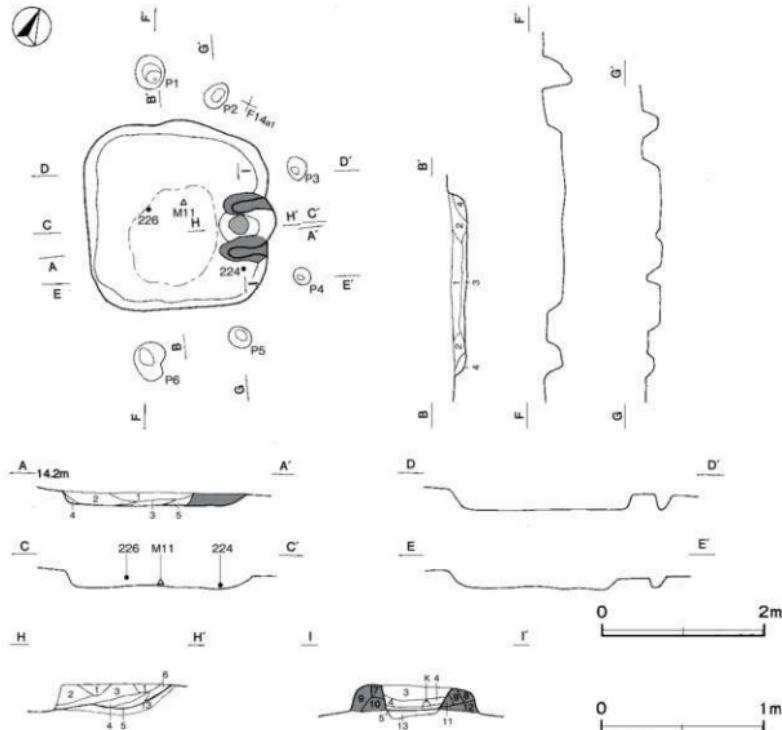
覆土 5層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

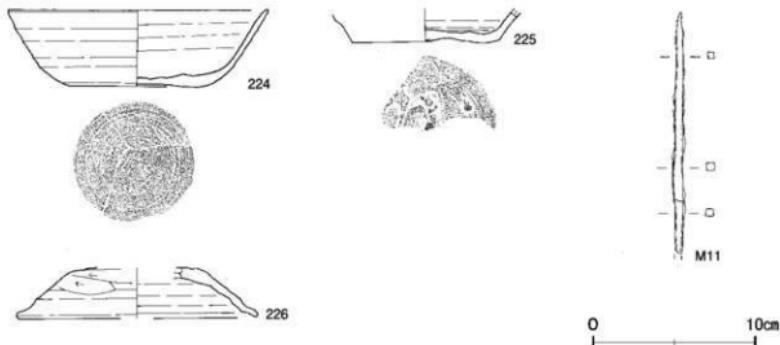
1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量			

遺物出土状況 土師器片 34点(环8、壺類26)、須恵器片 5点(环3、蓋1、壺1)、鉄製品(紡錘車輪)、焼成粘土塊8点、鐵滓 15点(151g)が出土している。M11は中央部の床面から出土している。224は竈の南側の覆土下層から出土している。226は中央部の覆土中層から出土している。225はP 1の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第102図 第36号住居跡実測図



第 103 図 第 36 号住居跡出土遺物実測図

第 36 号住居跡出土遺物観察表（第 103 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
224	須恵器	环	16.0	4.8	8.0	長石・石英・雲母	灰黒	普通	部下端・底部刮削へ削り	覆土下層	60% PL26
225	須恵器	环	—	(2.1)	(9.2)	長石・石英	黄褐	普通	底部刮削へ切り 不調整	P 1 覆土中	10%
226	須恵器	蓋	[14.6]	(3.1)	—	長石・石英	灰	普通	天井部刮削へ削り	覆土中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M 11	鍛錬車輪	(149)	0.6	0.5	(184)	鉄	輪部断面方形 下端部欠損	床面	PL46

第 37 号住居跡（第 104 ~ 106 図）

位置 調査区中央部の F 14c2 区、標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

規模と形状 南西部が調査区域外へ延びているため、東西軸は 4.38 m で、南北軸は 3.87 m しか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形と推定でき、主軸方向は N - 10° - W である。壁高は 27 ~ 45 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁下を除いて踏み固められている。東及び西壁下には縁溝を確認した。貼床は、四隅を土坑状に掘りくぼめ、ローム粒子が多く含んだ第 15 層を埋土して構築されている。

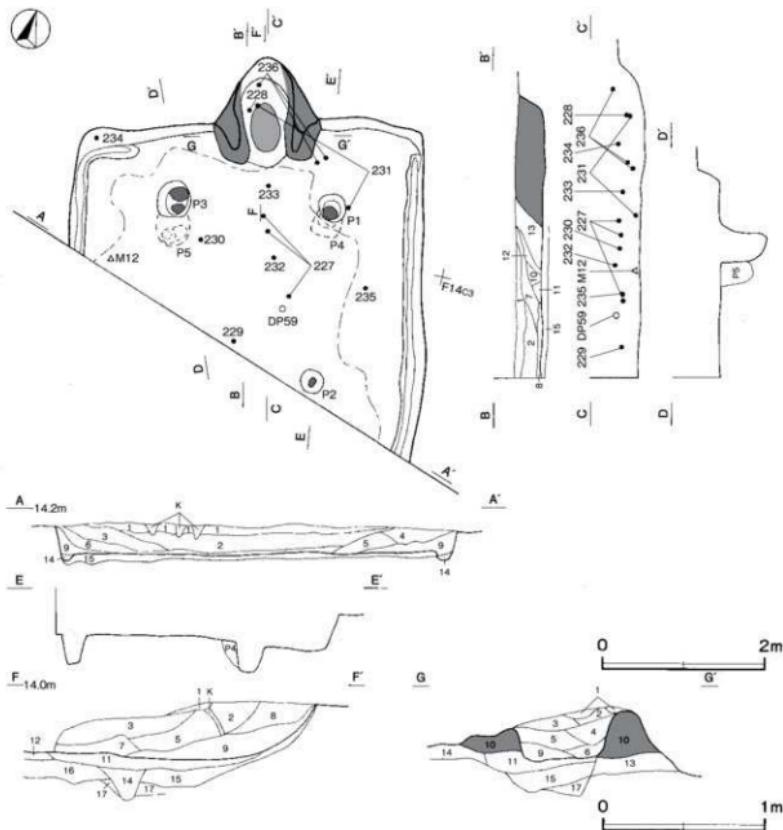
竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 135 cm で、燃焼部幅は 45 cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 10 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10 cm 掘りくぼめ、第 11 ~ 17 層を埋土して構築している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 82 cm 掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

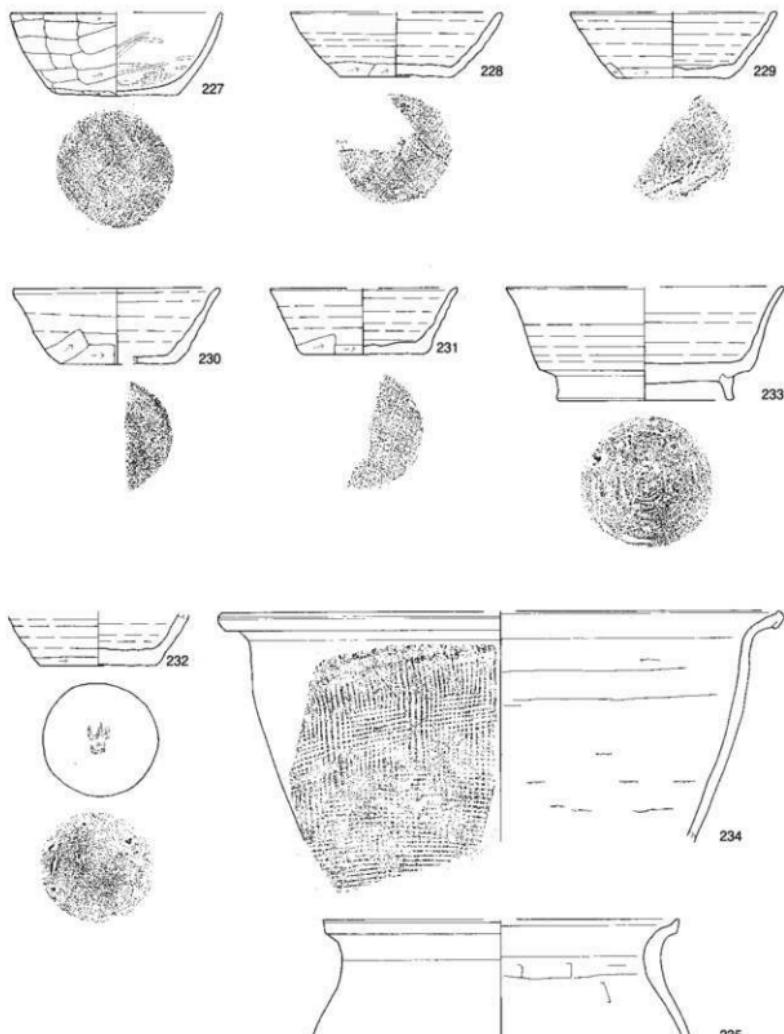
- | | | | |
|-------|------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子、燒土粒子、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | 燒土粒子少量、ローム粒子、炭化粒子、砂質粘土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、燒土粒子、炭化粒子、砂質粘土粒子微量 | 5 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量、燒土ブロック、ローム粒子、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 砂質粘土ブロック少量、ローム粒子、燒土粒子、炭化粒子微量 | 6 極暗褐色 | ローム粒子、燒土粒子、炭化粒子、砂質粘土粒子微量 |

- | | | | | | |
|----|--------|------------------------------------|----|------|------------------------------------|
| 7 | 暗褐色 | 燒土ブロック・砂質粘土ブロック・ローム粒子・
炭化粒子微量 | 13 | 明褐色 | ローム粒子中量・燒土ブロック・從化粒子・砂質
粘土粒子微量 |
| 8 | にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量・燒土粒子少量・ローム粒子・
炭化粒子微量 | 14 | 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子少量・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 9 | 暗赤褐色 | 砂質粘土粒子中量・燒土粒子・炭化粒子少量・ローム
粒子微量 | 15 | 黑褐色 | 砂質粘土ブロック・燒土ブロック少量・ローム粒子・
炭化粒子微量 |
| 10 | にぶい黄褐色 | 砂質粘土粒子中量・燒土ブロック・ローム粒子・
炭化粒子微量 | 16 | 暗褐色 | 燒土ブロック・砂質粘土粒子少量・燒土粒子・炭化
粒子微量 |
| 11 | 暗赤褐色 | 燒土ブロック・ローム粒子少量・炭化粒子・砂質
粘土粒子微量 | 17 | 暗褐色 | 炭化粒子少量・ローム粒子・燒土粒子・砂質粘土
粒子微量 |
| 12 | 暗褐色 | ローム粒子中量・燒土ブロック・砂質粘土粒子
少量・炭化粒子微量 | | | |

ピット 5か所。P 1～P 3は深さ39～56cmで、規模と配置から主柱穴である。P 4・P 5は掘方調査によって確認したもので、深さ35cm・40cmである。配置状況から、P 4からP 1へ、P 5からP 3への柱の立て替えが行われた可能性が考えられる。

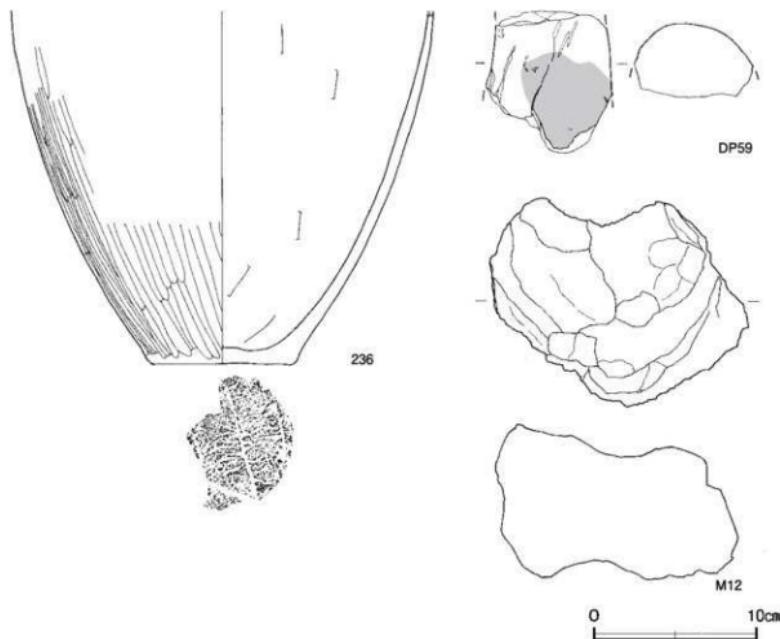


第104図 第37号住居跡実測図



0 10cm

第105図 第37号住居跡出土遺物実測図(1)



第106図 第37号住居跡出土遺物実測図(2)

覆土 14層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第15層は貼床の構築土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	鉢質粘土ブロック多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	11 暗褐色	ローム粒子・鉢質粘土粒子微量
3 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・鉢質粘土粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	13 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
6 極暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	15 暗褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・鉢質粘土粒子微量
7 暗褐色	ロームブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量		
8 黒褐色	ロームブロック微量		
9 極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片568点(坏25, 高环6, 壶類537), 須恵器片133点(坏119, 高台付坏4, 蓋4, 高盤1, 鉢1, 壺類4), 土製品2点(支脚), 石器1点(砥石), 石製品4点(白玉), 焼成粘土塊10点, 鐵淬49点(957g)が, 全面の覆土中層から床面にかけて出土している。また、貼床の構築土内から土師器片30点(坏2, 壶類28), 須恵器片7点(坏4, 瓶3)が出土している。そのほか、流れ込んだ縄文土器片1点(深鉢), 石器1点(磨石)も出土している。228は竈の覆土中層から出土している。236は竈の東側の覆土下層と竈覆土上層から出土した破片が接合したものである。231は北東部の覆土下層と竈の覆土中層から出土した破片が接合したものである。M12は西部の覆土下層から出土している。233は竈の前, 227・229・230・232・DP59は中央部, 234は北西コーナー部, 235は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。

第37号住居跡出土遺物觀察表（第105・106図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
227	土師器	环	[130]	52	7.7	長石・石英	橙	普通	体部外面横位のヘラ削り 内面横位のヘラ磨き	縦土中層	70% PL36
228	風呂器	环	[127]	40	7.0	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	縦土中層	50%
229	風呂器	环	[126]	42	7.2	長石・石英・ 珪母	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 縦土中層	縦土中層	50%
230	風呂器	环	127	47	[7.0]	長石・石英・ 珪母	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	縦土中層	40% PL36
231	風呂器	环	[114]	42	[7.3]	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	縦土中層 縦土下層	60%
232	風呂器	环	-	(32)	7.2	長石・石英	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	縦土中層	40%
233	風呂器	高台仰	[170]	7.0	10.0	長石・石英	灰	普通	体部外側斜面ヘラ削り 斜面に凹部「山口」 底部内側斜面ヘラ削り	縦土中層	60% PL38
234	風呂器	盆	[34.4]	[14.3]	-	長石・石英・ 珪母	黄灰	普通	体部外側斜面ヘラ削り 斜面の平行叩打	縦土中層	10% PL38
235	土師器	甕	[218]	(7.8)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナメ 内面工具痕	縦土中層	10%
236	土師器	甕	-	(218)	8.4	長石・石英・ 珪母	橙	普通	体部外側横位のヘラ磨き 内面工具痕 底部本 體痕	縦土中層 縦土下層	40%

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎土	特徴		出土位置	備考
DPS9	支脚	(82)	(58)	(7.7)	(233)	長石・石英	ヘラナデ 一部欠損 被熱痕		縦土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	着組	材質	特徴	出土位置	備考
M.12	陶彷彿	127	150	95	2282	前	鉄	褐色は茶褐色、表面は颗粒状突起及び気孔が点在し、 円凸がある 底面は楕円である	縦土下層	

第40号住居跡（第107～109図）

位置 調査区東部のE 1418区、標高14mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

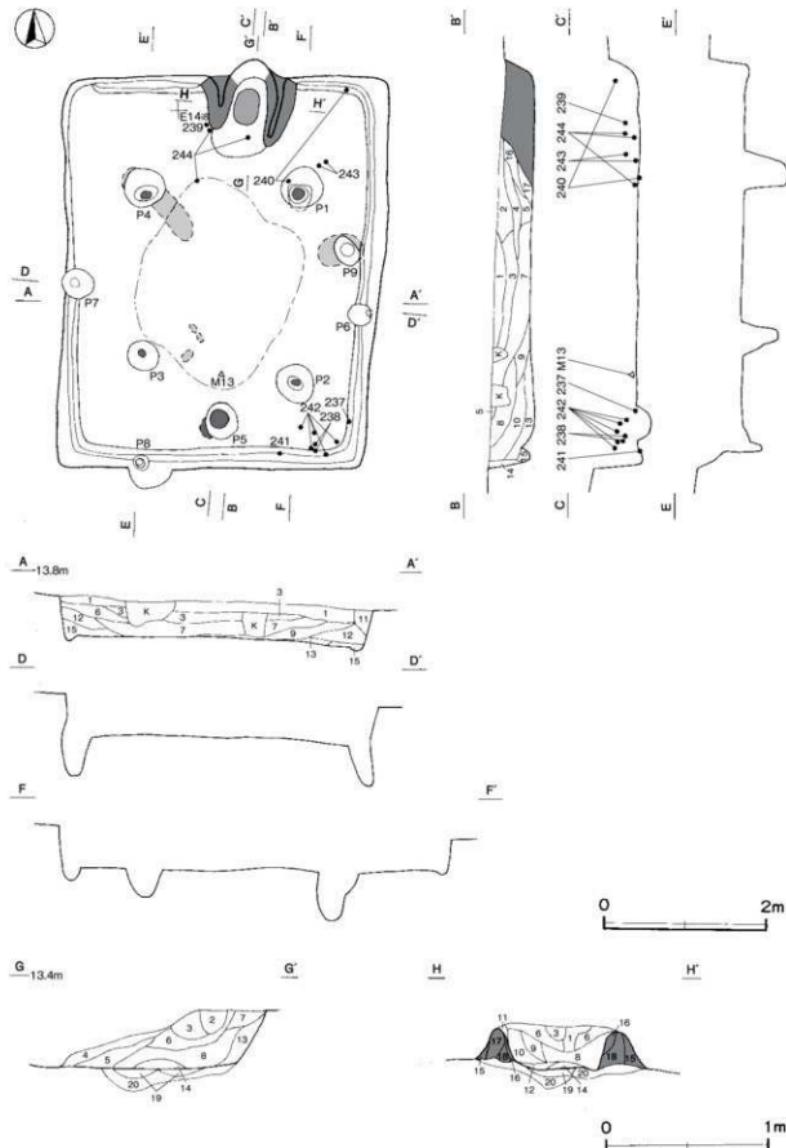
規模と形状 長軸4.88m、短軸4.00mの長方形で、主軸方向はN-9°-Eである。壁高は38～50cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。西壁の北部を除いて壁下には豊溝が巡っている。北西部の床面上に焼土塊を確認した。

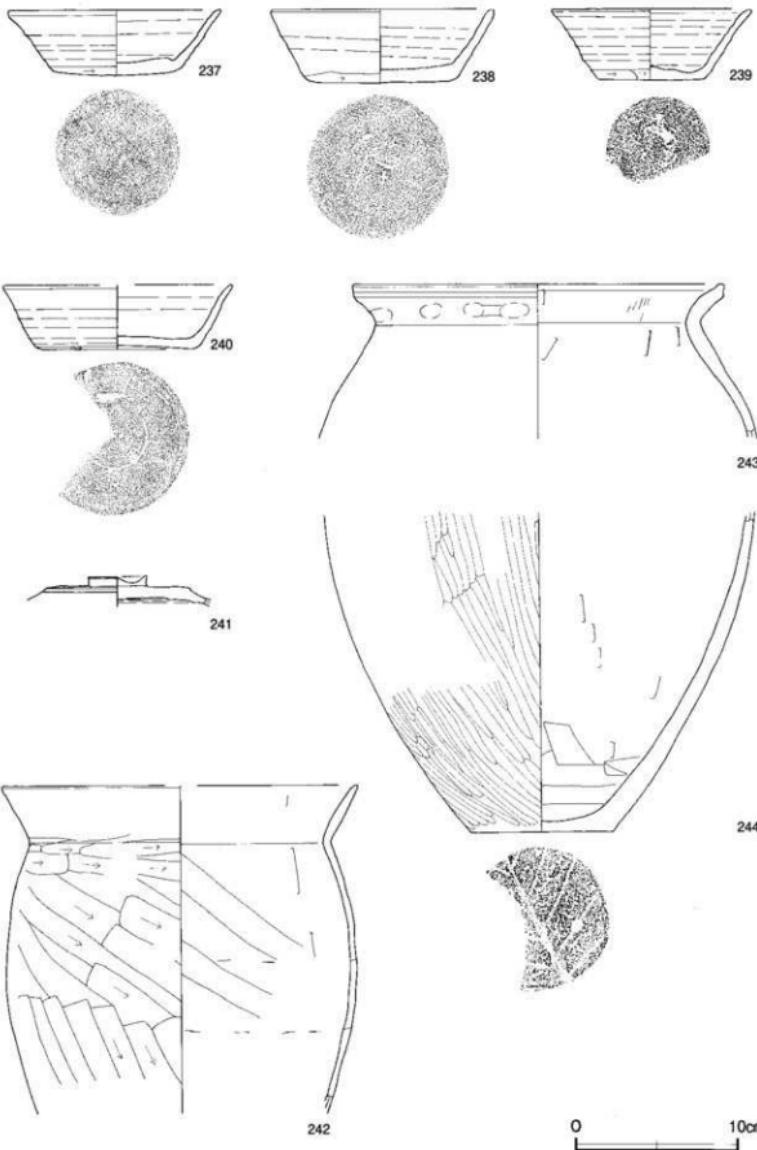
竈 北壁の中央部からやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで125cmで、燃焼部幅は45cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第15～18層を積み上げて構築されている。火床部は床面を14cm掘りくぼめ、第19・20層を埋土して構築している。火床面は火を受けて赤変硬している。煙道部は壁外へ18cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

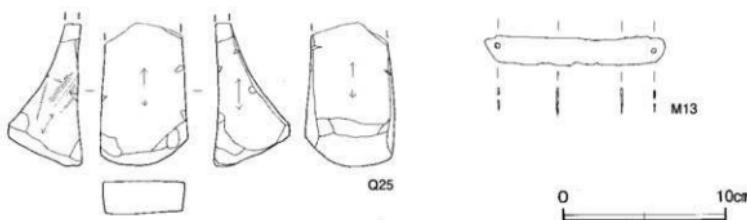
1	黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	10	暗赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子微量	11	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、燒土ブロック・ローム粒子微量
3	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、燒土ブロック・炭化粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子微量
4	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子少量、ローム粒子・炭化物微量	13	褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
5	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	14	灰白色	燒土ブロック少量、灰微量
6	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子・ローム粒子・炭化物微量	15	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
7	暗赤褐色	燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	16	暗赤褐色	燒土粒子・砂質粘土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
8	暗赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
9	暗赤褐色	燒土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
			19	暗赤褐色	燒土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量
			20	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量



第107図 第40号住居跡実測図



第108図 第40号住居跡出土遺物実測図(1)



第109図 第40号住居跡出土遺物実測図(2)

ピット 9か所。P 1～P 4は深さ38～61cmで、規模と配置から主柱穴である。P 5は深さ20cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 9は深さ13～55cmで、性格は不明である。

覆土 17層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 極暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量、砂質粘土ブロック少量、炭化粒子微量	13 暗褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	14 暗褐色	ローム粒子中量
6 褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	15 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量	17 暗褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量
9 褐色	ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化物・砂質土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片662点(环68、小形甕1、甕類593)、須恵器片110点(环83、蓋2、盤1、甕類23、瓶1)、石器1点(砥石)、鉄製品1点(手鎌)、焼成粘土塊5点、鉄滓69点(1091g)が、全面の覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか、流れ込んだ繩文土器片7点(深鉢)、剥片2点、石製品1点(白玉)も出土している。244は竈の前の床面と竈の覆土中層から出土した3点の破片が接合したものである。241は南部の壁溝の底面から出土している。237は南東コーナー部の覆土下層から、正位の状態で出土している。M13は南部、243は北東部の覆土下層からそれぞれ出土している。239は竈の西側、238・242は南東コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。240は北東コーナー部の覆土中層とP 1の覆土上層から出土した破片が接合したものである。Q25は竈の掘方理土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。床面上で確認した焼土塊は、床面が赤変していないことから、住居廃絶時に投棄されたものと考えられる。

第40号住居跡出土遺物観察表(第108・109図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	燒成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
237	須恵器	环	12.9	4.1	7.8	長石・石英	黄灰	普通	底部下部回転ヘラ削り 底部二方向のハラ削り	覆土下層	100% PL26
238	須恵器	环	13.4	4.6	8.8	長石・石英	ぶい黄	普通	体部下部回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り残す二方向のハラ削り	覆土中層	50% PL26
239	須恵器	环	12.2	4.4	6.5	長石・石英	灰オリーブ	普通	体部下部回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り残す二方向のハラ削り	覆土中層	60% PL27
240	須恵器	环	[14.0]	4.0	9.5	長石・石英・ 磁鐵	灰	普通	体部下部・底部回転ヘラ削り	P 1覆土上層	50%
241	須恵器	蓋	-	(1.9)	-	長石・石英	灰白	普通	天井部分回転ヘラ削り つまみ貼り付け	壁溝底面	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか		出土位置	備考
									口縁部・内面焼成度	底部外観上手標位のへラ削り・下半部位のへラ削り・内面へナデ・工具痕		
242	土器器	甕	[218]	(202)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通			腹土中層	30%
243	土器器	甕	226	(95)	-	長石・石英・ 石墨	にぶい棕褐色	普通	口縁部・内面焼成度	頭部外観指標頂点直向・内面へナデ・工具痕	腹土下層	20%
244	土器器	甕	-	(197)	88	長石・石英・ 石墨	灰黄褐色	普通	底部外観位のへラ削き・内面へナデ・工具痕	底部木葉痕	底面土中層	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
							断面長方形	一部欠損 砥面4面 横面に条線状の研痕		
Q 25	砾石	(88)	55	42	(210)	凝灰岩			遺物方塊土中	PL44

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
							両端に0.3cmの孔			
M 13	手錐	11.1	1.8	0.1	8.4	鉄			腹土下層	PL46

第 40 号住居跡出土鉄滓計測表

	最大 (長径 10cm以上)	天 (長径 4cm以上 10cm未満)	中 (長径 1cm以上 4cm未満)	小 (長径 1cm未満)	合計
点数	-	2	41	21	64
重量 (g)	-	240	773	78	1,091

第 42 号住居跡 (第 110・111 図)

位置 調査区東部の E 15i1 区、標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第 41 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.80 m、短軸 3.66 m の方形で、主軸方向は N - 17° - W である。壁高は 35 ~ 45 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。西壁際の床面上に焼土塊を確認した。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 96 cm で、燃焼部幅は 49 cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 9 ~ 12 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 7 cm 堀りくぼめ、第 13 層を埋土して構築している。火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ 50 cm 堀り込まれ、奥壁で段を有して立ち上がっている。

竈層解説

1	灰	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、燒土粒子微量	7	黑	褐	褐色	燒土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
2	黒	褐	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	8	黑	褐	褐色	ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	黒	褐	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	9	黑	褐	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4	褐	褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量、燒土粒子微量	10	暗	褐	褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、燒土ブロック微量
5	灰	褐色	ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	11	暗	褐	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6	褐	褐色	砂質粘土ブロック・ローム粒子少量、炭化物・燒土粒子微量	12	暗	褐	褐色	ローム粒子・炭化粒子中量、燒土粒子微量
				13	暗	赤	褐色	ローム粒子・燒土粒子中量、炭化粒子少量

ピット P 1 ~ P 4 は深さ 28 ~ 31 cm で、規模と配置から主柱穴である。P 5 は深さ 35 cm で、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 ~ P 8 は深さ 52 ~ 83 cm で、性格は不明である。

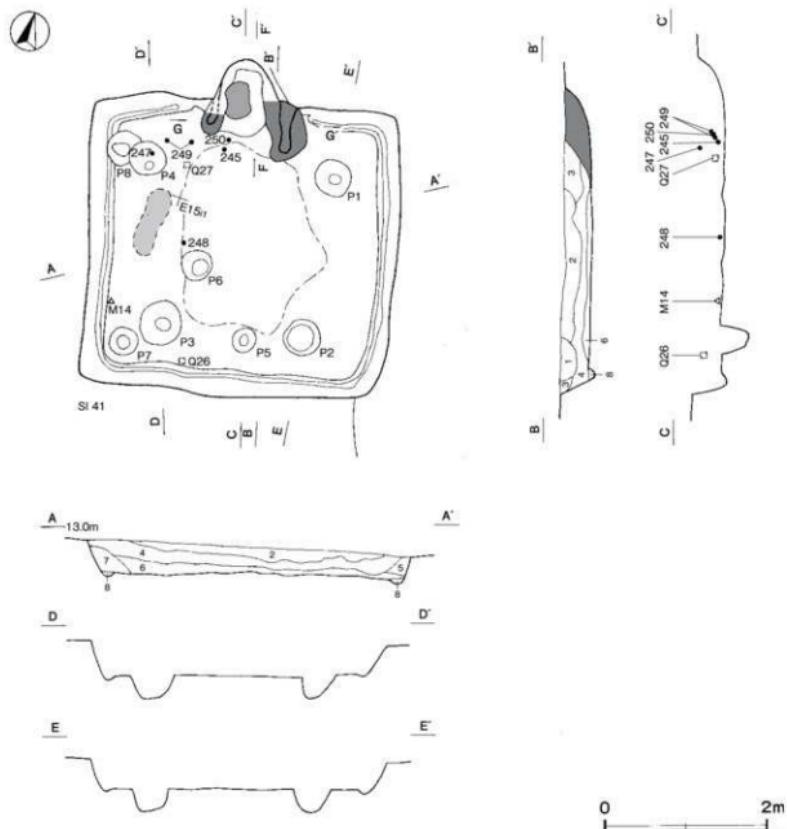
覆土 8 層に分層できる。周開からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

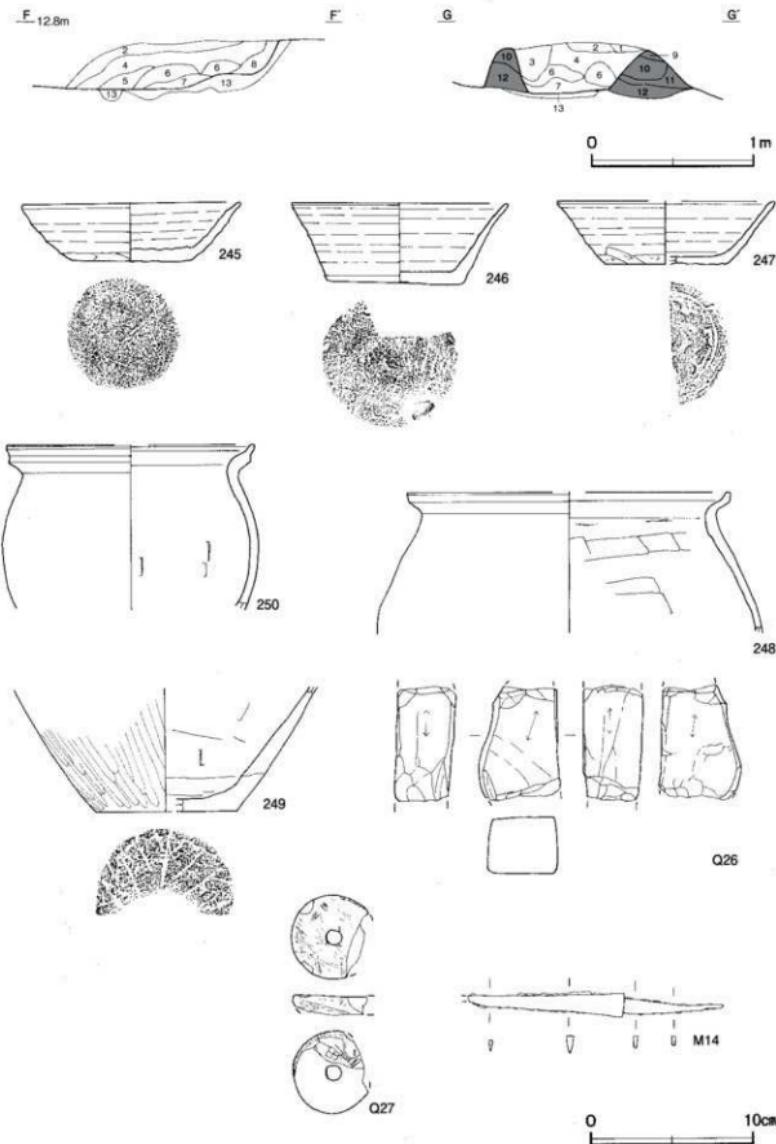
1	黑	褐	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	5	暗	褐	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子少量、炭化粒子微量
2	黒	褐	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量	6	暗	褐	褐色	ロームブロック中量、炭化ブロック微量
3	無	暗	褐色	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	7	暗	褐	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	暗	褐	褐色	ローム粒子少量、燒土粒子微量	8	黑	褐	褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 567 点（坏 75, 梵 1, 高坏 4, 壶類 482, 小形壺 1, 瓶 4), 須恵器片 133 点（坏 105, 高台付坏 2, 盖 6, 高盤 1, 鉢 9, 餐 5, 瓶 2, 壶類 3), 石器 2 点（砥石 1, 織錘車 1), 燃成粘土塊 28 点, 鉄滓 54 点 (573g) が、全面の覆土中層から床面にかけて出土している。そのほか、流れ込んだ繩文土器片 5 点（深鉢）、石製品 1 点（双孔円板）も出土している。245は壺の前の覆土下層から、正位の状態で出土している。250は壺の前、249・Q27は壺の西側、248は中央部、M14は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。247は北西部、Q26は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。246は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。床面上で確認した焼土塊は、床面が赤変していないことから、住居廃絶時に投棄されたものと考えられる。



第 110 図 第 42 号住居跡実測図



第 111 図 第 42 号住居跡・出土遺物実測図

第42号住居跡出土遺物観察表（第111図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
245	須恵器	环	13.4	3.7	7.2	長石・石英・ 粘土	黄灰	普通	底部下端回転ヘラ削り 底部一方のヘラ削り	覆土下層	90%
246	須恵器	环	13.2	5.1	8.4	長石・石英・ 粘土	褐灰	普通	底部一方のヘラ削り	覆土中	50% 自然釉
247	須恵器	环	[13.4]	3.9	[7.4]	長石・石英・ 粘土	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ削り 残す一方のヘラ削り	覆土中層	40%
248	土器	甕	[19.8]	(8.7)	-	長石・石英・ 粘土	棕	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ・工具痕	覆土下層	10%
249	土器	甕	-	(7.6)	8.5	長石・石英・ 粘土	にぶい棕	普通	体部外端部のヘラ削き 内面ヘラナデ・工具 痕 長芯大茎痕	覆土下層	10%
250	土器	小形甕	[15.2]	(10.2)	-	長石・石英・ 粘土	にぶい褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面工具痕	覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 26	砥石	(7.1)	5.2	3.7	(176)	砂岩	断面長方形 一部欠損 砥面4面	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	孔様	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 27	筋跡車	(5.2)	(1.2)	1.0	(35.2)	蛇紋岩	全面研磨 一部欠損 上・底面削痕 一方からの中孔	覆土下層		

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 14	刀子	(15.8)	1.5	0.4	(187)	鉄	切先欠損 刃部断面三角形、茎部断面逆台形	覆土下層	PL45

第44号住居跡（第112・113図）

位置 調査区東部のE 1512区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.86m、短軸3.50mの長方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は20~42cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体を均一に掘り込み、第11層を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで80cmで、燃焼部幅は51cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第8~11層を積み上げて構築されている。火床部は床面を15cm掘りくぼめ、焼土粒子を含んだ第12・13層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ30cm掘り込まれ、奥壁はほぼ直立している。

竈土層解説

1	黒	褐色	ロームブロック少量	8	褐	色	ロームブロック・砂質粘土ブロック中量
2	暗	褐色	ロームブロック中量	9	暗	褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック微量
3	褐色	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	10	褐色	色	ローム粒子多量、砂質粘土粒子中量、燒土粒子少量
4	褐	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	11	黒	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
5	暗	褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量	12	灰	褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、燒土粒子微量
6	暗	褐色	燒土粒子微量	13	暗	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7	褐	褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量				

ピット 2か所。P 1は深さ16cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 2は掘方調査で確認したものであり、深さ18cmで、性格は不明である。

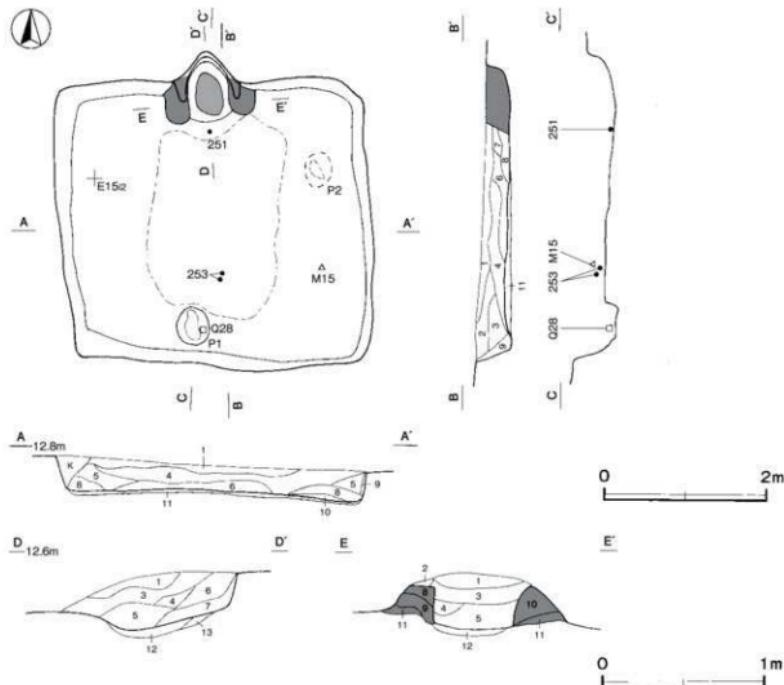
覆土 10層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第11層は貼床の構築土である。

土層解説

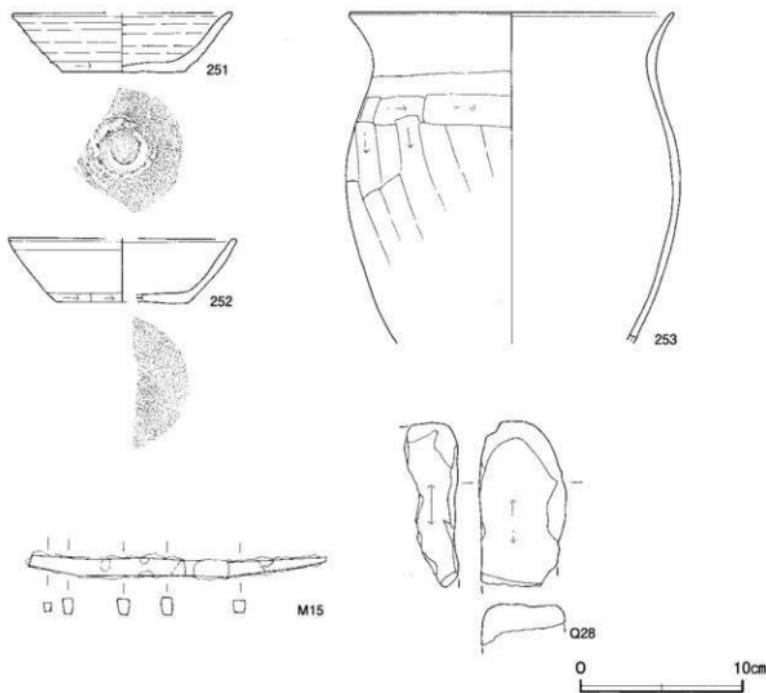
1 黒褐色	ロームブロック少量	7 灰褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	9 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量	10 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子微量
5 褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子多量
6 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片 150 点 (坏 25, 麦類 125), 須恵器片 16 点 (坏 9, 盖 1, 壺 1, 麦類 5), 石器 1 点 (砥石), 鉄製品 1 点 (刀子), 焼成粘土塊 1 点, 鉄滓 6 点 (70.2g) が出土している。そのほか、混入した縄文土器片 1 点 (深鉢), 石器 1 点 (敲石), 陶器片 1 点 (碗) も出土している。251 は竈の前, 253 は南部の床面からそれぞれ出土している。Q 28 は P 1 の覆土上層から出土している。M 15 は東部の覆土中層から出土している。252 は覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。



第 112 図 第 44 号住居跡実測図



第 113 図 第 44 号住居跡出土遺物実測図

第 44 号住居跡出土遺物観察表（第 113 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	施成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
251	埴器	环	[13.4]	37	7.3	長石・石英	灰黄	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残す一方のヘラ削り	床面	30%
252	埴器	环	[13.8]	39	[8.0]	長石・石英・滑母	灰黄	普通	体部一方回転ヘラ削り 底部一方方向のヘラ削り	覆土中	30%
253	土師器	甌	19.8	[20.4]	—	長石・石英・滑母	褐	普通	L1縫部外・内面横ナメ 体部上位横位のヘラ削り 中位斜位のヘラ削り	床面	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
Q 28	砥石	(10.2)	5.3	(3.2)	(1.49)	滑石岩	一部欠損 砥面2面	P 1 覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M 15	鑿	18.5	1.8	0.7	53.8	鐵	前面長方形 基部・先端部中心線よりやや屈曲	覆土中層	

第 45 号住居跡（第 114・115 図）

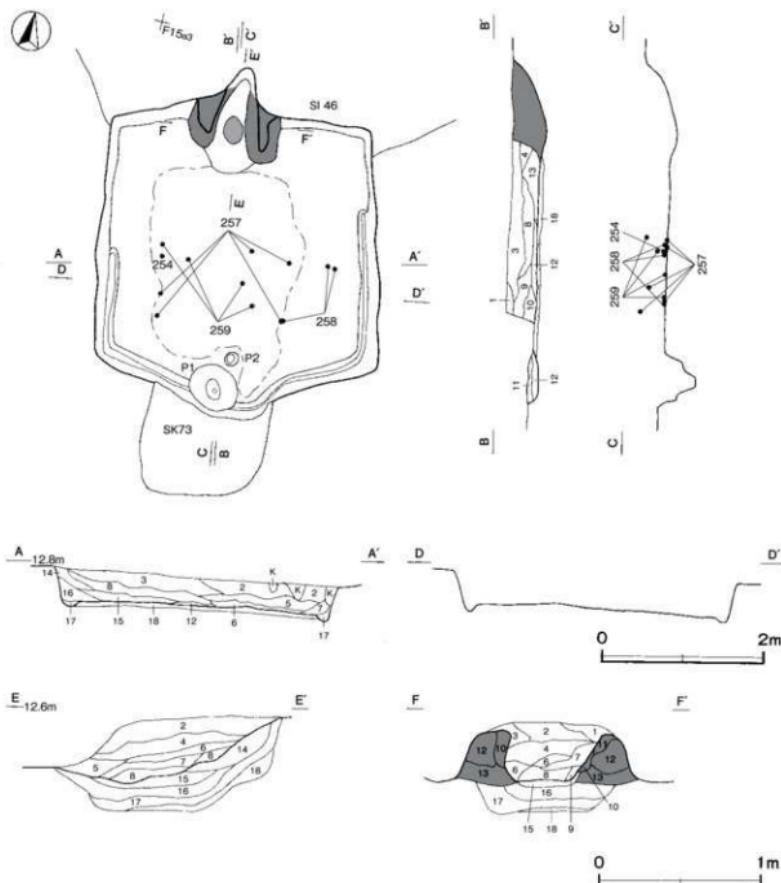
位置 調査区中央部のF 15a3区、標高 13 mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第 46 号住居跡を掘り込み、第 73 号土坑に掘り込まれている。

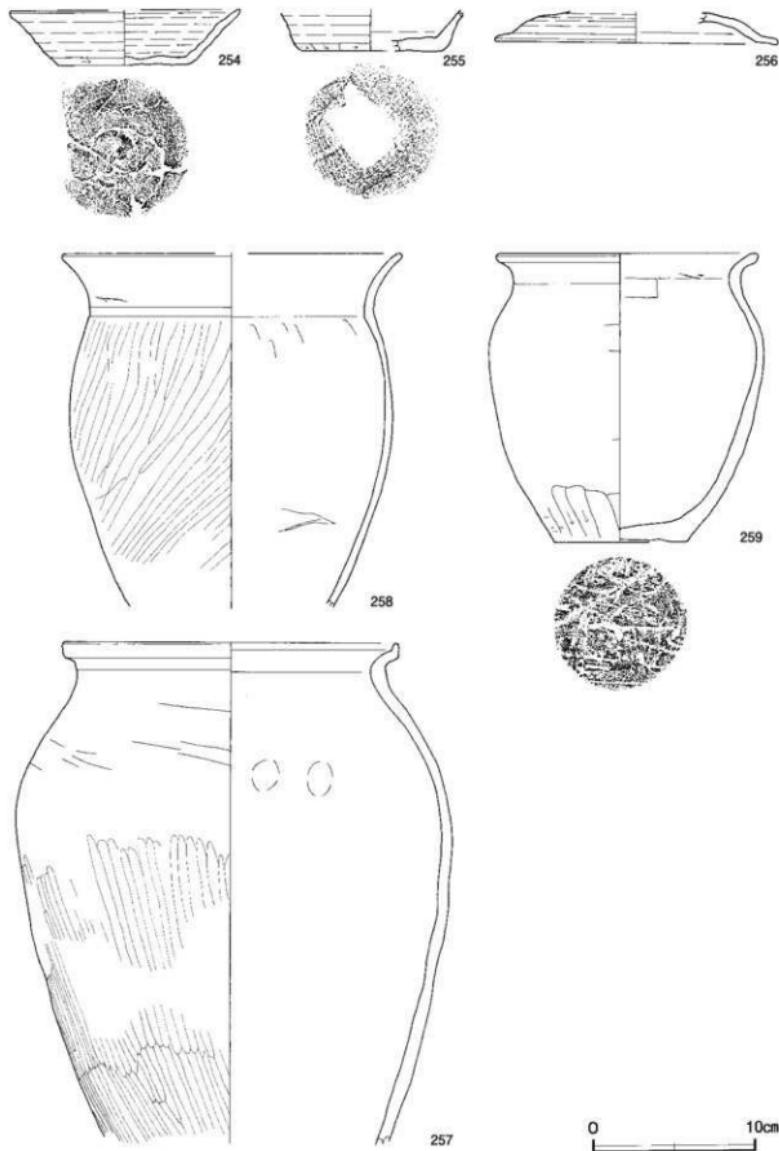
規模と形状 長軸 3.78 m、短軸 3.48 m で、南壁中央部が外側へ約 70cmほど突出した五角形を呈しており、主軸方向は N-8°-W である。壁高は 35~45cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。南半部の壁下には壁溝が巡っている。貼床は、東部を皿状に掘りくぼめ、主にローム粒子を含んだ第 18 層を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 130cm で、燃焼部幅は 38cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 10~13 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 20cm 挖りくぼめ、第 14~18 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ 50cm 挖り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。



第 114 図 第 45 号住居跡実測図



第115図 第45号住居跡出土物実測図

遺土層解説

1 黒 色	ローム粒子微量	11 灰 白 色	砂質粘土粒子中量。燒土ブロック少量、ローム粒子、炭化粒子微量
2 暗 関 色	ロームブロック微量	12 灰 白 色	砂質粘土粒子多量。ローム粒子少量、燒土粒子微量
3 にい褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量	13 暗 関 色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子、燒土粒子、炭化粒子微量
4 関 色	砂質粘土ブロック少量、ロームブロック微量	14 暗 関 色	ローム粒子、炭化粒子微量
5 関 色	ロームブロック・燒土粒子、炭化粒子微量	15 暗 関 色	燒土粒子中量、ローム粒子微量
6 赤 関 色	ローム粒子微量	16 暗 関 色	ロームブロック・炭化物、燒土粒子微量
7 暗赤褐色	燒土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子、砂質粘土微量	17 暗 関 色	ローム粒子少量、炭化物微量
8 暗赤褐色	燒土粒子中量、炭化物少量	18 暗 関 色	燒土粒子中量、炭化物、ローム粒子微量
9 暗褐色	燒土ブロック・炭化粒子微量		
10 暗赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子、炭化粒子微量		

ピット 2か所。P 1・P 2は深さ36cm・12cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 17層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第18層は貼床の構築土である。

土層解説

1 黒 関 色	ロームブロック・炭化粒子微量	10 暗 関 色	ロームブロック少量、燒土粒子、炭化粒子微量
2 関 色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子微量	11 暗 関 色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
3 暗 関 色	ローム粒子少量、砂質粘土ブロック・燒土粒子、炭化粒子微量	12 黒 関 色	炭化物少量、燒土ブロック微量
4 関 色	ローム粒子中量、燒土粒子、炭化粒子微量	13 暗 関 色	ロームブロック中量、炭化粒子少量
5 暗 関 色	ロームブロック少量、砂質粘土ブロック・燒土粒子微量	14 暗 関 色	ローム粒子、燒土粒子少量、炭化粒子微量
6 暗 関 色	砂質粘土ブロック・ローム粒子、炭化粒子微量	15 暗 関 色	ローム粒子、燒土粒子少量、砂質粘土粒子微量
7 暗 関 色	ローム粒子少量、燒土粒子、炭化粒子微量	16 暗 関 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
8 黒 関 色	ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量	17 暗 関 色	ロームブロック中量、燒土粒子微量
9 暗 関 色	ローム粒子中量、燒土粒子、炭化粒子微量	18 暗 関 色	ローム粒子中量、燒土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片258点(坏33、甕類224、小形甕1)、須恵器片23点(坏18、蓋2、鉢1、甕類2)、焼成粘土塊7点が出土している。そのほか、混入した繩文土器片7点(深鉢)、陶器片1点(碗)、磁器片2点(碗)、軽石1点も出土している。254は西部の床面から、255は東部の覆土下層から、正位の状態でそれぞれ出土している。258は東部の床面から出土している。257・259は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。256は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。

第45号住居跡出土遺物観察表(第115図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
254	須恵器	坏	[142]	34	82	長石・石英・ 珪母	にい・黒	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を 残すナダ	床面	60%
255	須恵器	坏	-	(26)	86	長石・石英・ 珪母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部二方向のヘラ削り	覆土下層	70%
256	須恵器	蓋	[172]	(19)	-	長石・石英・ 珪母	灰	普通	天舟部分削りへこみ	覆土中	10%
257	土師器	甕	205	(30.9)	-	長石・石英・ 珪母	にい・黒	普通	口縁内外・内面横ナダ 体部外面上段ヘナナダ・ 中位部内面縁内側ヘナダ	覆土中層	70%
258	土師器	甕	[208]	(21.8)	-	長石・石英・ 珪母	にい・黒	普通	口縁部外・内面横ナダ 体部外面上段ヘナナダ・ 中位部内面縁内側ヘナダ	床面	40%
259	土師器	小形甕	158	178	82	長石・石英	にい・黒	普通	口縁部外・内面横ナダ 体部外面上段ヘナナダ・ 中位部内面縁内側ヘナダ	覆土中層	80%

第47号住居跡(第116～120図)

位置 調査区東部のF 14a8区、標高14mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第48号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸3.86m、短軸3.75mの方形で、主軸方向はN-8°-Wである。壁高は45～60cmで、外傾

して立ち上がっている。

床 平坦で、窓の前面が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

窓 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで120cmで、燃焼部幅は33cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第13～23層を積み上げて構築されている。火床部は、床面を4cm掘りくぼめ、ローム粒子を含む第24層を埋土して構築されている。火床面に赤変硬化している状況は確認できなかった。煙道部は壁外へ40cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

電土層解説

1	に	い	褐	色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量、燒土粒子微量	12	黒	褐	色	燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
					炭化粒子微量	13	褐	褐	色	砂質粘土粒子少量
2	暗	褐	色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	14	灰	灰	色	砂質粘土粒子中量	
					砂質粘土粒子微量	15	灰	褐	色	砂質粘土粒子多量
3	暗	褐	色	ローム粒子・燒土粒子少量、砂質粘土粒子微量	16	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子ブロック微量	
4	暗	褐	色	ローム粒子・燒土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	17	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子少量	
					砂質粘土粒子微量	18	褐	色	ローム粒子少量	
5	褐	灰	色	砂質粘土粒子少量、燒土粒子微量	19	灰	褐	色	燒土粒子少量、ローム粒子微量	
6	褐	灰	色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子微量	20	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子微量	
7	暗	赤	褐	燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	21	褐	褐	色	砂質粘土粒子中量、燒土ブロック微量	
					砂質粘土粒子微量	22	褐	褐	色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
8	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子少量、燒土粒子微量	23	褐	褐	色	ローム粒子・燒土粒子少量、砂質粘土粒子微量	
9	暗	赤	褐	燒土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	24	褐	褐	色	ローム粒子中量	
10	暗	赤	褐	燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量						
11	暗	赤	褐	燒土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量						

ピット 深さ28cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 17層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。混鉄滓土層は3層に分層できる。第1・2層には製鉄滓が混在している。

土層解説

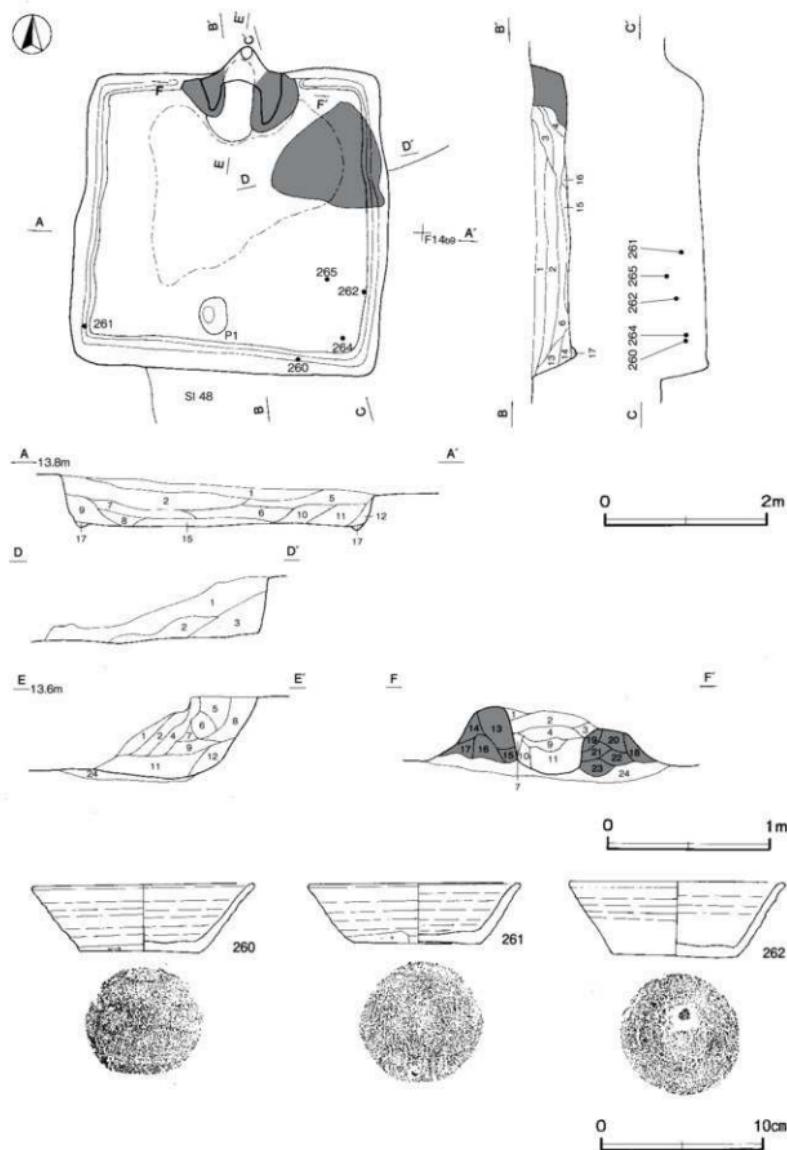
1	暗	褐	色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	9	暗	褐	色	ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子微量
2	暗	褐	色	ローム粒子中量、燒土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	10	暗	褐	色	ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量
3	暗	褐	色	ロームブロック・燒土粒子少量	11	暗	褐	色	ロームブロック・燒土粒子少量、炭化粒子微量
4	暗	褐	色	燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	12	暗	褐	色	ローム粒子少量、燒土粒子微量
5	暗	褐	色	ロームブロック・燒土ブロック少量	13	暗	褐	色	ロームブロック微量
6	暗	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量	14	暗	褐	色	ローム粒子多量
7	暗	褐	色	ローム粒子少量、燒土ブロック・炭化粒子微量	15	暗	褐	色	ローム粒子微量
8	暗	褐	色	ローム粒子微量	16	褐	褐	色	ローム粒子少量
					17	暗	褐	色	ローム粒子少量

混鉄滓土層解説

1	暗	褐	色	鐵滓多量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	3	暗	褐	色	ロームブロック・燒土ブロック微量
2	無	暗	褐	燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鐵滓少量					

遺物出土状況 土師器片431点(坏47、甕類384)、須恵器片96点(坏79、甕類17)、炉壁2点、鉄製品1点(釘)、焼成粘土塊13点、鉄滓5,574点(92.760g)が、全面の覆土上層から床面にかけて出土している。そのほか、混入した繩文土器片1点(深鉢)、陶器片1点(碗)、瓦片1点も出土している。TP12は北東コーナー部の覆土下層から出土している。260・262・264・265は南東部、261は南西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。263・M16は覆土中からそれぞれ出土している。また、DP60・DP61・M17～132は東壁際北部の覆土上層から窓の前の覆土下層にかけて、投棄された状態で出土している。

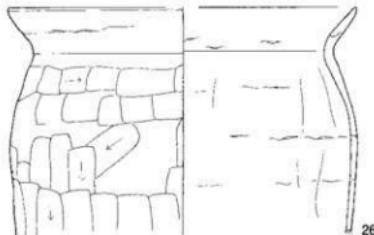
所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。また、出土した多量の鉄滓は製鉄滓が主体であり、中割り・小割り段階の炉壁、炉底塊、炉内滓、炉内滓含鉄、鉄塊系遺物に分類できる。このことから、当住居の住人は製鉄工人と密接な関わりを持つものと考えられる。



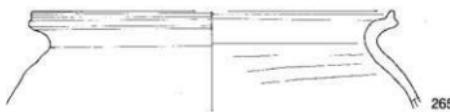
第116図 第47号住居跡・出土遺物実測図



263



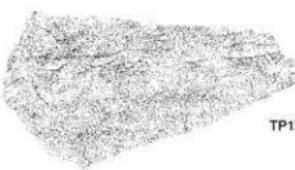
264



265



M16



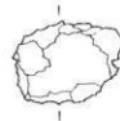
TP12



DP60



DP61



M17



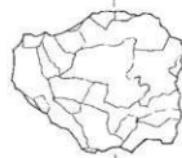
M18



M19



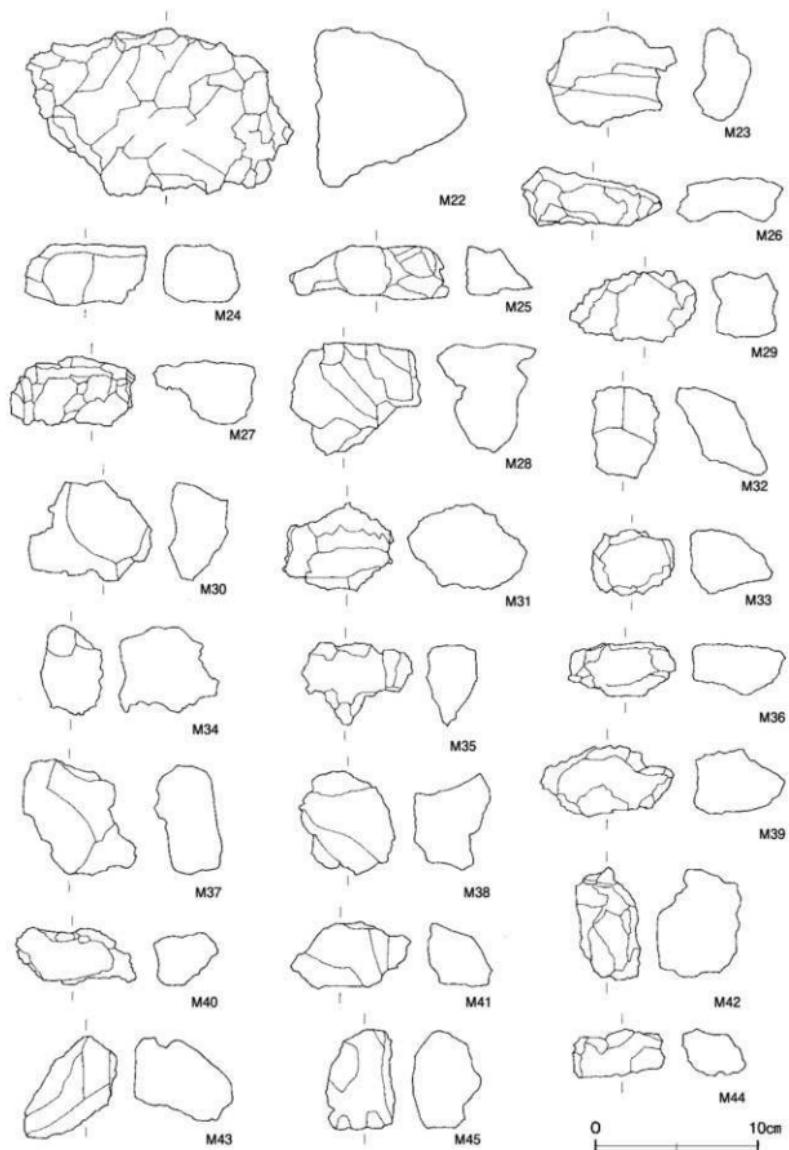
M20



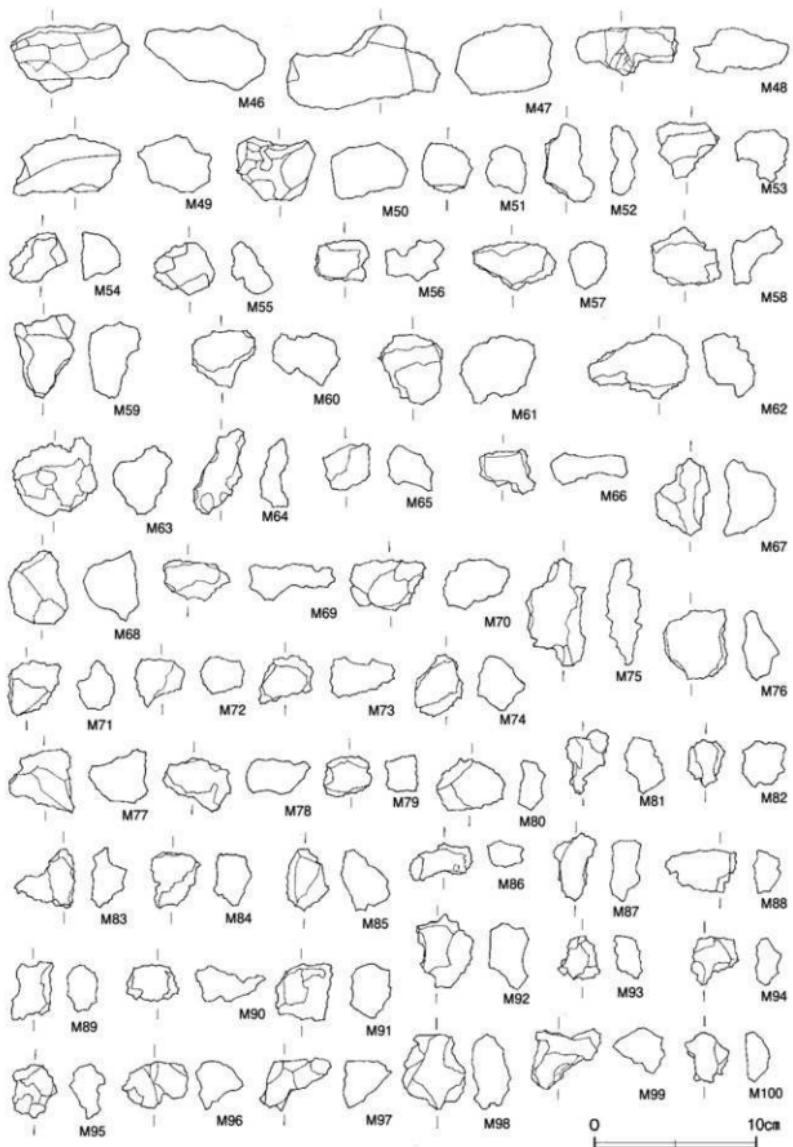
M21



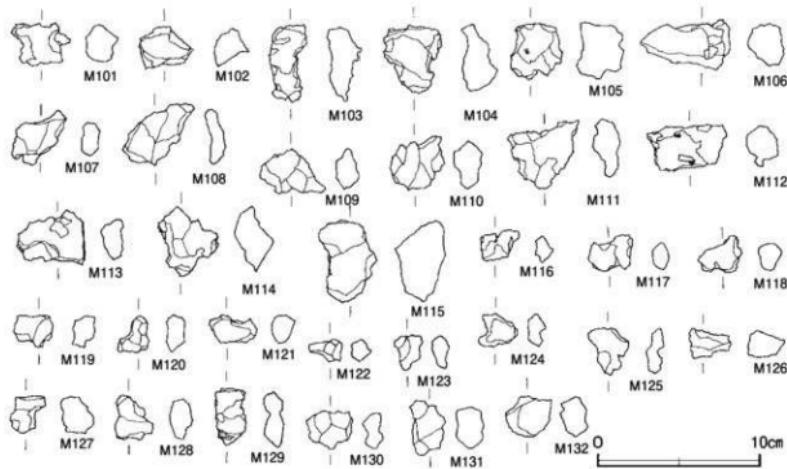
第117図 第47号住居跡出土遺物実測図(1)



第118図 第47号住居跡出土遺物実測図(2)



第119図 第47号住居跡出土遺物実測図(3)



第120図 第47号住居跡出土遺物実測図(4)

第47号住居跡出土遺物観察表(第116~120図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
260	風呂器	环	13.6	4.1	7.3	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中層	95% PL37
261	風呂器	环	12.9	3.8	7.8	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	覆土中層	70% PL37
262	風呂器	环	13.2	4.7	7.6	長石・石英	灰	普通	体部回転ヘラ削り	覆土中層	70%
263	風呂器	环	12.7	3.9	7.3	長石・石英	灰黄	普通	底部削りヘラ切り痕を残す一方向のヘラ削り	覆土中	60%
264	土器器	甕	[21.4] [14.1]	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外側上部横凹のヘラ削り 体部外側中底部底辺のヘラ削り	覆土中層	20%	
265	土器器	甕	[22.3] (6.1)	-	長石・石英・雲母	黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面ヘラナデ	覆土中層	10%	

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP12	風呂器	甕	長石・石英・雲母	灰黄	体部斜傾の平行叩き 内面同心円状の当て具痕	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 16	剪	(7.2)	1.0	0.5	(4.8)	鉄	断面方形 鋸部欠損	覆土中	PL46

第47号住居跡出土製鉄関連遺物集計表

メタル類	なし	鋳化(△)	H (□)	M (○)	L (●)	特L (△)	メタル類						
							直管・直筒	曲管	直管	曲管	直筒	曲管	直筒
鉄鋤 (鉄鍊付)	1	1135					3	654	6	581	41	2741	45
(漆仕上げ合鉢)	8	73.3					3	280	3	90	87	4543	6
鉄鋤 (合鉢)	2	379		1	3012	2	1180	1	1731	42	1192	8	4058
鉄内添 (大)	83	26726										1	14
鉄内添 (中)	134	15014										32	1996
鉄内添 (小)	112	6567										2	9872
鉄内添 (合鉢)	285	45300	2	3650	4	2885						9	3116

第47号住居跡出土製鉄関連遺物観察表（第121・122図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	基部	メモ等	特徴	出土位置	備考
M90	内舟(合板、小)	23	3.2	4.3	31.9	4	●	側面が破損となり、下面の手舟側に溝跡が突出している。上面下手舟側の溝みは木板状に見える。本資料も手舟表面からの剥落品か。合板部は芯材。	覆土中	
M91	内舟(合板、小)	36	3.5	2.5	57.5	4	●	上面と右側面のみが剥離している。裏面にはかすかに木板状と中の気孔が露出する。板状脱着部で、合板部は芯材に広がる。	覆土中	
M92	内舟(合板、小)	4.6	3.6	2.6	50.3	4	●	上面と右側面のみが剥離している。裏面にはかすかに木板状と中の気孔が露出する。左側面は芯材で、右側面は芯材に広がる。合板部は上面で手舟側の芯材を剥離。	覆土中	
M93	残埋系造物(合板、中)	27	2.6	2.1	12.6	7	(M)	側面3面と下面が剥離。密度は軽めとみられ、表面には凹凸が目立つ。	覆土中	PL48
M94	残埋系造物(合板、中)	30	2.9	1.8	18.3	7	(M)	黒墨の日式と白墨の左側面。左側面は剥離しており、画面から右寄りの側面は破損となる。裏面の密度は高く、芯材部が想定される。	覆土中	PL48
M95	残埋系造物(合板、中)	34	2.7	2.1	20.8	7	(M)	上面ののみが剥離している。側面や下舟側には木板剥離しきれりがある。ややまとまりに欠ける印模があるが、組者は無し。	覆土中	
M96	残埋系造物(合板、中)	28	4.1	3.2	29.1	8	(M)	上手舟側の側面が埋土中に埋まっている。裏面は半埋土で、表面は木板剥離しきれりである。側面4面と下面の左半が剥離と推定される。黒墨が吹き、裏面は白墨。	覆土中	
M97	残埋系造物(合板、中)	32	4.4	4.0	46.1	5	(M)	下面の中央部に長さ3cm大程度の木板剥離が発見されている。裏面は半埋土で、表面は木板剥離しきれりである。	覆土中	
M98	残埋系造物(合板、中)	4.6	3.8	6.0	56.6	5	(M)	前面左側面が剥離して横たわる。裏面から左寄りの側面が生きている可能性大。右寄りの側面3面が剥離して横たわる。	覆土中	
M99	残埋系造物(合板、中)	37	4.2	3.9	62.0	3	(M)	上面の、ごく小範囲で剥離している。側面は下手舟側に埋まっている。やや細長く、右側面には木板剥離しきれりである。側面3面と下面の右舟側が剥離している。	覆土中	
M100	残埋系造物(合板、中)	30	2.6	1.8	19.6	4	●	手舟側の側面が埋土中に埋まっている。裏面は半埋土で、表面は木板剥離しきれりである。側面4面と下面の左舟側が剥離。	覆土中	PL48
M101	残埋系造物(合板、中)	27	3.7	2.2	25.4	4	●	裏面がカギザケしている。上面はやや平底味で、側面は凹凸が激しい。組し、組部から左舟側は破損で、裏面は木板剥離と推定される。	覆土中	PL48
M102	残埋系造物(合板、中)	26	3.3	2.5	26.9	5	●	側面4面と下面が剥離。上面下舟側が手舟側に埋まっている。裏面は木板剥離と主部。	覆土中	
M103	残埋系造物(合板、中)	4.8	2.5	2.0	27.8	4	●	黒墨に汚れたやや半埋土味。黒墨細かな点が生じている上面ののみが生きおり、右舟側の側面が剥離する。左舟側は半埋土味で、裏面から右舟側の側面が剥離している。	覆土中	
M104	残埋系造物(合板、中)	4.2	3.6	2.5	42.4	4	●	右舟側の側面が剥離となっていた。やや薄味。上面は半埋土味で、下面の左舟側が剥離。	覆土中	
M105	残埋系造物(合板、中)	35	3.2	2.9	62.7	5	●	側面4面と下面が剥離した状態。下舟側はやや平底味で、下面は側面剥離となる。合板部は右舟側で密度が高めである。	覆土中	
M106	残埋系造物(合板、中)	32	5.5	2.5	42.8	4	●	側面3面と顎となれた右舟側に長手。上面は生きており、側面から下面には木板剥離がやや多めに残る。左舟側は半埋土味。	覆土中	
M107	残埋系造物(合板、中)	35	3.3	1.3	18.3	3	L(合)	側面3面と下面が剥離。左舟側方に反り回った薄板状で、鉄津縁に見えそれが、メタリズム度は高い。下面は側面剥離。	覆土中	PL48
M108	残埋系造物(合板、中)	38	4.5	1.5	30.1	4	L(合)	上面のみが剥離している。側面は壊れ、通連した純然たる破損。裏面は外観的には側面剥離。前着と同様、見かけの際はメタリズム度が高い。	覆土中	PL48
M109	残埋系造物(合板、中)	28	4.0	1.7	24.6	4	新し(合)	側面3面と下面が剥離。左舟側はやや側面剥離化されても残されている。側面のみが剥離する。左舟側はやや側面剥離で、裏面は木板剥離となる。	覆土中	
M110	残埋系造物(合板、中)	32	3.3	1.9	27.3	4	新し(合)	上面や側面の半舟側が剥離。下面の裏面には木板剥離しきれりが生じ、裏面は木板剥離となる。	覆土中	
M111	残埋系造物(合板、中)	4.2	4.3	1.9	33.3	5	新し(合)	上面下舟側と顎3面が剥離した状態。表面には不規則な凹凸や木板剥離として加えて凹凸も露出する。裏面は木舟側に剥離。	覆土中	
M112	残埋系造物(合板、中)	29	5.0	2.6	36.5	4	新し(合)	側面4面と下面が剥離。裏面は生きており、黒墨細かな澤の剥離しきれりが確認できる。合板部は右舟側から左舟側部分が全体。	覆土中	
M113	残埋系造物(合板、中)	34	4.2	2.2	37.5	4	新し(合)	右舟側部の側面の黒墨のためグランジで硝い半埋土感漂する。上面の中央部のみが生きており、側面3面と下面は側面剥離となる。不規則な形状で、ほんの少し木舟側に剥離している。	覆土中	
M114	残埋系造物(合板、中)	4.3	3.7	2.9	43.1	5	新し(合)	上面の舟側が生きており、側面3面と下面が剥離となる。手舟側の側面は埋土性で、裏面は木舟側に剥離する。	覆土中	PL48
M115	残埋系造物(合板、中)	5.1	3.7	3.3	70.9	4	新し(合)	黒墨や側面化粧に剥離されて下舟側に手舟側が生きおり、再び側面3面が剥離している。裏面は木舟側に剥離。	覆土中	PL48
M116	残埋系造物(合板、小)	20	2.5	1.4	6.0	3	(△)	側面4面と下面が剥離。裏面は生きており、黒墨細かな澤の剥離しきれりが確認できる。合板部は右舟側から左舟側部分が全体。	覆土中	PL48
M117	残埋系造物(合板、小)	22	2.8	1.5	9.0	3	(△)	上面の舟側が生きており、側面4面が剥離。下面は側面剥離様で、側面は剥離するが剥離後生きている。合板部は予想される。	覆土中	PL48
M118	残埋系造物(合板、小)	24	2.8	1.9	13.0	3	(△)	側面4面と下面が剥離となつた状態。裏面は側面剥離様で、裏面に剥離品がある。	覆土中	PL48
M119	残埋系造物(合板、小)	20	2.4	1.4	9.5	3	H	側面3面が剥離となつた状態。前面を一回り小さくしたような外観を持つてある。下面は木舟側からの剥離品か。	覆土中	PL48
M120	残埋系造物(合板、小)	22	2.0	1.2	8.3	5	H	側面3面が剥離となつた状態。前面を一回り小さくしたような外観を持つてある。下面は木舟側からの剥離品か。	覆土中	PL48
M121	残埋系造物(合板、小)	18	2.9	1.7	10.9	3	H	側面4面と下面が剥離となつた状態。本資料も前二者と似る。	覆土中	
M122	残埋系造物(合板、小)	13	2.0	1.4	4.9	6	(M)	側面3面が剥離となり、下面が側面剥離様に見える。見かけの割には合板部が主体。	覆土中	PL48
M123	残埋系造物(合板、小)	2.1	1.7	1.1	7.0	6	(M)	側面3面と下面が剥離となつた状態。加埋表面からの剥落品の可能性大。	覆土中	PL48
M124	残埋系造物(合板、小)	2.1	2.4	1.1	6.9	5	●	側面3面が剥離となり、裏面に木舟側に剥離が生じている滑板状。上面が半埋土味であることを示す。	覆土中	PL48
M125	残埋系造物(合板、小)	29	2.5	1.3	7.6	3	●	側面から左舟側全体が剥離となりて剥離しない不規則。表面や側面は微細な木板皮に覆われ、やや密度の高い木舟側。	覆土中	PL48
M126	残埋系造物(合板、小)	19	2.6	2.3	11.1	4	●	側面3面が剥離。裏面には木舟側が在し。密度は軽めと予想される。併し、磁石による吸着性は弱く、裏面の側面には木舟側が剥離している。	覆土中	PL48
M127	残埋系造物(合板、小)	2.3	2.2	2.0	12.1	3	●	見かけの割には木舟側が在し。密度は軽めと予想される。併し、見かけの舟側には木舟側が剥離している。	覆土中	PL48
M128	残埋系造物(合板、小)	2.8	2.4	1.4	12.6	5	●	側面3面が剥離とみられ、下面が浅い側面剥離。裏面と同様、見かけ以上に全体が合板部。	覆土中	
M129	残埋系造物(合板、小)	3.5	2.0	1.4	15.3	5	●	側面4面が剥離とされる。裏面は木舟側の形状を有し、下手舟側は側面剥離である。裏面には剥離が確認している。加埋表面に生成された鉄部材。	覆土中	
M130	残埋系造物(合板、小)	2.3	3.0	1.6	16.7	7	●	側面3面が剥離となつた状態。基本的に前者と同様性質。表面には半埋土砂と反射削痕が並んで、黒墨の痛みが目立つ。	覆土中	
M131	残埋系造物(合板、小)	3.4	2.2	1.7	17.6	6	●	側面5面が剥離となつた状態。裏面はやや側面剥離様の芯部が想定される。	覆土中	
M132	残埋系造物(合板、小)	2.5	2.8	1.9	17.1	5	●	側面5面が剥離となつた状態。裏面には木舟側が在し。密度は軽めと予想される。併し、裏面の舟側には木舟側が剥離している。	覆土中	

第 47 号住居跡

	炉内落 (含灰)				炉内落 (含灰, 中)				
	H (○)	M (○)	特 L (△)	熟化 (△)	H (○)	M (○)	L (●)	M (○)	L (●)
D790 炉壁 (滑付, 合灰)									
M21 炉L (△)									
D761 炉底塊 (含灰)									
M22 熟化 (△)									
M17 炉内落 (含灰, 酸洗地刷付き)									
M18 M (○)									
M19 L (●) M (○)									
M20 分析									

第 121 図 第 47 号住居跡製鉄関連遺物構成図 (1)

0 10cm

第47号住居跡

特L(☆) M(◎)	炉内渣 (含鉄、小)		眞焼系遺物 (含鉄、中)		特L(●) M(◎)		特L(☆) M(○)		眞焼系遺物 (含鉄、中)		特L(☆) M(◎)	
	L	●	L	●	M	○	L	●	M	○	L	●
M71	○	○	○	○	M86	M93	○	○	○	○	M107	○
M72	○	○	○	○	M87	M94	○	○	○	○	M115	M120
M73	○	○	○	○	M88	M95	○	○	○	○	M116	M121
M74	○	○	○	○	M89	M96	○	○	○	○	M117	M122
M75	○	○	○	○	M90	M97	○	○	○	○	M118	M123
M76	○	○	○	○	M91	M98	○	○	○	○	M119	M124
M77	○	○	○	○	M92	M99	○	○	○	○	M120	M131
M78	○	○	○	○	M93	M106	○	○	○	○	M121	M132
分析												

第122図 第47号住居跡鉄門遺物構成図(2)

0 10cm

第 49 号住居跡（第 123 ~ 125 図）

位置 調査区東部の F 14b7 区、標高 14 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 3.78 m、短軸 3.55 m の方形で、主軸方向は N - 2° - E である。壁高は 37 ~ 45 cm で、外傾して立ち上がっている。南壁中央部が幅 120 cm、奥行き 30 cm の長方形に張り出している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。東・西の壁下には壁溝が巡っている。貼床は、中央部と西壁下を皿状に掘り込み、ロームブロックを含む第 10 層を埋土して構築されている。

竈 北壁のはばに中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 130 cm で、煙道部幅は 50 cm である。袖部は第 20・21 層を埋土して基部とし、砂質粘土を主体とした第 14 ~ 19 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10 cm 掘りくぼめ、第 20 ~ 22 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 55 cm 掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗	褐	色	燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土 粒子微量	11	暗	褐	色	炭化粒子微量
2	暗	褐	色	ローム粒子・燒土粒子微量	12	褐	色	燒土粒子・炭化粒子微量	
3	暗	褐	色	砂質粘土粒子少量・ローム粒子・燒土粒子・炭化 粒子微量	13	暗	褐	色	砂質粘土粒子中量・燒土粒子少量・ローム粒子・ 炭化粒子微量
4	暗	褐	色	燒土ブロック・ローム粒子少量・砂質粘土粒子微量	14	褐	灰	色	燒土粒子・砂質粘土粒子少量
5	にぶい	黄	色	砂質粘土粒子中量・ローム粒子・燒土粒子・炭化 粒子微量	15	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量・燒土粒子・炭化粒子微量
6	褐	色	色	炭化粒子少量・燒土粒子・砂質粘土粒子微量	16	褐	灰	色	砂質粘土粒子中量・燒土粒子・炭化粒子微量
7	暗	褐	色	燒土粒子少量・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土 粒子微量	17	褐	灰	色	砂質粘土粒子中量・燒土粒子・炭化粒子微量
8	暗	赤	褐色	燒土粒子中量・砂質粘土粒子少量・ローム粒子・ 炭化粒子微量	18	暗	褐	色	炭化粒子・砂質粘土粒子少量・燒土粒子微量
9	褐	色	色	砂質粘土粒子少量・燒土粒子微量	19	暗	褐	色	燒土粒子・砂質粘土粒子少量・ローム粒子微量
10	施	暗	褐	焼土粒子少量・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土 粒子微量	20	褐	色	色	ロームブロック少量
					21	褐	灰	色	ローム粒子少量
					22	暗	褐	色	ローム粒子少量・燒土粒子・炭化粒子微量

ピット 2か所。P 1・P 2 は深さ 20 cm・7 cm で、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

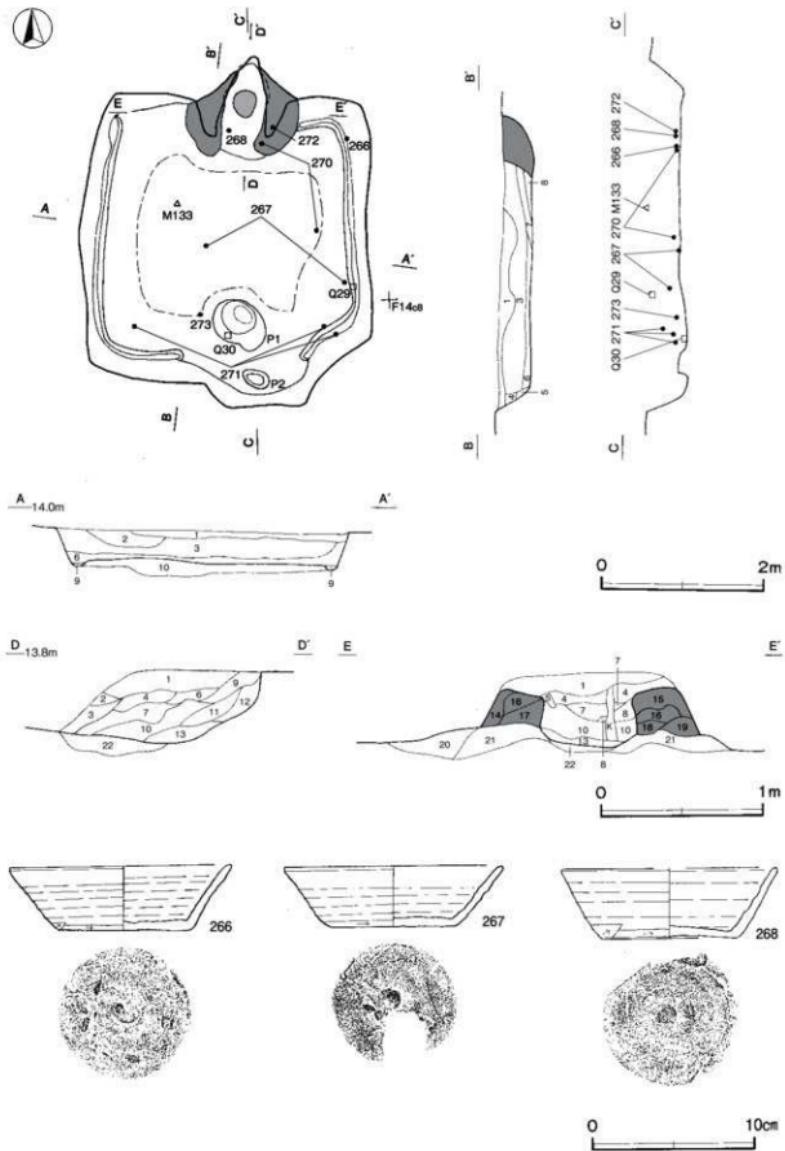
覆土 9 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第 10 層は、貼床の構築土である。

土層解説

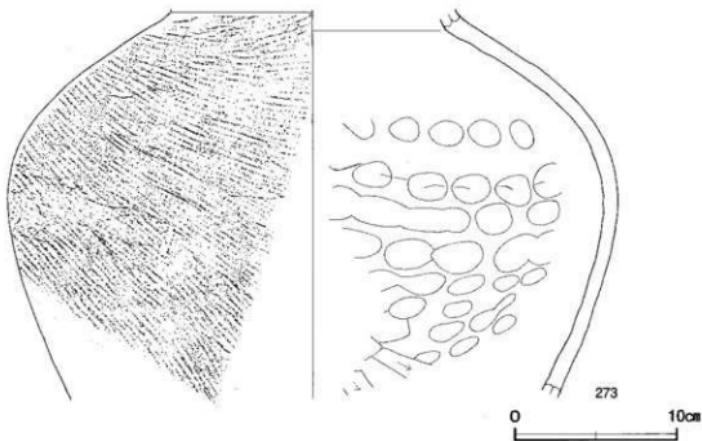
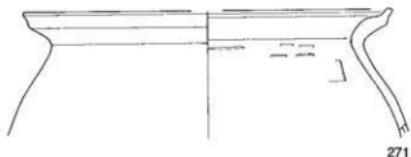
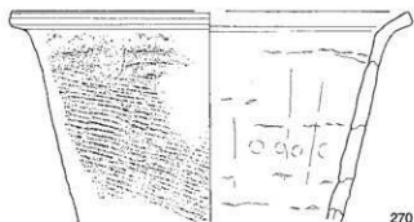
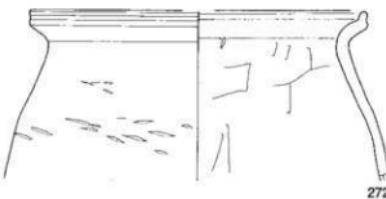
1	暗	褐	色	燒土ブロック少量・ローム粒子・炭化粒子微量	6	暗	褐	色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
2	暗	褐	色	燒土ブロック・ローム粒子少量・炭化粒子微量	7	暗	褐	色	燒土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3	暗	褐	色	燒土ブロック少量・ロームブロック・炭化粒子微量	8	暗	褐	色	ローム粒子・燒土粒子・砂質粘土粒子微量
4	褐	色	色	ローム粒子中量・燒土粒子微量	9	暗	褐	色	炭化物・ローム粒子・燒土粒子微量
5	褐	色	色	ローム粒子中量	10	褐	色	色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 509 点（坏 26、甕類 483）、須恵器片 245 点（坏 140、蓋 3、高盤 2、鉢 75、壺 3、甕類 12、瓶 10）、石器 3 点（砥石）、鐵製品 2 点（釘）、燒成粘土塊 17 点、鐵滓 37 点 (744g) が、全面の覆土中層から床面にかけて出土している。また、貼床の構築土内から土師器片 14 点（坏 13、甕類 1）、須恵器片 3 点（坏）が出土している。そのほか、混入した繩文土器片 2 点（深鉢）、陶器片 2 点（碗）、磁器片 2 点（碗）、剝片 4 点も出土している。Q 30 は南部の床面から出土している。266 は北東コーナー部の覆土下層から、正位の状態で出土している。267 は中央部と東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。273 は南部の覆土下層から出土している。270 は東部の覆土下層と甕の覆土中層から出土した破片が接合したものである。268・272 は甕の覆土下層からそれぞれ出土している。271 は南部の覆土中層から出土している。Q 29 は東部、M 133 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。269 は覆土中から出土している。

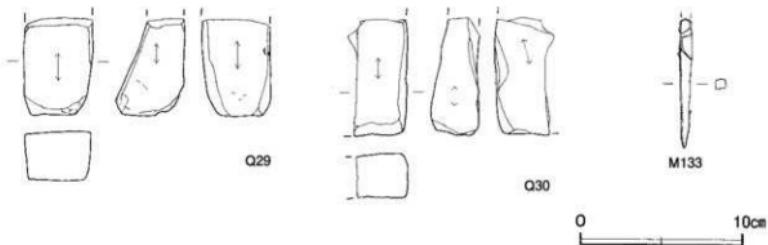
所見 時期は、出土土器から 8 世紀中葉に比定できる。



第123図 第49号住居跡・出土遺物実測図



第124図 第49号住居跡出土遺物実測図(1)



第125図 第49号住居跡出土遺物実測図(2)

第49号住居跡出土遺物観察表(第123~125図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
266	環状器	环	12.6	4.1	8.0	長石・石英・ 雲母	黄灰	普通	体部下端削輪へラ削り 底部削輪へラ切り痕を残す 底部一方向へのラ削り	覆土下層	100% PL37
267	環状器	环	12.4	3.8	7.8	長石・石英・ 雲母	黄灰	普通	体部下端削輪へラ削り 底部削輪へラ切り痕を残す 底部一方向へのラ削り	覆土下層	80% PL37
268	環状器	环	[13.2]	4.4	8.4	長石・石英・ 雲母	灰	普通	体部下端削輪へラ削り 底部削輪へラ切り痕を残す 底部一方向へのラ削り	覆土下層	40% PL37
269	環状器	环	[14.2]	4.1	[7.8]	長石・石英	灰白	普通	体部下端削輪へラ削り 底部一方向へのラ削り	覆土中	10%
270	環状器	环	[24.4]	[13.0]	-	長石・石英	灰	普通	体部外縁斜削の平行叩き 内面横積痕を残すナ ラ・相間出現	覆土下層	10% PL38
271	土鉗器	鍼	[22.6]	(7.9)	-	長石・石英・ 雲母	灰	普通	口縁部外・内面横ナラテ 内面ヘラナテ・工具痕	覆土中層	10%
272	土鉗器	鍼	[20.6]	(10.5)	-	長石・石英・ 雲母	灰	普通	口縁部外・内面横ナラテ 体部外面部工具痕 内面 ヘラナテ・工具痕	覆土下層	10%
273	環状器	环	-	(24.0)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部斜位の平行叩き 内面当て具痕	覆土下層	10% PL39

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 29	砥石	(60)	42	4.3	(133)	凝灰岩	平面逆三角形 一部欠損 砥面3面	覆土上層	
Q 30	砥石	(72)	(37)	3.0	(111)	砂岩	平面長方形 一部欠損 砥面3面	床面	PL44

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M133	針	(80)	0.6	0.8	(142)	鉄	断面方角 頭部欠損	覆土上層	PL46

第51号住居跡(第126・127図)

位置 調査区東部のF15c4区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.15m、短軸3.03mの方形で、主軸方向はN-1°-Wである。壁高は36~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁下を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁の東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで110cmで、燃焼部幅は42cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第14~18層を積み上げて構築されている。火床部は床面を5cm掘りくぼめ、ローム粒子主体の第19層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変化している。煙道部は壁外へ45cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

電土層解説

1	灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子微量	10	極暗褐色	ローム粒子、燒土粒子、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量	11	暗赤褐色	燒土粒子中量、ローム粒子微量
3	暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・燒土粒子微量	12	灰褐色	砂質粘土粒子多量、燒土粒子微量
4	褐色	ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量	13	暗赤褐色	燒土粒子少量、ロームブロック微量
5	褐色	ローム粒子中量、燒土粒子、炭化粒子微量	14	灰褐色	砂質粘土粒子中量
6	暗褐色	ロームブロック微量、砂質粘土粒子微量	15	灰褐色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子少量、炭化粒子微量
7	灰褐色	砂質粘土粒子中量、炭化物・ローム粒子、燒土粒子微量	16	褐色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子微量
8	灰褐色	砂質粘土粒子少量、燒土ブロック・ローム粒子、炭化粒子微量	17	褐色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子微量
9	暗赤褐色	燒土ブロック中量、ローム粒子、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18	褐色	ローム粒子中量
			19	褐色	ローム粒子中量

ピット 深さ32cmで、南壁際のほぼ中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

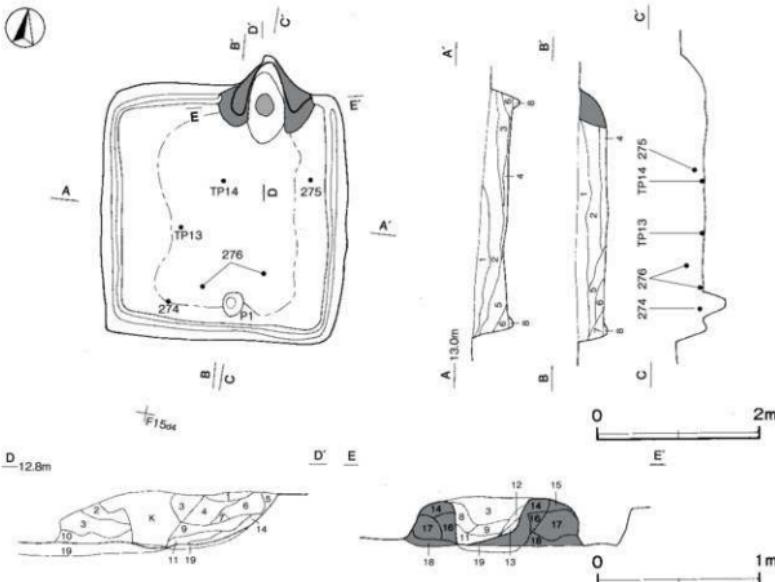
覆土 8層に分層できる。周開からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

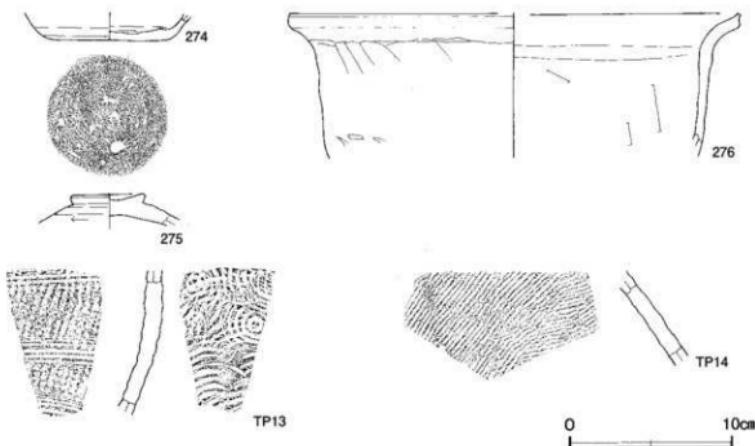
1	暗褐色	ローム粒子少量、燒土粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子少量、燒土粒子、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量	6	深暗褐色	ロームブロック微量
3	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量	7	黑褐色	ローム粒子、炭化粒子微量
4	褐色	ローム粒子微量	8	褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況 土器片130点(坏18, 鉢1. 壺類111), 須恵器片19点(坏15, 蓋2, 壺類2), 鉄滓2点(11g)が出土している。TP13・TP14は中央部の床面からそれぞれ出土している。274は南西部。276は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。275は北東部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第126図 第51号住居跡実測図



第127図 第51号住居跡出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
274	須恵器	环	-	(17)	7.2	長石・石英・ 磁鐵	灰	普通	底部斜削ヘラ削り	覆土下層	40%
275	須恵器	蓋	-	(21)	-	長石・石英・ 雲母	灰黄	普通	天井部斜削ヘラ削り後、つまみ貼り付け	覆土中層	20%
276	土師器	鉢	[276]	(8.9)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面微ナデ、体部外・内面ヘラナダ・ 工具痕	覆土下層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP13	須恵器	便	長石・石英	灰	体部斜位の平行叩き後、横位のカキ目 内面同心円状の当て具痕	床面	PL40
TP14	須恵器	便	長石・石英	灰白	体部斜位の平行叩き	床面	

第52号住居跡（第128・129図）

位置 調査区東部のF 15d4 区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長軸3.86m、短軸3.62mの隅丸方形で、主軸方向はN-10°-Wである。壁高は30~36cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、全体を均一に掘りくぼめ、ローム粒子主体の第9層を埋土して構築されている。南壁及び西壁下には壁溝が巡っている。竈の右袖前から6点の炭化材を検出した。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで102cmで、燃焼部幅は31cmである。袖部は地山を掘り残して基部とし、砂質粘土を主体とした第8~16層を積み上げて構築されている。火床部は床面を8cm掘りくぼめ、ローム粒子、焼土粒子を含んだ第17~18層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ18cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

電土層解説

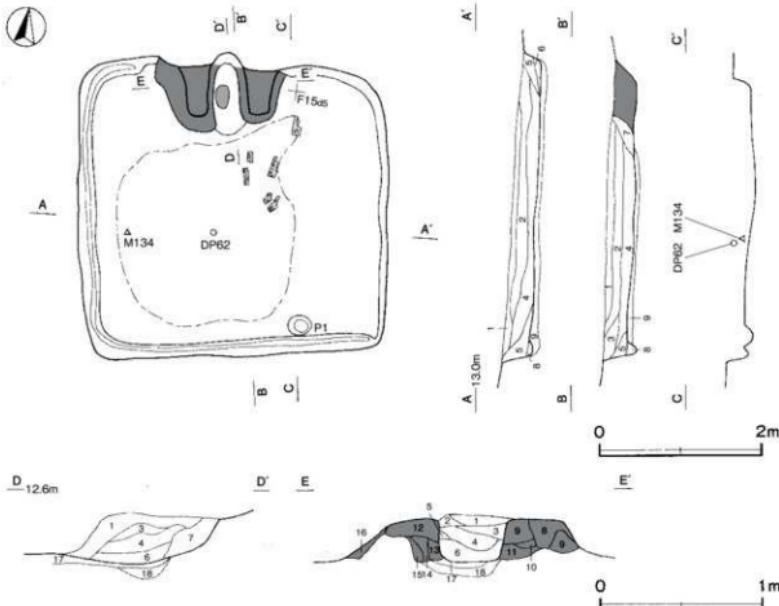
1 暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 明褐色	砂質粘土粒子多量、焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
4 褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	12 暗褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 にぶい橙色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック少量、ローム粒子微量	13 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
6 暗赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
8 にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	16 暗褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
		17 暗褐色	焼土粒子少量、ローム粒子微量
		18 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 深さ13cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

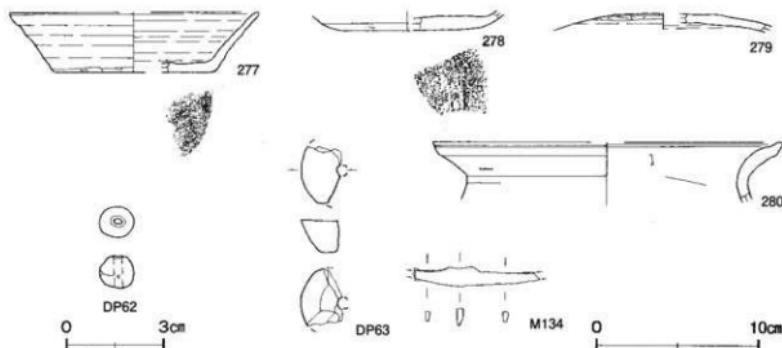
覆土 8層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第9層は、貼床の構築土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	7 暗褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子少量
4 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	9 褐色	ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック微量		



第128図 第52号住居跡実測図



第129図 第52号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況 土器器片192点（环34、碗1、甕類157）、須恵器片16点（环14、蓋1、鉢1）、土製品2点（土玉1、紡錘車1）、鉄製品1点（刀子）、焼成粘土塊4点、鐵滓51点（1371g）が出土している。そのほか、流れ込んだ繩文土器片5点（深鉢）も出土している。280は北部、278・M134は西部、DP63は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。DP62は中央部、277は北部、279は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。甕の右袖部の前で検出した炭化材は、床面に焼けた様子が見られないことから、住居廃絶の際に投棄されたものと考えられる。

第52号住居跡出土遺物観察表（第129図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴はか	出土位置	備考
277	須恵器	环	[152]	3.8	(9.6)	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	体部下端回転ヘラ削り　底部一方向のヘラ削り	覆土中層	10%
278	須恵器	环	-	(1.2)	(9.6)	長石・石英	黄灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	覆土下層	5%
279	須恵器	蓋	-	(1.4)	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土中層	5%
280	土器器	甕	[216]	(3.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ　内面ヘラナデ・工具痕	覆土下層	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP62	土玉	11	1.0	0.2	11	長石・石英	ナデ　一方向からの穿孔	覆土中層	PL41
DP63	紡錘車	(36)	2.0	(0.7)	(16.1)	長石・石英	ナデ　矢根　一方向からの穿孔	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M134	刀子	(78)	13	0.4	(67)	鉄	刃部・茎部欠損　刃部断面三角形・茎部断面逆三角形	覆土下層	PL45

第52号住居跡出土鉄滓計測表

点数	特大 (長径10cm以上)			大 (長径4cm以上10cm未満)			中 (長径1cm以上4cm未満)			小 (長径1cm未満)			合計
	1	38	12	51									
重量(g)	-	135	1.176	60									1371

第53号住居跡（第130・131図）

位置 調査区東部のF 15g6区、標高12mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 東部が搅乱を受けているため、南北軸は3.12mで、東西軸は2.75mしか確認できなかった。平面形は方形あるいは長方形と推定でき、主軸方向はN-15°-Wである。壁高は35~48cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。南壁下の一部に壁溝を確認した。貼床は、中央部を皿状に掘りくぼめ、ロームブロックを含む第14~17層を埋土して構築されている。また、中央部の床面上から炭化材を検出した。

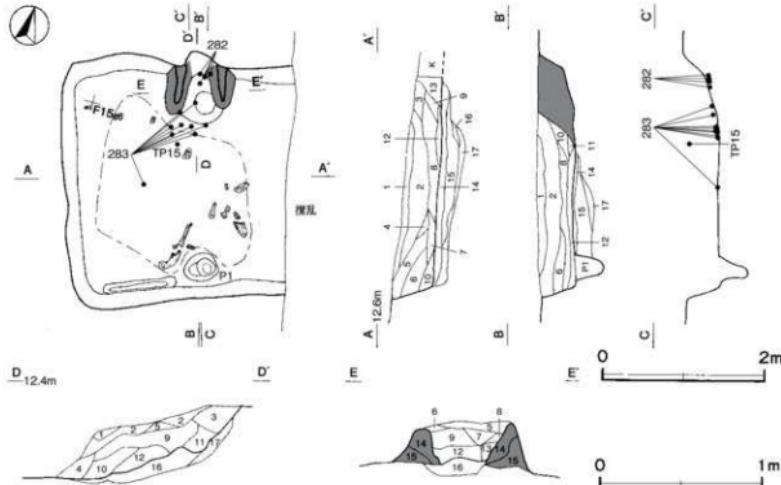
竈 北壁に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cmで、燃焼部幅は30cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第14・15層を積み上げて構築されている。火床部は床面を5cm掘り込んで、ローム粒子、焼土粒子を含んだ第16・17層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ20cm掘り込まれ、奥壁で段を有し、外傾して立ち上がっている。

電土層解説

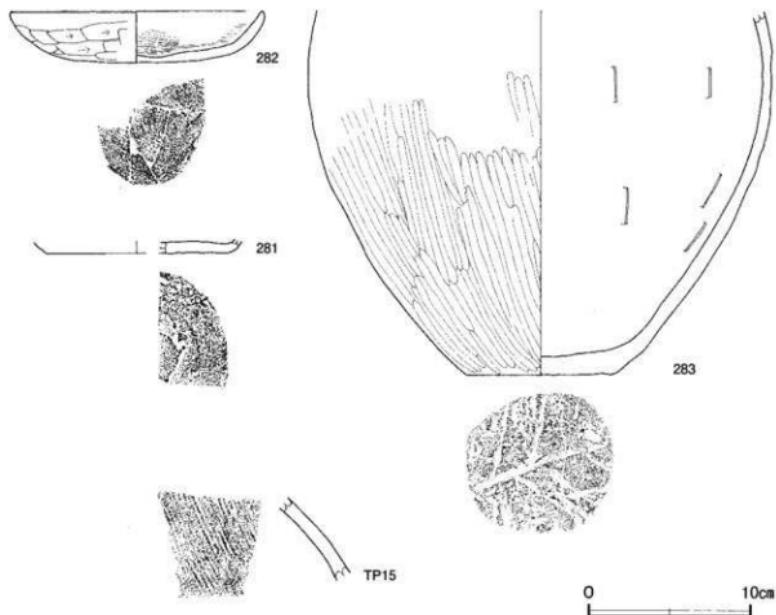
1	暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	11	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量	12	灰褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	暗褐色	焼土粒子中量、ロームブロック、炭化粒子微量	13	褐色	焼土ブロック・ローム粒子、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	14	暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子、砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	15	黒褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量
6	暗褐色	焼土粒子微量	16	褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量
7	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	17	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量			
9	暗褐色	焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量			
10	暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量			

ピット 深さ36cmで、南壁際のはば中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 13層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第14~17層は、貼床の構築土である。



第130図 第53号住居跡実測図



第131図 第53号住居跡出土遺物実測図

土層解説

1	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗	褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2	黒	褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量・炭化粒子微量	11	黒	褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
3	暗	褐色	ローム粒子中量・炭化粒子微量	12	黒	褐色	ローム粒子少量
4	暗	褐色	炭化材中量・ローム粒子微量	13	暗	褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
5	暗	褐色	ロームブロック微量・炭化粒子微量	14	黒	褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6	暗	褐色	ローム粒子中量・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	15	褐	褐色	ロームブロック中量・炭化粒子微量
7	暗	褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16	暗	褐色	ロームブロック中量
8	暗	褐色	ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量	17	黒	褐色	ロームブロック少量
9	黒	褐色	炭化材・ロームブロック少量				

遺物出土状況 土師器片129点(坏19、甕類110)、須恵器片7点(坏6、鉢1)、鐵滓27点(138g)が出土している。また、貼床の構築土内から土師器片7点(坏1、甕類6)が出土している。そのほか、混入した繩文土器片3点(深鉢)、石器1点(凹石)、剝片2点も出土している。282は甕の煙道部の奥壁下から出土した破片が接合したものである。283は甕の火床面と甕の前及び中央部の床面から出土した破片が接合したものである。TP15は甕の前の覆土上層から出土している。281は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。中央部の床面上で検出した炭化材は、床面に焼けた様子がみられないことから、住居廃絶後の埋め土に混入したものと考えられる。

第 53 号住居跡出土遺物観察表（第 131 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底坪	胎土	色調	地成	手法の特徴はか	出土位置	備考
281	須恵器	环	-	(0.9)	[11.2]	長石・石英・ 赤母	黄灰	普通	底部輪軸へラ切り痕を残すナデ	覆土中	10%
282	土師器	瓶状坏	15.5	3.2	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外表面横位のヘラ削き 内面横位のヘラ削き	煙道部奥壁下	80% PL37
283	土師器	甕	-	(22.5)	9.0	長石・石英	にぼい褐	普通	体部外表面のヘラ削き 内面ヘラナデ・工具痕	窯火床面 床面	50%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TPI5	須恵器	甕	長石・石英・赤母	灰黄	体部斜位の平行叩き	覆土上層	

第 56 号住居跡（第 132・133 図）

位置 調査区東部の F 15c1 区、標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第 60・61 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 4.52 m、短軸 4.32 m の不整形で、主軸方向は N - 3° - W である。壁高は 35 ~ 50 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。西壁下の一部で壁溝を確認した。貼床は、四隅を土坑状に掘りくぼめ、ロームブロックを含む第 16 ~ 19 層を埋土して構築されている。

竈 北壁のはば中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 142 cm で、燃焼部幅は 60 cm である。補部は床面を 18 cm 掘り込んで第 16 ~ 25 層を埋土し、その上に砂質粘土を主体とした第 14 ~ 15 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 40 cm 掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗	褐	燒土粒子微量	12	暗	褐	ローム粒子・燒土粒子微量
2	暗	褐	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	13	褐	色	ローム粒子少量、燒土粒子微量
3	褐	色	ローム粒子少量	14	暗	褐	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・燒土粒子微量
4	褐	色	ローム粒子・燒土粒子少量	15	灰	褐	砂質粘土粒子中量
5	褐	色	燒土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質 粘土粒子微量	16	暗	赤	燒土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
6	灰	褐	燒土粒子・砂質粘土粒子微量	17	暗	褐	砂質粘土粒子少量
7	暗	赤褐色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子・炭化粒子少量	18	暗	褐	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量
8	暗	褐	燒土粒子少量	19	暗	褐	ローム粒子少量
9	灰	褐	燒土粒子少量、炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒 子微量	20	灰	褐	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
10	暗	赤褐色	燒土粒子中量、ロームブロック・炭質粘土粒子 微量	21	褐	色	ロームブロック少量
11	暗	赤褐色	燒土粒子少量、砂質粘土粒子微量	22	褐	色	炭化粒子中量
				23	褐	色	ローム粒子中量
				24	暗	褐	ローム粒子少量、燒土粒子微量
				25	暗	褐	ローム粒子微量

ピット P 1 ~ P 4 は深さ 20 ~ 41 cm で、規模と配置から主柱穴である。P 5 は深さ 15 cm で、南壁際のはば中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 15 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第 16 ~ 19 層は、貼床の構築土である。

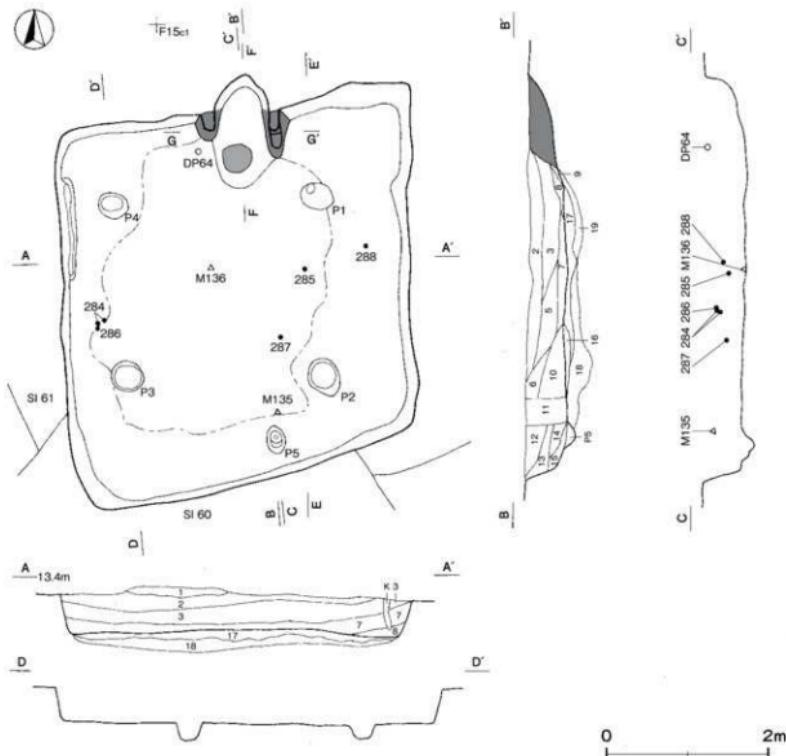
土層解説

1	黒	褐	ローム粒子少量、燒土ブロック・炭化粒子微量	7	暗	褐	ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量
2	黒	褐	ローム粒子・燒土粒子少量、炭化物・砂質粘土粒 子微量	8	暗	褐	砂質粘土粒子少量、燒土ブロック・ローム粒子・ 炭化粒子微量
3	暗	褐	ローム粒子・燒土粒子少量、砂質粘土粒子微量	9	極暗	褐	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土 粒子微量
4	暗	褐	ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	10	極暗	褐	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
5	暗	褐	燒土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	11	暗	褐	ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量
6	黒	褐	ローム粒子・燒土粒子微量				

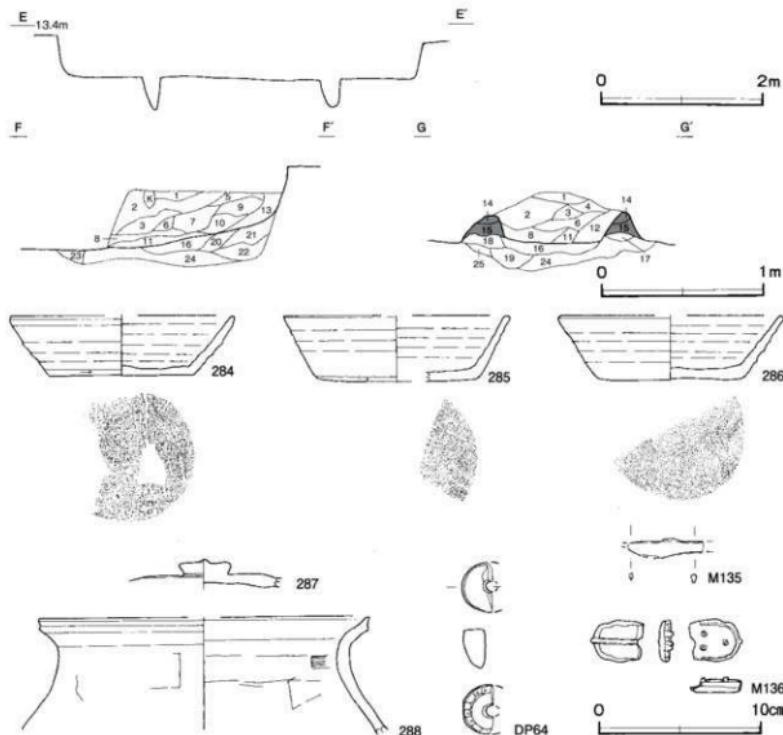
12	暗	褐	色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
13	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
14	暗	褐	色	ロームブロック微量
15	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量
16	暗	褐	色	ロームブロック少量
17	褐	色		ロームブロック中量
18	褐	色		ロームブロック中量、炭化粒子微量
19	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 1252 点（坏 184、高坏 3、壺 1、甌類 1063、瓶 1）、須恵器片 119 点（坏 108、高台付坏 4、蓋 7）、土製品 1 点（紡錘車）、石器 1 点（砥石）、鐵製品 1 点（刀子）、銅製品 1 点（腰帶具）、焼成粘土塊 5 点、鉄滓 19 点（290g）が、全面の覆土上層から床面にかけて出土している。また、貼床の構築土内から土師器片 69 点（坏 18、甌類 51）、須恵器片 1 点（坏）が出土している。そのほか、混入した瓦片 1 点、瓦片 2 点も出土している。M136 は中央部の床面から出土している。285・287 は中央部、288 は東部の覆土中層からそれぞれ出土している。DP64 は竈の西側、284・286 は西部、M135 は南部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀中葉に比定できる。



第 132 図 第 56 号住居跡実測図



第133図 第56号住居跡・出土遺物実測図

第56号住居跡出土遺物観察表（第133図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
284	瓶底器	环	[138]	37	84	長石・石英、 墨母・細纈	黄灰	普通	体部下端回転へラ削り、底部二方向へのラ削り	覆土上層	40%
285	瓶底器	环	[136]	41	[96]	長石・石英	灰	普通	体部下端回転へラ削り、底部一方向へのラ削り	覆土中層	30%
286	瓶底器	环	[135]	4.0	9.0	長石・石英	褐灰	普通	底部一方向へのラ削り	覆土上層	30%
287	瓶底器	蓋	—	[1.8]	—	長石・石英	普通	天井部斜面へラ削り後、つまみ貼り付け	覆土中層	10%	
288	土師器	甕	[204]	(7.4)	—	長石・石英、 墨母	にい・黄灰	普通	口縁部外・内面横土デ、体部外面へラナデ、内 面へラナデ、工藝直	覆土中層	10%

番号	器種	注	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP64	砧鉋車	(3.1)	25	(0.6)	(15.7)	長石・石英	一部欠損 上面・底面へラ削り 創面へラ削り。チヂ からの穿孔	覆土上層	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M135	刀子	(4.7)	(1.2)	0.4	(5.7)	鉄	刃部・茎部欠損 刃部断面三角形 茎部断面逆台形	覆土上層	
M136	鉗尾	3.2	26	0.9	17.5	銅	上端中央部突出 下端中央部凹門 表面中央部一字状に隆起 裏面新3か所	床面	PL46

第 57 号住居跡（第 134・135 図）

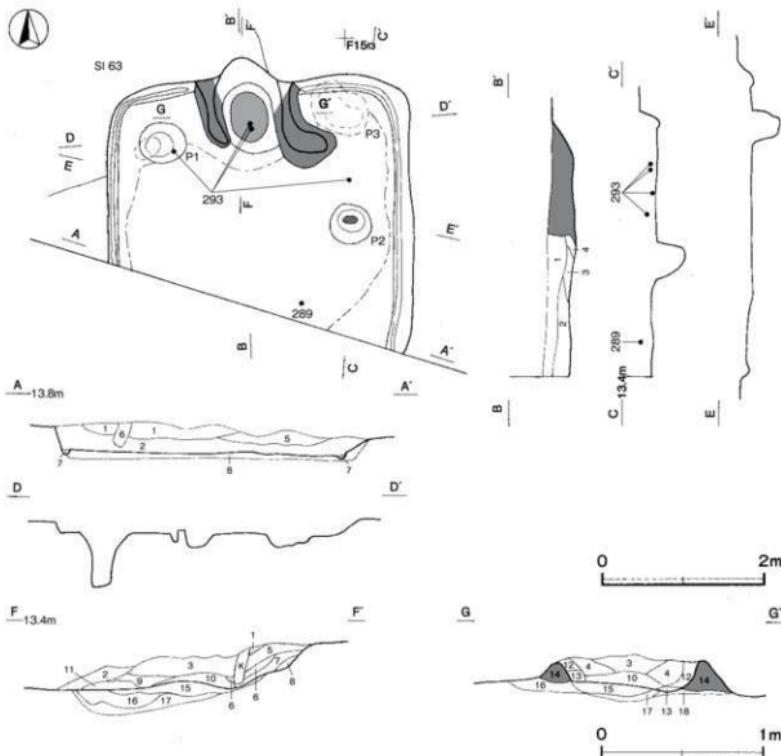
位置 調査区東部の F 15f2 区、標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第 63 住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びているため、東西軸は 3.80 m で、南北軸は 3.30 m しか確認できなかった。平面形は隅丸方形あるいは隅丸長方形と推定でき、主軸方向は N - 3° - W である。壁高は 15 ~ 30 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁際を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、全面を均一に掘りくばめ、ロームブロックを含む第 8 層を埋土して構築されている。

窓 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 120 cm で、燃焼部幅は 62 cm である。袖部は床面を 15 cm 挖り込んで第 15 ~ 18 層を埋土し、その上に砂質粘土を主体とした第 14 層を積み上げて構築されている。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用し、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 35 cm 挖り込まれ、奥壁で段を有し、外傾して立ち上がっている。



第 134 図 第 57 号住居跡実測図

竪土層解説

1	暗 褐 色	焼土粒子少量、ローム粒子微量	12	暗 褐 色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
3	暗 褐 色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	14	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗 赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量	15	暗 赤褐色	焼土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5	暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	16	黒 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
6	暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・砂質粘土粒子微量	17	褐 褐 色	ローム粒子中量、焼土粒子少量
7	暗赤褐色	ローム粒子少量	18	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子少量、砂質粘土粒子微量
8	暗 褐 色	ローム粒子・焼土粒子微量			
9	暗赤褐色	焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量			
10	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子微量			
11	にぶい褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量			

ピット 3か所。P 1は深さ76cmで、規模と配置から主柱穴である。P 2は深さ36cm、P 3は床下から確認したもので深さ15cmで、ともに性格は不明である。

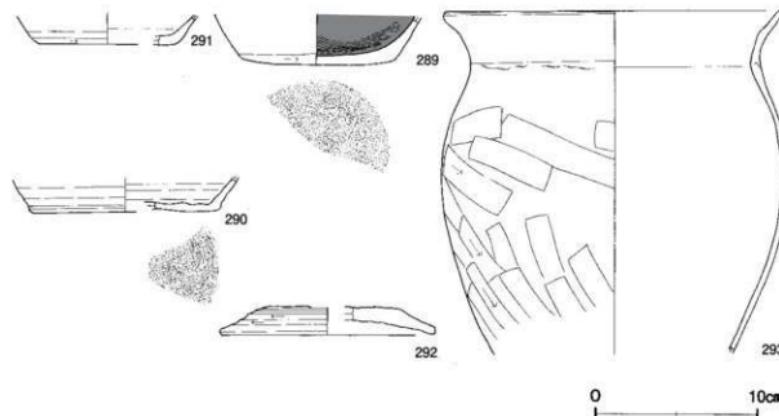
覆土 7層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第8層は、貼床の構築土である。

土層解説

1	暗 褐 色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	5	黒 褐 色	ロームブロック少量
2	暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	暗 褐 色	ローム粒子少量
3	暗 褐 色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	7	褐 褐 色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
4	暗 褐 色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	8	褐 褐 色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片118点(坏11、壺類107)、須恵器片26点(坏21、蓋1、壺類4)、焼成粘土塊2点、鐵滓20点(213g)が出土している。また、貼床の構築土内から土師器片1点(壺類)、須恵器片4点(坏)が出土している。そのほか、混入した繩文土器片6点(深鉢)、剥片4点も出土している。293は竈の火床面と竈の西側及び竈の東側の覆土下層から出土した破片が接合したものである。290は竈の掘方の埋土中から出土している。291は東部の覆土下層から出土している。292はP 3覆土中から出土している。289は南部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第135図 第57号住居跡出土遺物実測図

第 57 号住居跡出土遺物観察表（第 135 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	他成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
289	土師器	环	-	(31)	(9.2)	長石・石英	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面横幅のヘラ削き	覆土中層	20%
290	頸甌器	环	-	(21)	[11.4]	長石・石英	灰	普通	底部一方のヘラ削り	裏面埋土中	10%
291	頸甌器	环	-	(19)	[8.6]	長石・石英・ 黄土	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方のヘラ削り	覆土下層	10%
292	頸甌器	蓋	-	(18)	[13.0]	長石・石英・ 黄土	にじい黄	普通	天井部回転ヘラ削り	P 3 覆土中	10%
293	土師器	甌	20.5	(21.3)	-	長石・石英・ 黄土	にじい橙	普通	口縁部外・内面横ナギ 体部外側ヘラ削り	焼火床回 覆土下層	40%

第 58 号住居跡（第 136 図）

位置 調査区東部の F 15e4 区、標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 3.74 m、短軸 3.60 m の隅丸方形で、主軸方向は N - 12° - W である。壁高は 5 ~ 11 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。南壁及び西壁下には堀溝が巡っている。貼床は、コーナー部を土坑状に掘りくぼめ、ロームブロックを含む第 7 ~ 8 層を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部からやや西寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 100 cm で、燃焼部幅は 52 cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第 8 ~ 13 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10 cm 堀り込んで、第 14 ~ 16 層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 10 cm 堀り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	9 暗赤褐色	燒土粒子中量。砂質粘土粒子少量。ローム粒子微量
2 暗褐色	砂質粘土粒子少量。燒土ブロック・炭化物・ローム粒子微量	10 暗褐色	ローム粒子・燒土粒子・砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	燒土粒子・砂質粘土粒子少量。燒土粒子・炭化粒子微量	11 暗赤褐色	砂質粘土粒子少量。ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色	砂質粘土ブロック中量。燒土粒子少量。ローム粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子多量。砂質粘土粒子少量
5 にじい橙色	砂質粘土粒子中量。炭化物・ローム粒子・燒土粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック・燒土粒子少量。炭化粒子・砂質粘土粒子微量
6 にじい橙色	燒土粒子中量。砂質粘土粒子少量。ローム粒子・炭化粒子微量	14 黒褐色	ロームブロック微量
7 暗褐色	燒土ブロック少量。ローム粒子・砂質粘土粒子微量	15 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量。燒土ブロック・砂質粘土粒子微量
8 黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16 暗褐色	ローム粒子中量。燒土粒子微量

ピット P 1 は深さ 38 cm で、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 2 は深さ 13 cm で、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 3・P 4 は、深さ 18 cm・6 cm で、性格は不明である。

覆土 6 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第 7・8 層は貼床の構築土である。

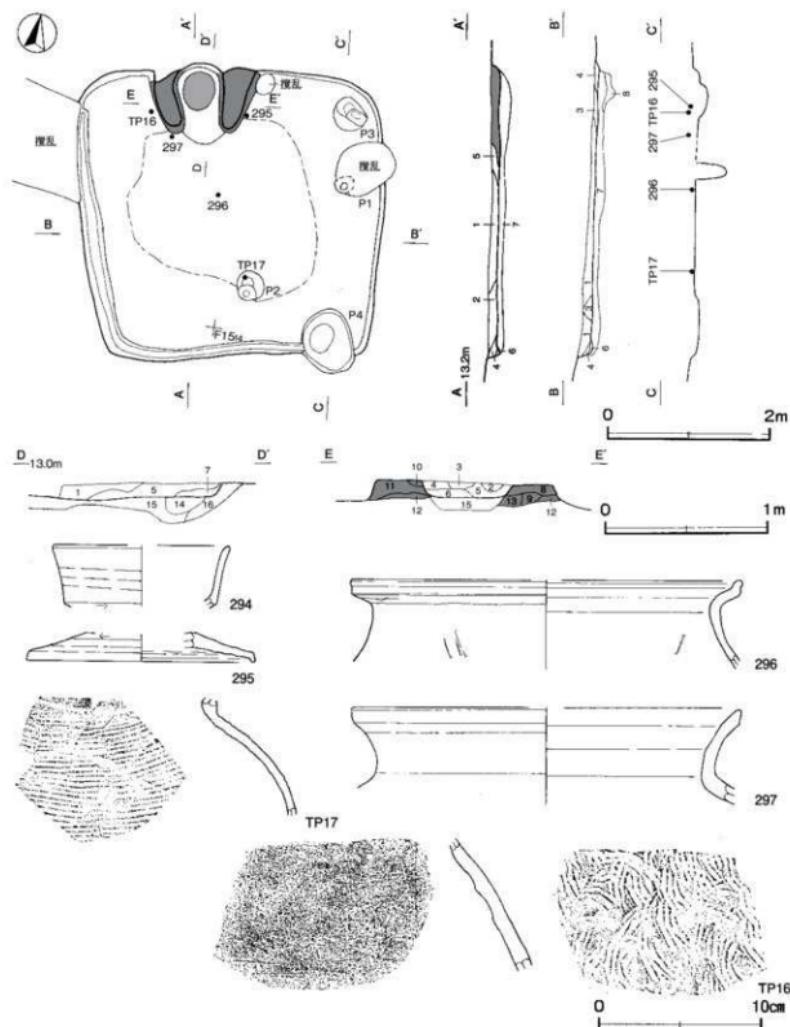
土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・燒土粒子少量。炭化粒子微量	5 極暗褐色	ロームブロック少量。燒土粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック少量。炭化粒子微量	6 極暗褐色	ローム粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量。炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック中量。燒土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック中量	8 暗褐色	ロームブロック少量。燒土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 108 点（环 18、甌類 89、瓶 1）、須恵器片 26 点（环 8、蓋 1、鉢 4、甌類 13）、鉄製品 1 点（不明）、鐵滓 6 点（84 g）が出土している。また、貼床の構築土内から土師器片 7 点（甌類）が出土している。そのほか、混入した繩文土器片 2 点（深鉢）も出土している。295 は竈の東側、296 は竈の前

の覆土下層からそれぞれ出土している。TP17はP2の覆土上層から出土している。297・TP16は竪の西側、294は北部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第136図 第58号住居跡・出土遺物実測図

第58号住居跡出土遺物観察表（第136図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
294	須恵器	环	[108]	(38)	-	長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ	覆土中層	20% PL37
295	須恵器	盃	-	(17)	[142]	長石・石英	灰	普通	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	10%
296	土器	甕	[238]	(55)	-	長石・石英・雲母	にぶい青褐色	普通	L3縁部外・内面横ナデ 体部外・内面工具	覆土下層	5%
297	須恵器	甕	[238]	(60)	-	長石・石英・韌鐵	灰	普通	口縁部ロクロナデ	覆土中層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TPI6	須恵器	甕	長石・石英	オーリーブ黒	体部無文の叩き 内面当て具痕	覆土中層	
TPI7	須恵器	甕	長石・石英・雲母	灰褐	体部横位の平行叩き	P 2 覆土上層	

第64号住居跡（第137～139図）

位置 調査区東部のF 15a1区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第94号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.28m、短軸5.05mの隅丸方形で、主軸方向はN-4°-Wである。壁高は46～57cmで、外傾して立ち上がっていている。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。南西コーナー部を除いて壁下には、壁溝が巡っている。貼床は、四隅を土坑状に掘りくぼめ、ローム粒子、焼土粒子を含んだ第16層を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで130cmで、燃焼部幅は30cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第16～20層を積み上げて構築されている。火床部は床面を18cm掘り込んで、主に焼土粒子を含んだ第21～28層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ32cm掘り込まれ、外傾して立ち上がってている。

竈土層解説

1	暗	褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量	15	暗	赤褐色	燒土粒子少量、炭化粒子微量
2	暗	褐色	燒土粒子・砂質粘土粒子微量	16	褐	灰色	砂質粘土粒子多量
3	暗	褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	17	灰	褐色	砂質粘土粒子中量、燒土粒子微量
4	暗	褐色	ローム粒子微量	18	褐	褐色	炭化粒子少量
5	灰	褐色	燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	19	褐	灰色	砂質粘土粒子少量
6	暗	褐色	燒土粒子少量、炭化粒子微量	20	暗	赤褐色	燒土粒子・砂質粘土粒子少量
7	灰	褐色	砂質粘土粒子中量、炭化粒子少量、燒土ブロック微量	21	暗	赤褐色	燒土粒子・炭化粒子少量
8	暗	褐色	燒土粒子少量、砂質粘土粒子微量	22	暗	赤褐色	燒土粒子・炭化粒子少量、砂質粘土ブロック微量
9	暗	褐色	燒土粒子・砂質粘土粒子少量	23	暗	褐色	ローム粒子少量、燒土粒子微量
10	暗	褐色	燒土粒子少量、炭化粒子微量	24	暗	褐色	燒土粒子少量、炭化粒子微量
11	灰	褐色	砂質粘土粒子多量	25	黑	褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
12	暗	褐色	燒土ブロック少量	26	褐	褐色	ローム粒子・燒土粒子少量
13	暗	褐色	燒土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	27	褐	灰色	燒土粒子少量、炭化物微量
14	暗	褐色	ローム粒子・燒土粒子微量	28	褐	褐色	ロームブロック・燒土粒子微量

ピット 9か所。P 1～P 4は深さ37～68cmで、規模と配置から主柱穴である。P 5は深さ18cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 9は深さ21～58cmである。P 7・P 8は掘方調査によって確認した。配置状況からP 6からP 1へ、P 7からP 2へ、P 8からP 3へ、P 9からP 4への柱の立て替えが行われた可能性が考えられる。

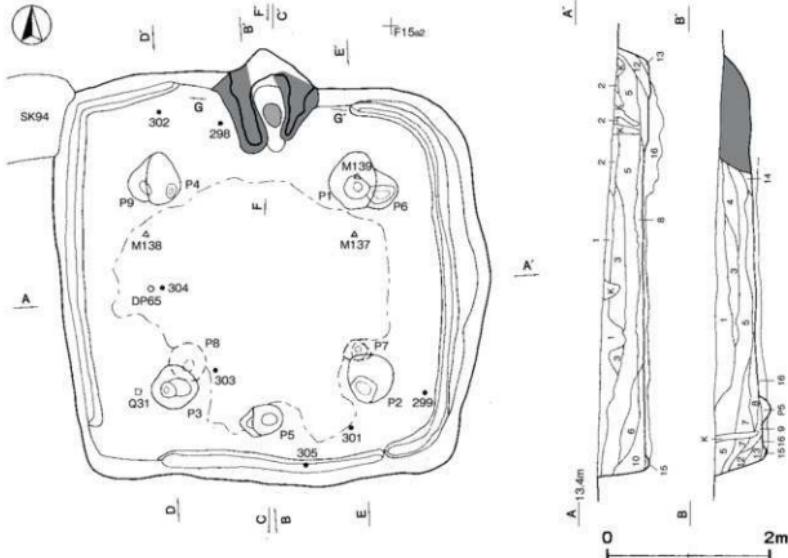
覆土 15層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。第16層は、貼床の構築土である。

土層解説

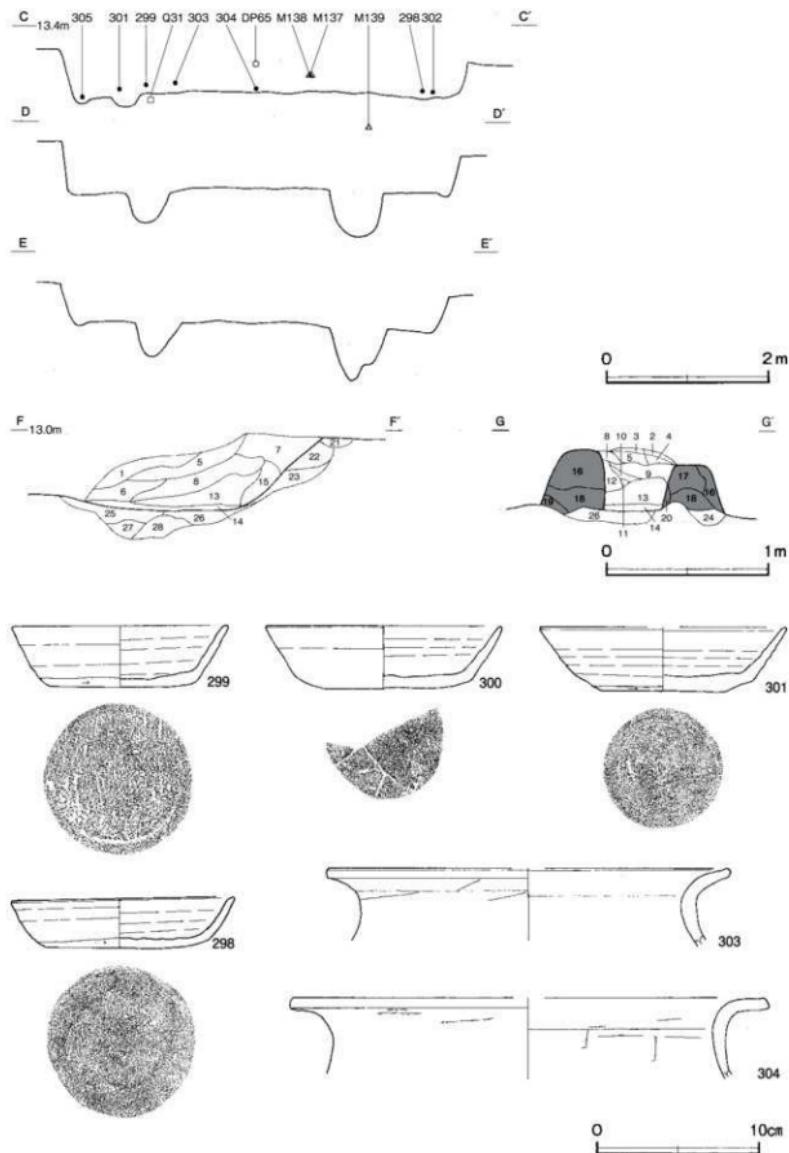
- 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量、炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 6 黒褐色 焼土粒子少量、炭化物・ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 9 黒褐色 烧土粒子少量、ローム粒子微量
- 10 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量
- 11 暗褐色 烧土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 12 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 13 暗褐色 ローム粒子少量
- 14 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
- 15 暗褐色 ロームブロック少量
- 16 暗褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 1741 点 (坏 257, 壺類 1480, 小形壺 1, 蓋 3), 須恵器片 181 点 (156 坏, 蓋 22, 壺 3), 土製品 1 点 (支脚), 石製品 1 点 (砥石), 鉄製品 5 点 (刀子 1, 鐙 1, 手鎌 1, 不明 2), 鉄滓 38 点 (292g) が、全面の覆土上層から床面にかけて出土している。また、貼床の構築土内から土師器片 27 点 (坏 6, 壺類 21), 須恵器片 7 点 (坏 6, 蓋 1) が出土している。そのほか、混入した繩文土器片 29 点 (深鉢) も出土している。Q31 は南西部の床面から出土している。298 は竈の西側, 299 は南東部の覆土下層から、正位の状態でそれぞれ出土している。302 は北西部の覆土下層から、横位の状態で出土している。304 は西部, 303 は南西部, 301 は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。305 は南部の壁溝の覆土下層から出土している。M139 は P1 の覆土中層から出土している。M137 は東部, DP65・M138 は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。300 は覆土中層から出土している。

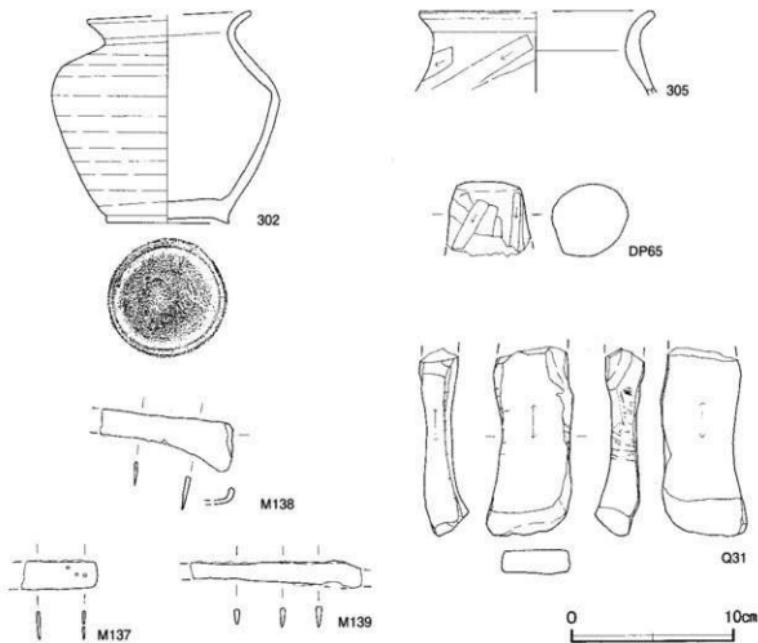
所見 時期は、出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。



第 137 図 第 64 号住居跡実測図



第138図 第64号住居跡・出土遺物実測図



第139図 第64号住居跡出土遺物実測図

第64号住居跡出土遺物観察表（第138・139図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎	土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
298	瓶	環	13.7	3.2	9.3	長石・石英	灰白	普通	体部下端回転へラ削り、底部一方向のヘラ削り	覆土下層	90%	PL27
299	瓶	環	13.2	3.9	9.2	長石・石英・ 墨斑	にぶい褐	普通	体部下端回転へラ削り、底部一方向のヘラ削り	覆土下層	80%	PL27
300	瓶	環	14.4	3.9	-	長石・石英	灰白	普通	底部二方向のヘラ削り後ナデ	覆土中	70%	
301	瓶	環	[15.2]	4.0	7.4	長石・石英	灰白	普通	体部下端・底部回転へラ削り	覆土下層	50%	
302	瓶	壺	[10.0]	13.1	7.4	長石・石英	灰	普通	体部クロロナデ、底部回転へラ削り後、高台胎 リ付	覆土下層	90%	PL28
303	土器	壺	[24.6]	(4.9)	-	長石・石英・ 墨斑	棕	普通	口縁部・内面機ナデ	覆土下層	5%	
304	土器	壺	[29.2]	(5.0)	-	長石・石英・ 墨斑	にぶい褐	普通	口縁部外・内面ヘラナデ・工具模	覆土下層	5%	
305	土器	小形壺	[14.2]	(5.2)	-	長石・石英・ 墨斑	棕	普通	口縁部外・内面機ナデ・体部外面斜位のヘラ削り	研磨覆土下層	5%	

番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎	土	特徴	出土位置	備考
DP65	支脚	(4.6)	3.9	(5.0)	(96.3)	長石・石英	下部欠損 ヘラナデ 指頭圧痕		覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 31	砥石	(11.6)	5.3	3.0	(175)	磁灰岩	断面長方形 側面に条縞状の研痕	床面	PL44

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	等級	出土位置	備考
M137	手鎌	(4.7)	1.7	0.2	(4.5)	鉄	一方の端部欠損 端部に孔3か所	覆土中層	
M138	鎌	(8.2)	3.9	0.3	(20.4)	鉄	断面三角形 端部折り返し 刃部先端欠損	覆土中層	PL46
M139	刀子	(10.6)	1.7	0.4	(20.7)	鉄	刃部・茎部欠損 刃部断面三角形	P1 覆土中層	

第 65 号住居跡 (第 140 図)

位置 調査区東部のF 15e2 区、標高 13 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 2.70 m、短軸 2.31 m の長方形で、主軸方向は N - 13° - W である。壁高は 15 ~ 20 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、出入り口から中央部にかけて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、北東側を除くコーナー部を土坑状に掘りくぼめ、ローム粒子主体の第6・7層を埋土して構築されている。出入り口付近の床面上に、焼土塊を検出した。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 88 cm で、燃焼部幅は 40 cm である。袖部は砂質粘土を主体とした第7層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 10 cm 挖り込んで、ローム粒子、粘土粒子を含んだ第8層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 45 cm 挖り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	暗褐色	燒土粒子・粒子少量、炭化粒子微量	5	褐色	ローム粒子微量
2	褐色	燒土粒子・砂質粘土粒子少量	6	暗赤褐色	燒土粒子少量
3	暗褐色	燒土粒子微量	7	暗褐色	ローム粒子少量、燒土ブロック・炭化粒子微量
4	褐色	燒土ブロック微量	8	暗褐色	燒土粒子中量、ローム粒子少量

ピット 深さ 17 cm で、雨際際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径 47 cm、短径 42 cm の楕円形で、深さは 22 cm である。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・砂質粘土粒子微量	2	暗褐色	ローム粒子少量
---	-----	-------------------------	---	-----	---------

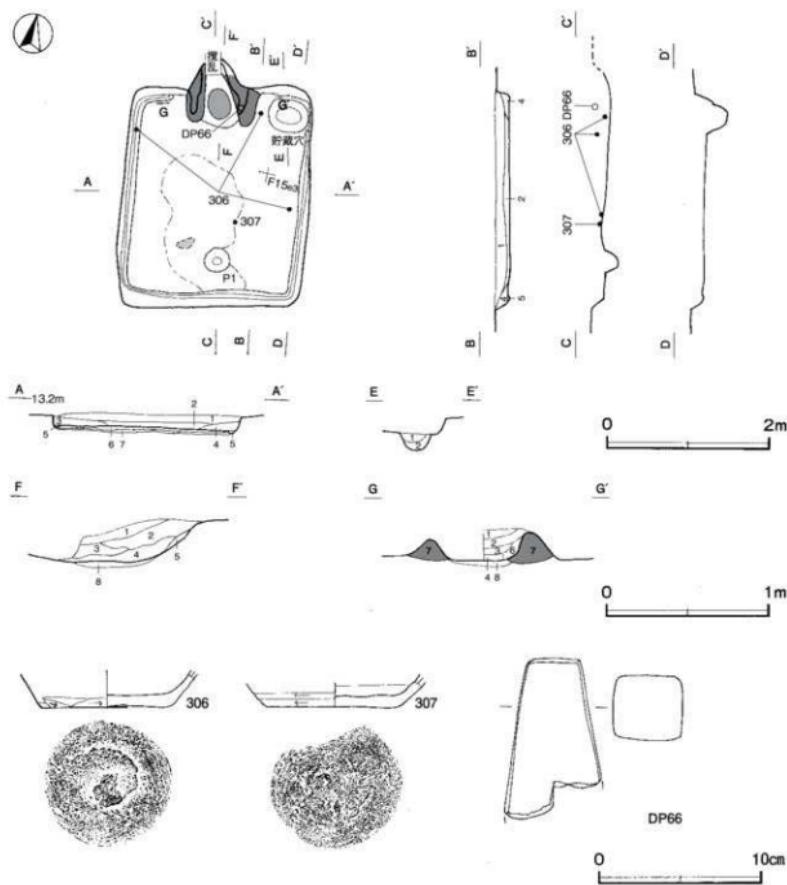
覆土 5 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第6・7 層は、貼床の構築土である。

土層解説

1	暗褐色	燒土粒子中量、ロームブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック中量、燒土粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量	5	褐色	ローム粒子少量
3	暗褐色	砂質粘土粒子少量、燒土粒子・ローム粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子微量
			7	暗褐色	ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 74 点 (坏 7, 壺類 67), 須恵器片 15 点 (坏 12, 壺類 3), 土製品 1 点 (支脚), 燃成粘土塊 4 点, 鉄滓 1 点 (5 g) が出土している。また、貼床の構築土内から土師器 1 点 (壺類) が出土している。307 は中央部の床面から、正位の状態で出土している。306 は竈の東側と東部及び北西部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。DP66 は竈の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀中葉に比定できる。検出した焼土塊は、床面に焼けた様子がないことから、住居廃絶後の埋め土に混入したものとみられる。



第140図 第65号住居跡・出土遺物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表（第140図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
306	頸壺器	环	-	(23)	8.0	長石・石英・ 珪母	灰白	普通	体部下端回転へラ削り 底部回転へラ切り瓶を 残す。二方四のへラ削り	覆土下層	30%
307	頸壺器	环	-	(16)	8.2	長石・石英・ 珪母	にふい青白	普通	体部下端・底部回転へラ削り	床面	60%
番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	胎 土	特 徴			出土位置	備 考
DP66	支脚	(99)	34	(56)	(234)	長石・石英・ 赤色粒子	断面方形	下部欠損	ナデ	覆土中層	PL42

表5 奈良時代住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規 模 長軸×短軸(m)	壁 高 (cm)	床面	壁溝	内 部 施 設					覆土	主な出土遺物	時 期	備考 重複関係(古→新)
								主柱穴	造人口	ドア	便	切妻穴				
4	F11b7	[方型] [長方形]	N - 23° - W	(38.4) × (30.4)	58 - 65	平坦	一部	-	1	-	-	-	自然	土師器、須恵器、鉄鋤	S 喜紀中葉	
5	E11b8	[方型] [長方形]	N - 10° - E	3.58 × (31.5)	55 - 65	平坦	一部	1	1	-	便1	-	自然	土師器、須恵器、石製品	S 喜紀中葉	
7	F15b9	方型	N - 32° - E	37.2 × 3.49	18 - 23	平坦	-	-	-	-	便1	-	人為	土師器、須恵器	S 喜紀後葉	SI8 → 本跡
9	G15a0	[方型] [長方形]	-	(37.0) × (25.0)	15 - 28	平坦	一部	-	-	-	-	-	自然	土師器、須恵器、鉄鋤	S 喜紀中葉	
13	E11b9	[方型] [長方形]	N - 24° - W	(37.6) × (22.5)	45 - 58	平坦	一部	1	-	-	-	-	人為	土師器、須恵器	S 喜紀後葉	
14	E11b9	[方型] [長方形]	N - 5° - W	5.35 × (42.7)	20 - 33	平坦	一部	8	1	-	便1	-	自然	土師器、須恵器、土製品、鐵製品	S 喜紀後葉	SI15 → 本跡
15	E11b0	[方型] [長方形]	N - 25° - W	(30.0) × (24.0)	30 - 36	平坦	一部	1	-	-	便1	-	人為	土師器、須恵器、石器	S 喜紀後葉	本跡 → SI14
17	D125	隅丸方角	N - 18° - W	3.76 × 3.44	48 - 65	平坦	一部	3	1	-	便1	-	自然	土師器、須恵器	S 喜紀後葉	
26	E13a0	隅丸方角	N - 30° - W	3.73 × 3.28	11 - 15	平坦	全周	-	1	-	便1	-	自然	土師器、須恵器	S 喜紀後葉	
30	E14b1	方形	N - 27° - W	5.65 × 5.49	15 - 30	平坦	一部	9	2	-	便2	1	自然	土師器、須恵器、鉄鋤	S 喜紀中葉	本跡 → SI31
33	F14a2	長方形	N - 15° - W	5.85 × 5.24	28 - 34	平坦	ほづ	8	1	-	便1	-	人為	土師器、須恵器、土製品、石製品	S 喜紀後葉	SI35 → 本跡
36	F13a0	隅丸方角	N - 62° - E	2.31 × 2.27	16 - 18	平坦	-	-	-	6	便1	-	自然	土師器、須恵器、鉄鋤	S 喜紀中葉	
37	F14c2	[方型] [長方形]	N - 10° - W	4.38 × (3.87)	27 - 45	平坦	一部	5	-	-	便1	-	自然	土師器、須恵器、土製品、鐵製品	S 喜紀後葉	
40	E14b8	長方形	N - 9° - E	4.88 × 4.00	38 - 50	平坦	ほづ	4	1	4	便1	-	自然	土師器、須恵器、鉄鋤	S 喜紀後葉	
42	E15a1	方形	N - 17° - W	3.80 × 3.66	35 - 45	平坦	全周	4	1	3	便1	-	自然	土師器、須恵器、石器	S 喜紀後葉	SI41 → 本跡
44	E15a2	長方形	N - 8° - W	3.86 × 3.50	20 - 42	平坦	-	-	1	1	便1	-	人為	土師器、須恵器、石器、鐵製品	S 喜紀後葉	
45	F15a3	五角形	N - 8° - W	3.78 × 3.48	35 - 45	平坦	一部	-	2	-	便1	-	人為	土師器、須恵器	S 喜紀中葉	SI46 → 本跡 → SH73
47	F14a8	方形	N - 8° - E	3.86 × 3.75	45 - 60	平坦	全周	-	1	-	便1	-	人為	土師器、須恵器、鉄鋤	S 喜紀後葉	SI48 → 本跡
49	F14b7	方形	N - 2° - E	3.78 × 3.55	37 - 45	平坦	ほづ	-	2	-	便1	-	自然	土師器、須恵器、石器、鐵製品	S 喜紀中葉	
51	F15e1	方形	N - 1° - W	3.15 × 3.03	36 - 40	平坦	全周	-	1	-	便1	-	自然	土師器、須恵器、鉄鋤	S 喜紀後葉	
52	F15d4	隅丸方角	N - 10° - W	3.80 × 3.62	30 - 36	平坦	ほづ	-	1	-	便1	-	自然	土師器、須恵器、鉄鋤	S 喜紀後葉	
53	F15g6	[方型] [長方形]	N - 15° - W	3.12 × (2.75)	35 - 48	平坦	-	-	1	-	便1	-	人為	土師器、須恵器	S 喜紀後葉	
56	F15e1	不整方形	N - 3° - W	4.52 × 4.32	35 - 50	平坦	一部	4	1	-	便1	-	人為	土師器、須恵器、土製品、鉄製品	S 喜紀中葉	SM60 - 61 → 本跡
57	F15c2	[長方形] [直角三角形]	N - 3° - W	3.80 × (3.30)	15 - 30	平坦	[全周]	1	-	2	便1	-	人為	土師器、須恵器	S 喜紀後葉	SM63 → 本跡
58	F15e4	隅丸方角	N - 12° - W	3.74 × 3.60	5 - 11	平坦	一部	1	1	2	便1	-	人為	土師器、須恵器、鉄鋤	S 喜紀後葉	
64	F15a1	隅丸方角	N - 4° - W	5.28 × 5.05	46 - 57	平坦	ほづ	8	1	-	便1	-	人為	土師器、須恵器、土製品、石器、鐵製品	S 喜紀後葉	本跡 → SK94
65	F15e2	長方形	N - 13° - W	2.70 × 2.31	15 - 20	平坦	ほづ	-	1	-	便1	1	人為	土師器、須恵器、土製品	S 喜紀中葉	

(2) 土坑

第58号土坑（第141図）

位置 調査区中央部のE 14J3区。標高14 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第32号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.00 m、短径0.68 mの不整梢円形で、長径方向はN - 63° - Eである。深さは24cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

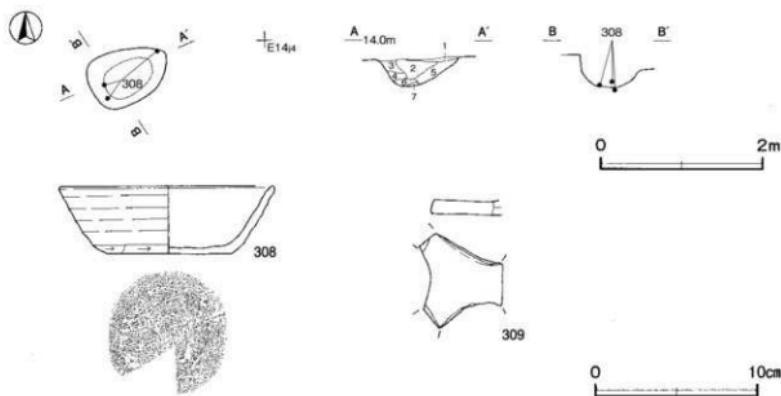
覆土 7層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | | | | |
|---|---|----|---------|---|---|----|----|-------------------|
| 1 | 階 | 褐色 | ローム粒子微量 | 5 | 黑 | 褐 | 褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 無 | 階 | 褐色 | 6 | 黑 | 褐 | 褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 | 無 | 階 | 褐色 | 7 | 暗 | 褐 | 褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 | 黑 | 褐 | 褐色 | 8 | 褐 | 褐色 | 褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片12点（坏3、甕類9）、須恵器片2点（坏、瓶）が出土している。308は東部及び西部の底面と覆土下層から出土した破片が接合したものである。309は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



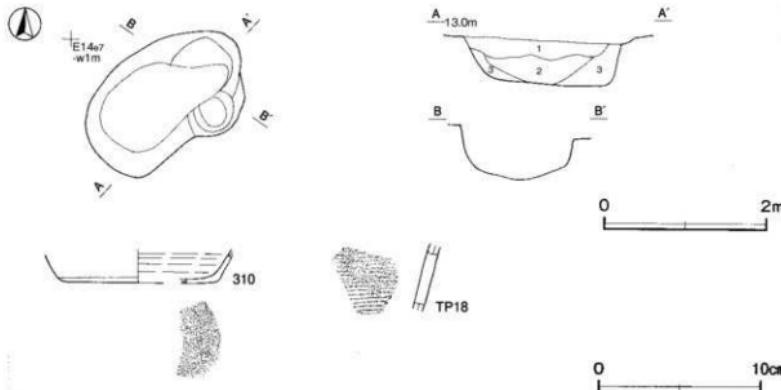
第141図 第58号土坑・出土遺物実測図

第58号土坑出土遺物観察表（第141図）

番号	種別	器種	口径	脚高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
308	須恵器	环	13.0	4.2	7.4	長石・石英・ 雲母	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 成部一方向のヘラ削り	底面 覆土下層	70%	PL37
309	須恵器	瓶	-	(1.0)	-	長石・石英・ 雲母	灰黃褐	普通	底部5孔式穴	覆土中	5%	

第64号土坑（第142図）

位置 調査区東部のE 14e7区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。



第142図 第64号土坑・出土遺物実測図

重複関係 第39号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.14m、短径1.26mの梢円形で、長径方向はN-51°-Eである。深さは50cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・砂質粘土粒子微量 | 3 灰褐色 ローム粒子少量、燒土粒子微量 |
| 2 褐褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | |

遺物出土状況 土師器片63点(坏9、甕類54)、須恵器片7点(坏4、甕類3)、鉄滓4点(34.8g)が出土している。310・TP18は覆土中からそれぞれ出土している。

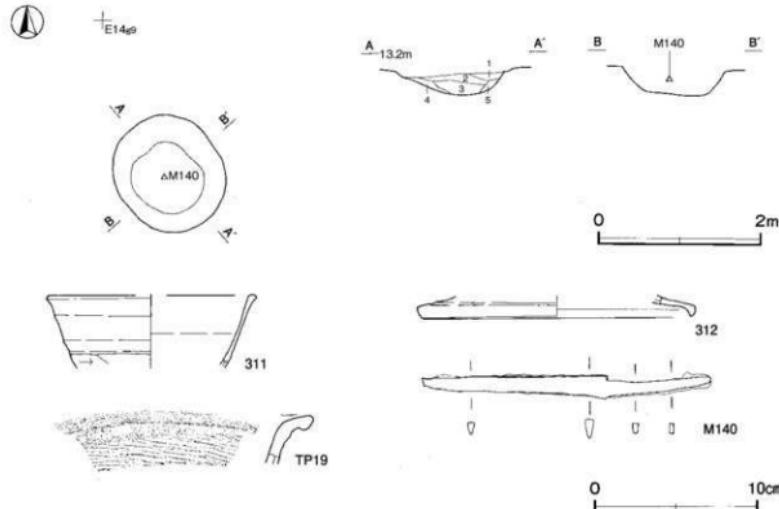
所見 時期は、出土土器から8世紀前葉とみられる。

第64号土坑出土遺物観察表(第142図)

番号	種別	器種	口径	器高	底坪	胎土	色調	他成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
310	須恵器	环	-	(21)	[78]	長石・石英・ 基母	黄灰	普通	底部多方向のヘラ削り	覆土中	20%
TP18	須恵器	甕	長石・石英	灰	体部横擦の平行叩き					覆土中	

第72号土坑(第143図)

位置 調査区東部のE 14g9区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。



第143図 第72号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径 148 m、短径 130 m の楕円形で、長径方向は N - 40° - W である。深さは 32 cm で、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量、燒土粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量	5	暗褐色	ローム粒子中量
3	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子微量			

遺物出土状況 土師器片 47 点（坏 1、甕類 46）、須恵器片 11 点（坏 7、蓋 1、甕類 3）、鉄製品 1 点（刀子）、鉄滓 15 点（161g）が出土している。M 140 は中央部の覆土中層から出土している。311・312・TP19 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。

第 72 号土坑出土遺物観察表（第 143 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
311	須恵器	坏	[128]	(45)	-	長石・石英	黄灰	普通	体部下端回転ヘラ削り	覆土中	20%
312	須恵器	蓋	16.4	(14)	-	長石・石英	黄灰	普通	天井部ロクロナダ	覆土中	10%
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考				
TP19	須恵器	甕	長石・石英	褐灰	体部横位の平行叩き	覆土中					
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考		
M140	刀子	17.8	1.4	0.5	18.6	鉄	両刃部断面三角形、基部断面長方形	覆土中層	PL45		

第 95 号土坑（第 144・145 図）

位置 調査区東部の F 15c8 区、標高 11 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長径 3.34 m、短径 3.28 m の不定形で、長径方向は N - 10° - E である。深さは 70 cm で、底面は平坦である。壁は段を有し、外傾して立ち上がっている。

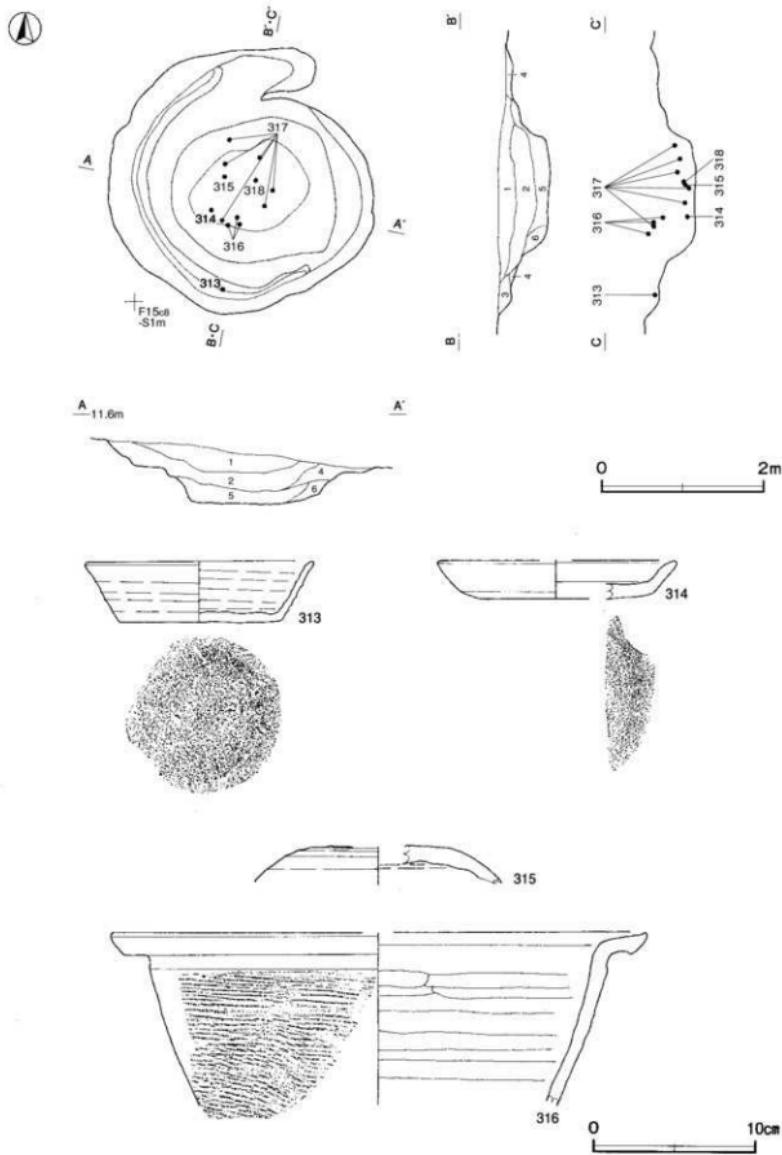
覆土 6 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

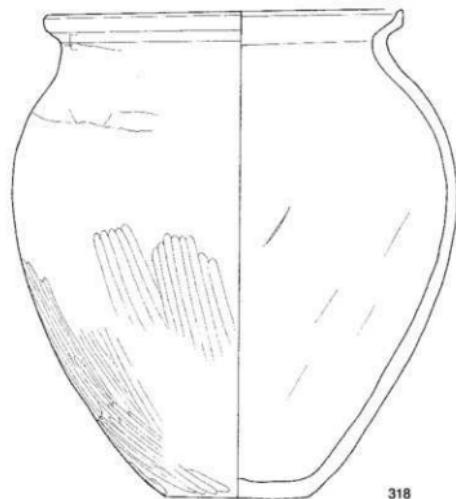
1	黒褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子・燒土粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量
3	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量	6	黒褐色	ローム粒子・燒土粒子・砂質粘土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 1171 点（坏 129、甕 1、甕類 1041）、須恵器片 57 点（坏 44、皿 1、蓋 1、鉢 11）、石器 1 点（砥石）、焼成粘土塊 1 点、鉄滓 215 点（6200g）が、中央部の覆土中層から下層にかけて出土している。そのほか、混入した縄文土器片 1 点（深鉢）、石器 1 点（敲石）、石製品 2 点（管玉 1、白玉 1）も出土している。313 は南部、314・315・318 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。317 は中央部の覆土中層から出土している。316 は中央部の覆土上層から出土している。

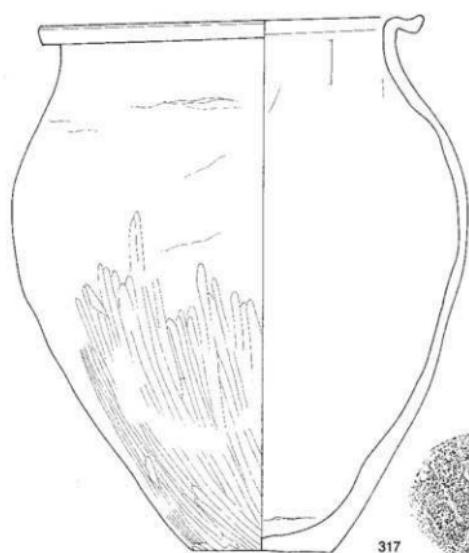
所見 時期は、出土土器から 8 世紀中葉に比定できる。覆土中層から下層にかけて、多量の土器片が投棄された状態で出土しており、8 世紀中葉に廃棄土坑として使用した後、埋め戻された可能性が考えられる。



第 144 図 第 95 号土坑・出土遺物実測図



318



317

0 10cm

第 145 図 第 95 号土坑出土遺物実測図

第95号土坑出土遺物観察表（第144・145図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
313	須恵器	环	13.9	3.8	10.0	長石・石英・ 雲母・鉄斑	にぶい褐	普通	底部二方向のヘラ削り	覆土下層	70% PL37
314	須恵器	盤	[146]	2.4	[120]	長石・石英	褐	普通	底部削除ヘラ削り	覆土下層	30%
315	須恵器	蓋	-	(2.3)	-	長石・石英	灰	普通	天井部削除ヘラ削り	覆土下層	20%
316	須恵器	鉢	[328]	[10.6]	-	長石・石英・ 雲母	黄灰	普通	体部構造の平行凹凸 内面ナテ	覆土上層	10%
317	土器	甕	23.3	33.1	8.4	長石・石英・ 雲母	にぶい褐	普通	口縁部外、内面横ナテ 体部外観下半縮締のへ タ跡、内面工具痕 底部木痕	覆土上層	80% PL38
318	土器	甕	21.8	30.2	9.0	長石・石英・ 雲母	にぶい黄褐	普通	口縁部外、内面横ナテ 体部外観下半縮締のへ タ跡、内面工具痕	覆土下層	70% PL38

表6 奈良時代土坑一覧表

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土 遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
58	E14j3	N - 63° - E	不整椭円	1.00 × 0.68	24	圓状	外傾	人為	土器部、須恵器	SD2 → 本層
64	E14e7	N - 51° - E	椭円形	2.14 × 1.26	50	平坦	外傾	自然	土器部、須恵器	SD2 → 本層
72	E14g9	N - 40° - W	椭円形	1.48 × 1.30	32	圓状	外傾	自然	土師器、須恵器、瓦製品	
95	F15c8	N - 10° - E	不定形	3.34 × 3.28	70	平坦	右傾 - 外傾	人為	土器部、須恵器、石器、瓦片	

4 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴住居跡4軒を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

堅穴住居跡

第1号住居跡（第146・147図）

位置 調査区南西部のG 10i8 区、標高15 mの平坦な台地上に位置している。

確認状況 東西両側が調査区域外になっており、調査区幅が1 m未満の範囲で竪と東壁の一部を確認した。竪の北側及び南コーナー部に当たる壁が搅乱を受けている。

規模と形状 大半が調査区域外へ延びており、搅乱を受けていることなどから、南北軸は1.05 m、東西軸は0.55 mしか確認できなかった。

竪 東壁に付設されていたと考えられる。煙道の突端部が調査区域外へ延びているため、規模は燃焼部幅が25cmで、焚口部から煙道部までは85cmしか確認できなかった。袖部は砂質粘土を主体とした第5層を積み上げて構築され、右袖部の内面には土師器片を貼り付けて補強している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ55cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。火床部の煙道よりには、安山岩製の直径15cm、高さ20cmほどの円柱状の石が据えられ、上部には土師器の高台付椀が2個重ねて伏せた状態で出土した。支脚として使用されていたと思われる。

竪土層解説

- | | | | | | |
|---|-------|------------------------------|---|-----|------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量 | 4 | 暗褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 | にぶい褐色 | 砂質粘土粒子多量、ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量 | 5 | 灰褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・燒土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 | 暗赤褐色 | 燒土ブロック・砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | | | |

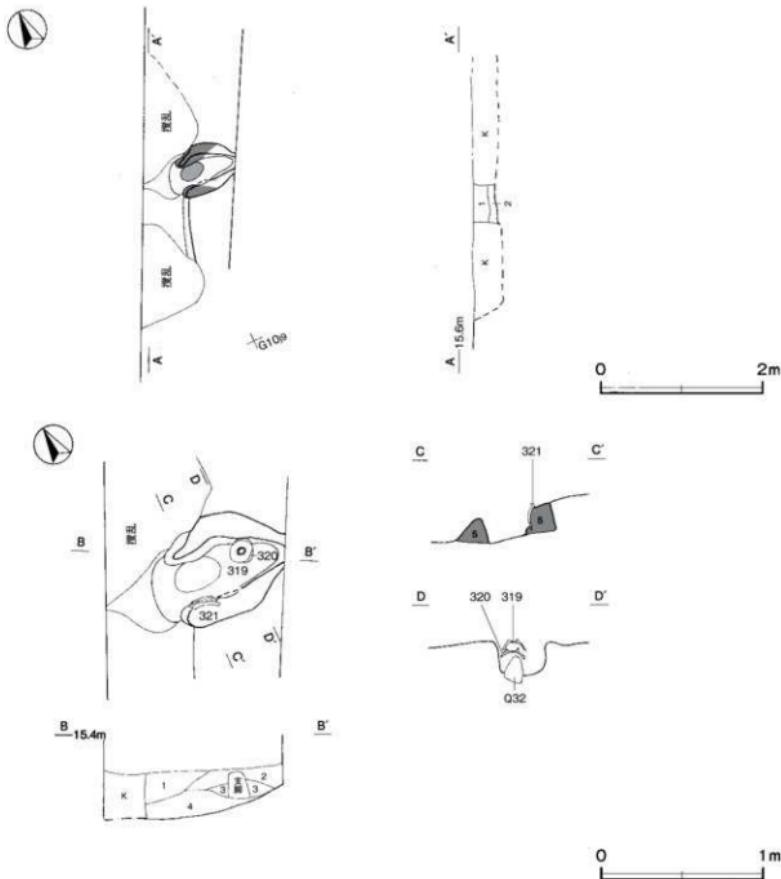
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

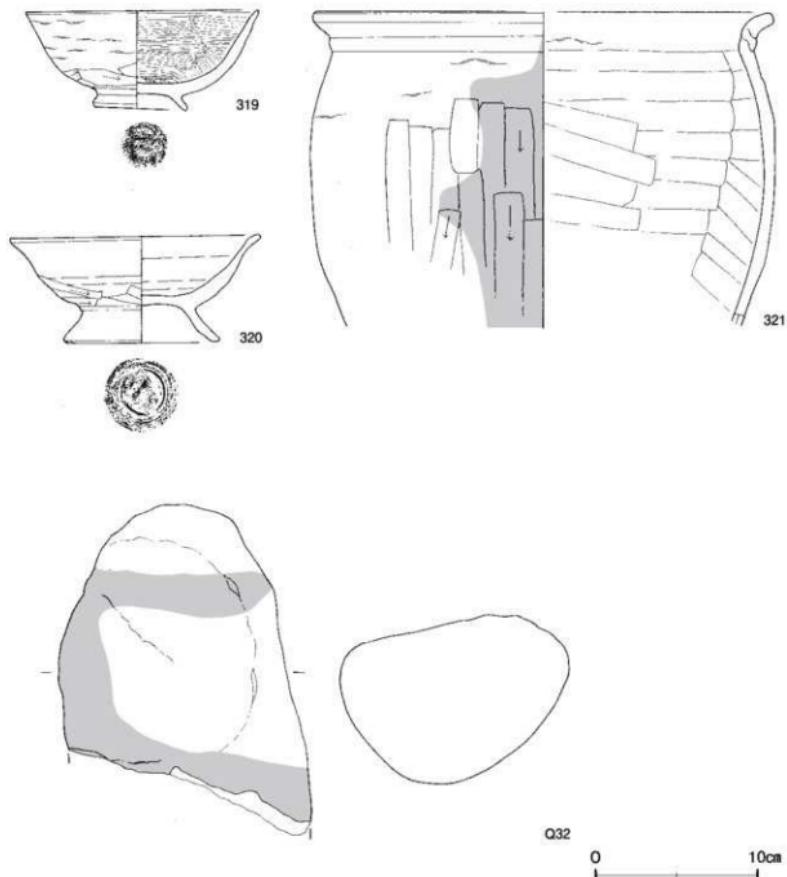
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土ブロック少量、焼土粒 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子少量、砂質粘土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片 19 点（坏 1, 高台付碗 2, 壺類 16）。須恵器片 1 点（壺類）。石器 1 点（支脚）が出土している。Q 32 は火床部の奥の中央部にはば垂直に据えられた状態で出土した。320 は Q32 の上部に、319 は更にその上部に、ともに伏せた状態で出土している。321 は竈の右袖部の内側に貼られた状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から 10 世紀前葉に比定できる。





第147図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表（第147図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
319	土器器	高台付柄	14.3	6.2	5.5	長石・石英	にじ・黄褐	普通	体部外周輪積痕を残すクロコナデ 内面襯位のヘラ剥き下端手括らべ割り後、高台貼り付け	竪火床面	95% PL29
320	土器器	高台付柄	15.4	6.6	9.0	長石・石英	にじ・黄褐	普通	体部下端高台貼り付け後、ヘラナデ	竪火床面	95% PL29
321	土器器	裏	[28.0]	[19.5]	-	長石・石英・ 長母	明黄褐	普通	口縁部外・内面糊ナデ 体部外周輪積痕のヘラ削 り・被熱痕 内面ヘラナデ	竪火床面	10%

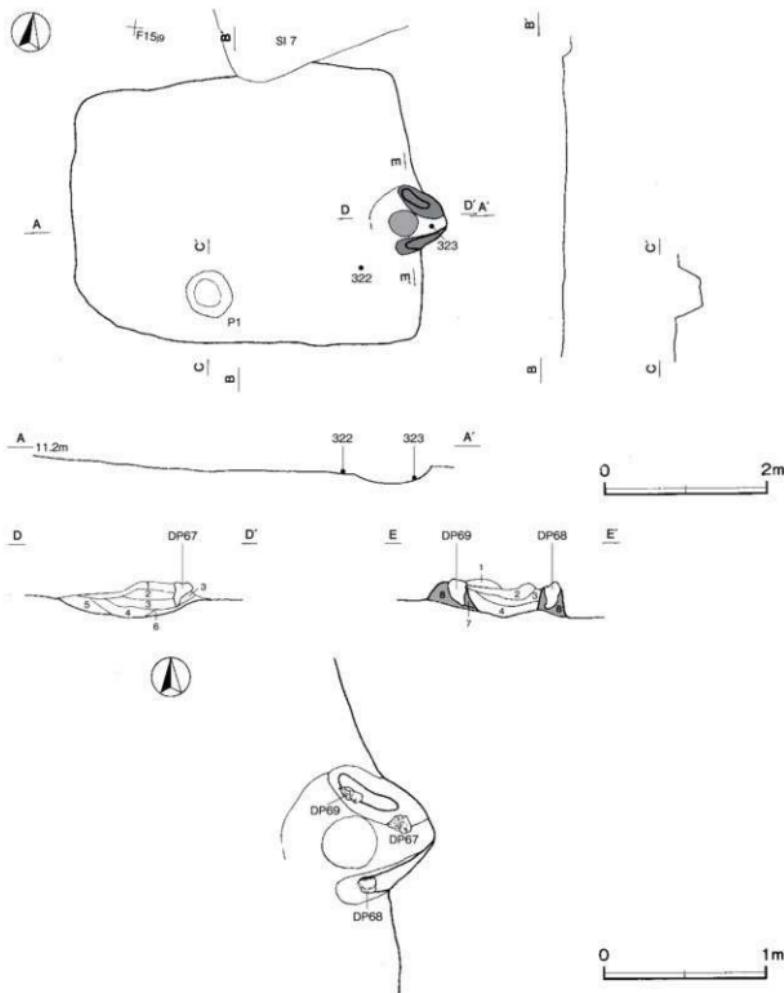
番号	器種	高さ	最小径	最大径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 32	支脚	(20.4)	5.8	(14.6)	(3440)	安山岩	断面不整格円形 被熱痕	竪火床面	PL44

第8号住居跡（第148・149図）

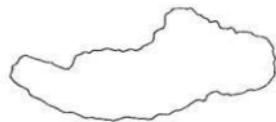
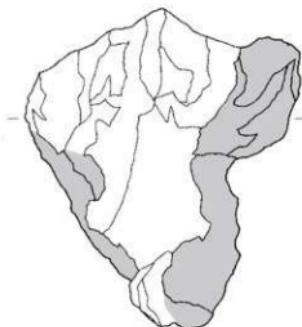
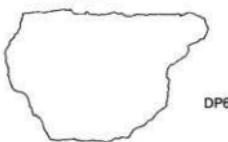
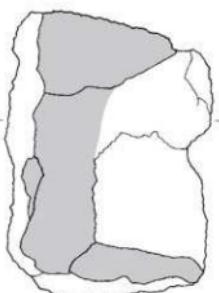
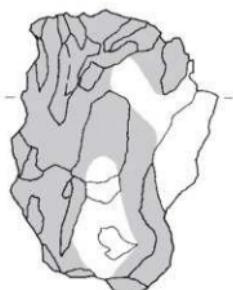
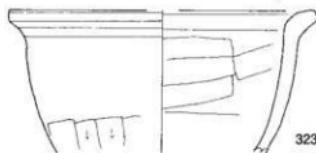
位置 調査区南東部のF 15j9 区、標高 11 m の低地に向かう斜面部に位置している。

重複関係 第7号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.30 m、短軸 3.47 m の長方形で、主軸方向は N - 81° - E である。確認面では覆土が残っておらず、住居のプランのみを確認した。



第148図 第8号住居跡実測図



第 149 図 第 8 号住居跡出土遺物実測図

床 平坦で、踏み固められた痕跡は認められない。

竈 東壁のほぼ中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで95cmで、燃焼部幅は20cmである。袖部は製鉄炉の炉壁の一部を芯材としており、左袖に2点、右袖に1点を据え、砂質粘土を主体とした第7・8層を積み上げて構築されている。火床部は床面を12cm掘り込んで使用している。火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ30cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

遺土層解説

1 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	5 黑褐色 燃土ブロック・炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量
2 にぼい橙色 燃土ブロック・砂質粘土ブロック中量。ローム粒子・炭化粒子微量	6 黑褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3 極暗褐色 燃土粒子少量。炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	7 極暗褐色 燃土ブロック・砂質粘土粒子少量。ローム粒子・炭化粒子微量
4 暗赤褐色 燃土ブロック少量。炭化物・ローム粒子・砂質粘土粒子微量	8 極暗赤褐色 燃土粒子・砂質粘土粒子中量。炭化粒子微量

ピット 深さ34cmで、南壁際に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 土師器片56点(坏9、高台付楕7、甕類40)、須恵器片2点(坏1、甕類1)、炉壁3点、鉄滓5点(1720g)が出土している。そのほか、混入した土師器片2点(高坏)も出土している。322は竈の南西部の床面から出土している。323は竈の覆土下層から出土している。DP68は竈の右袖部内、DP67・DP69は左袖部内からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から10世紀前葉に比定できる。

第8号住居跡出土遺物観察表(第149図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	機械	手法の特徴ほか	出土位置	備考
322	土師器	高台付楕	-	(39)	68	長石・石英・雲母	橙	普通	内面ハラ書き、底部凹凸へラ削り後、高台貼り付け	床面	30%
323	土師器	甕	[188]	(88)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部分・内面襖子テ 体部外側縫合のハラ削り 内面ハラナフ	覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP67	炉壁	176	130	46	920	粘土	内面黒色ガラス化気体 外面ガラス質澤のたれ、胎土はスサ少 量の粘土質	竈左袖部内	PL43
DP68	炉壁	178	129	82	1080	粘土	内面灰白色に被熱、発泡気泡 外面酸化化 胎土はスサ少量の粘土質	竈右袖部内	PL43
DP69	炉壁	198	170	70	1180	粘土	内面灰白色に被熱、一部酸化化 外面酸化化 胎土はスサ少量の粘土質	竈左袖部内	PL43

第8号住居跡出土鉄滓計測表

点数	特大 (長径10cm以上)	大 (長径4cm以上10cm未満)	中 (長径1cm以上4cm未満)	小 (長径1cm未満)	合計
	2	3	-	-	5
重量(g)	1205	515	-	-	1720

第31号住居跡(第150~152図)

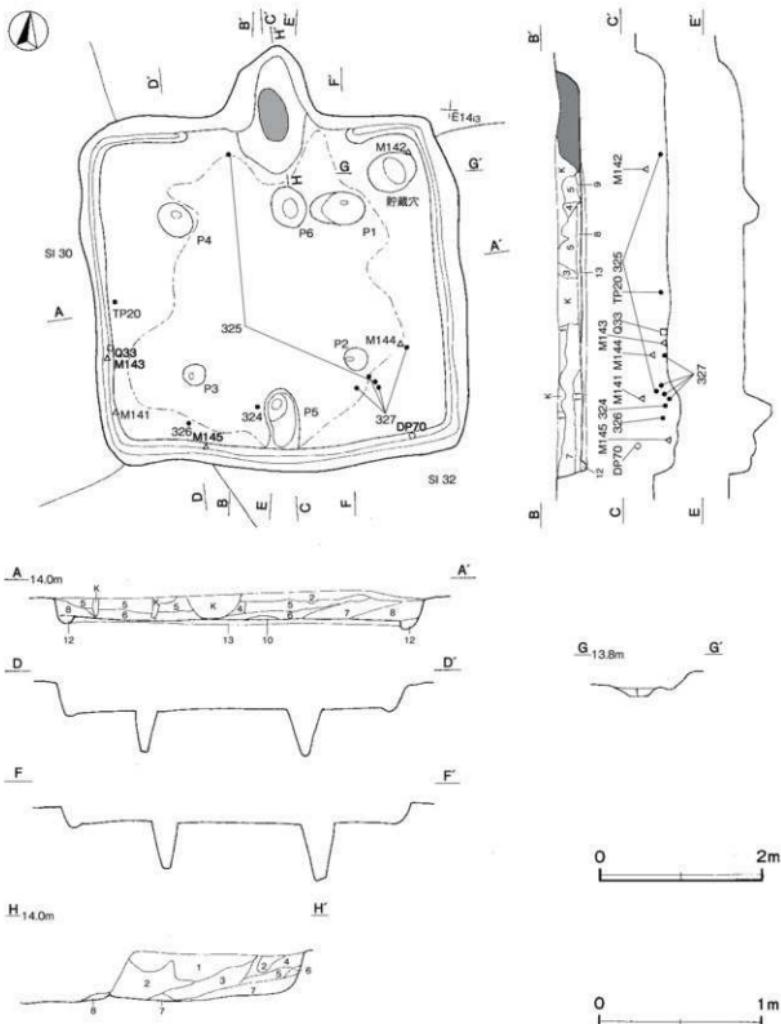
位置 調査区中央部のE14i2区、標高14mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第30・32号住居跡を掘り込んでいる。

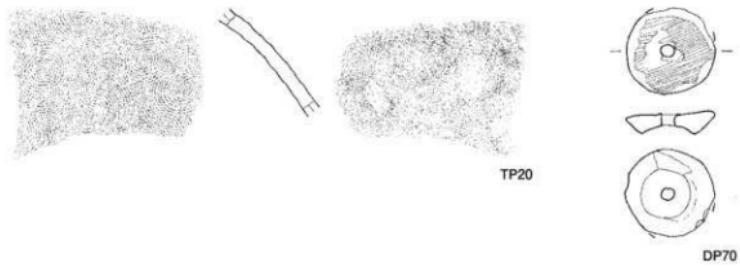
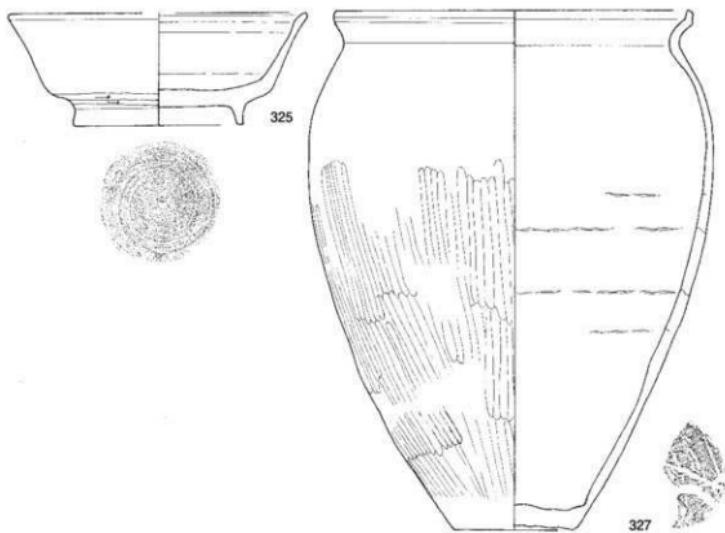
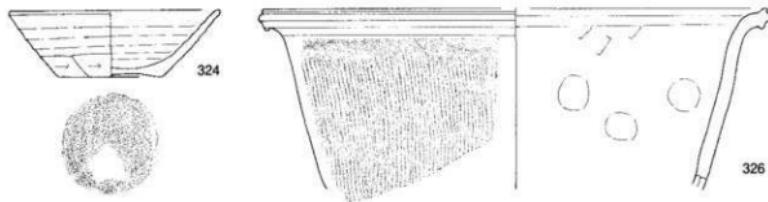
規模と形狀 長軸4.68m、短軸4.30mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁高は13~40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、壁下を除いて踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、四隅を土坑状に掘り込み、ロームブロックを含んだ第13層を埋土して構築されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 157cmで、燃焼部幅は 55cmである。袖部は遺存しない。火床部は床面と同じ高さを使用しており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外へ 95cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

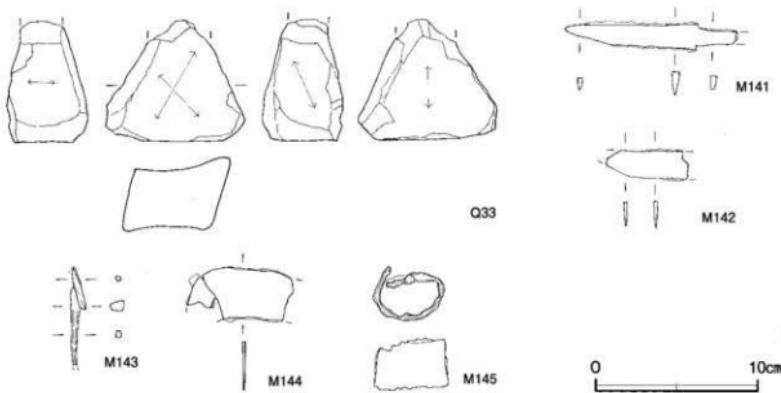


第150図 第31号住居跡実測図



0 10cm

第 151 図 第 31 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第152図 第31号住居跡出土遺物実測図(2)

竈土層解説

- | | | | |
|---------|--------------------------------|---------|------------------------------------|
| 1 黒 色 | ロームブロック少量 | 6 黒 暗 色 | ローム粒子微量 |
| 2 斑赤褐色 | ローム粒子少量、燒土ブロック・炭化粒子微量 | 7 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、燒土ブロッ
ク・炭化粒子微量 |
| 3 斑赤褐色 | 燒土ブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量 | 8 赤褐色 | 燒土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子少量、ローム粒子・燒土粒子・炭化
粒子微量 | 5 にぶい褐色 | 砂質粘土粒子中量、ローム粒子・燒土粒子・炭化
粒子微量 |

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ57～72cmで、規模と配置から主柱穴である。P 5は深さ36cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ18cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置している。長径60cm、短径50cmの梢円形で、深さは15cmである。底面は皿状で、壁は外傾して立ち上がっていている。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量

覆土 12層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。第13層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------------|--------|------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒
子微量 | 8 暗褐色 | 燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒色 | ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 | 燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子
微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量 | 12 暗褐色 | ローム粒子中量、砂質粘土粒子微量 |
| 6 細暗褐色 | ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量 | 13 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | 燒土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土
粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師器片444点(壺40、甕類404)、須恵器片156点(壺104、高台付壺3、蓋5、盤1、鉢9、壺1、甕類31、瓶2)、土製品1点(紡錘車)、石器3点(砥石)、鐵製品7点(刀子2、鏃3、鎌1、釘1)、焼成粘土塊24点、鐵滓179点(2062g)が、全面の覆土上層から床面にかけて出土している。また、貼床の構築土内から土師器片10点(壺1、甕類9)、須恵器片3点(壺2、甕類1)が出土している。そのほか、

混入した土師器片1点（高坏）、陶器片1点（碗）、石器1点（剥片）も出土している。324は、南部の床面から逆位の状態で出土している。325は竈の南西側と南東部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。327は南東部、326は南西部、TP20は西部、Q 33・M143は西壁際、M145は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。M 142は北東コーナー部の覆土中層から出土している。DP70・M 144は南東部、M141は南西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。

第31号住居跡出土遺物観察表（第151・152図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施釉	手法の特徴ほか	出土位置	備考
324	瓶窓器	环	13.0	4.1	6.4	長石・石英	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り 窓部一方のヘラ削り	床面	80% PL29
325	瓶窓器	高台付	[18.2]	6.9	10.4	長石・石英・ 雲母	灰黄褐	普通	底部斜板ヘラ削り後、高台貼り付け	覆土下層	70% PL29
326	瓶窓器	鉢	[31.2]	(11.3)	-	長石・石英・ 雲母	にぶい程	普通	体部磁化の平行叩き 内面当て具痕	覆土下層	10% PL29
327	土師器	甕	21.7	32.0	[7.4]	長石・石英・ 雲母	稍	普通	口縁部外・内面塵ナデ 体部外表面のヘラ削き	覆土下層	70% PL40

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP20	瓶窓器	甕	長石・石英・雲母	黄灰	体部同心円状の叩き 内面当て具痕・指頭痕	覆土下層	PL40

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP70	劫鉢車	(5.5)	1.4	0.8	(37.4)	長石・石英・ 赤色粒子	ナデ 上面ヘラ磨き 一方向からの穿孔	覆土上層	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 33	砾石	(7.5)	8.5	4.9	(278)	礫灰岩	一部欠損 砥面4面	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M141	刀子	(10.6)	1.6	0.4	(16.5)	鉄	茎部欠損 刃部断面三角形・茎部断面逆台形	覆土上層	PL45
M142	刀子	(5.1)	1.8	0.2	(7.2)	鉄	刃部・茎部欠損 断面三角形	覆土中層	
M143	鎌	(6.1)	(0.9)	0.6	(3.9)	鉄	三角鎌 茎部欠損 鎌身・茎部断面長方形	覆土下層	PL46
M144	鎌	(6.6)	(2.3)	0.2	(11.5)	鉄	両端欠損	覆土上層	
M145	不明	3.2	4.5	0.3	17.3	鉄	帯状の素材を瘤状に曲げている。	覆土下層	PL46

第31号住居跡出土鉄滓計測表

点数	特大 (長径10cm以上)			大 (長径4cm以上10cm未満)			中 (長径1cm以上4cm未満)			小 (長径1cm未満)			合計
	点数	重量(g)	長径(cm)	点数	重量(g)	長径(cm)	点数	重量(g)	長径(cm)	点数	重量(g)	長径(cm)	
点数	-	-	-	11	-	-	70	-	-	98	-	-	179
重量(g)	-	-	-	1.430	-	-	1.556	-	-	1.96	-	-	2.062

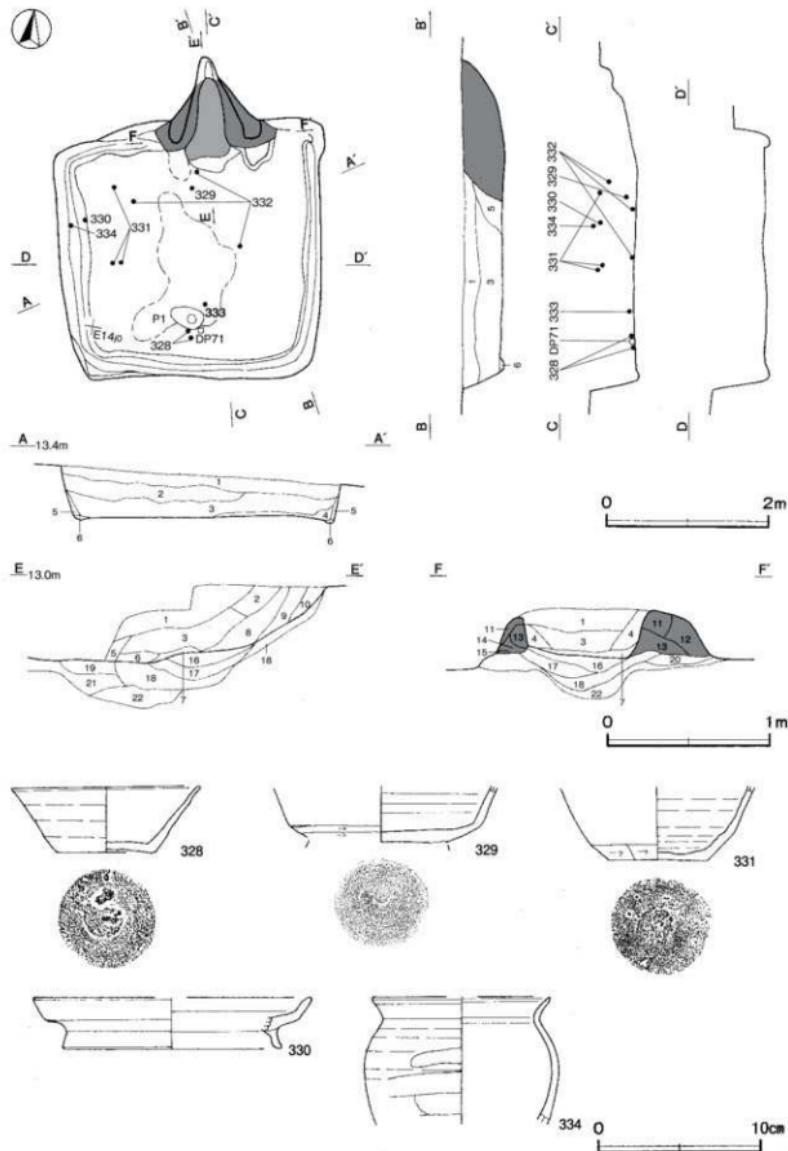
第43号住居跡（第153・154図）

位置 調査区東部のE 1410区、標高13mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

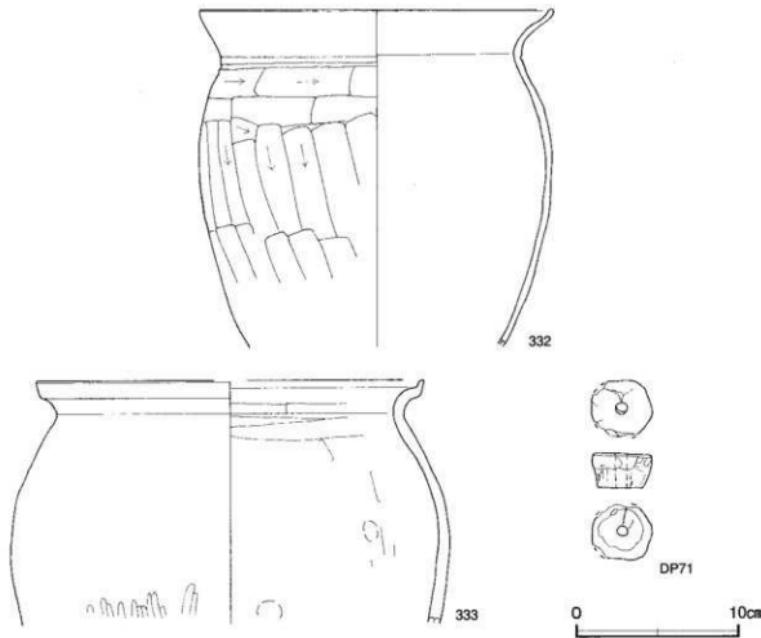
重複関係 第41号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺が3.20mの方形で、主軸方向はN-11°-Wである。壁高は40~55cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。竈の東側を除く壁下には壁溝が巡っている。



第153図 第43号住居跡・出土遺物実測図



第154図 第43号住居跡出土遺物実測図

竈 北壁のやや東寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで145cmで、燃焼部幅は40cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第11～15層を積み上げて構築されている。火床部は床面を25cm掘り込んで、第16～22層を埋土して構築されている。火床面は火を受けて赤変している。煙道部は壁外へ78cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	10 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11 暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、炭化物、焼土粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量
4 灰褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	13 暗褐色	砂質粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量
6 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	15 暗褐色	ローム粒子中量
7 暗赤褐色	焼土粒子中量、砂質粘土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	16 暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量	17 暗赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量
9 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量	18 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
		19 暗褐色	ロームブロック中量
		20 暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
		21 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量
		22 暗褐色	砂質粘土粒子中量、焼土粒子少量、ローム粒子微量

ピット 深さ65cmで、南壁際の中央部に位置していることから、出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	4 褐 色 ロームブロック少量、燒土粒子、炭化粒子微量
2 褐 褐 色 ロームブロック少量	5 褐 色 ローム粒子中量
3 暗 褐 色 ロームブロック少量、燒土粒子微量	6 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 677 点（坏 105、椀 2、高坏 3、甕類 564、小形甕 1、瓶 2）、須恵器片 234 点が（坏 199、高台付坏 3、蓋 9、盤 1、鉢 7、瓶 1、甕類 14）、土製品 1 点（紡錘車）、焼成粘土塊 6 点、鐵滓 649 点（20.257g）が、全面の覆土上層から床面にかけて出土している。そのほか、混入した繩文土器片 6 点（深鉢）、陶器片 2 点（碗）、磁器片 1 点（碗）、石器 1 点（石斧）、石製品 1 点（剣形模造品）も出土している。328・DP71は南部の床面からそれぞれ出土している。332は甕の前の床面と甕の南西側の覆土上層から出土した破片が接合したものである。329は甕の前、333は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。330・331・334は西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀前葉に比定できる。

第 43 号住居跡出土遺物観察表（第 153・154 図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
328	須恵器	坏	11.4	4.1	6.0	長石・石英	灰黄	普通	底部回転ヘラ削りを残すナデ	床面	85% PL29
329	須恵器	高台付坏	-	(3.4)	-	長石・石英	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り 高台部剥離	覆土下層	30%
330	須恵器	甕	[16.8]	3.2	[13.2]	長石・石英	灰	普通	体部クロカナデ	覆土上層	10%
331	須恵器	長断盤	-	(4.5)	6.2	長石・石英	灰	普通	体部下端・底部斜削ヘラ削り	覆土上層	20% PL29 自然釉
332	土師器	甕	21.8	(20.8)	-	長石・石英	にぶい程	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上段横抜のヘラ削り 中位斜削のヘラ削り	床面 覆土上層	70% PL40
333	土師器	甕	[23.8]	(15.0)	-	長石・石英	にぶい程	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面上段横抜のヘラ削り 内面ヘラナデ・工具痕 指印斑状	覆土下層	20%
334	土師器	小形甕	[10.8]	(7.9)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部ヘラナデ	覆土上層	20%

番号	器 种	径	厚さ	孔径	重量	胎 土	特 徴	出土位置	備 考
DP71	紡錘車	(3.8)	2.2	0.8	30.4	長石・石英	側面ヘラ削り 一方向からの穿孔	床面	PL42

第 43 号住居跡出土土鉄滓計測表

	特大	(長径 10cm以上)	(長径 4cm以上 10cm未満)	(長径 1cm以上 4cm未満)	中	小	合 計
	点数	3	54	290	302	649	
重量 (g)	1590	7.020	30.137	1.510	20.257		

表7 平安時代住居跡一覧表

番号	位 置	平面形	主軸方向	規 模		埋 高 (cm)	床 面	壁 溝	内 部 施 設				覆 土	主な出土遺物	時 期	備 考 重複関係(古→新)	
				長軸 × 短軸 (m)	柱穴				玄関	出入口	ビロ	伊・重	窓或穴				
1	GI108	-	-	(1.05) × (0.55)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	人為	土師器、石器	8世紀前葉	
8	F1559	長方形	N - 81° - E	4.30 × 3.47	-	平坦	-	-	1	-	龜1	-	-	土師器、須恵器、砂器、鐵滓		8世紀後葉	SI7
31	E1462	方形	N - 5° - W	4.68 × 4.30	13 ~ 40	平坦	全周	ほげ	4	1	1	龜1	1	自然	土師器、須恵器、砂器、鐵滓	9世紀前葉	SI30 - 32 → 本跡
43	E1460	方形	N - 11° - W	3.20 × 3.20	40 ~ 55	平坦	全周	-	1	-	龜1	-	-	人為	土師器、須恵器、砂器、鐵滓	9世紀前葉	SH41 → 本跡

5 その他の遺構と遺物

今回の調査で、伴う遺物が出土していないことから、時期が明らかでない掘立柱建物跡2棟、溝跡14条、炉跡2基、井戸跡3基、土坑95基、ピット群14か所、不明遺構1基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第155図)

位置 調査区中央部のE 14g3 ~ E 14h4 区、標高14 mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第6号ピット群のP29と重複しているが、新旧関係は不明である。

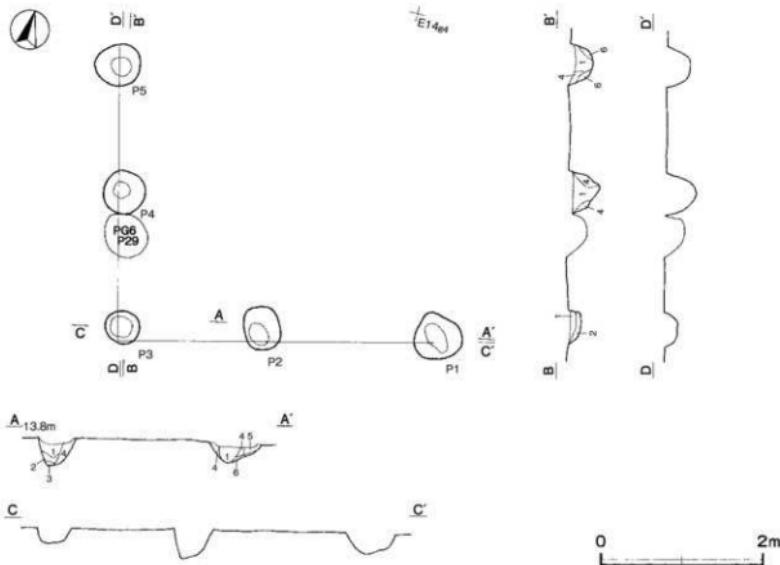
規模と形状 北東コーナー部と北平・東妻の中間柱穴が確認できなかったが、他の柱穴の配置から桁行、梁行ともに2間の倒柱建物跡と推定できる。桁行方向はN - 77° - Eの東西棟である。規模は桁行3.90 m、梁行3.60 mで、面積は14.04 m²である。柱間寸法は桁行が西妻から18 m(6尺)・21 m(7尺)で、梁行は18 m(6尺)である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 5か所。平面形は円形または梢円形で、長径42 ~ 60 cm、短径41 ~ 58 cmである。深さ18 ~ 44 cmで、掘方の断面形は逆台形またはU字形である。土層はいずれも柱の抜き取り後の覆土で、締まりは弱い。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量	4 暗褐色	ロームブロック中量
2 暗褐色	ロームブロック中量	5 暗褐色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子中量、砂質粘土粒子微量

所見 時期は、本跡に伴う出土土器がないため不明である。



第155図 第1号掘立柱建物跡実測図

第2号掘立柱建物跡（第156図）

位置 調査区中央部のF 13a9～F 13b0区、標高14mの平坦な台地上に位置している。

重複関係 第7号ピット群のP 28を掘り込んでいる。

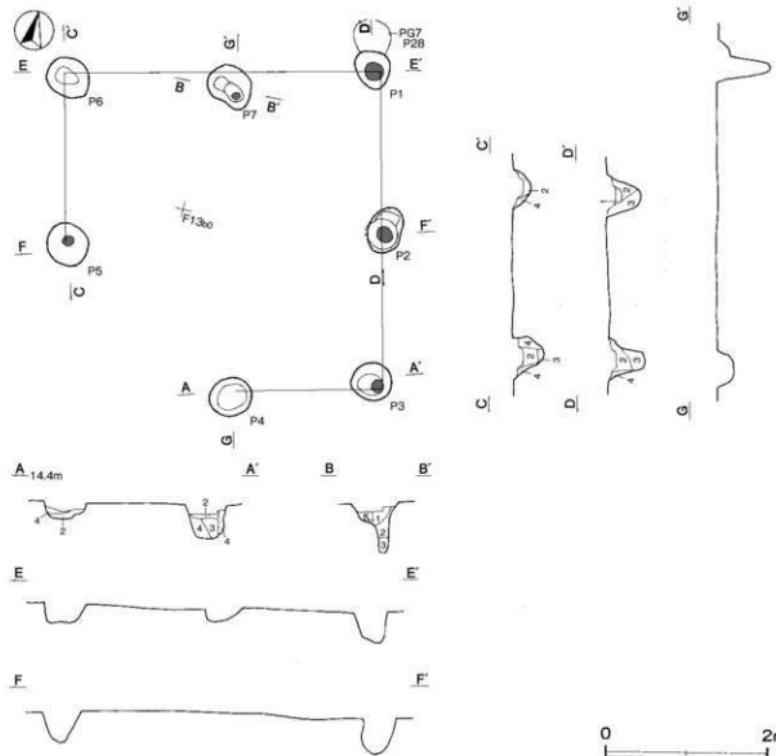
規模と形状 南西コーナー部の柱穴が確認できなかったが、他の柱穴の配置から桁行、梁行ともに2間の鋼柱建物跡と推定できる。桁行方向はN-14°-Wの南北棟である。規模は桁行、梁行ともに3.90mで、面積は15.21m²である。柱間寸法は桁行が南妻から1.8m(6尺)・2.1m(7尺)で、梁行は西妻から2.1m(7尺)、1.8m(6尺)である。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 7か所。平面形は円形または梢円形で、長径48～58cm、短径43～50cmである。深さ23～64cmで、掘方の断面形は逆台形またはU字形である。土層はいずれも柱の抜き取り後の覆土で、締まりは弱い。P 1～P 3・P 5・P 7の底面では、柱のあたりを確認した。

土層解説

1 細褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子微量
4 細褐色 ローム粒子少量



第156図 第2号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 土師器片 12 点（壺 6、甕類 6）、磁器 1 点（碗）、鉄滓 1 点（10.4g）が出土しているが、いずれも細片である。

所見 時期は、出土土器から近世以降と考えられるが、細片のため明確な時期は不明である。

表8 その他の掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	柱行方向	柱間数	規 模	面 積	柱間寸法		柱 穴			主な出土遺物	時 期	備 考 重複関係(古→新)	
						幅×奥(間)	幅× 奥(m)	(m)	柱間(m)	奥間(m)	構造	柱穴	平面形	深さ(cm)
1	E 12a3 - E 13d4	N - 77° - E	2 × 2	390 × 360	14.01	18 ~ 21	18	圓柱	5	円形	18 ~ 44	不明	PGP29	
2	F 12b - F 13b	N - 14° - W	2 × 2	390 × 390	15.21	18 ~ 21	18 ~ 21	圓柱	7	楕円形	23 ~ 64	土師器・磁器・ 鉄滓	不明	PGP28 → E群

(2) 溝跡

今回の調査で、時期不明の溝跡 14 基を確認した。そのうち、当遺跡の性格を考える上で必要な第 3・8・9・10・11・12 号溝跡を取り上げて解説する。その他の溝跡の規模については一覧表で、土層断面図（第 157・158 図）と土層解説については遺構順に掲載し、平面図については遺構全体図（付図）で掲載する。

第3号溝跡（第 159 図）

位置 調査区西部の E 12a3 ~ E 13d2 区、標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 10・20・24・27 号住居跡、第 21 号土坑、第 5 号溝跡を掘り込み、第 49 号土坑、第 4・6 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北西端部及び南東端部が調査区域外へ延びているため、長さは 53.0 m しか確認できなかった。E 12a3 区から南東方向（N - 44° - W）へは直線的に延び、E 13d2 区まで緩やかに下っている。規模は上幅 0.70 ~ 1.26 m、下幅 0.58 ~ 0.88 m で、南東部が北西部に比べてやや幅広である。深さは 16 ~ 21 cm で、底面の標高は、北西端部 14.7 m、南東端部 14.2 m で、底面は南西端部から北東端部に向かって 50cm ほど低くなっている。断面形は逆台形で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量 燐土粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 混入した土師器片 179 点（壺 43、高壺 3、甕類 133）、須恵器片 41 点（壺 26、蓋 2、鉢 10、瓶 1、甕類 2）、陶器片 1 点（鉢）、石器 1 点（凹石）、鉄滓 14 点（176g）が出土している。

所見 時期は、出土土器から中世以降と考えられるが、細片のため明確な時期は不明である。溝の方向が調査前の地割りに沿っていることから、区画溝の可能性がある。

第8号溝跡（第 159 図）

位置 調査区中央部の E 13e9 ~ E 13f5 区、標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 9 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西端部が調査区域外へ延びているため、長さは 29.5 m しか確認できなかった。E 13f5 区から北東方向（N - 36° - E）へは直線的に延び、E 13e9 区まで緩やかに下っている。規模は上幅 0.80 ~ 1.20 m、

下幅 0.12 ~ 0.38 m で、南西部が北東部に比べてやや幅広である。深さは 12 ~ 18cm で、底面の標高は、南西端部 14.1 m、北東端部 13.8 m で、底面は南西端部から北東端部に向かって 30cmほど低くなっている。断面形は浅い U 字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 混入した土師器片 91 点（坏 14、高坏 1、甕類 76）、須恵器片 26 点（坏 11、蓋 1、鉢 1、甕類 13）、磁器 1 点（碗）、鐵滓 13 点（263g）が出土している。

所見 時期は、出土土器から近世以降と考えられるが、細片のため明確な時期は不明である。溝の方向が調査前の地割りに沿っていることから、区画溝の可能性がある。

第 9 号溝跡（第 159 図）

位置 調査区中央部の E 13d0 ~ E 13f5 区、標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 8 号溝跡を掘り込み、第 35 ~ 37 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東端部及び南西端部が調査区域外へ延びているため、長さは 33.8 m しか確認できなかった。E 13f5 区から北東方向（N - 40° - E）へほぼ直線的に延び、E 13d0 区まで緩やかに下っている。規模は上幅 0.36 ~ 1.40 m、下幅 0.16 ~ 0.75 m で、南西部が北東部に比べてやや幅広である。深さは 7 ~ 22cm で、底面の標高は、北東端部 13.8 m、南西端部 14.1 m で、底面は南西端部から北東端部に向かって 30cmほど低くなっている。断面形は逆台形で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 墓褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 混入した繩文土器片 1 点（深鉢）、土師器片 69 点（坏 19、甕類 50）、須恵器片 12 点（坏 3、蓋 2、鉢 1、甕類 6）、磁器 1 点（碗）、石器 2 点（砥石、剥片）、鐵滓 55 点（1704g）が出土している。

所見 時期は、出土土器から近世以降と考えられるが、細片のため明確な時期は不明である。南西端部から調査区域の中央部まで第 8 号溝と重複し、北東端部までは平行しており、ともに方向が調査前の地割りに沿っていることから、区画溝の可能性がある。

第 10 号溝跡（第 157 図）

位置 調査区中央部の E 13e0 ~ F 13a6 区、標高 14 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 43・46・50 号土坑を掘り込み、第 41・42・45・47・48・51・61 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西端部が調査区域外へ延びているため、長さは 30.4 m しか確認できなかった。F 13a6 区から北東方向（N - 43° - E）へほぼ直線的に延び、E 13e0 区まで緩やかに下っている。規模は上幅 0.34 ~ 1.62 m、下幅 0.16 ~ 0.42 m で、南西部が北東部に比べて幅広である。深さは 12 ~ 56cm で、底面の標高は、北東端部は 13.6 m、南西端部 13.8 m で、底面は南西端部から北東端部に向かって 20cmほど低くなっている。断面形は浅い V 字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

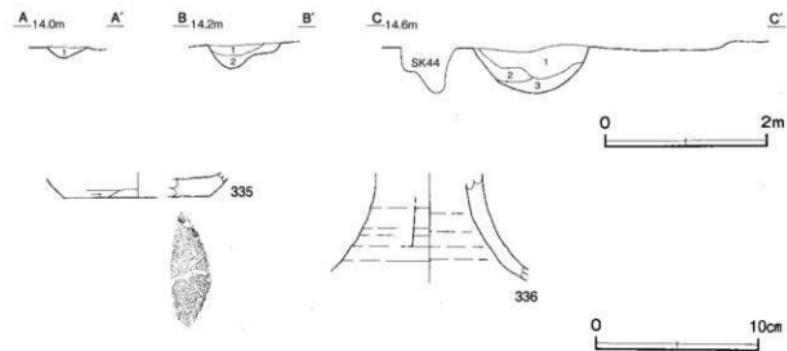
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量 | 3 黒褐色 ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 ローム粒子中量、砂質粘土粒子少量 | |

遺物出土状況 混入した土師器片176点（坏35、甕類141）、須恵器片46点（坏28、高盤1、鉢1、甕類16）、土製品3点（支脚）、鐵鋤42点（1114g）が出土している。335・336は南西部の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から奈良時代以降と考えられるが、明確な時期は不明である。溝の方向が調査前の地割りに沿っていることから、区画溝の可能性がある。



第157図 第10号溝跡・出土遺物実測図

第10号溝跡出土遺物観察表（第157図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
335	須恵器	坏	-	(15)	[9.0]	長石・石英	灰	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部一方のヘラ削り	覆土中	10%
336	須恵器	高盤	-	(67)	-	長石・石英	にぼい灰	普通	ロクロナデ 脚部透かし孔	覆土中	10%

第11号溝跡（第160図）

位置 調査区東部のE 15bf～F 15d0区、標高10mの台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 調査区域東端の境界線に沿い、南東から北西へ弧状に延びている。北西端部及び南東端部が調査区域外へ延びているため、長さは35.7mしか確認できなかった。F 15b0区から北西方向（N-32°-W-N-40°-W）へ、弧状にE 15f7区まで延びている。規模は上幅0.78～1.50m、下幅0.30～0.94mである。深さは18～30cmで、底面の標高は、北西端部及び南東端部ともに9.9mである。断面形は浅いU字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量 | 3 極暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 ロームブロック微量 | |

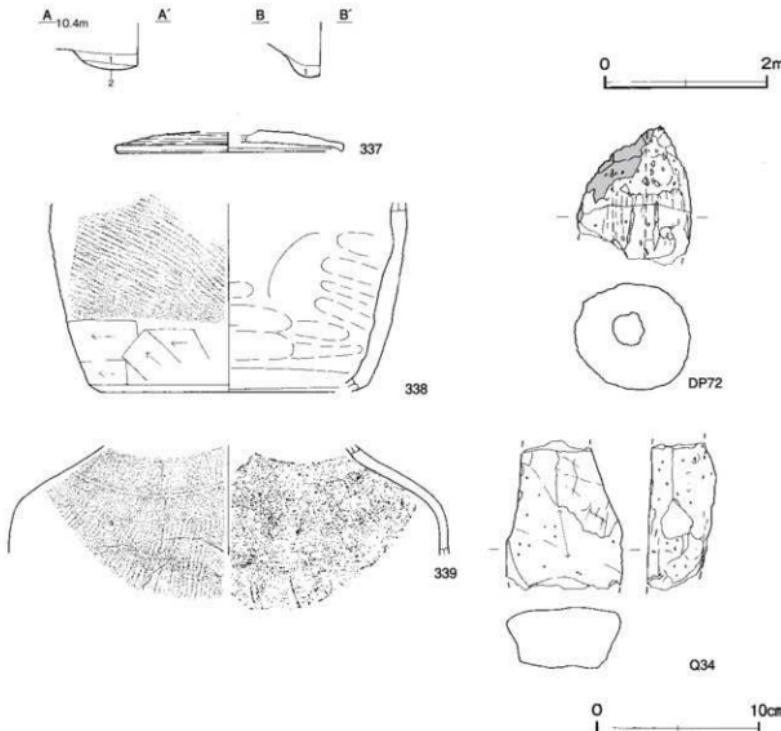
遺物出土状況 混入した土師器片 76 点（坏 10、高坏 1、壺 2、甕類 63）、須恵器片 24 点（坏 10、蓋 3、鉢 5、甕類 6）、陶器片 1（鉢）、鐵滓 5 点（664g）が出土している。

所見 時期は、出土土器から中世以降と考えられるが、細片のため明確な時期は不明である。溝の方向が調査前の地割りに沿っていることから、区画溝の可能性がある。

第 12 号溝跡（第 158 図）

位置 調査区東部の E 15f7 ~ F 15a0 区、標高 10 m の台地上から低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 調査区域東端の境界線に沿い、南東から北西へ弧状に延びている。北西端部及び南東端部が調査区域外へ延びているため、長さは 25.1 m しか確認できなかった。更に、東側の調査区域外に延びているため、東側の立ち上がりも確認できなかった。F 15a0 区から北西方向（N - 32° - W ~ N - 40° - W）へ、弧状に E 15f7 区まで延びている。確認できた規模は上幅 0.34 ~ 1.18 m、下幅 0.25 ~ 0.68 m である。深さは 18 cm で、底面の標高は、9.9 m である。断面形は浅い U 字状と推定でき、西壁は外傾して立ち上がっている。



第 158 図 第 12 号溝跡・出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量

遺物出土状況 混入した縄文土器1点（深鉢）、土師器片297点（坏47、甕類250）、須恵器片57点（坏32、高台付坏2、蓋3、盤1、鉢4、瓶1、甕類14）、土製品1点（羽口）、石器2点（石棒、砥石）、鐵滓4点（262g）が、全面の覆土下層から底面にかけて出土している。337～339・Q34は南東部。DP72は北東部の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から奈良時代以降と考えられるが、明確な時期は不明である。第11号溝跡と平行している。溝の方向が調査前の地割りに沿っていることから、区画溝の可能性がある。

第12号溝跡出土遺物観察表（第158図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
337	須恵器	蓋	[138]	(1.2)	—	長石・石英	褐色	普通	天井部クロナデ	覆土中	20%
338	須恵器	鉢	—	(11.6)	(15.6)	長石・石英・雲母	灰	普通	体部斜面の平行叩き 下端へラブリ 内面当て	覆土中	5%
339	須恵器	甕	—	(6.7)	—	長石・石英	灰	普通	体部横筋のカキ目後、斜面の平行叩き 内面12 条1単位の当て具孔	覆土中	5% PL40

番号	器種	径	長さ	孔径	重量	胎土	特徴		出土位置	備考
DP72	羽口	(7.2)	(8.8)	20	(245)	粘土・スサ	先端部のみ残存 外面ヘラナデ痕 洋化発跡 黒色ガラス質付着		覆土中	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q 34	砥石	(9.2)	7.2	(3.7)	(326)	凝灰岩	断面逆台形 砥面2面		覆土中	

第1号溝跡土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量

第2号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

第4号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 黑褐色 ロームブロック少量

第5号溝跡土層解説

- 1 黑褐色 燃土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック少量

第6号溝跡土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第7号溝跡土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

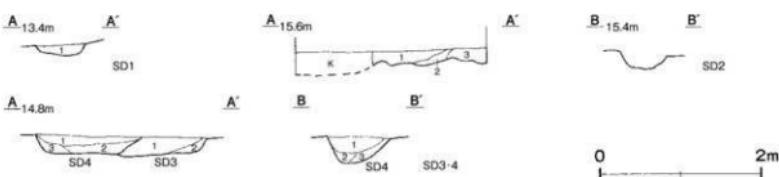
第13号溝跡土層解説

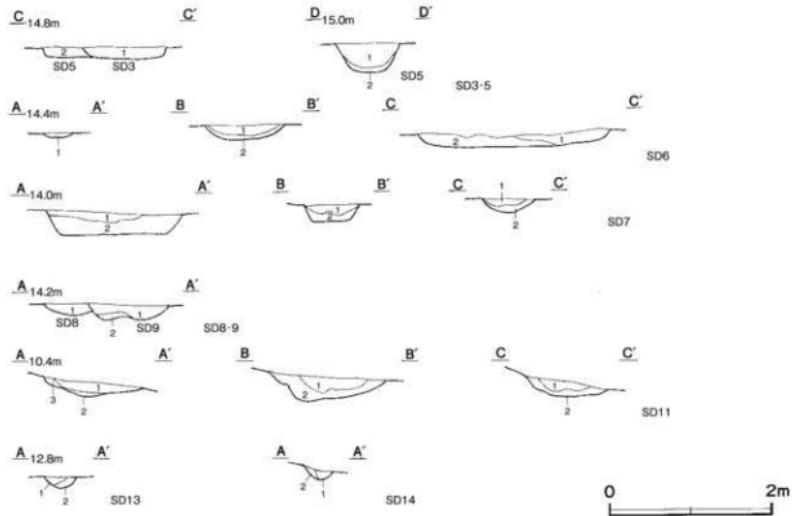
- 1 褐色 ロームブロック多量
- 2 褐色 ロームブロック中量

第14号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第159図 第1～4号溝跡実測図





第160図 第3・5~9・11・13・14号溝跡実測図

表9 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規 標			断面形	壁幅	底幅	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)						
1	D12a6~D12a7	N-77°-W	直線状	(136)	0.47~0.62	0.26~0.39	13	浅いU字形	緩斜	平坦	人為	-
2	F11h4	N-66°-E	直線状	(242)	0.43~0.57	0.32~0.43	17	逆台形	外傾	凸凹	人為	-
3	E12a3~E13a2	N-44°-W	直線状	(530)	0.70~1.26	0.58~0.88	16~21	逆台形	外傾	平坦	人為	土器器、須恵器、陶器、鉢津 SD10-30-27, SK21, SD5-8-9-SD6, SD6-6
4	E13b1~E12a9	N-38°-E	直線状	(154)	0.78~1.05	0.32~0.64	34	浅いU字形	外傾	直状	人為	-
5	E12a9~E12a9	N-37°-E	直線状	(290)	0.60~0.68	0.24~0.46	36	浅いU字形	外傾	直状	人為	-
6	E13a7~E13a2	N-41°-E	○の字形	(26.9)	0.26~0.34	0.10~0.72	5~16	逆台形	緩斜	平坦	人為	土器器 SD3→本跡
7	E13a6~E13a8	N-53°-W	直線状	(15.5)	0.48~0.78	0.22~0.44	12~30	逆台形	外傾	平坦	人為	土器器、須恵器、 鉢津、鉢津
8	E13e9~E13e5	N-36°-E	直線状	(295)	0.80~1.20	0.12~0.38	12~18	浅いU字形	緩斜	直状	人為	土器器、須恵器、 鉢津、鉢津 本跡→SD9
9	E13d0~E13e5	N-40°-E	直線状	(338)	0.36~1.40	0.16~0.75	7~22	逆台形	外傾	凸凹	人為	土器器、須恵器、 鉢津、鉢津 SD8→本跡→SK 35-37
10	E13e0~E13e6	N-43°-E	直線状	(304)	0.34~1.62	0.16~0.42	12~56	浅いV字形	緩斜	直状	人為	土器器、須恵器、 土製品、鉢津 SD10-30→本跡 SD11-41-42-43-47- 48-51-61
11	E15f6~F15d0	N-32°-W	弧状	(357)	0.78~1.50	0.30~0.94	18~30	浅いU字形	緩斜	平坦	人為	土器器、須恵器、 陶器、鉢津
12	E15f7~F15d0	N-32°-W	弧状	(251)	0.34~1.18	0.05~0.66	18	浅いU字形	外傾	直状	人為	土製品、鉢津
13	F15e2	N-9°-W	直線状	(232)	0.41~0.60	0.06~0.34	13	浅いU字形	緩斜	直状	人為	土器器 本跡→SK90, SE 2
14	F15b3	N-10°-W	直線状	27	0.31~0.42	0.09~0.15	14	浅いU字形	緩斜	直状	人為	土器器、須恵器

(3) 炉跡

第1号炉跡（第161図）

位置 調査区南西部のF11h5区、標高15mの平坦な台地上に位置している。

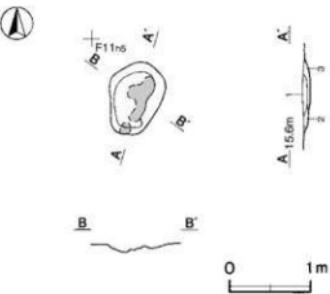
規模と形状 長径 92cm、短径 70cm の楕円形で、長径方向は N - 22° - E である。底面は皿状にくぼんでおり確認面からの深さは 10cm である。

覆土 3 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 赤褐色 ローム粒子中量、燒土ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子・燒土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、燒土粒子微量

所見 周辺に柱穴等が確認できなかったことから、住居に伴うものとは考えられない。時期は、本跡に伴う出土土器がないため不明である。



第 161 図 第 1 号炉跡実測図

第 2 号炉跡 (第 162 図)

位置 調査区西部の E 14f8 区、標高 13 m の低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

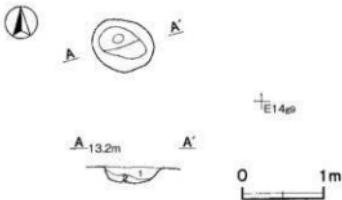
規模と形状 長径 75cm、短径 62cm の楕円形で、長径方向は N - 71° - W である。底面は皿状にくぼんでおり確認面からの深さは 18cm である。

覆土 2 層に分層できる。周囲からの流入による堆積状況を示していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 赤褐色 燃土粒子多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子微量

所見 周辺に第 9 号ピット群の P 11 ~ P 16 があることから、住居跡に伴う炉跡の可能性が考えられるが、柱穴の配置等が捉えられないため断定できない。時期は、本跡に伴う出土土器がないため不明である。



第 162 図 第 2 号炉跡実測図

表 10 その他の炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	覆 土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径 × 短径 (m)	深さ (cm)				
1	F11h5	N - 22° - E	楕円形	92 × 70	10	皿状	自然		
2	E14g8	N - 71° - W	楕円形	75 × 62	18	皿状	自然		

(4) 井戸跡

第 1 号井戸跡 (第 163 図)

位置 調査区西部の E 12f7 区、標高 15 m の平坦な台地上に位置している。

重複関係 第 10 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.42 m、短径 1.30 m の円形である。確認面から円筒状に掘り下げている。深さ 1 m ほどで湧水し、崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

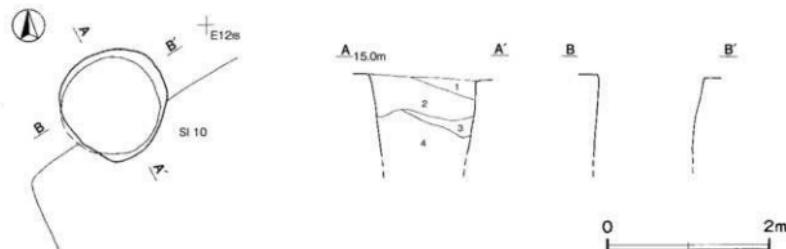
覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 極暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	3 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子中量
2 黒褐色	砂質粘土粒子中量、ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量

遺物出土状況 土師器片 9 点（坏 3、壺類 6）、須恵器片 1 点（坏）が出土している。

所見 時期は、出土土器から奈良時代以降と考えられるが、細片のため明確な時期は不明である。



第 163 図 第 1 号井戸跡実測図

第 2 号井戸跡（第 164 図）

位置 調査区東部の F 15b2 区、標高 13 m の低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

重複関係 第 13 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 2.26 m、短径 1.90 m の梢円形で、長径方向は N - 53° - E ある。確認面から 0.5 m まで漏斗状に掘り込み、下部は円筒状に掘り下げている。深さ 1.8 m ほどで湧水し、崩落のおそれがあることから、下部の調査を断念した。

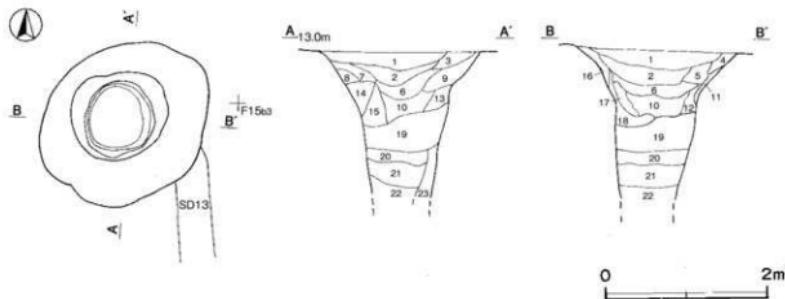
覆土 23 層に分層できる。不自然な堆積状況から、埋め戻されている。

第 2 号井戸跡土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	14 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック少量
4 暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	15 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック微量
5 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	16 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
6 黑褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	17 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7 黑褐色	ローム粒子少量	18 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・砂質粘土粒子微量
8 暗褐色	ローム粒子少量、砂質粘土粒子微量	19 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
9 暗褐色	ロームブロック微量	20 暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
10 暗褐色	ローム粒子微量	21 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
11 黑褐色	ロームブロック中量	22 黒褐色	ローム粒子微量
		23 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片 1 点（深鉢）、土師器片 58 点（坏 6、壺類 52）、須恵器片 15 点（坏 11、高台付坏 1、蓋 1、壺類 2）、石器 2 点（鍛、磨石）、鐵滓 3 点（198g）が出土している。

所見 時期は、出土土器から奈良時代以降と考えられるが、いずれも細片のため明確な時期は不明である。



第164図 第2号井戸跡実測図

第3号井戸跡 (第165図)

位置 調査区東部のF 15d9 区、標高 11 m の低地に向かう緩やかな斜面部に位置している。

規模と形状 長径 3.08 m、短径 2.98 m の不整梢円形で、長径方向は N - 28° - E である。確認面から 1.2 m まで浅い鑿鉢状に掘り込み、下部は円筒状に掘り下げていると思われる。鑿鉢状の掘り込みの底面で湧水したため、下部の調査を断念した。

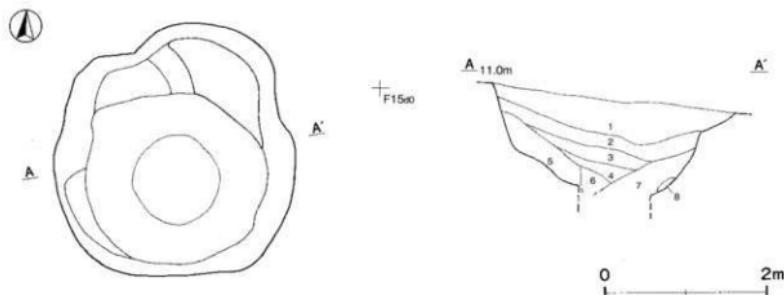
覆土 8層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

第3号井戸跡土層解説

1	褐 色	ロームブロック中量、砂質粘土粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量	5	褐 色	ロームブロック中量
2	極暗褐色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量、燒土粒子微量	6	極暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子微量
3	極暗褐色	砂質粘土粒子中量、ローム粒子少量	7	極暗褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック少量
4	黒褐色	砂質粘土粒子少量、ローム粒子微量	8	褐 色	砂質粘土ブロック多量

遺物出土状況 繩文土器片 2点 (深鉢)、土師器片 82点 (壺21、甕類61)、須恵器片 17点 (壺8、蓋1、盤2、甕類6)、磁器1点 (碗)、鐵滓4点 (168g) が出土している。

所見 時期は、出土土器から近世以降と考えられるが、細片のため明確な時期は不明である。



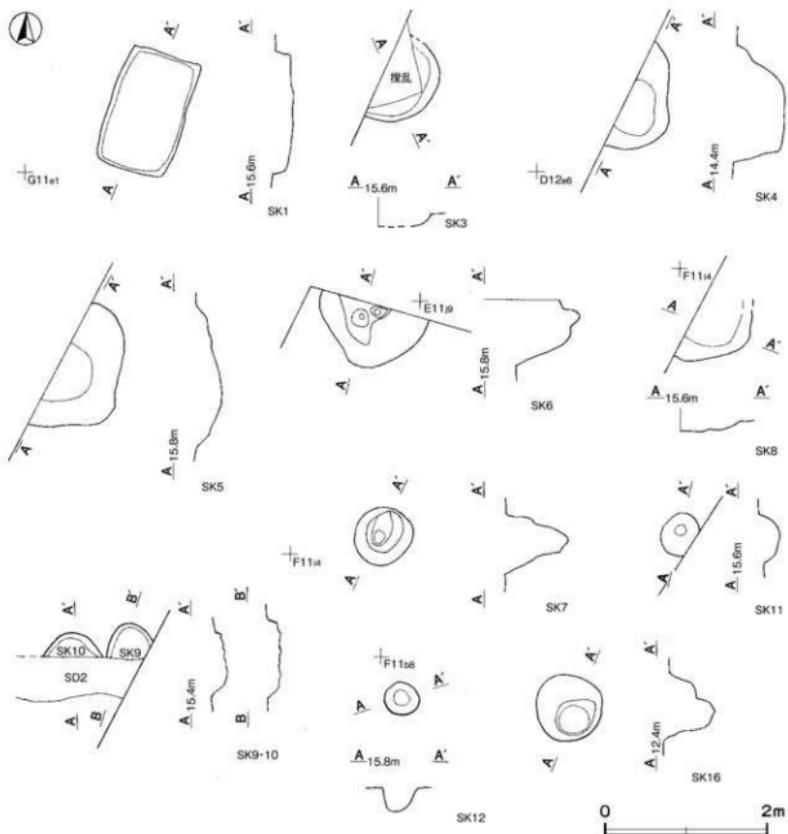
第165図 第3号井戸跡実測図

表11 その他の井戸跡一覧表

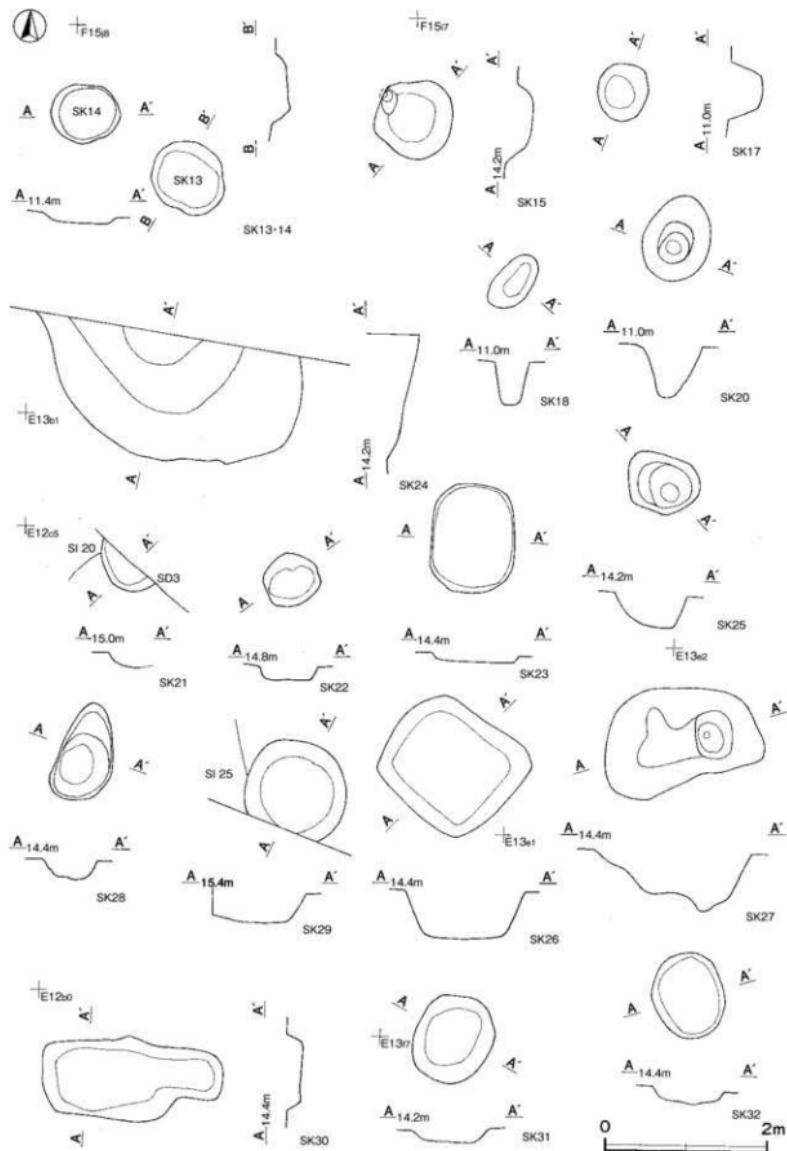
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	E12d7	-	円形	142 × 130	(98)	-	直立	人為	土師器、須恵器	SD10 → 本跡
2	F15d2	N - 53° - E	椭円形	226 × 190	(180)	-	偏平化・直立	人為	陶文土器、土師器、須恵器、石器 鉄斧	SD13 → 本跡
3	F15d9	N - 28° - E	不整椭円形	308 × 298	(120)	-	偏平化・直立	人為	陶文土器、土師器、須恵器、磁器、 鉄斧	SD13 → 本跡

(5) 土坑

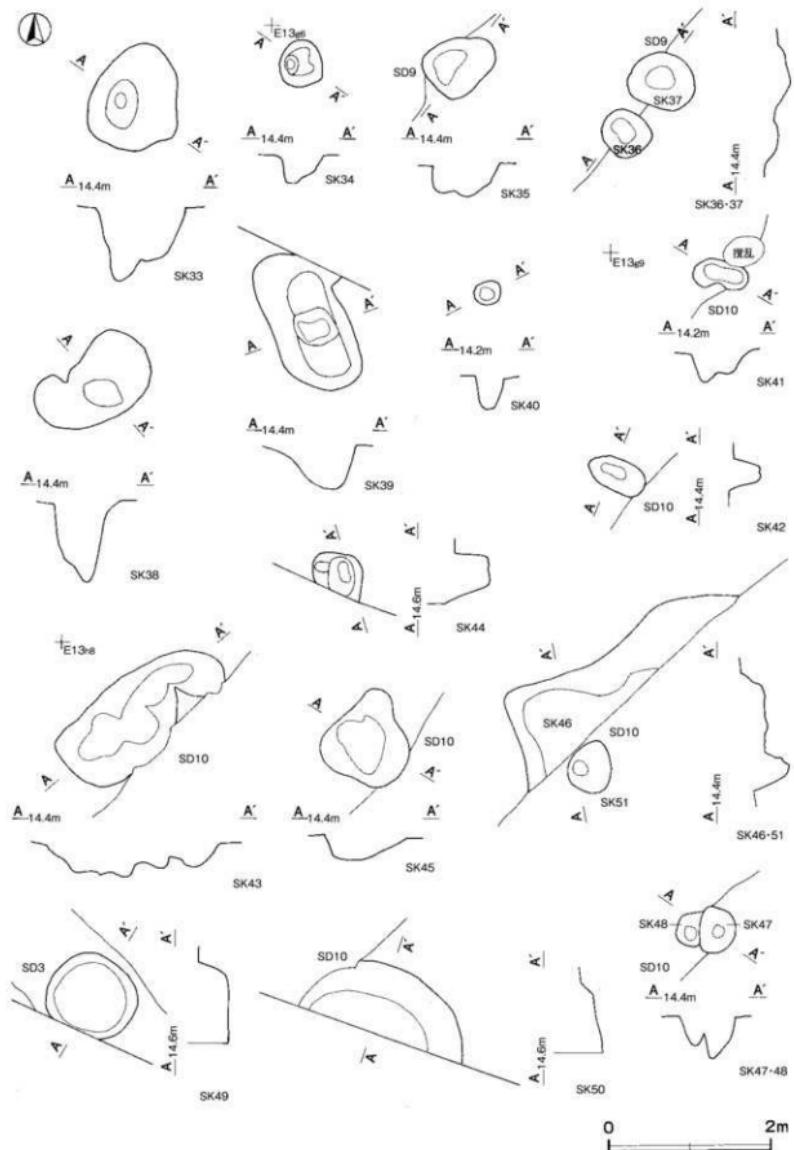
今回の調査で、時期・性格ともに不明の土坑95基を確認した。これらの土坑については、規模・形状等について実測図（第166～171図）と一覧表を掲載する。



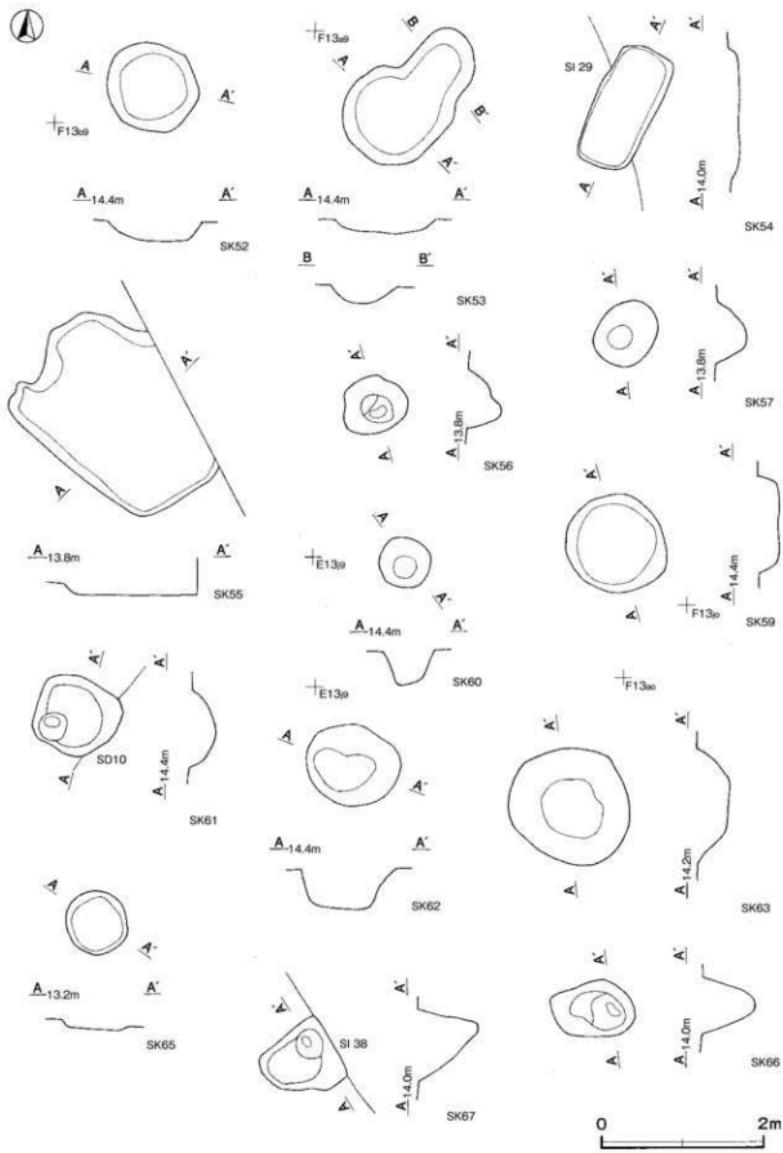
第166図 その他土坑実測図（1）



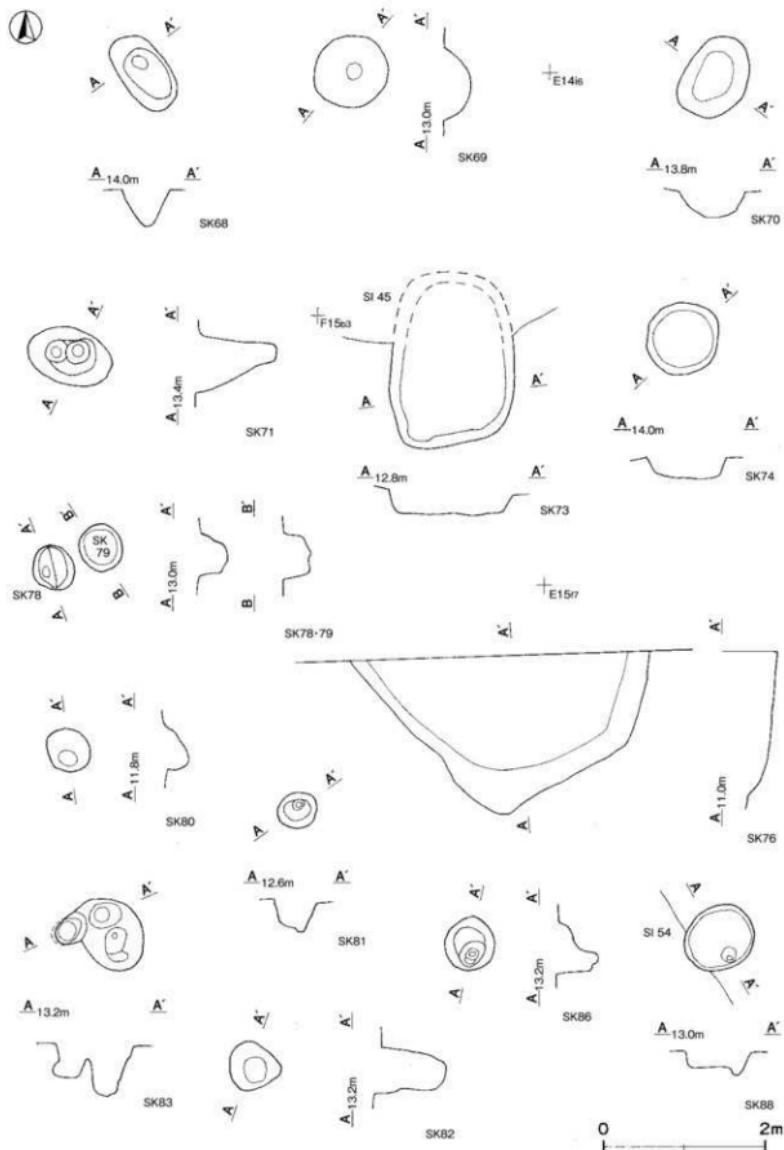
第167図 その他の土坑実測図（2）



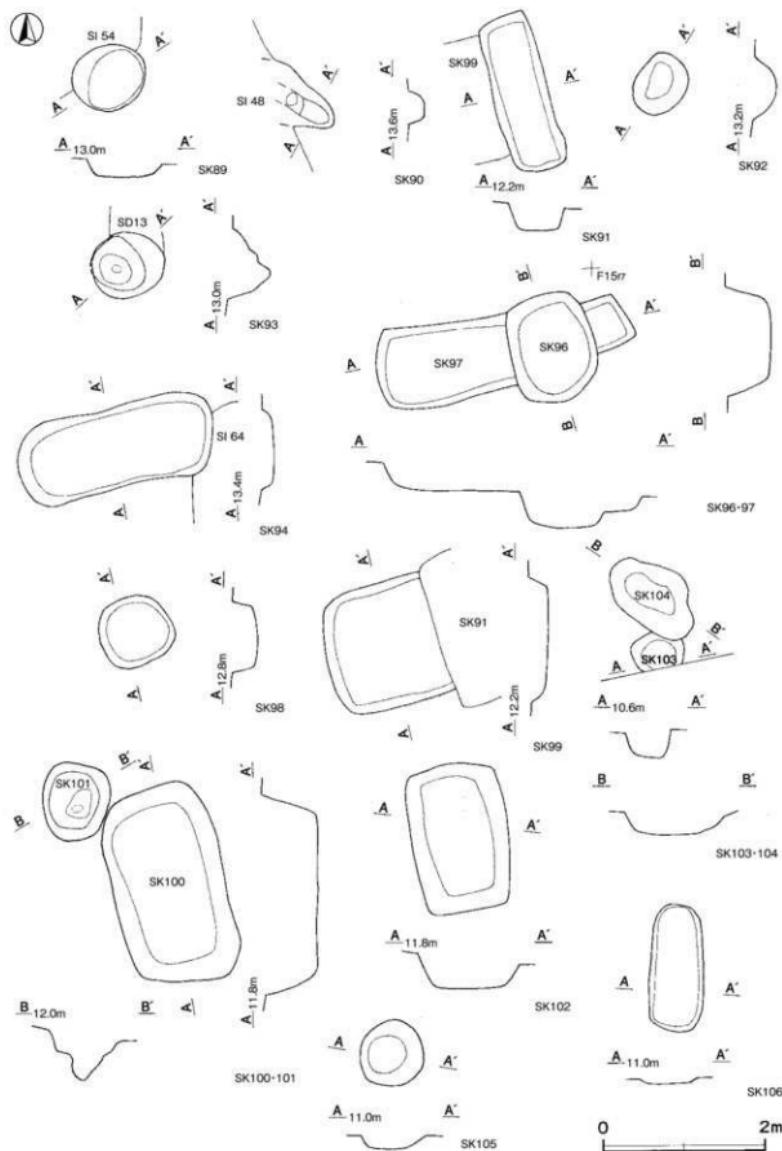
第 168 図 その他土坑実測図 (3)



第169図 その他土坑実測図（4）



第170図 その他土坑実測図（5）



第171図 その他土坑実測図（6）

表12 その他の土坑一覧表

番号	位 置	長幅(径)方向	平 面 形	規 模 (m)		深さ (m)	壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長軸(径) × 短軸(径)							
1	G11d1	N - 20° - E	長方形	1.50 × 0.96	24	外傾	平坦	人為	土器器、鉄滓		
3	G10e0	N - 42° - E	〔円形 楕円形〕	(1.12) × (0.68)	14	外傾	平坦	人為			
4	D12g6	N - 18° - E	〔椭円形〕	1.40 × (0.60)	64	外傾 傾斜	平坦	人為	土器器		
5	F11c6	N - 37° - E	〔円形 楕円形〕	1.71 × (0.86)	34	傾斜	平坦	人為	土器器、須恵器		
6	E11j8	N - 73° - W	〔円形 楕円形〕	1.38 × (0.80)	68	外傾	平坦	人為	土器器、鉄滓		
7	F11b4	-	円形	0.72 × 0.68	74	外傾	圓状	自然			
8	F11i4	-	〔円形〕	(0.72) × (0.70)	14	傾斜	平坦	人為	土器器		
9	F11i4	N - 0°	〔椭円形〕	(0.55) × (0.46)	14	外傾	凹凸	人為		SD2 → 本跡	
10	F11i4	N - 87° - W	〔円形 楕円形〕	0.70 × (0.30)	15	傾斜	凹凸	人為		SD2 → 本跡	
11	G11c2	-	〔円形〕	0.54 × (0.40)	22	外傾	圓状	人為			
12	F11b8	-	円形	0.42 × 0.40	30	外傾	圓状	人為			
13	F15g8	-	円形	0.98 × 0.84	15	外傾	圓状	自然	縄文土器		
14	F15g8	-	円形	0.80 × 0.72	5	外傾	平坦	人為	土器器		
15	F15g7	-	円形	1.00 × 0.98	22	傾斜	圓状	人為			
16	F15g5	-	円形	0.85 × 0.84	56	外傾	平坦	自然			
17	F15g0	N - 35° - E	楕円形	0.72 × 0.64	49	外傾	平坦	自然	土器器、須恵器		
18	F15g0	N - 40° - E	楕円形	0.76 × 0.45	54	外傾	平坦	自然			
20	F15g0	N - 18° - E	楕円形	1.08 × 0.82	60	外傾	圓状	人為	土器器		
21	E12c5	N - 51° - W	〔椭円形〕	0.80 × (0.35)	15	傾斜	平坦	人為	土器器	SD20 → 本跡 → SD3	
22	E12g8	N - 38° - E	楕円形	0.72 × 0.65	15	外傾	平坦	人為			
23	E12g9	N - 5° - E	楕円形	1.35 × 1.04	5	外傾	平坦	人為			
24	E13a1	N - 82° - W	〔椭円形〕	3.28 × (1.56)	32	傾斜	平坦	人為			
25	E13b1	N - 60° - W	楕円形	0.96 × 0.72	49	傾斜	圓狀	人為			
26	E12d0	N - 52° - W	隅丸長方形	1.65 × 1.44	56	外傾	平坦	人為	土器器、須恵器		
27	E13e1	N - 87° - W	不整格円形	1.95 × 1.20	52	傾斜	凹凸	人為	土器器、陶器		
28	E13e2	N - 17° - E	楕円形	1.24 × 0.68	24	傾斜	圓状	自然	須恵器		
29	E12g6	-	円形	(1.34) × (1.24)	34	傾斜	平坦	人為	土器器、須恵器	SD25 → 本跡	
30	E12g0	N - 88° - E	楕円形	2.24 × 1.04	20	外傾	平坦	人為	土器器		
31	E13g7	N - 35° - E	楕円形	1.12 × 0.96	18	傾斜	平坦	自然			
32	E13g6	N - 22° - W	楕円形	1.06 × 0.86	18	外傾	圓状	自然	土器器		
33	E13g6	N - 25° - E	楕円形	1.34 × 1.08	64	外傾	凹凸	人為	土器器、須恵器		
34	E13g6	N - 27° - E	楕円形	0.62 × 0.56	34	外傾 傾斜	平坦	人為			
35	E13g7	N - 64° - E	楕円形	0.90 × 0.68	40	外傾	凹凸	人為	須恵器	SD9 → 本跡	
36	E13g8	-	円形	0.60 × 0.56	16	外傾	平坦	人為	土器器、鉄滓	SD9 → 本跡	
37	E13g8	N - 54° - W	楕円形	0.78 × 0.70	18	外傾	平坦	人為	土器器、鉄滓	SD9 → 本跡	
38	E13g5	N - 57° - E	不要格円形	1.52 × 0.80	104	外傾	凹凸	人為	土器器、須恵器、鉄滓		
39	E12g8	N - 28° - W	楕円形	1.86 × (0.94)	52	外傾	圓状	人為			
40	E13g9	N - 48° - E	楕円形	0.36 × 0.30	40	外傾	圓状	人為			
41	E13g9	N - 77° - W	不整格円形	0.70 × 0.40	37	外傾	凹凸	人為		SD10 → 本跡	
42	E13g8	N - 70° - W	楕円形	0.72 × 0.39	37	外傾	平坦	自然		SD10 → 本跡	
43	E13g8	N - 50° - E	不定形	2.20 × (1.00)	40	外傾 傾斜	凹凸	人為		本跡 → SD10	
44	E13g5	N - 51° - W	〔円形 楕円形〕	0.64 × (0.46)	60	外傾	平坦	人為			
45	E13g6	N - 5° - E	不定形	1.22 × 1.10	32	外傾 傾斜	圓状	人為	鉄滓	SD10 → 本跡	
46	E13g6	N - 57° - W	〔不定形〕	3.30 × (1.06)	30	外傾 傾斜	平坦	人為		SK51 → 本跡 → SD10	
47	E13g6	N - 55° - W	楕円形	0.56 × 0.46	51	外傾	圓状	人為	土器器、須恵器、鉄滓	SK48, SD10 → 手跡	

番号	位置	長軸(径)方向	平面形	規 模 (m)		深さ(cm)	壁 面	底 面	覆 土	主な出土 遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長軸(径) × 短軸(径)	[円形 楕円形]						
48	E13g6	N - 12° - W	[円形 楕円形]	0.42 × (0.30)	37	外傾	圓状	自然			SD10 → 本跡 + SK47
49	E13g1	-	円形	1.12 × 1.08	35	外傾	平坦	人為			SD9 → 本跡
50	F13a6	N - 65° - W	[円形 楕円形]	(2.14) × (0.90)	48	紙斜	平坦	人為			本跡 → SD10
51	E13g6	-	円形	0.60 × 0.58	45	外傾 紙斜	圓状	人為			本跡 → SK46, SD10
52	F13a9	-	円形	1.13 × 1.12	21	紙斜	平坦	自然	土師器、須恵器、鉄滓		
53	F13a9	N - 43° - E	不整規円形	1.90 × 1.24	22	紙斜	平傾 紙斜	人為	土師器、須恵器		
54	E14g2	N - 22° - E	隅丸長方形	1.60 × 0.76	12	外傾	平坦	人為	土師器、鉄滓		SD29 → 本跡
55	E14e3	N - 46° - W	不定形	2.70 × (1.80)	12	紙斜	平坦	人為	土師器、鉄滓		
56	E14b3	N - 66° - E	楕円形	0.84 × 0.72	40	紙斜	圓状	人為			
57	E14g3	N - 43° - E	楕円形	0.88 × 0.68	38	外傾	圓状	人為	土師器、鉄滓		
59	E13g9	-	円形	1.20 × 1.20	28	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器、鉄滓		
60	E13g9	-	円形	0.64 × 0.62	33	外傾	圓状	自然			
61	E13e7	N - 12° - E	不定形	1.94 × 0.94	34	紙斜	圓状	人為			SD10 → 本跡
62	E13g9	N - 75° - W	楕円形	1.16 × 1.00	52	外傾	圓状	人為	土師器、須恵器、陶器、鉄滓		
63	F13a9	-	円形	1.48 × 1.48	38	紙斜	平坦	自然	土師器、鉄滓		
65	E14f7	-	円形	0.80 × 0.76	10	紙斜	平坦	人為	土師器		SD29 → 本跡
66	F14a4	N - 73° - W	楕円形	1.08 × 0.72	66	外傾	圓状	人為	土師器、須恵器		
67	F14b4	N - 83° - W	不定形	1.06 × 0.82	74	外傾	圓状	人為	土師器、須恵器、鉄滓		SD38 → 本跡
68	F14b4	N - 38° - W	楕円形	1.04 × 0.58	42	外傾	圓状	人為			
69	E14b8	-	円形	0.90 × 0.90	32	紙斜	圓状	自然			SD29 → 本跡
70	E14b6	N - 34° - E	楕円形	1.05 × 0.70	32	紙斜	圓状	人為	土師器、鉄滓		
71	E14g8	N - 77° - W	楕円形	1.06 × 0.72	100	外傾	平坦	人為			
73	F15e3	N - 10° - W	[長方形]	2.16 × 1.50	30	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器、鉄滓		SE45 → 本跡
74	F14a7	-	円形	0.95 × 0.87	28	外傾	平坦	自然	土師器、鉄滓		
76	E15e6	N - 3° - W	[楕円形]	3.68 × (1.94)	20	紙斜	平坦	自然			
78	E15g2	-	円形	0.58 × 0.53	34	外傾	圓状	自然			
79	E15g2	-	円形	0.57 × 0.53	33	外傾	凹凸	自然			
80	E15b5	-	円形	0.35 × 0.51	26	外傾	圓状	人為			
81	E15g2	N - 63° - E	楕円形	0.50 × 0.43	38	外傾	圓状	人為			
82	F15g2	-	円形	0.64 × 0.60	83	直立	圓状	人為	土師器		
83	F15g3	N - 33° - W	楕円形	0.98 × 0.74	60	外傾 紙斜	圓状	人為	土師器、須恵器		
86	F15g2	-	円形	0.64 × 0.60	52	直立 紙斜	凸凹	人為	土師器、須恵器		
88	F15c3	N - 60° - E	楕円形	0.88 × 0.76	26	外傾	平坦	人為	須恵器		SE54 → 本跡
89	F15d3	N - 58° - E	円形	0.93 × 0.80	20	外傾 紙斜	平坦	自然	土師器、鉄製品		SE54 → 本跡
90	F14g9	N - 62° - W	[楕円形]	(0.74) × 0.53	18	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器、鉄滓		SE48 → 本跡
91	F15c6	N - 16° - W	長方形	1.96 × 0.68	28	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器		SK39 → 本跡
92	F15c2	N - 34° - E	楕円形	0.28 × 0.64	28	紙斜	圓状	自然			
93	F15g2	-	円形	0.88 × 0.84	48	外傾 紙斜	圓状	人為			SD13 → 本跡
94	F14a0	N - 69° - E	長方形	2.50 × 0.98	14	外傾	平坦	自然			SE54 → 本跡
96	F15g6	N - 18° - W	楕円形	1.34 × 1.07	52	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器		SK39 → 本跡
97	F15g6	N - 80° - E	隅丸長方形	3.16 × 1.02	27	外傾	平坦	自然			本跡 → SK96
98	F15g6	-	円形	0.90 × 0.90	32	直立	平坦	人為	土師器、須恵器、陶器、鉄滓		
99	F15g6	N - 13° - W	[長方形]	1.54 × (1.37)	26	直立	平坦	自然			本跡 → SK91
100	F15d7	N - 13° - W	隅丸長方形	2.43 × 1.40	68	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器		
101	F15g6	N - 25° - W	楕円形	0.96 × 0.88	58	紙斜	圓状	自然			
102	F15g7	N - 8° - W	長方形	1.84 × 1.20	40	外傾	平坦	人為	土師器、須恵器、鉄滓		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模 (m)		深さ	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長軸(径) × 短軸(径)	幅						
103	F150	-	[円形]	0.68 × 0.44	32	外傾	平坦	自然			本跡→SK104
104	F150	N - 52° - W	椭円形	1.22 × 0.77	25	外傾 圓形	平坦	自然	土師器、須恵器、鉄滓	SK103→本跡	
105	F150	-	円形	0.84 × 0.77	19	外傾 圓形	圓状	人為			
106	F150	N - 3° - W	椭丸長方形	1.58 × 0.69	7	傾斜	平坦	人為			

(6) ピット群

今回の調査で確認したピット群 14 か所については、いずれも建物跡を想定できるような配置ではなく、時期も不明である。ここではピットごとの計測表と平面図を掲載する。

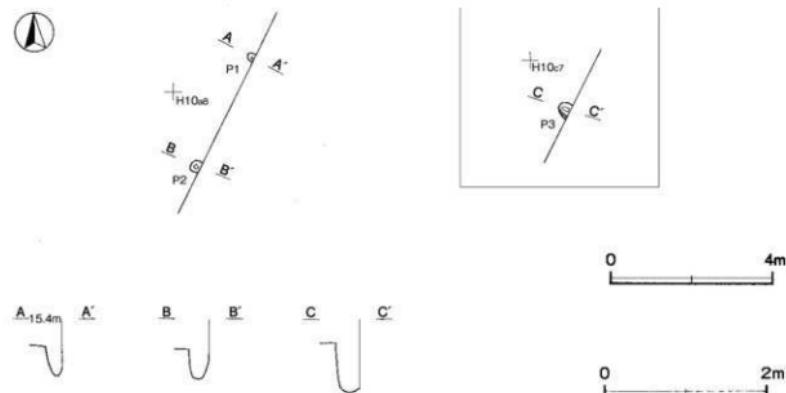
第1号ピット群（第172図）

位置 調査区南西部の標高 15 m, G 10g8 ~ H 10c7 区にかけての東西 5 m, 南北 10 m の範囲から、柱穴状のピット 3 か所を確認した。

規模 平面形は長径 22 ~ 40 cm の円形または椭円形で、深さが 37 ~ 60 cm である。

遺物出土状況 土師器片 2 点 (坏、甕類), 須恵器片 2 点 (坏、甕類) が P 1・P 2 の覆土中から出土しているが、いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。



第172図 第1号ピット群実測図

第1号ピット群計測表

番号	位置	形状	規 模 (cm)			番号	位置	形状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	G10g8	[椭円形]	(22)	19	37	3	H10c7	[椭円形]	40	(32)	60
2	H10g8	椭円形	28	24	38						

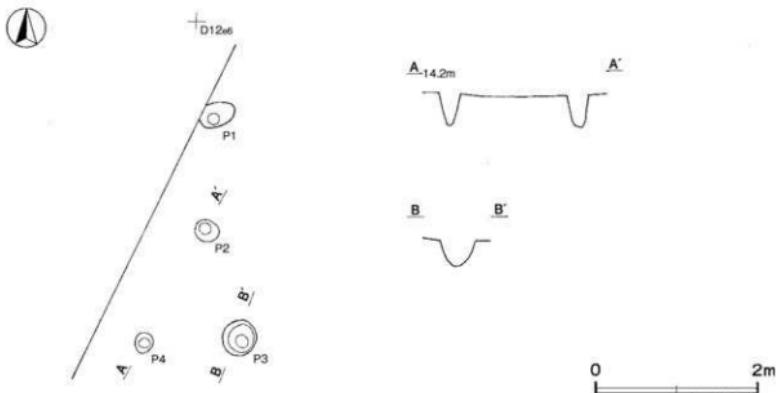
第2号ピット群（第173図）

位置 調査区西部の標高14m、D 12e5～D 12e6区にかけての東西2m、南北3mの範囲から、柱穴状のピット4か所を確認した。

規模 平面形は長径25～46cmの円形または椭円形で、深さが34～77cmである。

遺物出土状況 土師器片7点（壺類）、鉄滓3点（42.5g）がP 1～P 4の覆土中から出土しているが、いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。



第173図 第2号ピット群実測図

第2号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	D 12e6	椭円形	46	32	77	3	D 12e6	円形	42	42	34
2	D 12e6	椭円形	32	28	38	4	D 12e6	椭円形	25	22	38

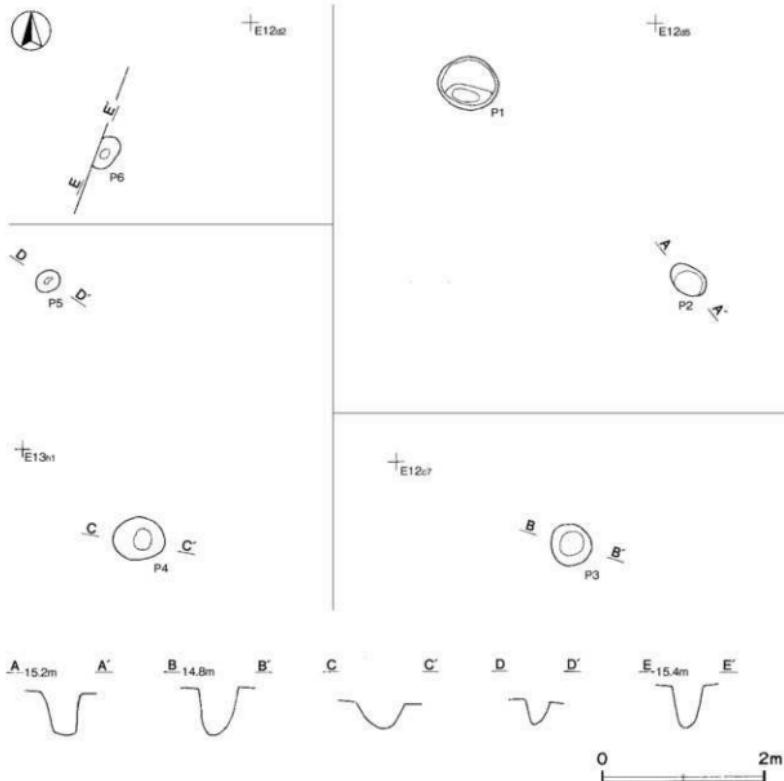
第3号ピット群（第174図）

位置 調査区西部の標高15m、E 12d1～E 13h1区にかけての東西36m、南北20mの範囲から、柱穴状のピット6か所を確認した。

規模 平面形は長径30～74cmの円形または椭円形で、深さが32～58cmである。

遺物出土状況 土師器片5点（壺2、壺類3）、陶器片1点（碗）がP 2・P 3・P 5・P 6の覆土中から出土しているが、いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。



第174図 第3号ピット群実測図

第3号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	E12d4	椭円形	74	66	39	4	E13h1	椭円形	60	54	32
2	E12d5	椭円形	48	35	50	5	E13g1	円形	30	28	32
3	E12d7	円形	52	50	58	6	E12d1	椭円形	44	(22)	50

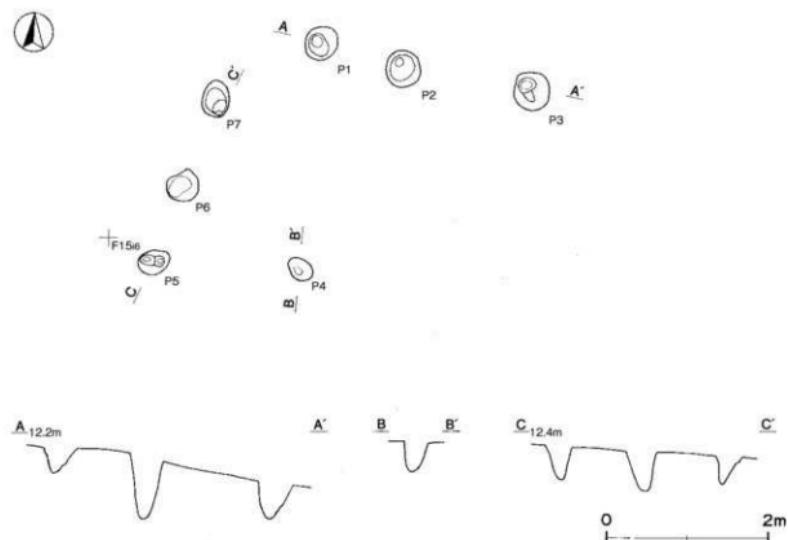
第4号ピット群 (第175図)

位置 調査区南東部の標高 12 m, F 15h6 ~ F 15i6 区にかけての東西 5 m, 南北 3 m の範囲から, 柱穴状のピット 7か所を確認した。

規模 平面形は長径 34 ~ 50cm の円形または楕円形で、深さが 30 ~ 80cm である。

遺物出土状況 土師器片 3 点（壺）が P 1 ~ P 3 の覆土中から出土しているが、いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。



第175図 第4号ピット群実測図

第4号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	F15b6	円形	45	42	30	5	F15b6	椭円形	42	30	40
2	F15b6	円形	46	44	80	6	F15b6	椭円形	42	36	44
3	F15b7	円形	50	46	40	7	F15b6	椭円形	46	34	38
4	F15b6	椭円形	34	24	38						

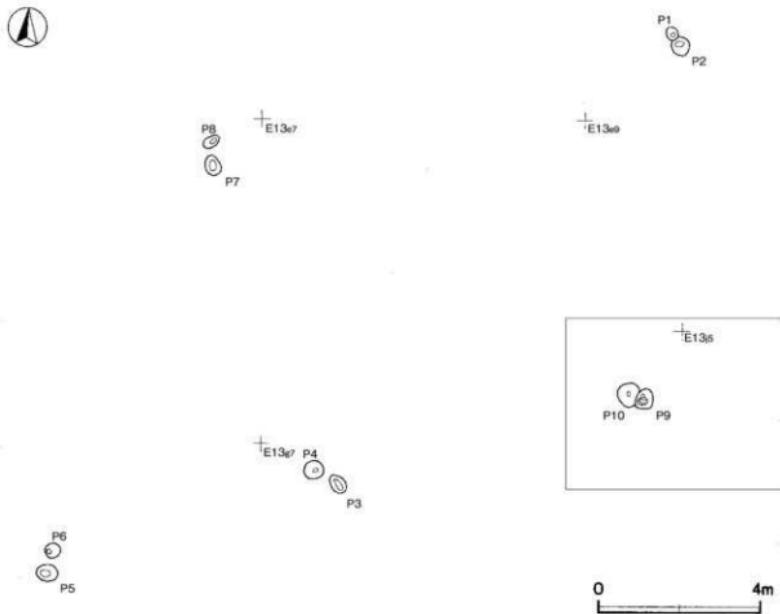
第5号ピット群（第176図）

位置 調査区中央部の標高 14 m. E 13d9 ~ E 13j4 区にかけての東西 24 m. 南北 24 m の範囲から、柱穴状のピット 10か所を確認した。

規模 平面形は長径 32 ~ 60cm の円形、楕円形または不整楕円形で、深さが 29 ~ 68cm である。

遺物出土状況 土師器片 4 点（壺 1、壺類 3）、鉄滓 1 点 (8.7g) が P 3・P 5 の覆土中から出土しているが、いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。



第176図 第5号ピット群実測図

第5号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	E13g9	不整楕円形	32	26	52	6	E13g5	楕円形	41	36	52
2	E13g9	円形	45	44	46	7	E13g6	楕円形	54	38	68
3	E13g7	楕円形	52	34	29	8	E13g6	楕円形	44	29	45
4	E13g7	楕円形	52	45	58	9	E13g4	楕円形	52	45	65
5	E13g5	楕円形	53	47	30	10	E13g4	円形	60	36	56

第6号ピット群（第177図）

位置 調査区中央部の標高14m、E 14e1～E 14h3区にかけての東西14m、南北12mの範囲から、柱穴状のピット29か所を確認した。

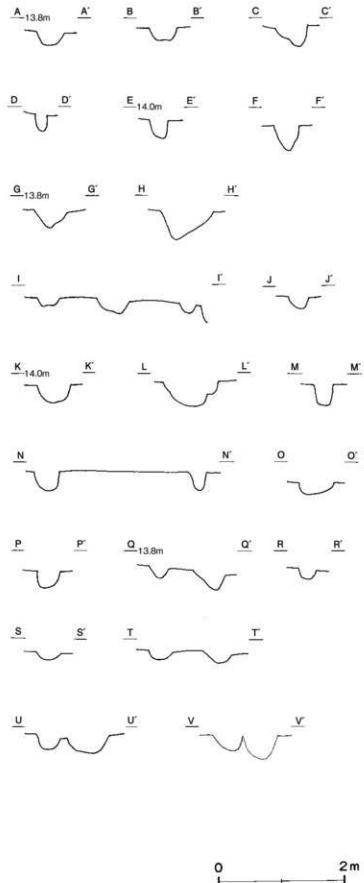
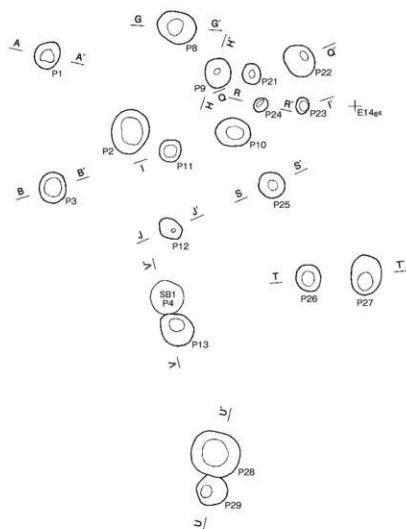
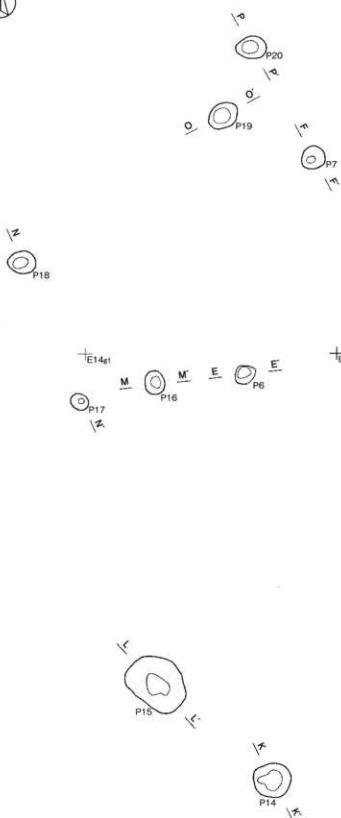
重複関係 第1号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模 平面形は長径26～100cmの円形または楕円形で、深さが12～50cmである。

遺物出土状況 土師器片4点（坏1、甕類3）、須恵器片4点（坏1、甕類3）がP9・P15・P18・P22の覆土中から出土しているが、いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。

A



第177図 第6号ピット群実測図

第6号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	E14g2	楕円形	45	40	24	16	E14g1	楕円形	38	34	31
2	E14g3	円形	68	62	-	17	E13g0	楕円形	30	26	32
3	E14g2	円形	48	44	21	18	E13g0	楕円形	43	38	30
4	E14g2	楕円形	54	44	37	19	E14h1	楕円形	50	38	16
5	E14g2	楕円形	28	23	26	20	E14e1	楕円形	46	38	27
6	E14g1	円形	34	32	30	21	E14g3	円形	32	30	18
7	E14g3	円形	39	36	42	22	E14g3	楕円形	50	44	27
8	E14g3	楕円形	62	52	30	23	E14g3	楕円形	26	22	12
9	E14g3	円形	48	44	50	24	E14g3	楕円形	26	19	15
10	E14g3	楕円形	54	46	24	25	E14g3	円形	44	42	12
11	E14g3	円形	37	36	17	26	E14g3	楕円形	44	40	16
12	E14g3	楕円形	40	30	20	27	E14g1	楕円形	62	50	20
13	E14g3	楕円形	58	50	25	28	E14g3	円形	77	72	30
14	E14h1	楕円形	62	56	30	29	E14h3	円形	48	48	26
15	E14h1	楕円形	100	78	42						

第7号ピット群(第178・179図)

位置 調査区中央部の標高14m、E 13h8～F 14c1区にかけての東西16m、南北19mの範囲から、柱穴状のピット40か所を確認した。

重複関係 第2号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模 平面形は長径30～100cmの円形または楕円形で、深さが12～67cmである。

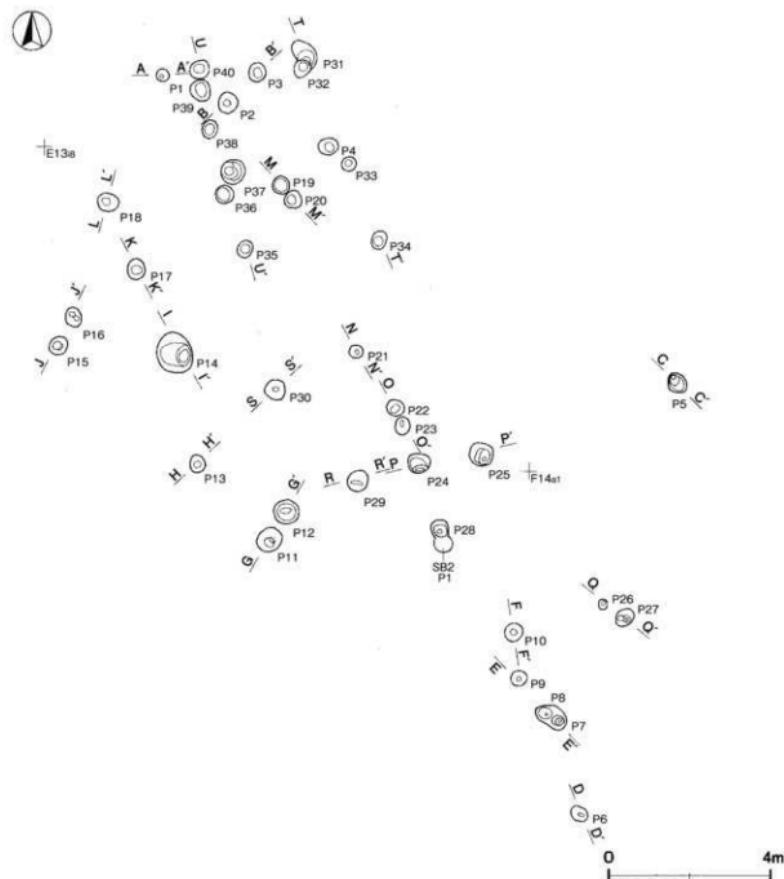
遺物出土状況 土師器片42点(环6、甕類36)、須恵器片1点(环)、鉄滓4点(18.0g)がP2・P3・P5・P6・P10・P12・P18・P20～P22・P24・P25・P28・P30・P33・P35・P37～P40の覆土中からそれぞれ出土しているが、いずれも繊片である。

所見 時期・性格ともに不明である。

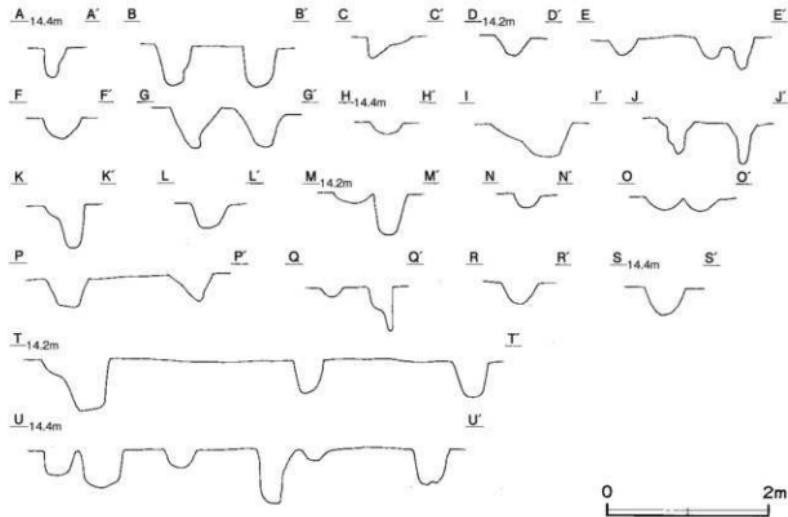
第7号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	E13g8	円形	30	28	35	14	E13g8	楕円形	100	86	42
2	E13g9	円形	50	48	51	15	E13g8	円形	46	44	42
3	E13g9	円形	46	42	46	16	E13g8	楕円形	44	38	50
4	E13g9	楕円形	48	42	30	17	E13g8	楕円形	50	40	52
5	E14g1	楕円形	56	46	25	18	E13g8	楕円形	52	46	32
6	F14c1	楕円形	45	34	25	19	E13g9	楕円形	47	40	12
7	F14g1	楕円形	48	(38)	42	20	E13g9	楕円形	44	40	53
8	F14g1	楕円形	44	(38)	28	21	E13g9	円形	33	32	14
9	F13g0	円形	49	38	20	22	E13g0	楕円形	44	40	15
10	F13g0	円形	47	45	26	23	E13g0	楕円形	46	38	14
11	F13g9	楕円形	64	56	50	24	E13g0	楕円形	58	48	38
12	F13g9	円形	64	60	40	25	E13g0	円形	60	58	34
13	E13g8	楕円形	43	38	18	26	F14a1	楕円形	28	24	13

番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
27	F14a1	楕円形	50	40	55	34	E13a0	楕円形	49	40	42
28	F13a0	楕円形	(50)	44	38	35	E13a9	楕円形	44	40	43
29	F13a9	円形	56	52	27	36	E13a9	円形	46	43	12
30	E13a9	円形	54	53	38	37	E13a9	円形	62	62	67
31	E13b9	楕円形	74	49	63	38	E13b9	楕円形	44	38	20
32	E13b9	楕円形	49	42	56	39	E13b8	楕円形	54	49	48
33	E13a9	円形	38	37	42	40	E13b8	楕円形	49	43	31



第178図 第7号ピット群実測図(1)



第179図 第7号ピット群実測図（2）

第8号ピット群（第180図）

位置 調査区中央部の標高14m, F 14a3～F 14c4区にかけての東西10m, 南北9mの範囲から, 柱穴状のピット14か所を確認した。

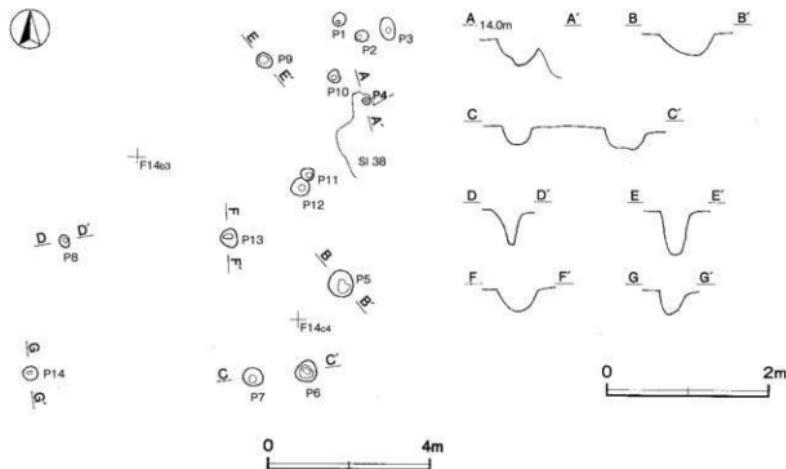
規模 平面形は長径18～68cmの円形または楕円形で, 深さが17～53cmである。

遺物出土状況 土師器片11点(坏4, 壺類7), 須恵器片2点(坏, 壺類), 鉄滓5点(33.1g)がP 4・P 9の覆土中から出土しているが, いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。

第8号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	F14a4	楕円形	38	34	26	8	F14b2	楕円形	30	24	42
2	F14a4	楕円形	38	30	17	9	F14a3	円形	38	38	53
3	F14a4	楕円形	58	38	18	10	F14a4	楕円形	35	30	18
4	F14a4	円形	18	18	30	11	F14b4	円形	33	30	20
5	F14b4	楕円形	68	60	24	12	F14b4	円形	48	44	18
6	F14c4	楕円形	54	47	26	13	F14b3	円形	46	42	28
7	F14c3	円形	46	44	24	14	F14c2	円形	32	32	32



第180図 第8号ピット群実測図

第9号ピット群（第181図）

位置 調査区中央部及び西部の標高13m、E 14f9～E 15h2区にかけての東西17m、南北10mの範囲から、柱穴状のピット17か所を確認した。

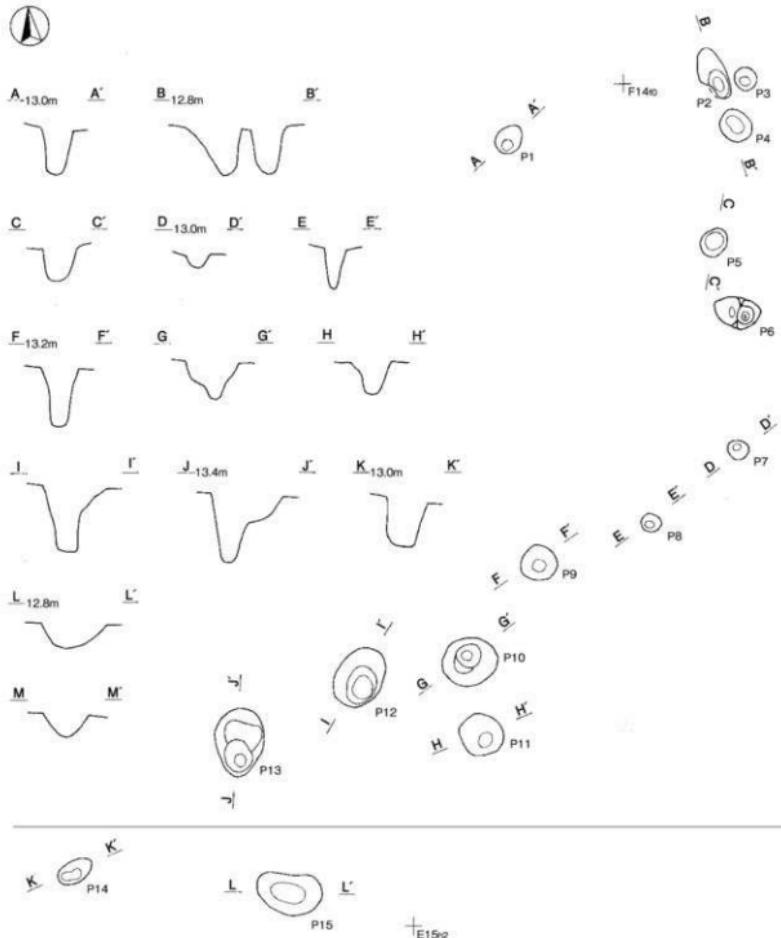
規模 平面形は長径25～87cmの円形または椭円形で、深さが20～89cmである。

遺物出土状況 土師器片11点（坏2、甕類9）、須恵器片3点（坏2、蓋1）、磁器片1点（碗）、鐵滓8点（90.2g）がP2・P11・P13～P15の覆土中から出土しているが、いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。

第9号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	E14g9	椭円形	38	32	56	10	E14g9	椭円形	70	62	49
2	E14h0	椭円形	68	32	62	11	E14g9	椭円形	55	30	42
3	E14h0	円形	28	27	45	12	E14g9	椭円形	77	57	82
4	E14h0	椭円形	44	37	60	13	E14h8	椭円形	87	62	89
5	E14h0	椭円形	40	33	40	14	E14g0	椭円形	48	28	60
6	E14h0	椭円形	58	38	-	15	E15g1	椭円形	82	50	34
7	E14g0	円形	28	26	20	16	E15h1	椭円形	64	54	30
8	E14g0	円形	25	22	56	17	E15h2	椭円形	47	42	39
9	E14g9	円形	46	45	75						



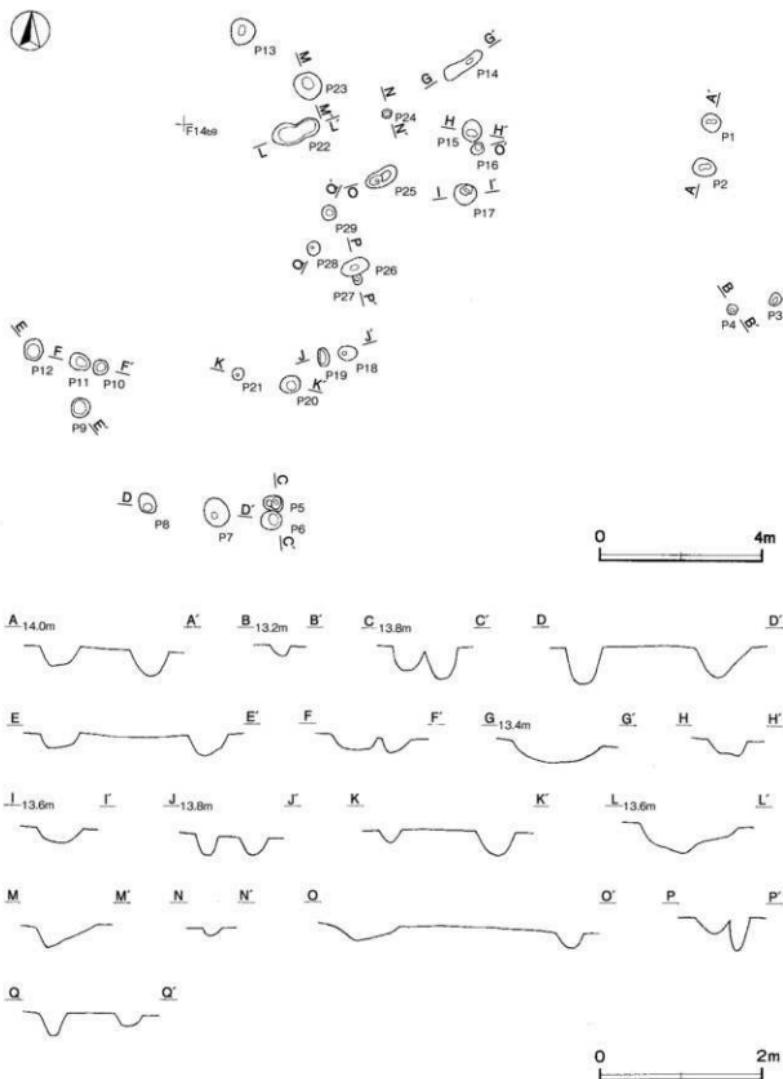
M P16 M
P17

0 2m

第181図 第9号ピット群実測図

第10号ピット群（第182図）

位置 調査区中央部及び西部の標高13m, F 14a9～F 14d9区にかけての東西18m, 南北12mの範囲から。



第182図 第10号ピット群実測図

柱穴状のビット 29か所を確認した。

規模 平面形は長径 24 ~ 118cm の円形または梢円形で、深さが 10 ~ 46cm である。

遺物出土状況 土師器片 29 点（坏 9, 壺類 20), 須恵器片 14 点（坏 10, 壺類 4), 刻片 1 点, 鉄滓 1 点 (38.4g) が P 1 ~ P 2, P 5 ~ P 9, P 11 ~ P 14 ~ P 17 の覆土中から出土しているが、いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。

第 10 号ビット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	F15e2	円形	48	44	33	16	F14b0	梢円形	36	26	20
2	F15b2	梢円形	52	47	24	17	F14b0	円形	56	54	20
3	F15c2	梢円形	34	26	46	18	F14c0	梢円形	46	36	22
4	F15c2	円形	28	28	12	19	F14c0	梢円形	43	27	26
5	F14d9	梢円形	46	36	30	20	F14c0	梢円形	52	42	30
6	F14d9	円形	52	48	40	21	F14c0	円形	32	30	16
7	F14d9	円形	72	66	36	22	F14b0	梢円形	118	38	34
8	F14d8	梢円形	54	42	44	23	F14c0	梢円形	72	63	28
9	F14c8	円形	52	50	25	24	F14a0	円形	24	22	10
10	F14c8	円形	39	37	16	25	F14b0	梢円形	85	40	18
11	F14c8	梢円形	53	42	18	26	F14b0	梢円形	70	42	18
12	F14c8	梢円形	54	48	18	27	F14b0	円形	24	22	40
13	F14a9	円形	68	64	26	28	F14b0	梢円形	36	30	28
14	F14a0	梢円形	106	32	26	29	F14b0	円形	36	36	16
15	F14b0	梢円形	56	48	20						

第 11 号ビット群（第 183 図）

位置 調査区西部の標高 11m, F 15d8 ~ F 15e8 区にかけての東西 2m, 南北 5m の範囲から、柱穴状のビット 7 か所を確認した。

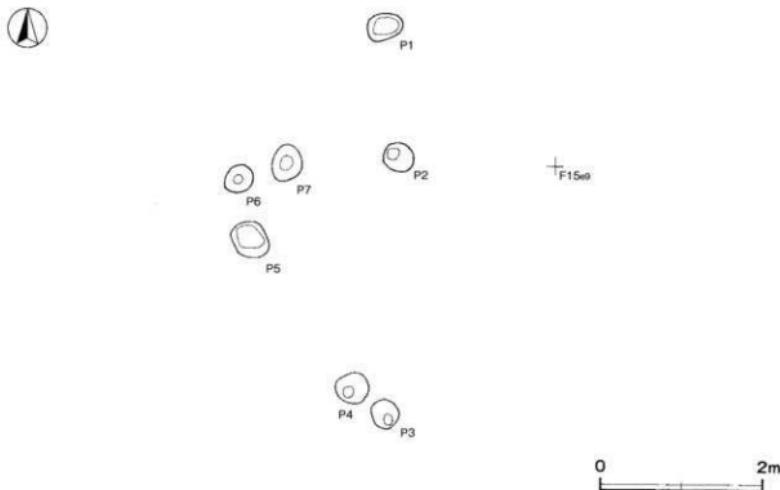
規模 平面形は長径 36 ~ 50cm の円形または梢円形で、深さが 18 ~ 51cm である。

遺物出土状況 土師器片 14 点（壺類）が P 1 ~ P 3 の覆土中から出土しているが、いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。

第 11 号ビット群計測表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	F15d8	梢円形	44	32	18	5	F15e8	梢円形	50	42	34
2	F15d8	梢円形	38	34	25	6	F15e8	円形	36	34	51
3	F15e8	梢円形	40	34	38	7	F15d8	梢円形	46	38	34
4	F15e8	円形	40	40	25						



第183図 第11号ピット群実測図

第12号ピット群（第184図）

位置 調査区中央部の標高11m, F 15b8 ~ G 15a0区にかけての東西7m, 南北13mの範囲から, 柱穴状のピット10か所を確認した。

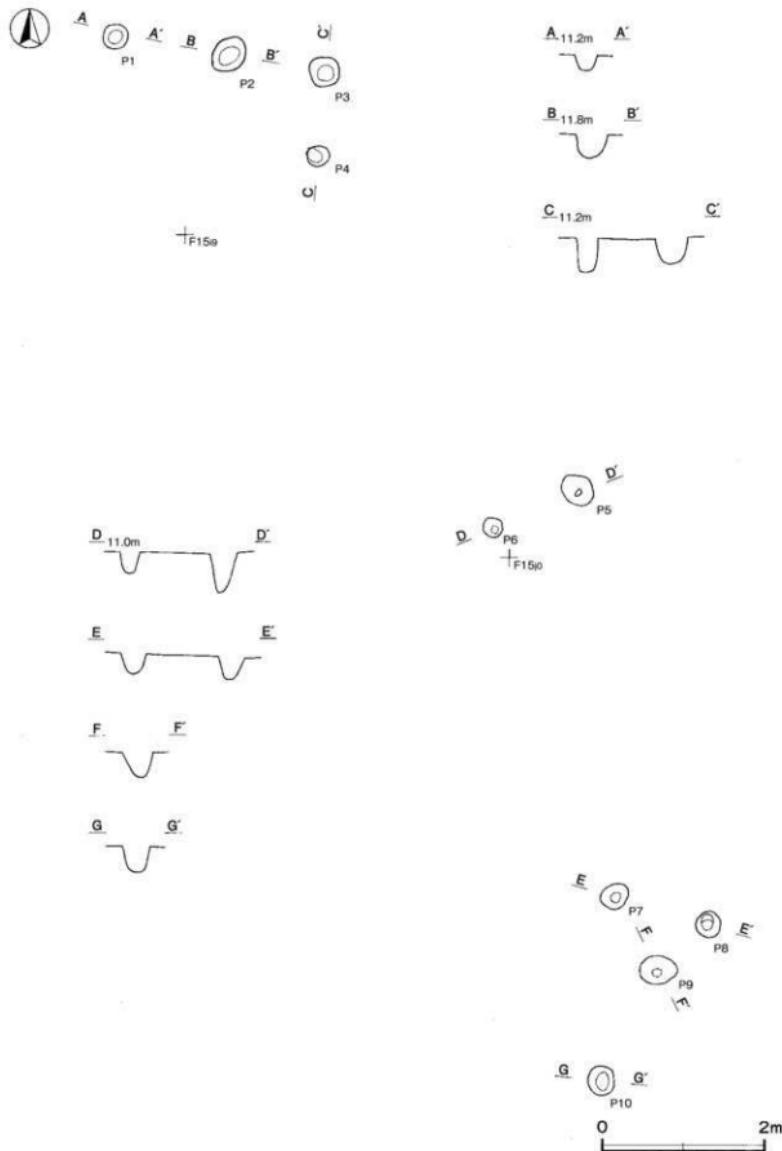
規模 平面形は長径28~50cmの円形または椭円形で, 深さが19~50cmである。

遺物出土状況 繩文土器片1点(深鉢), 土師器片6点(环2, 壺類4)が覆土中から出土しているが, いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。

第12号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	F15b8	椭円形	32	28	19	6	F15a9	椭円形	28	25	28
2	F15b9	円形	50	46	28	7	G15a0	椭円形	36	30	22
3	F15b9	円形	40	38	30	8	G15a0	椭円形	34	30	28
4	F15b9	円形	28	28	40	9	G15a0	椭円形	48	36	32
5	F15a0	椭円形	46	36	50	10	G15a0	椭円形	38	32	34



第184図 第12号ビット群実測図

第13号ピット群（第185図）

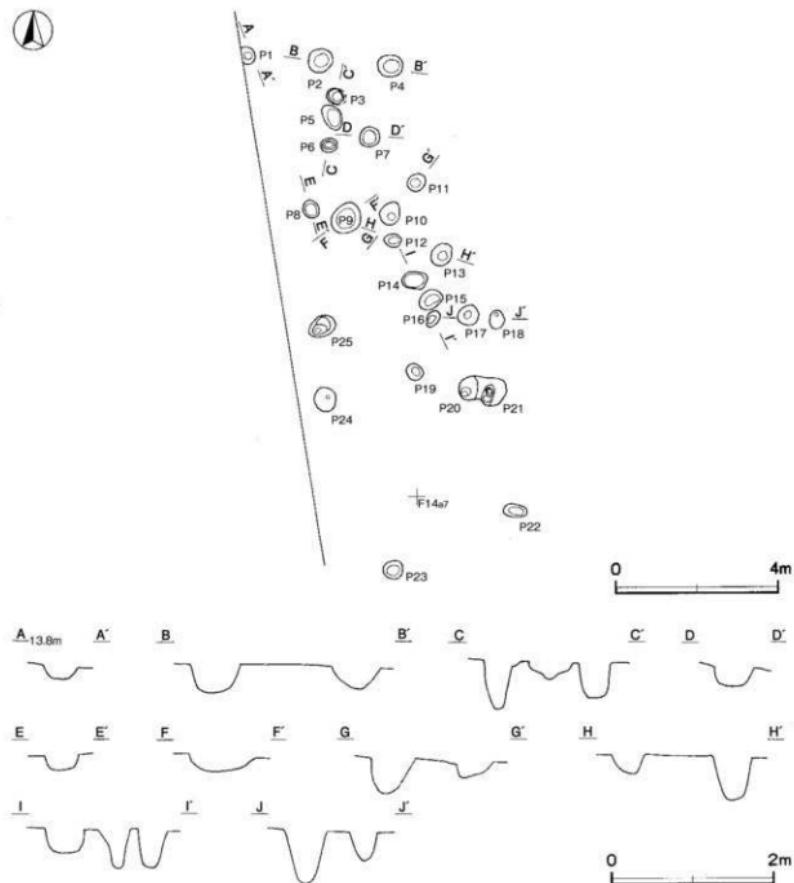
位置 調査区中央部の標高13m, E 14b5 ~ F 14a7区にかけての東西7m, 南北13mの範囲から, 柱穴状のピット25か所を確認した。

規模 平面形は長径42~84cmの円形または椭円形で, 深さが10~77cmである。

遺物出土状況 土師器片27点(坏7, 壺類20), 須恵器片3点(坏), 鉄製品1点(不明), 鉄滓32点(620.3g)

がP1・P3・P4・P7・P9・P13~P17の覆土中から出土しているが, いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。



第185図 第13号ピット群実測図

第13号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	E14b5	〔円形〕	46	(35)	17	14	E14b6	椭円形	59	41	34
2	E14b6	円形	65	60	36	15	E14b7	椭円形	62	47	52
3	E14b6	椭円形	63	57	30	16	E14b7	椭円形	46	30	50
4	E14b6	椭円形	45	37	47	17	E14b7	円形	55	51	67
5	E14b6	椭円形	67	47	24	18	E14b7	椭円形	47	33	36
6	E14b6	椭円形	42	34	63	19	E14b6	椭円形	43	38	47
7	E14b6	円形	52	50	26	20	E14b7	〔円形〕	60	(48)	69
8	E14b6	椭円形	43	38	20	21	E14b7	〔円形〕	71	(52)	77
9	E14b6	椭円形	84	70	18	22	F14a7	椭円形	57	33	10
10	E14b6	椭円形	60	47	50	23	F14a6	円形	48	44	14
11	E14b6	椭円形	47	42	23	24	E14b6	椭円形	61	52	31
12	E14b6	椭円形	42	32	25	25	E14b6	椭円形	65	51	51
13	E14b7	椭円形	60	47	54						

第14号ピット群(第186図)

位置 調査区西部の標高12m, F 15b3～F 15d5区にかけての東西8m, 南北8mの範囲から, 柱穴状のピット19か所を確認した。

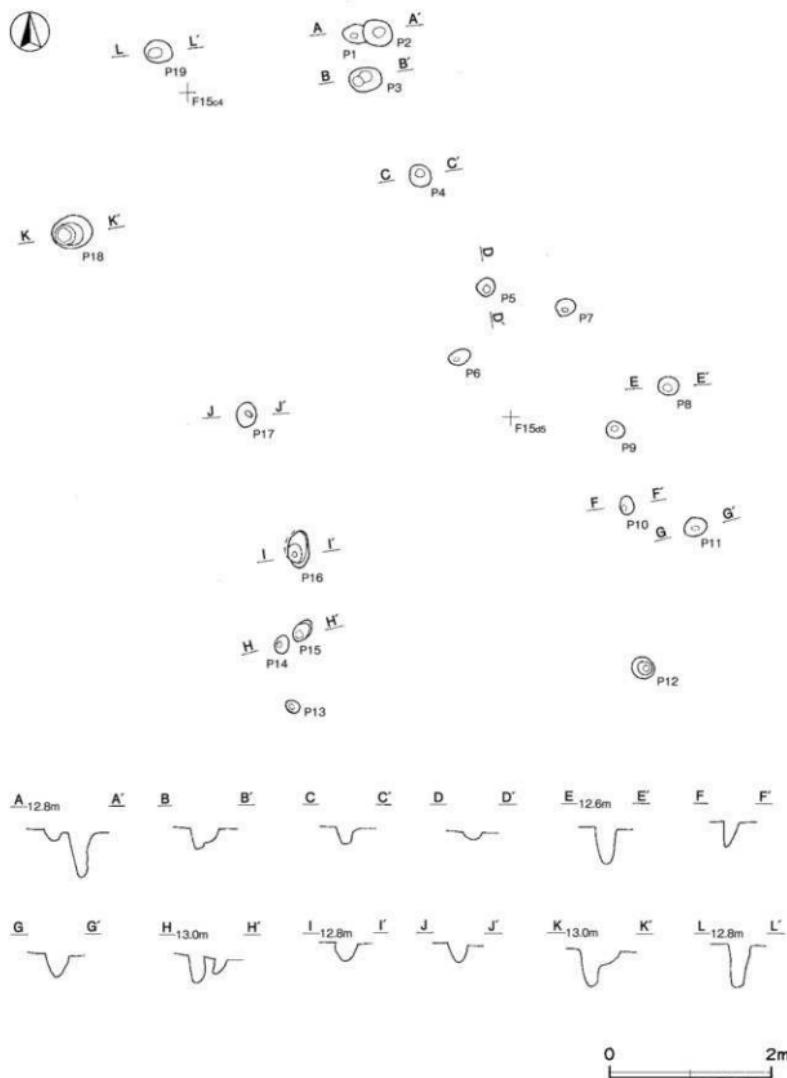
規模 平面形は長径18～50cmの円形または椭円形で, 深さが10～58cmである。

遺物出土状況 土器器片4点(甕類)が覆土中から出土しているが, いずれも細片である。

所見 時期・性格ともに不明である。

第14号ピット群計測表

番号	位置	形状	規模(cm)			番号	位置	形状	規模(cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	F15b4	〔円形〕	(27)	27	15	11	F15d5	椭円形	30	23	26
2	F15b4	円形	38	35	58	12	F15d5	円形	27	25	27
3	F15b4	椭円形	39	34	27	13	F15d4	椭円形	18	14	10
4	F15c4	円形	28	28	20	14	F15d4	椭円形	23	18	35
5	F15c4	円形	24	23	10	15	F15d4	椭円形	29	21	19
6	F15c4	円形	23	22	38	16	F15d4	椭円形	46	26	23
7	F15c5	円形	25	23	23	17	F15d4	椭円形	30	25	23
8	F15c5	円形	26	26	45	18	F15c3	椭円形	50	43	44
9	F15d5	円形	23	23	23	19	F15b3	円形	31	30	54
10	F15d5	椭円形	26	20	31						



第186図 第14号ピット群実測図

表13 その他のピット群一覧表

番号	位置	柱穴 (長さの単位はすべてcm)				主な出土遺物	時期	備考 重複関係 (古→新)
		柱穴数	平面形	長径	短径			
1	G10g ~ H10c7	3	円形・稍円形	(22) ~ 40	19 ~ (32)	37 ~ 60	土師器、須恵器	
2	D12e5 ~ D12e6	4	円形・稍円形	25 ~ 46	22 ~ 42	34 ~ 77	土師器、鉄滓	
3	E12d1 ~ E13b1	6	円形・稍円形	30 ~ 74	(22) ~ 66	32 ~ 58	土師器、陶器	
4	F15b6 ~ F15b6	7	円形・稍円形	34 ~ 50	24 ~ 46	30 ~ 80	土師器	
5	E13d9 ~ E13b4	10	円形・稍円形・ 不整形円形	32 ~ 60	26 ~ 56	29 ~ 68	土師器、鉄滓	
6	E14e1 ~ E14b3	29	円形・稍円形	26 ~ 100	19 ~ 78	12 ~ 50	土師器、須恵器	SB1
7	E13b8 ~ F14c1	40	円形・稍円形	30 ~ 100	28 ~ 86	12 ~ 67	土師器、須恵器、鉄滓	SB2
8	F13a3 ~ F14c4	14	円形・稍円形	18 ~ 68	18 ~ 60	17 ~ 53	土師器、須恵器、鉄滓	
9	E14b9 ~ E15b2	17	円形・稍円形	25 ~ 87	22 ~ 62	20 ~ 89	土師器、須恵器、磁器、 鉄滓	
10	F14a9 ~ F14b9	29	円形・稍円形	24 ~ 118	22 ~ 66	10 ~ 46	土師器、須恵器、西片、 鉄滓	
11	F15b8 ~ F15e8	7	円形・稍円形	36 ~ 50	32 ~ 42	18 ~ 51	土師器	
12	F15b8 ~ G15a9	10	円形・稍円形	28 ~ 50	25 ~ 46	19 ~ 50	陶土器、土師器	
13	E14b5 ~ F14a7	25	円形・稍円形	42 ~ 84	30 ~ 70	10 ~ 77	土師器、須恵器、鉄製品 鉄滓	
14	F15b3 ~ F15d5	19	円形・稍円形	18 ~ 50	14 ~ 43	10 ~ 58	土師器	

(7) 不明遺構

第1号不明遺構 (第187図)

位置 調査区南西部のF11g4区、標高15mの台地上に位置している。

規模と形状 西部が調査区域外へ延びており、南部が搅乱を受けているため、南北軸は2.18m、東西軸は0.32mしか確認できなかった。深さは17cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

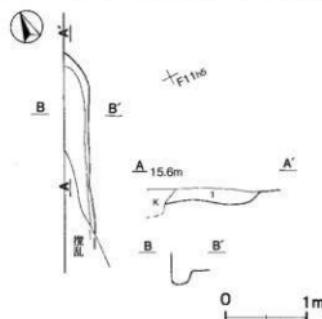
遺物出土状況 混入した鉄滓11点(58.5g)が出土している。

所見 遺構に伴う出土遺物がないため、時期は不明である。

住居跡の可能性もあるが、確認できたのはわずかな部分で、

時期を判断できる遺物も出土していないことから、性格は

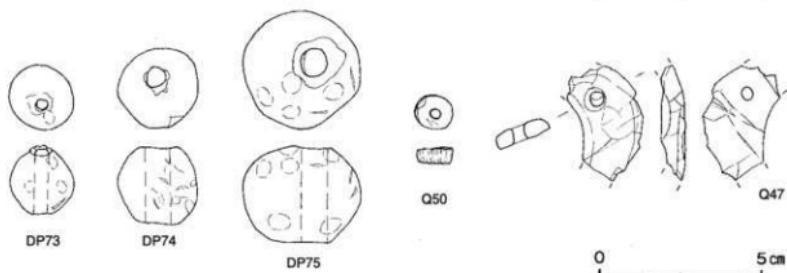
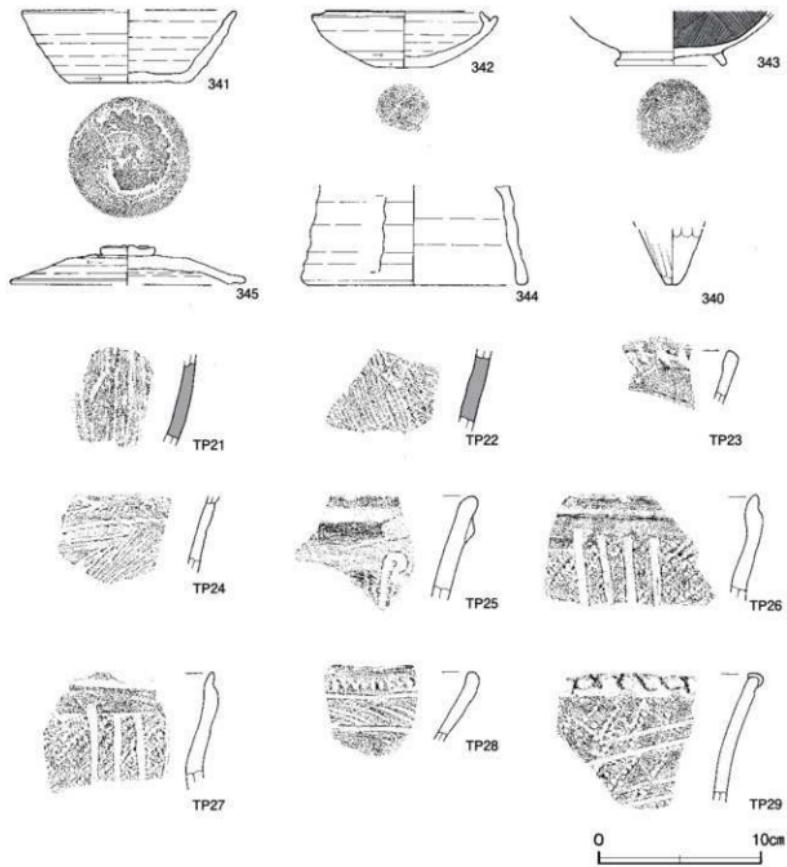
不明である。



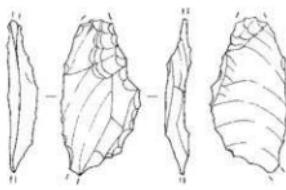
第187図 第1号不明遺構実測図

(8) 遺構外出土遺物 (第188 ~ 190図)

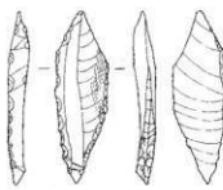
今回の調査で、出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



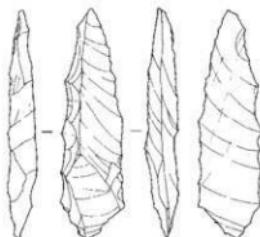
第188図 遺構外出土遺物実測図(1)



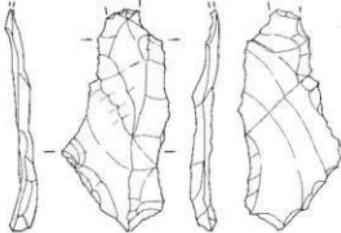
Q35



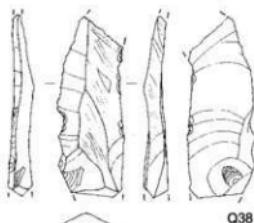
Q36



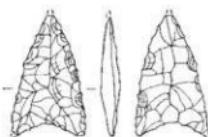
Q37



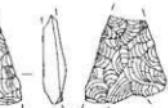
Q39



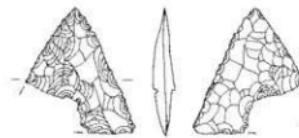
Q38



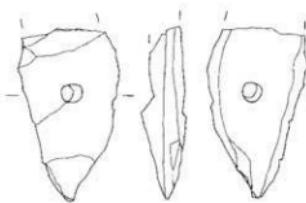
Q40



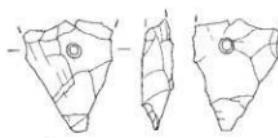
Q42



Q41



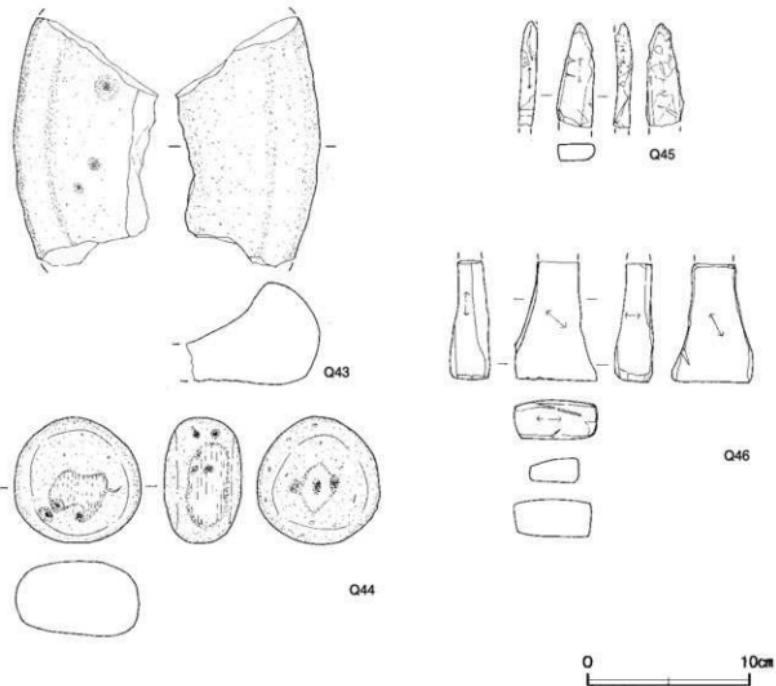
Q48



Q49



第189図 遺構外出土遺物実測図(2)



第190図 遺構外出土遺物実測図（3）

遺構外出土遺物観察表（第188～190図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 殊 は か	出土位置	備 考
340	圓文土器	深鉢	-	(35)	-	長石・石英・赤色鉢	にぶい黄	普通	先底部のみ残存 外面ヘラナデ	表土	5%
341	須恵器	环	[130]	45	72	長石・石英・透母	暗灰青	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り痕を残すツケ	表土	60%
342	須恵器	环	94	35	34	長石・石英	灰	普通	体部下端・底部回転ヘラ削り	表土	80% PL40
343	土器	高台付鉢	-	(33)	67	長石・石英・透母	雅	普通	体部外縁ロクロナデ 内面多方向のヘラ磨き	表土	50%
344	須恵器	盤	-	(61)	[126]	長石・石英	暗灰	普通	ロクロナデ 脚部に透かし孔	表土	5%
345	須恵器	盞	[144]	24	-	長石・石英・透母	灰白	普通	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け	表土	50% PL40

番号	種別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 殊 は か	出土位置	備 考
TP21	圓文土器	深鉢	長石・石英・織維	明褐	外面柔痕文	表土	
TP22	圓文土器	深鉢	長石・石英・織維	褐	外面柔痕文	表土	
TP23	圓文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	口縁部キザミ目	表土	
TP24	圓文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	口縁部横位の爪形文 手綱竹管による斜行沈線	表土	
TP25	圓文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	口縁部陰削 脚部純文を地文とし、撇手状文施文	表土	
TP26	圓文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	脚部単面純文LRを地文とし、4条の平行沈線が垂下	表土	
TP27	圓文土器	深鉢	長石・石英	褐	脚部単面純文LRを地文とし、4条の平行沈線が垂下	表土	

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP28	圓文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐色	口縁部縦位のキザミ目 2条の平行沈線、間に斜行沈線	表土	
TP29	圓文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	黒褐色 にぶい褐色	口縁部縦状文 縦部單面縦文LRを地文とし、斜行沈線	表土	

番号	器 標	径	厚さ	孔径	重量	胎 土	特 徴	出土位置	備 考
DP73	土玉	20	21	0.4	6.7	長石・石英	ナデ 指頭圧痕 一方からの方孔	表土	PL41
DP74	土玉	24	24	0.6	12.6	長石・石英	ナデ 工具痕 一方からの方孔	表土	PL41
DP75	土玉	36	30	0.8	37.6	長石・石英	ナデ 工具痕 指頭圧痕 一方からの方孔	表土	PL41

番号	器 標	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q_35	+イフ石器	(32)	17	0.5	(24)	黒曜石	縦長洞片を素材とし、一側縁に調整を施す 端部欠損	SE63	PL44
Q_36	+イフ石器	35	11	0.5	14	黒曜石	縦長洞片を素材とし、一側縁ともう一方の側縁の下半部に調整を施す	表土	PL44
Q_37	+イフ石器	47	14	0.6	32	黒曜石	縦長洞片を素材とし、一側縁に調整を施す	SI41	PL44
Q_38	洞片	(38)	14	0.5	(19)	黒曜石	縦長洞片 背面は同一方向からの剥離 端部欠損	SE63	PL44
Q_39	洞片	(46)	23	0.6	(34)	硬質貝殻	縦長洞片 背面は同一方向からの剥離 一部欠損	表土	PL44
Q_40	鐵	(25)	15	0.4	(10)	チャート	両面剥離調整	SE2	PL44
Q_41	鐵	(26)	(22)	0.5	(14)	チャート	両面剥離調整 一部欠損	SE56	PL44
Q_42	鐵	(18)	(16)	0.5	(12)	黒曜石	両面剥離調整 一部欠損	表土	PL44
Q_43	石皿	(15.4)	(9.0)	66	(1037)	凝灰岩	上面摩耗による皿状の凹み 底面凹板3か所	SI9	PL44
Q_44	磨石	78	77	4.6	469	花崗岩	全面研磨痕 上面・底面・側面に敲打痕	SI49	PL44
Q_45	砥石	(6.5)	23	1.1	(21.4)	凝灰岩	一部欠損 砥面4面 刃物痕	表土	PL44
Q_46	砥石	(73)	51	2.4	(862)	砂岩	一部欠損 砥面5面	表土	PL44
Q_47	勾玉#	(36)	(24)	0.7	(5.2)	滑石	一部欠損 両面研磨 矢状に屈曲 0.3cmの穿孔	SE33	PL45
Q_48	劍形#	(26)	21	1.0	(4.9)	滑石	一部欠損 両面研磨 0.4cmの穿孔	SE33	PL45
Q_49	劍形#	(23)	18	0.7	(2.0)	滑石	一部欠損 両面研磨 0.3cmの穿孔	SE33	PL45

番号	器 標	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q_50	臼玉	11	0.5	0.3	0.8	滑石	円筒状 両面研磨 一方からの方孔	SE33	PL45

第4節 ま　と　め

1 はじめに

今回の調査では、縄文時代の土坑2基、古墳時代の竪穴住居跡33軒、土坑2基、奈良時代の竪穴住居跡27軒、土坑4基、平安時代の竪穴住居跡4軒を確認した。その他、時期不明の掘立柱建物跡2棟、溝跡14条、炉跡2基、井戸跡3基、土坑95基、ピット群14か所、不明遺構1基を確認した。遺物は、各遺構から土師器・須恵器とともに、土製品、石製品、鉄製品、製鉄・鍛冶関連遺物等が出土している。このことから、台地上から台地縁辺部にいたる今回の調査区内では、縄文時代に人々の生活の営みが始まり、古墳時代から集落が形成され、平安時代まで断続的に営まれていることが明らかになった。

当節では、縄文時代から平安時代にいたる各時代の遺構や出土遺物から、集落の変遷を概観していくこととする。また、奈良時代後葉の第47号住居跡から多量に出土している製鉄関連遺物を中心とし、調査区内から出土している鉄滓等を含めて、奈良・平安時代に本跡で行われていたとみられる製鉄について、若干の考察を加えてまとめとしたい。

当遺跡の遺構の時期については、当財団『研究ノート』及び報告書に掲載された県南地域における土器編年研究¹⁾を参考にするとともに、坂東市を中心とした地域の発掘調査報告書及び当財団の報告書²⁾を踏まえながら検討を行った。

2 古墳時代の土師器について

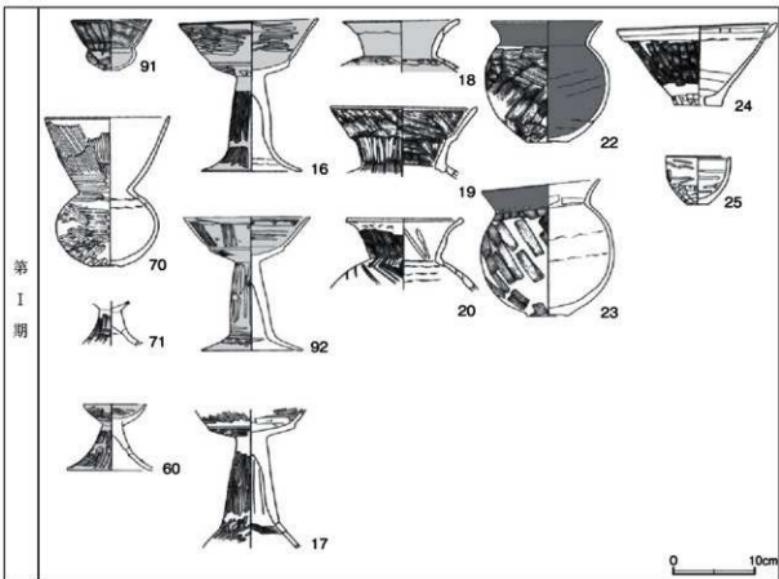
当時代の出土土器は、一部須恵器も出土しているが、大半を占めるのが土師器である。33軒の住居跡は、出土土器から判断して、古墳時代前期後葉から後期後葉まで間断なく存在している。ここでは、それらを第I～IV期（第I期＝4世紀後葉、第II期＝5世紀末～6世紀初頭、第III期＝6世紀、第IV期＝7世紀）に大別して、器種ごとに各期の特徴が現れたものを取り上げて、その変遷を捉えてみることとする。

(1) 第I期（第191図）

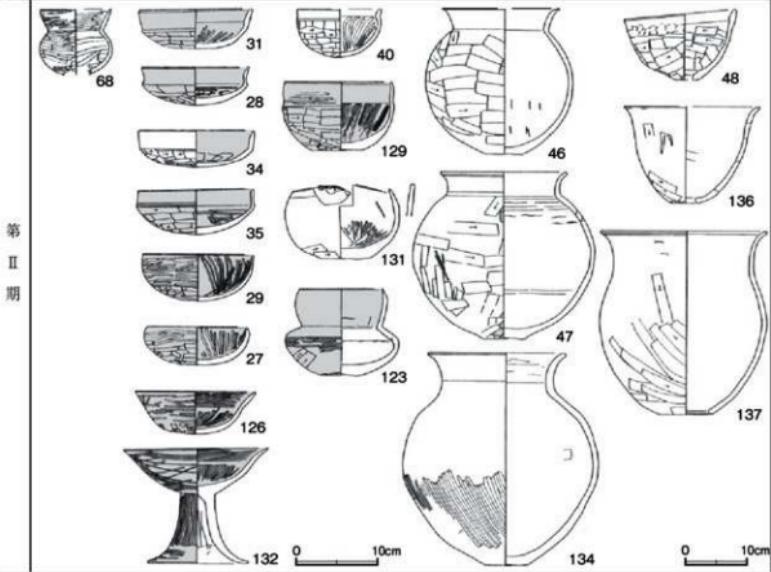
当期の出土土器の器種は、壺・器台・高坏・壺・壺・瓶・ミニチュア土器・手捏土器である。

壺（70・91）は、小形のものは体部がそろばん玉形を呈し、底部は平底であり、外・内面にはハケ目調整が成されている。大形のものは、体部が球形を呈し、底部は平底であり、外面には精緻なヘラ磨きが施されている。器台（60・71）は、外面にヘラ磨きが施され、裾部に3か所穿孔されているものとハケ目調整が施されているものがある。高坏（16・17・92）は、坏底部に明確な稜を持ち、口縁部は大きく外傾している。脚部はエンタシス状の膨らみを持ち、精緻なヘラ磨きが施されている。裾部に3か所穿孔されているものもある。16・92は赤彩されている。壺（18・19・20）は、折り返し口縁、有段口縁、單口縁のものがある。体部は遺存していないが、球形と推定できる。外面にはハケ目調整後、ナデやヘラナデが施されている。壺（22・23）は、口縁がぐくの字状で、体部は球形を呈しており、底部は平底である。外面には、ハケ目調整が施されている。壺（24）は、折り返し口縁で、体部は鉢形を呈している。外面にはハケ目調整、下端にはヘラ削りが施されている。底部の中央が穿孔されている。ミニチュア土器（25）は、鉢形で、外・内面にはナデとヘラ磨き、下端にはヘラ削りが施されている。第I期は五領式から和泉式への過渡期にあたる土器群と考えられる。

(2) 第II期（第191図）



0 10cm



0 10cm

第191図 宮内遺跡古墳時代第Ⅰ・Ⅱ期出土土器

■赤彩 ■煤

当期の出土土器の器種は、壺・坏・碗・高坏・短頭壺・甕である。第Ⅰ期に存在した器台・ミニニア土器・手捏土器は確認できず、壺の出土量もわずかである。坏・碗・短頭壺が新たに出土している。

壺（68）は出土量がほとんどなくなり、形状は体部がやや扁平な球形を呈し、括れは浅く、口縁部は第Ⅰ期より短くなっている。坏（27・28・29・31・34・35・126）は今期から出土するようになり、豊富な形状を持っている。須恵器坏蓋模倣で、口縁部と体部の境目に明確な棱を持つものは、口縁部が外傾して立ち上がるもの、やや外反して立ち上がるもの、直立するもの、やや内傾するものがある。また、口縁部と体部の境目に明瞭な棱がみられない碗状のものは、口縁がまっすぐに立ち上がるものや内傾しているもの、大きく外反するものがある。体部外面にはヘラ削り、内面にはヘラ磨きが施されており、外・内面とも赤彩されているものが大半を占めている。碗状のものは、外面上位及び内面にはヘラ磨きが施されており、外・内面とも赤彩されている。碗（40・129・131）も今期から出土するようになり、口径が10cm強と小形で口縁がやや外傾するもの、口縁が直立するもの、口縁に片口を有する特殊な器形のものなどが出土している。外面にはヘラ削り、内面にはヘラ磨きまたはヘラナデが施されている。高坏（132）は、第Ⅰ期よりも器高が低く、肉厚である。坏部の深さは浅く、脚部は裾部にかけてラッパ状に開いている。外面には精緻な磨きが施され、赤彩されている。短頭壺（123）の出土は1例のみで、口径と器高はほぼ10cmである。体部はそろばん玉状に膨らみ、口縁部より張り出している。括れた頭部から口縁が外傾して立ち上がるが、上端はやや内傾している。壺の派生種と考えられる。甕（46・47・134）は、第Ⅰ期よりも大形化している。体部は球形をしたものとやや長胴化したものがある。口縁部は、くの字に開いたものとや頭部の伸びたものがある。底部はやや突出しているものもある。甕（48・136・137）は、基本的には鉢形を呈しているが、第Ⅰ期よりも体部が緩やかに弯曲している。口縁がやや外反するものや、大形で甕形を呈するものも出土している。第Ⅱ期の土器群は鬼高式初期に当たると考えられる。

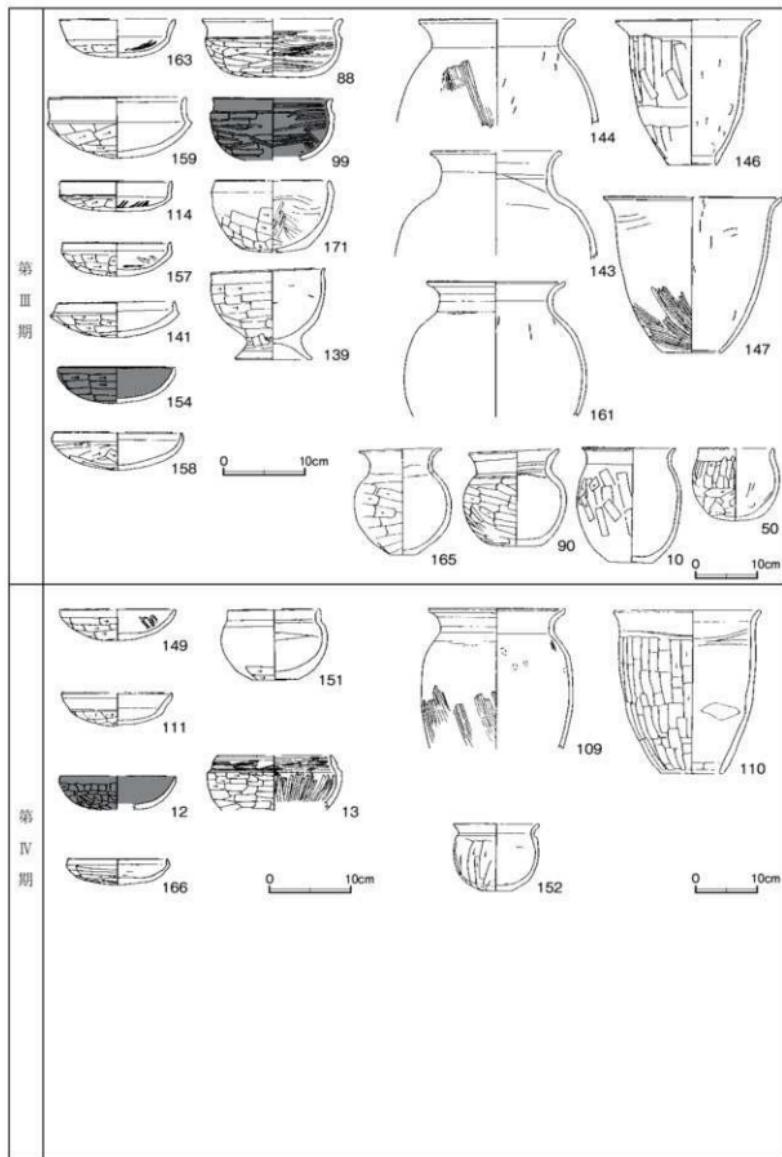
(3) 第Ⅲ期（第192図）

当期の出土土器の器種は、坏・碗・台付碗・甕・小形甕・瓶である。器種が減り日常使用する供膳具が主体である。

坏（114・141・154・157・158・159・163）は、全体的に第Ⅱ期のものより口径が大きくなる傾向がみられる。器高は低くなり、扁平になる傾向が認められる。第Ⅱ期にみられたような、碗状で外・内面にヘラ磨きが施されており、大きく外反して立ち上がるものは姿を消している。赤彩されたものはわずかとなり、黒色処理を施されたものが出土している。碗（88・99・139・171）は、第Ⅱ期のものより全体に大形化する傾向が認められる。口縁部には横ナデ、体部には削りが施されている。外・内面には黒色処理がされているものもある。台付のものが1点出土している。甕（143・144・161）は、第Ⅱ期と同様に括れは緩やかであるが、口縁部がくの字に開いたものとや頭部の伸びたものがある。また、この時期から口縁部がつまみ上げられた常総形がみられるようになる。体部は長胴化が進み、外面にはヘラ削りだけではなく、ヘラ磨きが施されているものもみられる。小形甕（10・50・90・165）も出土するようになり、体部が球形を呈して底部がやや突出するもの、括れが弱く体部が卵形のもの、口縁部が開かず深い碗形のもの等が出土している。瓶（146・147）は、口縁部がくの字に開くもの、体部と口縁部との境に括れをあまり持たず、体部からそのままわずかに外反して立ち上がり、下半にヘラ磨きが施されているものが出土している。第Ⅲ期の土器群は鬼高式である。

(4) 第Ⅳ期（第192図）

当期の出土土器の器種は、坏・碗・甕・小形甕・瓶である。第Ⅲ期に引き続き、供膳具が主体である。



第192図 宮内遺跡古墳時代第Ⅲ・Ⅳ期出土土器

黑色處理

住居数が減っていることから、土器の出土量も少なくなっている。

坏（12・111・149・166）は、小形化する傾向が見られ、黒色処理されたものもある。第Ⅱ期のころ明確であった稜が曖昧になり、胎土や調整も粗雑になっている。碗（13・151）は、第Ⅲ期よりもやや小形化し、器高に比べて口径が小さく、半球状になる。甕（109）は、より長胴化が進み、口縁部のつまみ上げが強く、明瞭になっている。体部のヘラ磨きは、中位以下に施されている。小形甕（152）は、出土例が少なく良好な資料は少なかったが、頭部の括れがありなく、口縁部は小さく外反している。体部は椀のような形状となる。瓶（110）は、体部外面は直線的で、口縁部はわずかに外反している。外面には縱位のヘラ削りが施されている。第Ⅳ期の土器群は鬼高式の終末期に当たると考える。

以上、当遺跡の古墳時代の住居跡から出土した土師器をⅠ～Ⅳ期に分けて、各期における器種の構成や技法をもとに変遷を追ってみた。多くの事例を基にした研究により、編年が確立している県南地域における変遷とはほぼ合致していることが確認できた。今後は、細部に目を向け、更なる近隣の調査研究の蓄積を基に、当遺跡の属する下総国内や近隣諸国からの影響等も考慮した土器編年研究が必要になるであろう。

3 各時代の様相

(1) 繩文時代

当時代の遺構は、第85・87号土坑の2基である。第87号土坑では、覆土上層から後期前葉の堀之内I式期の土器が出土した。そのほか、調査区東端の低地に向かう緩やかな斜面部では、表土や後世の遺構の覆土に混入あるいは流れ込んだ繩文土器片が確認できた。それらは、早期から後期にかけての条痕文系土器、浮島式土器、堀之内I式土器、加曾利B式土器である。土器の出土量は少ないが、石鎌・石皿・磨石等の石器類も出土していることから、近くに集落が形成されていた可能性が考えられる。

(2) 古墳時代（第193図）

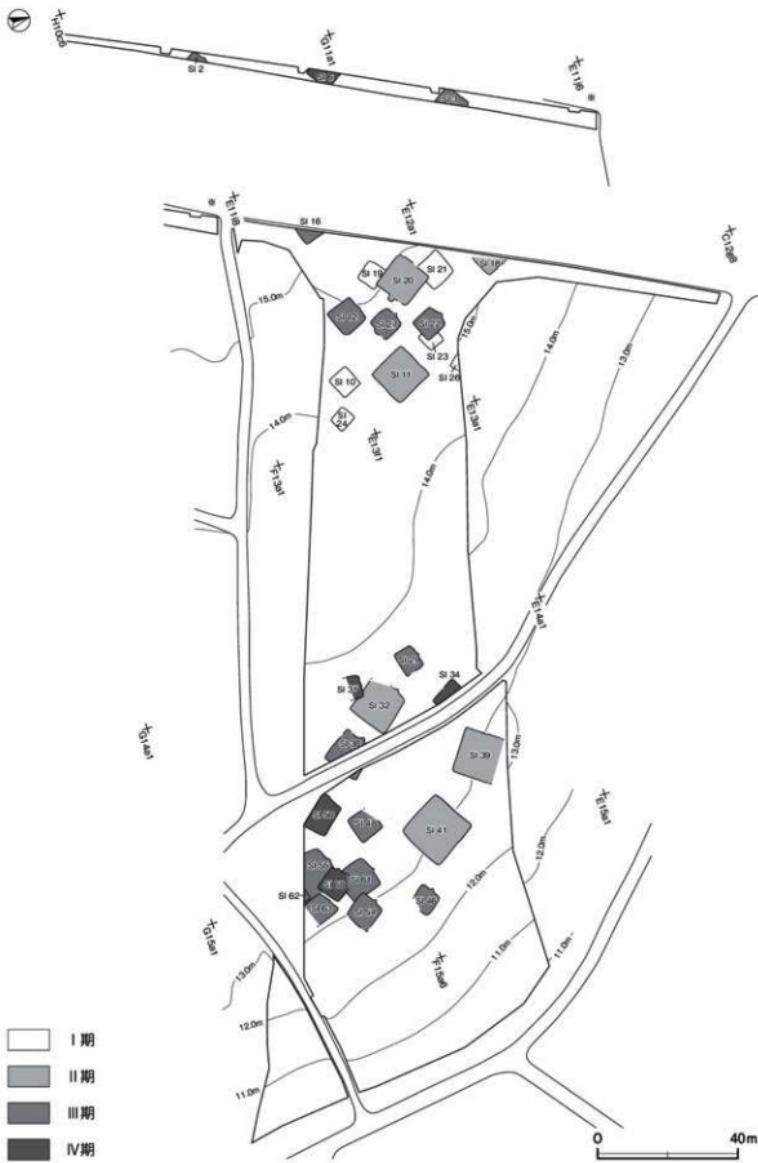
当時代の遺構は確認された数が最も多く、堅穴住居跡33軒、土坑2基である。前期後葉に調査区西部の最も標高の高い台地上の平坦部に集落が形成され始め、後期には住居跡の増加とともに、集落が台地の縁辺部に移行していく傾向が見られる。ここでは、古墳時代の各期の特徴ある住居跡の様相及び集落の変遷について述べることにする。第25号住居跡は出土土器から5世紀前葉に比定され、第Ⅰ～Ⅳ期のいずれにも属さないため、考察から除外することとした。また、今回の調査区域内から5世紀中葉の住居跡は確認できなかった。

① 第Ⅰ期

当期では、住居跡6軒（第10・19・21・23・24・26号住居跡）が該当する。住居跡は、調査区西部の標高15mほどの最も標高の高い台地上の平坦部に集中して分布し、小集団を形成している。当期が古墳時代における集落形成の黎明期とみられる。主軸方向は、第21号住居跡以外はN=17°～33°～Wとやや西に振れているが、ほぼ揃っている。規模は、一辺が約3.5～5.5mの方形である。注目できるのは、焼失住居の第10号住居跡である。遺物は中央部の床面から集中して出土している。特に土師器の壺はすべて口縁部のみが残存し、床面に伏せられた状態であったことから、住居廃絶に伴う祭祀が行われた可能性が考えられる。第21・24号住居跡は、壁下を一段下げて帯状に掘り込み、埋土して平坦な床面を構築しているのが特徴である。

② 第Ⅱ期

当期では、住居跡6軒（第11・18・20・32・39・41号住居跡）が該当する。住居跡の規模が最も大



第193図 宮内遺跡古墳時代集落変遷図

形化する時期である。規模は一辺が74～96mの方形である。西部の最も標高の高い台地上の平坦部に3軒と、中央の平坦部から東側の緩やかな斜面部にかけての3軒と、2グループに分かれている。主軸方向はN-18°～55°-Wであり、多少のばらつきはあるが、ほぼ北西方向を指している。後期初頭の竈の導入期に当たり、第32・39号住居跡では炉と竈との両方が確認されている。各住居跡とも竈の袖部の形状に特徴があり、壁に直交し平行に構築されている。煙道部は壁外への突出が少ない。第11・39・41号住居跡は、煙道部が壁内に収まっている。貯蔵穴の位置は、第11・18・32号住居跡が、出入り口の東側または南東コーナー部に位置しているのに対して、第39号住居跡は南西コーナー部、第41号住居跡は竈の東側に位置している。第20号住居跡では南側の出入り口付近の壁外に突出して構築されているのが特徴である。

③ 第Ⅲ期

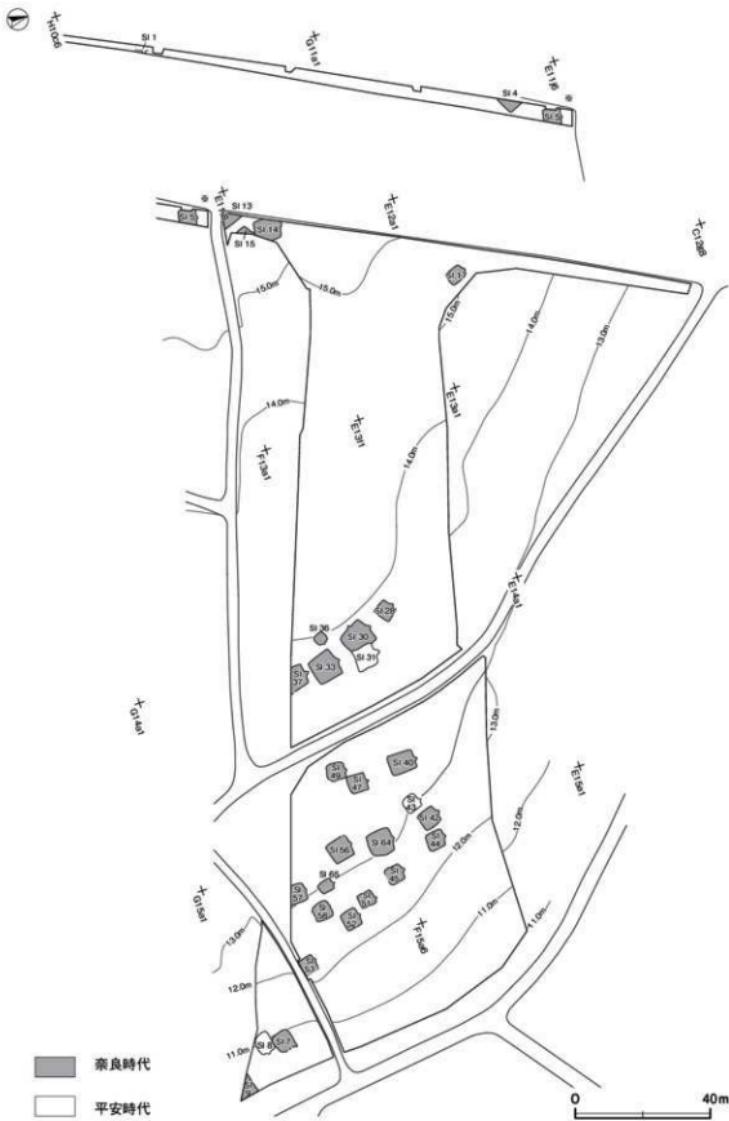
当期では、住居跡15軒（第2・3・12・16・22・27・29・38・46・48・54・55・61～63号住居跡）が該当する。住居跡は、古墳時代の中で最も軒数が多い。主軸方向はN-15°～37°-Wと、ばらつきはほとんどなくなり、真北を指すようになっている。規模は、一辺が3.5～7.5mで、平面形は方形（隅丸方形）あるいは長方形（隅丸長方形）である。第Ⅱ期の住居跡群と比較すると、軒数は増加しているが、規模は小さくなっている。注目できる住居跡としては、間仕切り溝を4条もつ第12・54号住居跡、3条もつ第55号住居跡、2条もつ第38・48号住居跡があげられる。これは1軒あたりの居住員增加、生活習慣や様式の変化があった可能性が考えられる。また、出入り口側の南壁に張り出しをもつ第27号住居跡があげられる。張り出し部分の正面に出入り口施設に伴うピットが配置されているので、住居に出入りする際の階段状の施設が設置されていた可能性が考えられる。第Ⅱ期の第20号住居跡でも貯蔵穴を伴う張り出しが確認されている。貯蔵穴を伴う張り出しを持つ住居跡は、本県域ではつくば市平北田遺跡、同市鳥名熊の山遺跡、稲敷市堂ノ上遺跡等に類例がみられる。本跡第27号住居跡のような形態は、平北田遺跡第8号住居跡にみられる。出入り口を壁外へ突出させ、貯蔵穴や階段状の施設を併せて構築することにより、生活空間を有効に活用した可能性が考えられる。

④ 第Ⅳ期

当期では、住居跡5軒（第6・34・35・50・60号住居跡）が該当する。住居跡は、軒数がⅢ期から激減している。第6号住居跡を除いて、中央部から西部にかけての台地上から低地に向かう緩やかな斜面部にまとまって所在している。主軸方向は、N-40°-W～N-3°-Eとばらつきが大きくなっている。住居跡の規模は第Ⅲ期とさほど変わらない。集落の中心が調査区域外に移り、集落の外れに所在する住居跡が確認されたものと思われる。

(3) 奈良時代（第194図）

当時代では、住居跡27軒（第4・5・7・9・13～15・17・28・30・33・36・37・40・42・44・45・47・49・51～53・56～58・64・65号住居跡）が該当する。古墳時代の第Ⅳ期で大きく減少した住居の軒数が再び増加している。西部の台地上の平坦部に5軒、中央部から東部にかけての台地上と、その台地から低地に向かう緩やかな斜面部にかけて22軒が所在している。標高12～14mの間に最も集中しており、調査区域の南側に更に集落が広がっていく様相を呈している。第7号住居跡は北東コーナー竈で、第36号住居跡は東竈である。この2軒以外は、主軸方向がほぼN-30°-W～N-30°-Eの範囲内に收まり、北を指している。規模は、一辺が4m前後の方形（隅丸方形）または長方形（隅丸長方形）であり、古墳時代の住居跡より小さくなっている。8世紀代は律令制による国の中央集権体制が確立し、地方にも



第194図 宮内遺跡奈良・平安時代集落変遷図

浸透していく時期である。概には論じられないが、住居跡の小規模化は、当時の厳しい税制が当地域の人々の生活に大きな影響を及ぼしたことによるものと推測できるのではないかだろうか。注目できるのは、第33号住居跡である。時期は出土土器から8世紀後葉と考えられ、長軸5.85m、短軸5.24mの長方形で当時代の住居跡の中で最大規模を持っている。竈の両側に上面の面積が約0.7m²の棚状施設が設けられている。これは、竈の周りで使用する煮炊き具や供膳具等を置く施設ではないかと思われる。第47号住居跡からは、製鉄関連遺物である炉壁・炉底塊・炉内滓・炉内滓含鉄・鉄塊系遺物が約93kg出土している。その他、5軒からもそれぞれ1kgを超える鉄滓が出土していることから、調査区域外の何処かに製鉄炉が築かれていたものと推定できる。また、少量であるが鍛冶関連遺物が出土している住居跡も存在することから、集落内において鍛冶も行われていたとみられる。

(4) 平安時代（第194図）

当時代では、住居跡4軒（第1・8・31・43号住居跡）が該当する。住居跡の軒数は奈良時代に比べて激減している。これらは、調査区域の南西部の外れに1軒と中央部に1軒、西部の緩斜面部に1軒と南東部外れの最も低い所に1軒と点在している。主軸方向は、第1号住居跡は不明であるが、第8号住居跡はN=81°-Eで東竈である。第31号住居跡はN=5°-Wで、第43号住居跡はN=11°-Wとわずかに西側に振れているが、ともには真北を指している。4軒は点在しているので、集落が過疎化したと思われる。急激な人口減少の理由として考えられるのは、何らかの理由で移住を強いたれたか、または疾病や災害、戦乱等で人命が失われたこと等である。しかし、それはあくまで推測の域を出ない。製鉄滓が出土していることから、製鉄は継続して行われていたと思われる。

以上、時代別・時期別に集落の変遷について述べてきた。今回の調査区域内で最も西側の低地に近い斜面部からは、縄文時代の土坑及び土器や石器が出土していることから、当時の集落の縁辺部に当たるとみられる。西側の最も標高の高い台地上からは、古墳時代前期後葉の集落跡が確認された。住居跡の軒数は4軒と少ないが、調査区域の南西側に標高15mほどの台地が続いているため、集落が広がっていたことが予想される。古墳時代後期にかけて集落は、台地上から東側の低地に向かう斜面部へと規模を拡大していく。特に6世紀代の住居跡の軒数が15軒と最も多く、調査区域の西側にも広がっている様相を呈している。7世紀には住居跡が5軒と一度減少する。これは、集落の中心が調査区域外に移ったためとみられる。8世紀に入ると住居跡が再び増加し、8世紀後葉には10軒と大幅に増加している。この時期に鉄滓の出土量も急増していることから、製鉄工人たちが集落を形成していたとみられる。律令期は製鉄に関しては国が管理を行っていたことから、国によって計画的に配置された製鉄工人たちの集落であった可能性が考えられる。9世紀から10世紀にかけては集落や製鉄も小規模化していく。

4 製鉄・鍛冶関連遺物について

(1) 製鉄・鍛冶関連遺物の出土状況（第195・196図、表14）

当遺跡付近では、以前から表面採集で鉄滓が確認されていたが、今回の発掘調査により、全体で181kgに及ぶ鉄滓が出土している。それらは調査区域全体から出土している状況であるが、第195図から中央部の台地上から東部の低地に向かう緩斜面部にかけての出土量が特に多いことがわかる。最も標高の高い西側の台地上に所在する、古墳時代前期の住居跡からも鉄滓が20gほど確認された。古墳時代後期の住居跡までは1~802gとばらつきはあるものの、一定量が出土している。表14や第196図から、奈良時代になると鉄滓の出土量が増え始め、8世紀の後葉では第47号住居跡が最も多く、約93kgもの鉄滓が出土



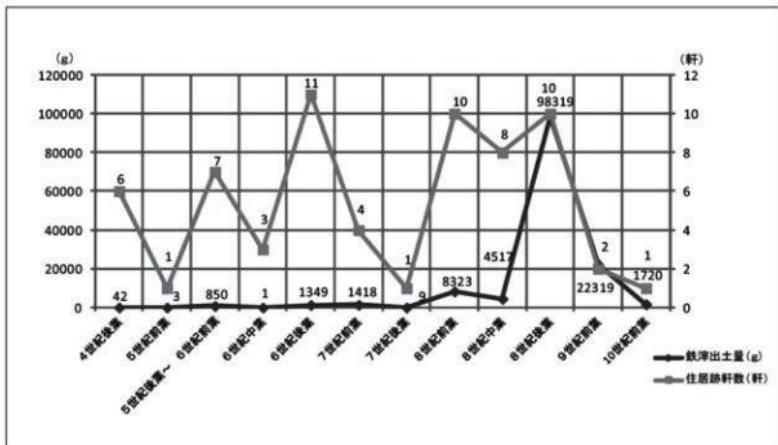
第195図 宮内遺跡鉄滓出土遺構

表14 宮内遺跡住居跡内出土鉄滓点数・重量・種類一覧表

遺構番号	時期	出土鉄滓		鉄滓の種類							その他	
		点数	重量(g)	炉壁	炉底塊	炉内滓	炉内滓 (含鉄)	鍛錬系遺物 (大)	鷹形鉄滓 (中)	鷹形鉄滓 (小)	鷹形鉄滓 (無小)	
SI19	4世紀後葉	2	19	-	-	-	○	-	-	-	-	-
SI21	4世紀後葉	2	23	-	-	-	-	○	-	-	-	-
SI25	5世紀前葉	1	3	-	-	-	-	○	-	-	-	-
SI11	5世紀末～ 6世紀初頭	1	17	-	-	○	-	-	-	-	-	-
SI18	5世紀後葉～ 6世紀初葉	1	31	-	-	-	-	-	-	○	-	-
SI20	5世紀前葉	6	43	-	-	-	-	○	-	-	○	-
SI32	5世紀末～ 6世紀初頭	1	12	-	-	-	-	○	-	-	-	-
SD39	5世紀前葉	25	235	-	-	-	-	○	-	-	○	○
SH41	5世紀末～ 6世紀初頭	29	512	○	-	-	○	○	-	-	○	○
SK75	5世紀前葉	3	29	-	-	-	-	-	-	-	○	-
SE22	6世紀中葉	1	1	-	-	-	-	○	-	-	-	-
SI 3	6世紀後葉	7	72	-	-	○	-	○	-	-	-	○
SI12	6世紀後葉	4	46	○	-	-	○	-	-	-	-	-
SI27	6世紀後葉	9	198	○	-	-	○	○	-	-	-	-
SI29	6世紀後葉	6	332	○	-	-	○	-	-	-	-	-
SI38	6世紀後葉	32	206	-	-	-	○	○	-	-	○	-
SI48	6世紀後葉	7	170	-	-	○	○	○	-	-	○	-
SI54	6世紀後葉	3	13	○	-	-	-	-	-	-	-	鍛冶炉の炉壁
SI61	6世紀後葉	2	262	-	○	-	-	○	-	-	-	-
SI63	6世紀後葉 以降	6	50	-	-	-	-	○	-	-	-	○
SI50	7世紀前葉	43	802	-	○	-	○	○	-	-	○	羽口少々
SI60	7世紀前葉	2	616	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SI35	7世紀前葉	2	9	-	-	-	-	○	-	-	-	-
SI 9	8世紀前葉	186	6,076	○	-	○	○	●	-	○	○	-
SI15	8世紀前葉	2	75	-	-	-	-	○	-	-	○	-
SI17	8世紀前葉	15	133	-	-	-	-	○	-	-	○	羽口少々
SI28	8世紀前葉	7	76	○	-	-	○	-	-	-	○	-
SI36	8世紀前葉	15	151	-	-	-	-	-	-	-	○	-
SI51	8世紀前葉	2	11	-	-	-	-	-	-	-	○	-
SI52	8世紀前葉	51	1,371	-	○	-	○	○	-	-	○	羽口少々
SI53	8世紀前葉	27	138	○	-	-	-	○	-	-	-	鍛冶炉の炉壁
SI64	8世紀前葉	38	292	-	-	-	○	○	-	-	○	-
SK64	8世紀前葉	1	35	○	-	-	-	-	-	-	○	-
SI 4	8世紀中葉	33	1,577	-	-	○	○	●	-	-	○	羽口少々
SI 5	8世紀中葉	14	358	-	-	-	-	○	-	-	○	○
SI30	8世紀中葉	112	1,330	-	-	-	○	○	-	-	○	○
SI49	8世紀中葉	37	744	-	-	-	○	○	-	-	○	○
SI56	8世紀中葉	19	290	○	-	-	○	○	-	-	○	-
SI57	8世紀中葉	20	213	○	-	-	○	-	-	-	○	-
SI65	8世紀中葉	1	5	-	-	-	-	○	-	-	-	-
SK95	8世紀中葉	215	6,200	○	-	-	○	☆	-	-	-	-
SI 7	8世紀後葉	8	196	-	-	-	-	○	-	-	-	-
SI14	8世紀後葉	18	142	○	-	-	-	○	-	-	○	-
SI33	8世紀後葉	211	2,446	○	-	○	-	○	-	○	○	-

遺構番号	時期	出土状況			遺物の種類								
		点数	重量(g)	如壁	卯底板	鉢内澤	炉内澤 (含鉢)	鉄炭系遺物	陶形鋸刃用 (大)	陶形鋸刃用 (中)	陶形鋸刃用 (小)	陶形鋸刃用 (混合)	その他
SE37	8世紀後葉	49	957	○	-	○	○	○	-	-	-	○	-
SI40	8世紀後葉	69	1,091	-	-	-	○	☆	-	-	○	○	-
SI42	8世紀後葉	54	573	-	-	-	○	○	-	-	-	○	羽口若干
SI44	8世紀後葉	6	70	○	-	○	-	○	-	-	-	-	-
SI47	8世紀後葉	5,576	92,760	集計表・構成図参照						-	-	-	-
SI58	8世紀後葉	6	84	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
SK72	8世紀後葉	15	161	-	-	-	-	○	-	-	○	○	-
SI31	9世紀前葉	179	2,062	○	-	○	○	○	-	-	-	○	砂鉄塊
SI43	9世紀前葉	649	20,257	○	☆	○	☆	☆	-	-	-	-	-
SI 8	10世紀前葉	5	1,720	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-
SB 2	不明	1	10	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-
SD 3	不明	14	176	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-
SD 7	不明	3	14	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-
SD 8	不明	13	263	○	-	○	-	○	-	-	○	○	-
SD 9	不明	55	1,704	○	-	○	○	○	-	-	-	-	-
SD10	不明	42	1,114	○	-	○	-	○	-	-	○	○	-
SD11	不明	5	664	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-
SD12	不明	4	262	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SE 2	不明	3	198	-	-	-	-	-	-	○	○	-	羽口少々
SE 3	不明	4	168	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
SK 1	不明	1	12	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
SK 5	不明	1	31	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
SK 6	不明	1	24	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
SK36	不明	1	43	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
SK37	不明	1	16	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
SK38	不明	1	211	○	-	-	○	-	-	-	○	-	-
SK45	不明	1	195	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
SK52	不明	1	36	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
SK55	不明	1	21	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
SK59	不明	1	97	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-
SK60	不明	1	63	-	-	-	-	○	-	-	○	○	鍛造鋼片少々
SK62	不明	1	12	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-
SK63	不明	1	27	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
SK67	不明	1	61	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-
SK69	不明	1	54	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
PG 2	不明	3	42	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-
PG 5	不明	1	9	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
PG 7	不明	4	18	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-
PG 8	不明	5	33	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-
PG 9	不明	8	60	-	-	-	-	○	-	-	○	○	-
PG10	不明	1	38	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
PG13	不明	32	620	-	-	-	-	○	-	○	○	○	-
SX 1	不明	11	58	-	-	-	-	○	-	-	○	-	-
HD	不明	106	29,440	○	○	☆	☆	☆	○	○	○	○	羽口少々

- =なし ○ = 少量 ◎ =一定量 ● = やや多量 ☆ = 多量



第196図 宮内遺跡時期別住居跡軒数の移り変わりと鉄滓の出土量

する住居跡が現れる。平安時代になると確認された住居跡の軒数は少ないが、第43号住居跡のように鉄滓の出土量が20kgを超える住居跡もある。全体的には出土した総量の約75%にあたる135kgほどが奈良・平安時代の住居跡の覆土中から出土している。更に、鉄滓が1kg以上出土している住居跡はすべて奈良・平安時代であり、特に8世紀前葉から9世紀前葉にかけての出土量が最も多い。

鉄滓の種類は、特に第47号住居跡から出土した多量の鉄滓について細部まで観察した結果、炉壁・炉底塊・炉内滓・炉内滓含鉄・鉄塊系遺物であることが確認できた。このことから、これらの鉄滓は鍛冶の段階で生じる鍛冶滓ではなく、製鉄の段階で生成される製鉄滓であることがわかった。今回の調査区域内で出土した鉄滓の大半はこの製鉄滓である。よって、付近で製鉄が行われていたことは明らかである。一方、表14を見ると少量の楕形鍛冶滓や羽口などの鍛冶関連遺物も出土している。特に8世紀代の住居跡から一定量の小形及び極小形の楕形鍛冶滓が出土している。このことから、奈良時代には、小規模ながら鍛冶も行われていたとみられる。

第196図から、4世紀後葉から6世紀中葉にかけては住居跡の軒数の増減の変化にあまり左右されることなく少量の鉄滓が出土している。これは住居跡の覆土への混入である可能性が強い。一方、6世紀後葉からは、鉄滓の出土量が1kg以上に増えている。7世紀後葉には住居跡の軒数が1軒ということもあり、鉄滓の出土量もわずかである。8世紀前葉には、住居跡の増加とともに鉄滓の出土量も増加する。8世紀中葉には若干減るもの、8世紀後葉には住居跡の軒数が再び増加し、鉄滓の出土量も大幅に増加している。その後9世紀前葉から10世紀前葉にかけては減少していく傾向にある。10世紀中葉以降は住居跡が確認されていないので不明である。よって、今回の調査区域内という限定的な範囲のことではあるが、8世紀前葉から製鉄工人たちが集団で移り住み、操業を行っていた可能性が強い。

(2) 奈良・平安時代における近隣の製鉄遺跡と本跡

近隣の八千代町に所在する尾崎前山遺跡は、飯沼川の支流が流れる低地に向かう斜面部に立地している。古河市に所在する川戸台遺跡は、渡良瀬川左岸の台地縁辺部に立地している。当時团で調査を実施した小

美玉市に所在するかじや久保遺跡は、梶無川支流が流れる低地に向かう緩やかな斜面部に立地している。埼玉県花園町に所在する台耕地遺跡は、荒川左岸の段丘上に立地している。かじや久保遺跡は13世紀代であるが、それ以外は9世紀代の製鉄遺跡で、いずれも台地縁辺部の低地に向かう斜面部や河岸段丘上に立地している。その理由は、尾崎前山遺跡の調査では、製鉄炉内の燃焼効率を上げるために、斜面に吹く自然風の利用について述べられている。台耕地遺跡の調査では、荒川からの砂鉄の確保や、河川交通による製品の運搬等が挙げられている。当遺跡も立地条件が類似している。原料の確保や製品の運搬も立地条件の重要な要素となるが、炉内を加熱するための燃料の確保も重要である。木炭を利用していたことは、他の遺跡の調査例や本跡の鉄滓にも炭の付着が見られたことからもわかる。大量に必要になる木炭を得るために、豊かな森林資源や炭焼のための施設が必要になる。今回の調査では、そこまでは確認するには至らなかった。

尾崎前山遺跡の調査では、遺跡内で行われていた製鉄及び鍛冶が、近接する大結馬牧（官牧）への鉄製馬具の供給に關係していた可能性があることが述べられている。本跡の西側にも長洲馬牧（官牧）が存在し、本跡から馬具の供給を行ったり、あるいは馬を製鉄の原料や製品等の輸送手段として使用していた可能性も考えられるが、今回の調査からだけでは明らかにできない。

当財団で調査を実施した石岡市に所在する鹿の子C遺跡では、8世紀末から9世紀前葉にかけての大規模な官営鍛冶工房跡が確認されている。ここでは、日的な鉄製品と共に、多量の武器や武具が出土している。時期的に国家的な政策である蝦夷征伐のさなかにあり、鹿の子C遺跡の属する常陸国は、前線基地の多賀城と近接していることもあり、武器や武具の供給という重要な役割を果たしたことが述べられている。当遺跡の集落も、ほぼ同時期に住居跡の軒数が増え、鉄滓の出土量が急増することからも製鉄が盛んに行われるようになったことがわかる。調査区域内から製鉄炉本体は確認されず、住居跡から出土している鉄製品は、日常生活や作業に使用する鎌・刀子・劔鍤車・釘等の道具類が大半を占めている。よって、大量に出土している製鉄関連遺物の中でも、含鉄量の多い滓や鉄塊系遺物等を選別し、製品作りを行う鍛冶の原材料として官営の鍛冶工房等に納めていた可能性も考えられるが、今回の調査結果からは明言することはできない。当地域は下総国猿鶴郡に属することから、郡衙や国衙との関連や在地の有力者等との関わりについても考えていくことが必要になるであろう。

5 おわりに

今回の調査から、当調査区域内においては、縄文時代人々の足跡を見いだすことができた。古墳時代前期後葉人々が台地上に集落を形成し始め、古墳時代後期には低地に向かう台地縁辺部へと集落を拡大させていった。古墳時代の人々の生活は、大地からの恵みも受けていると思われるが、住居跡から土玉が出土していることから、河川や溝沼で漁労も行っていたと考えられる。奈良・平安時代は、製鉄工人たちの集落であった可能性が強い。操業が始まった年代は、残念ながら製鉄炉本体が見つかっていないため、明確にはできない。この製鉄は、奈良時代に隆盛を見せる。当時製鉄は国の統制のもとで行われており、税（租・調・庸）の対象ともなっていた。また、8世紀代に出された班田取授法や聖田永年私財法により、未開の地を開拓し、開拓するための鉄製農具が大量に生産され、普及していくとも考えられる。更には、前述したように蝦夷征伐との関わりについても考える必要がある。今回の調査によって製鉄及び鍛冶が行われていたことがわかったが、今後当遺跡も含め、近隣地域で更なる調査の累積によって、律令期という時代背景と関連づけて実態を明らかにしていくことが求められると考える。

註

- 1) 横村宣行「和泉式土器編年考－茨城県を中心として－」『研究ノート』5号 茨城県教育財団 1995年3月
横村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2号 茨城県教育財団 1993年7月
浅井哲也「茨城県における奈良・平安時代の土器（I）」『研究ノート』創刊号 茨城県教育財団 1992年7月
福田義弘「鳥名熊の山遺跡　鳥名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」『茨城県教育財团文
化財調査報告』第190集 2002年3月
- 2) 岩井市史編さん委員会「岩井市の遺跡」『岩井市史遺跡調査報告書』第1集 1992年3月
大森雅之「茨城県自然博物館（仮称）建設用地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　原口・北前遺跡」『茨城県教育財团文化財調査
報告』第83集 1993年3月

参考文献

- ・今井隆介「北下総地方史」 崔書房 1974年12月
- ・窪田敬郎「鉄の考古学」 雄山閣 1979年6月
- ・松井和幸「日本古代の鉄文化」 雄山閣 2001年2月
- ・高塚秀治・後藤忠後・阿久津久・川野辺涉・浅見勉・岡本真実・飯田健一・福田豊彦・道家達将「茨城県八千代町尾崎前山
製鉄遺跡の発掘 第2報」『東京工業大学人文論叢』 1980年3月
- ・酒井清治・鈴木仁子「関越自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告XIX 台耕地（II）」『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書』
第33集 1984年3月
- ・佐藤正好・川井正一「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書5　鹿の子C遺跡」『茨城県教育財团文化財調査報告』第
20集 1983年3月
- ・井上琢哉「かじや久保遺跡　一般県道百里飛行場線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ」『茨城県教育財团文化財調査
報告』第259集 2006年3月

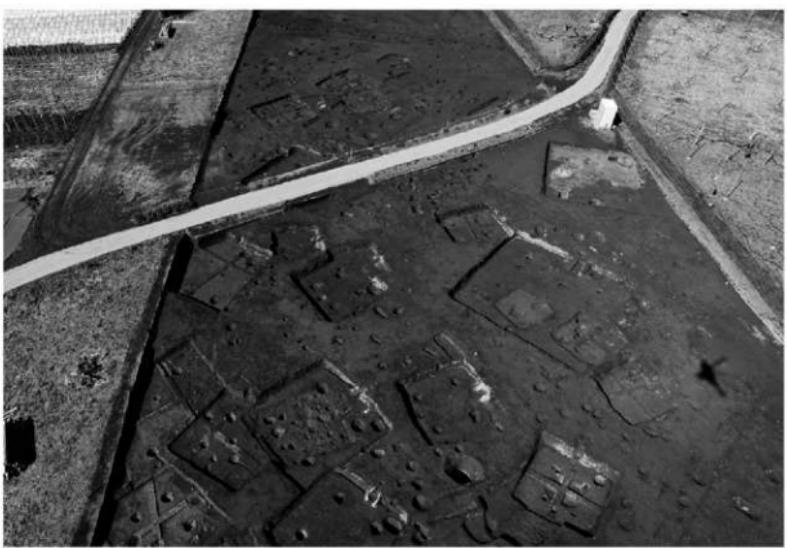
写 真 図 版



第11号住居跡出土土師器

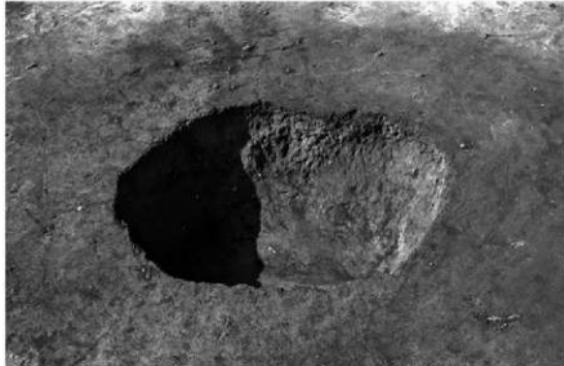


調査区全景（南から）



調査区中央部（上空から）

PL2



第 87 号 土 坑
完 挖 状 況



第 2 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第 3 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第 10 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 10 号 住 居 跡
貯 藏 穴 遺 物 出 土 状 況



第 10 号 住 居 跡
完 壕 状 況

PL4



第 11 号 住 居 跡
遺 物 出 土 狀 況



第 11 号 住 居 跡
完 据 狀 況



第 11 号 住 居 跡
覆 完 据 狀 況

第 6 号 住 居 跡
完 壕 状 況



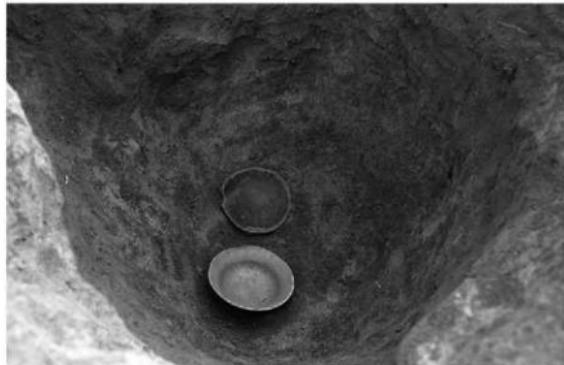
第 12 号 住 居 跡
完 壕 状 況



第 19 号 住 居 跡
完 壕 状 況



PL6



第20号住居跡
貯藏穴遺物出土状況



第20号住居跡
完掘状況



第21号住居跡
炉完掘状況



第22・23号住居跡
完 墨 状 況



第 24 号 住 居 跡
貯藏穴遺物出土状況



第 24 号 住 居 跡
完 墨 状 況

PL8



第25号住居跡
遺物出土状況



第27号住居跡
完掘状況



第29号住居跡
完掘状況



第32号住居跡
完掘状況



第34号住居跡
完掘状況



第38号住居跡
完掘状況

PL10



第39号住居跡
完掘状況



第39号住居跡
竪完掘状況



第41号住居跡
貯藏穴遺物出土状況



第41号住居跡
完掘状況



第41号住居跡
甕遺物出土状況



第41号住居跡
甕完掘状況

PL12



第46号住居跡
完掘状況



第50号住居跡
完掘状況



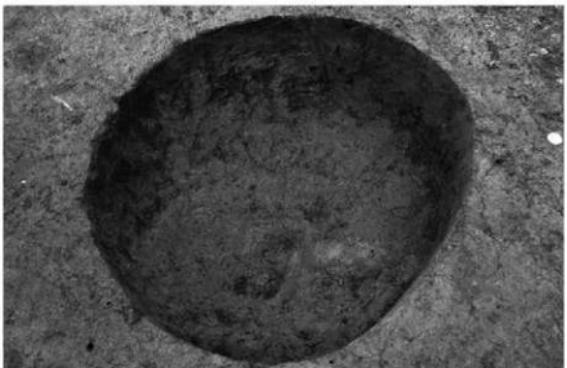
第54号住居跡
完掘状況



第55号住居跡
遺物出土状況



第56·60号住居跡
完掘状況



第19号土坑
完掘状況



第4号住居跡
完掘状況



第5号住居跡
完掘状況



第7号住居跡
完掘状況



第 14 号 住 居 蹤
完 挖 状 況



第 17 号 住 居 蹤
完 挖 状 況



第 17 号 住 居 蹤
完 挖 状 況

PL16



第15号住居跡
完掘状況



第28号住居跡
完掘状況



第30・31号住居跡
完掘状況



第30号住居跡
完掘状況



第33号住居跡
完掘状況



第36号住居跡
完掘状況

PL18



第37号住居跡
完掘状況



第40号住居跡
完掘状況



第42号住居跡
完掘状況

第 44 号 住 居 跡
完 壕 状 況



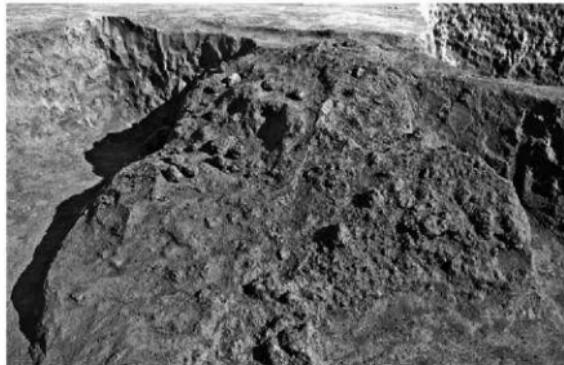
第 45 号 住 居 跡
完 壕 状 況



第 49 号 住 居 跡
完 壕 状 況



PL20



第47号住居跡
遺物出土状況



第47・48号住居跡
完掘状況



第47号住居跡
竪完掘状況



第 51 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第 52 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第 53 号 住 居 跡
完 挖 状 況

PL22



第 57 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第 58 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第 64 号 住 居 跡
完 挖 状 況

第 65 号 住 居 蹤
完 挖 状 況



第 95 号 土 坑
遗 物 出 土 状 況



第 95 号 土 坑
完 挖 状 況



PL24



第 64 号 土 坑
完 挖 状 況



第 1 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 8 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第43号住居跡
完掘状況



第1号掘立柱建物跡
完掘状況



第2号掘立柱建物跡
完掘状況



第 12 号 溝 跡
遺 物 出 土 狀 況



第 2 号 爐 穴
完 壓 狀 況



第 3 号 井 戶 跡
完 壓 狀 況



第11号住居跡、第87号土坑出土土器



第11·20·22·29·32号住居跡出土土器



第11·22·38·41·48·54号住居跡出土土器

PL30



第10·11·24·27·41·46·50号住居跡出土土器



第10·19·20·21·24·48号住居跡出土土器



第3·10·11·12·27·39·50号住居跡出土土器



SI 22-90



SI 55-165



SI 11-46



SI 11-45



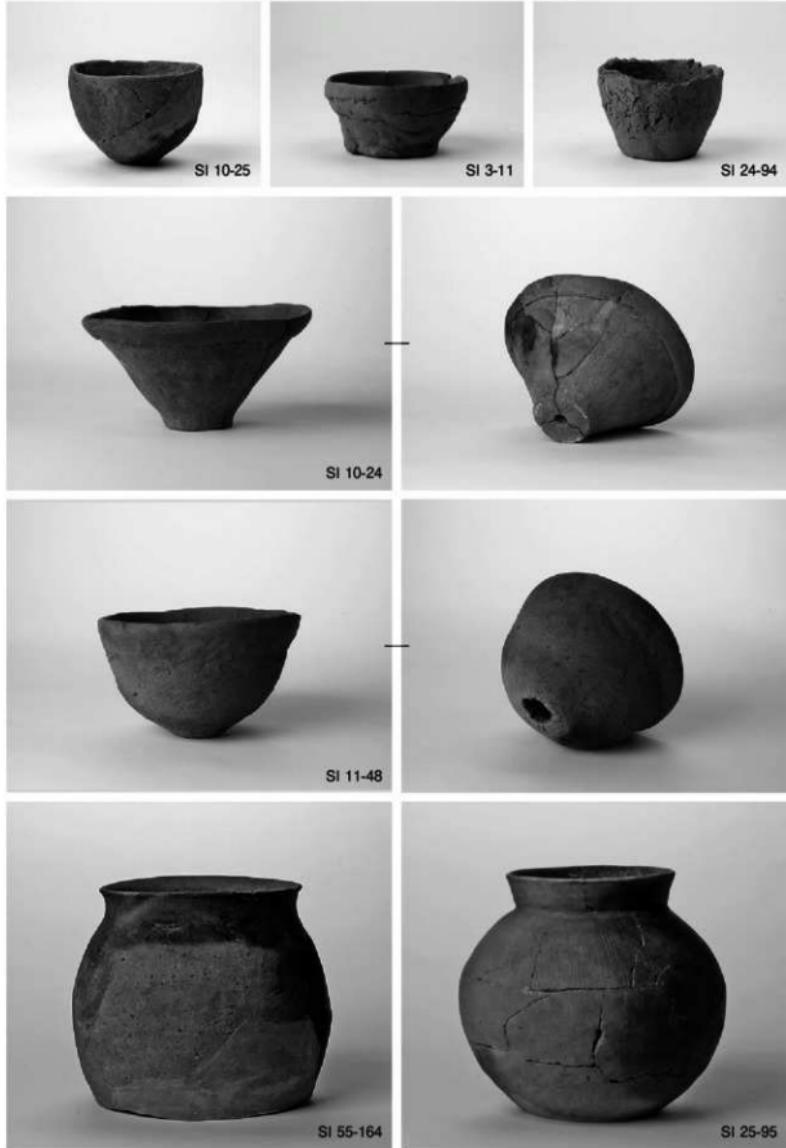
SI 11-44



SI 41-134

第11·22·41·55号住居跡出土土器

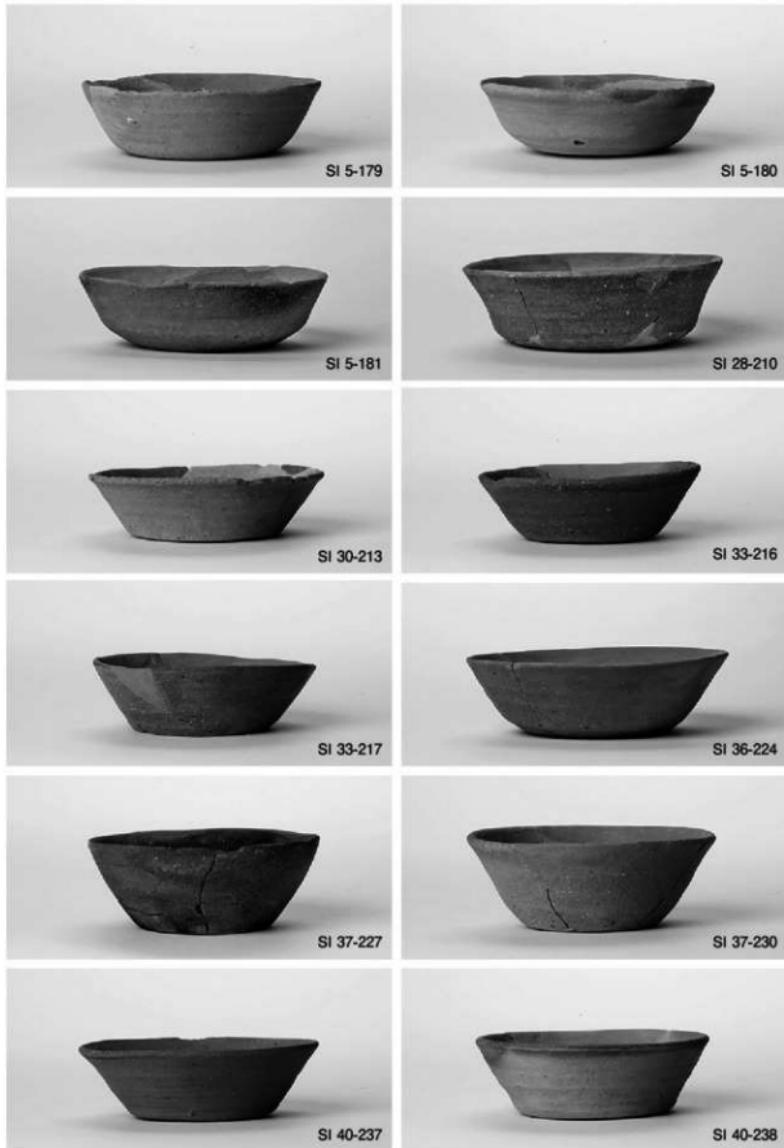
PL34



第3・10・11・24・25・55号住居跡出土土器



第34·41·48号住居跡出土土器

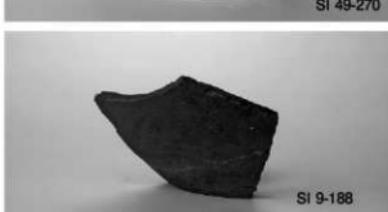


第5·28·30·33·36·37·40号住居跡出土土器



第40·47·49·53·58·64号住居跡、第58·95号土坑出土土器

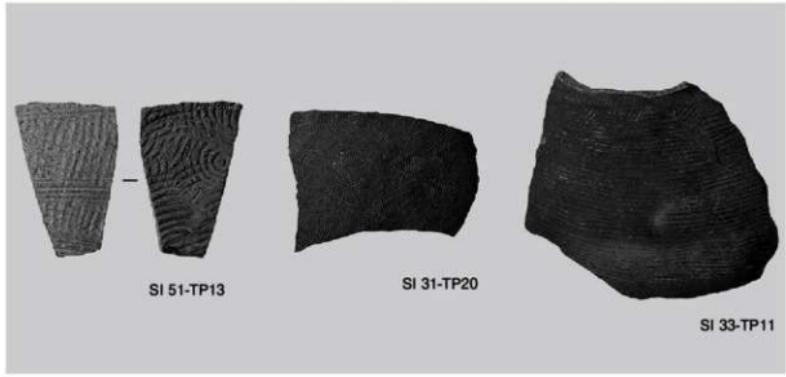
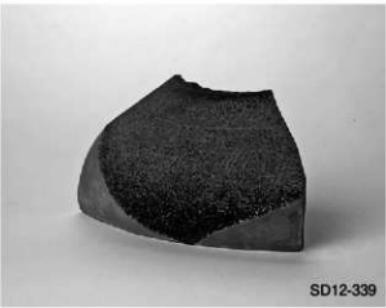
PL38



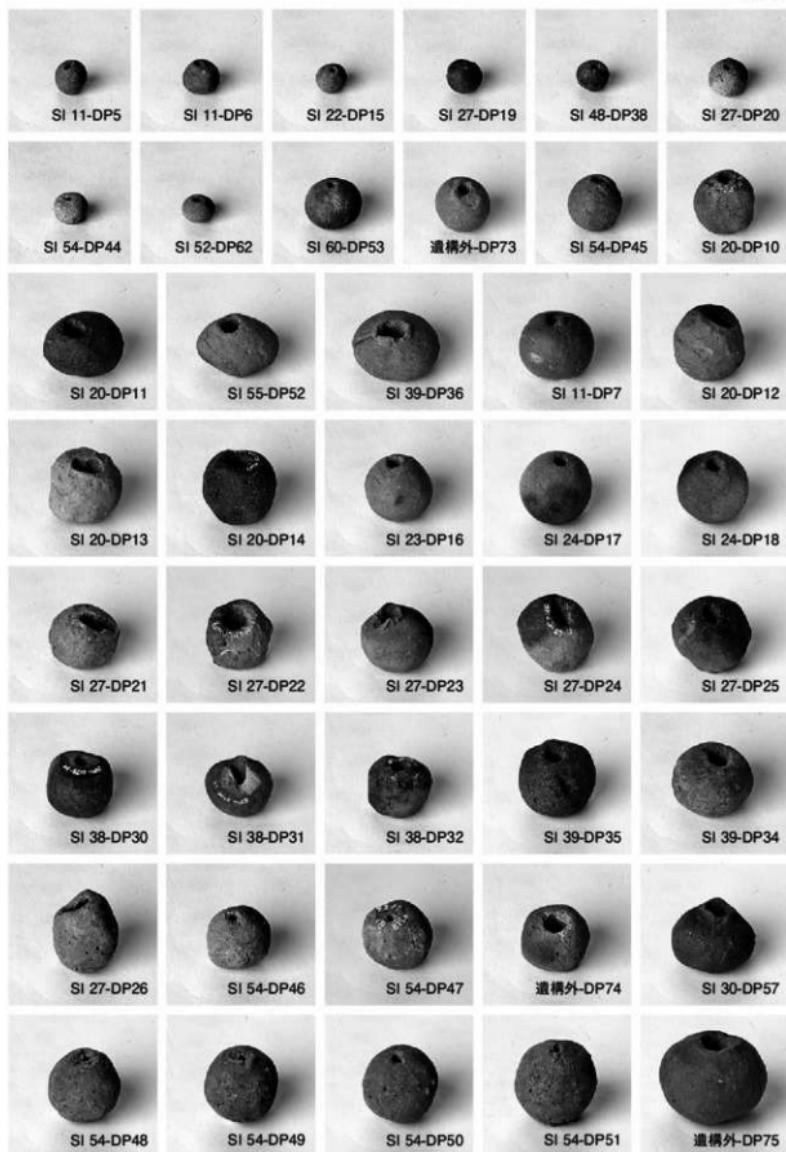
第4·9·15·33·37·49·64号住居跡，第95号土坑出土土器



第1・15・31・43・49号住居跡出土土器



第31・33・43・51号住居跡、第12号溝跡、遺構外出土土器



出土土製品（土玉）

PL42



出土土製品

PL43



SI 8-DP67



SI 8-DP68



SI 8-DP69

第8号住居跡出土土製品（炉壁）

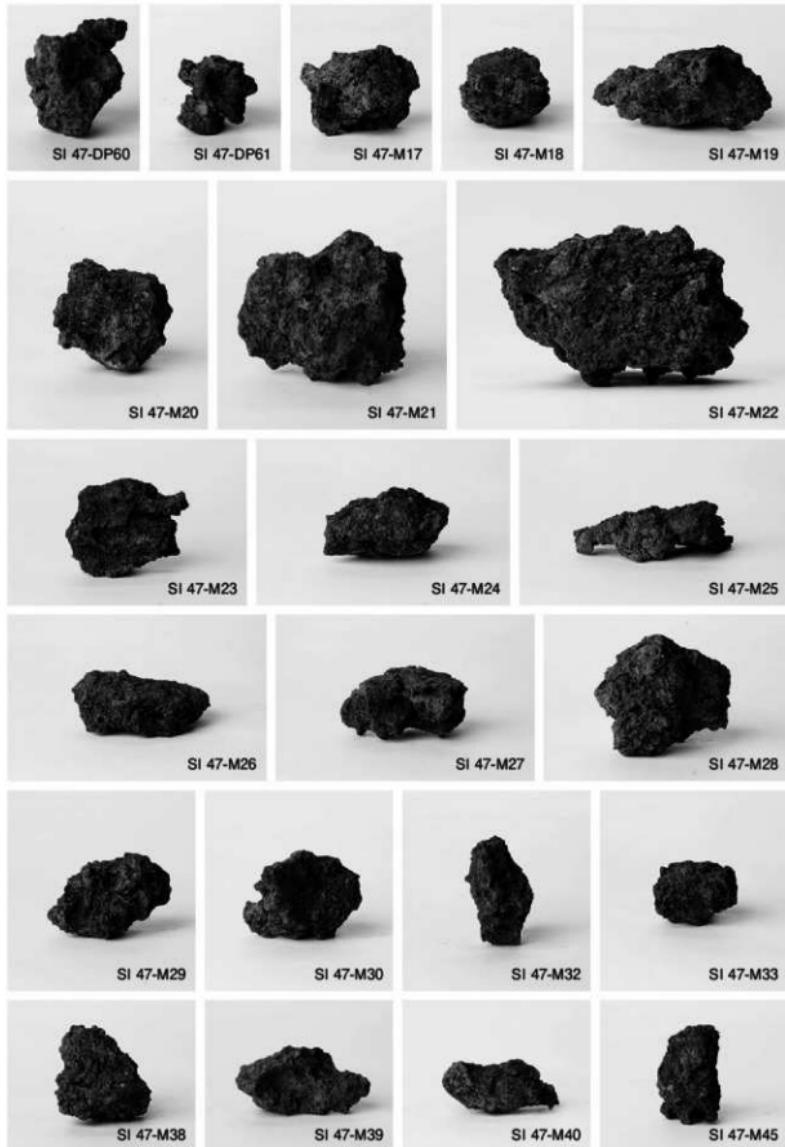


出土石器

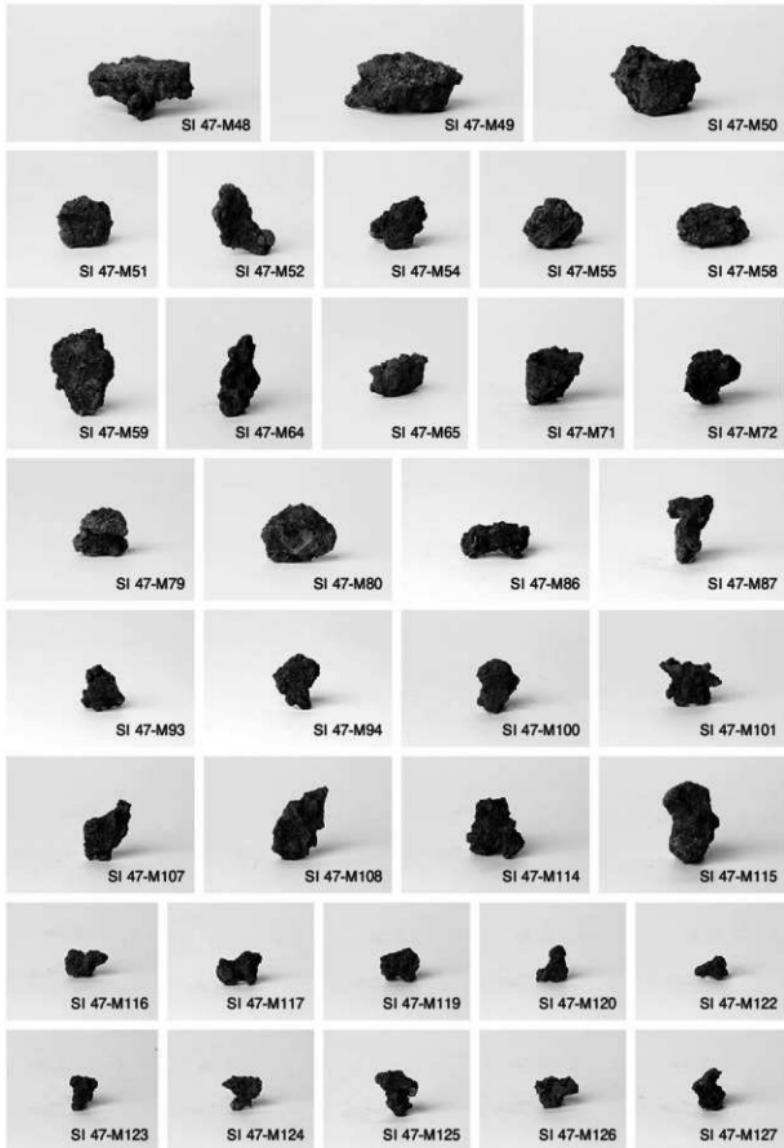


出土石製品、鐵製品





第47号住居跡製鉄関連遺物



第47号住居跡製鉄関連遺物

抄 錄

印 刷 仕 様

編 集 O S Microsoft Windows 7
Home Premium.ServicePack1
編集 Adobe InDesign CS4
図版作成 Adobe Illustrator CS4
写真調整 Adobe Photoshop CS4
Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000
図面類 EPSON ES-10000G
使用Font OpenType リュウミンPro・L
写 真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上
印 刷 印刷所へは、Adobe InDesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第359集

宮 内 遺 跡

国 道 3 5 4 号 岩 井 バ イ パ ス
事 業 地 内 埋 藏 文 化 財 調 査 報 告 書

平成24(2012)年 3月14日 印刷

平成24(2012)年 3月16日 発行

発行 財团法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

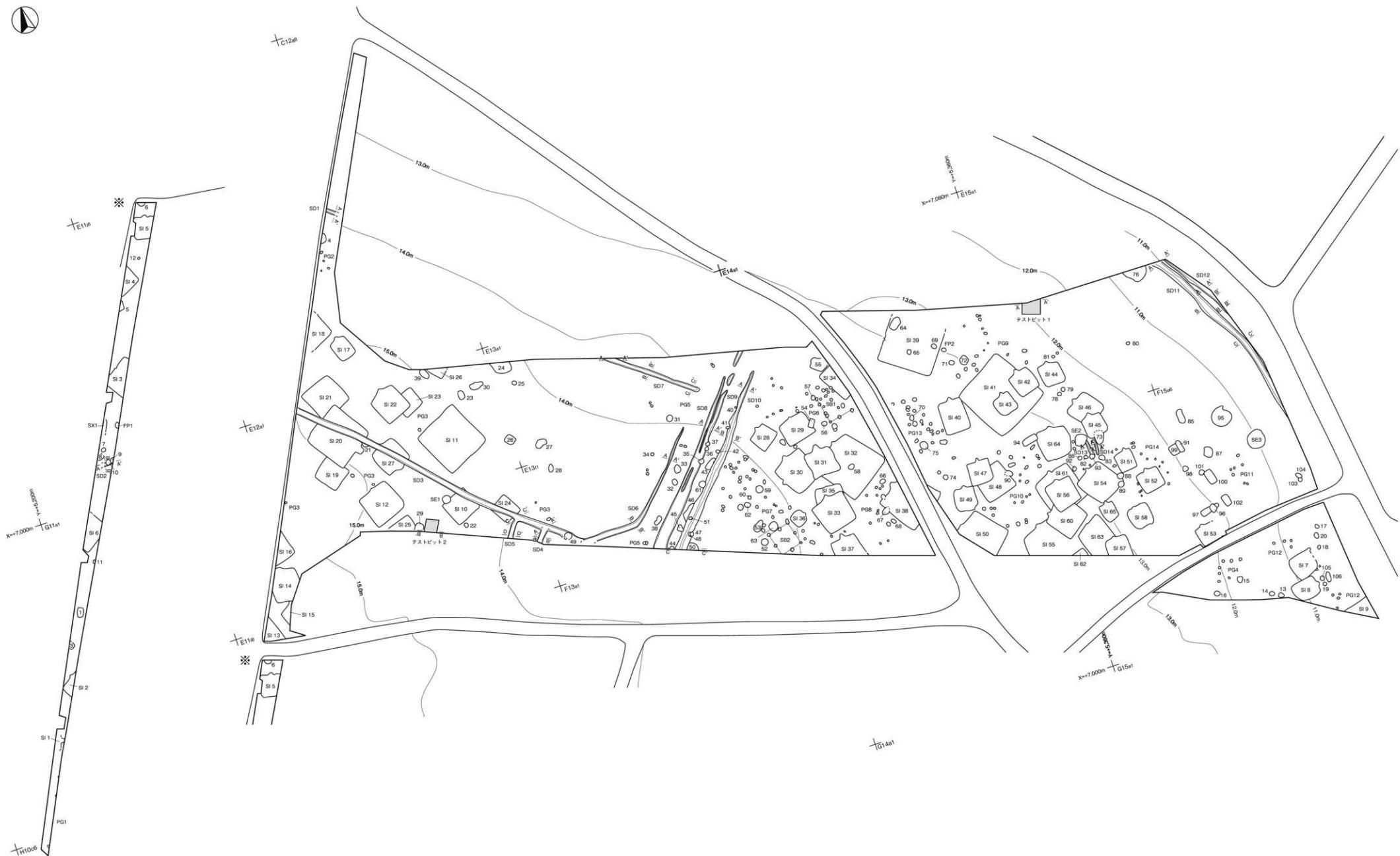
印刷 山三印刷株式会社

〒311-4153 水戸市河和田町4433の33
TEL 029-252-8481

付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第359集

宮 内 遺 跡 遺 構 全 体 図



付図 宮内遺跡遺構全体図（『茨城県教育財团文化財調査報告』第359集）

0 20m